

2019 年度

教 育 要 項

[M1]

順天堂大学医学部



# 目 次

はじめに	i
順天堂大学医学部コンピテンシー	ii
順天堂の建学の理念	v
順天堂大学医学部の使命	vi
医学教育のあり方について・教員の責務と学生の義務	vii
病院等での実習の心得	viii
[理念・医師の服装についてのマニュアル]	
個人情報保護に関する誓約書	xi
個人情報利用に関する同意書	xv
学外実習先に提出する履歴書書式	xix
2019年度M1開講科目ナンバリング	xx
医学部カリキュラムマップ(2019年度)	xxi
医学部カリキュラム概略図(2019年度)	xxii
M1授業の目的と内容について	xxiv
履修に関する基本事項について	xxvi
2019年度医学部1年開講科目	xxxiii
M1カリキュラム表	xxxiv
一般教育と医学への橋渡しイメージ図	xxxv
<b>【 1 年 】</b>	
2019年度医学部1年開講科目	
<b>(1) 必修科目 (一般教養)</b>	
医療プロフェッショナルリズム入門	1
医療入門	14
行動科学	18
医学研究入門 I	22
Practical English for TOEFL I	26
Practical English for TOEFL II	32
TOEFL演習	39
スポーツと健康	46
ライフサイエンスのための化学	58
人体物理学	64
細胞生物学	78
統計解析への数学	85

<b>(2) 選択必修科目 (実習)</b>	
自然科学系総合実習	
(化学) 定性分析	95
(化学) 生体物質の分離と定量の基礎	99
(物理) 物理学入門	103
(物理) ミクロの世界から	107
(生物) 顕微鏡観察	111
(生物) カエルの解剖	115
(数学) 情報処理 I	119
(数学) 情報処理 II	123
<b>(3) 選択必修科目 (PBL)</b>	
PBL (水と生命)	127
PBL (健康を支える科学)	130
PBL (バイオマテリアルと医療)	133
PBL (法則と方程式)	136
PBL (プログラミングとアルゴリズム)	139
PBL (素粒子の $\alpha\beta\gamma$ )	142
PBL (医療の思想と倫理)	145
PBL (Medicine from a Global Perspective)	148
PBL (ことばの力, the power of words)	151
PBL (What Does a Test Measure ?)	154
PBL (Listening Skills: Development and Assessment)	157
PBL (統計に基づいた科学的実証の実際)	160
PBL (医事ニュースを読み解く統計学)	163
PBL (生物の多様性)	166
PBL (錯覚錯視の原理と応用)	169
PBL (Can We Trust Diet Studies?)	172
<b>(4) 選択科目</b>	
<b>①自然科学系科目</b>	
Medical Biology in English	175
2変数の微分積分入門	179
相対論入門：時空とエネルギー	183
ヒューマンバイオロジー	188
分子の形	192

# 目 次

## ②語学系科目

Pronunciation Clinic : Speaking	296
Academic English for TOEFL I	200
Academic English for TOEFL II	204
Academic English for TOEFL III	208
Academic English for TOEFL IV	212
Academic English for TOEFL V	216
Academic English for TOEFL VI	220
TOEFL特別演習 I (BC)	224
TOEFL特別演習 II (DE)	228
TOEFL特別演習 III (BC)	232
TOEFL特別演習 IV (DE)	236
IELTS特別演習 I (A)	240
IELTS特別演習 II (A)	244
ドイツ語 I	248
ドイツ語 II	252
フランス語 I	256
フランス語 II	260
中国語 I	264
中国語 II	268
日本語リテラシー	272
日本語アカデミックライティング	276

## ③人文社会学系科目

コミュニケーション論	280
生きる意志 (倫理学)	284
医療社会学	288
医療の経済学	292
医療行為と法	296
文化の中の健康	300

## ④自由選択科目

新しい世界を拓いた人々	304
知の統合	309
医学研究入門 II	313
科学研究のための基礎	317
科学研究ゼミナール	321
マリン実習	325

## (5) 必修科目 (基礎医学入門)

医学医療序論	330
骨学	334
組織細胞生物学	338

○医の原則・医学と医療の倫理等に関する授業一覧	348
-------------------------	-----

○2019年度における各学年の進級判定基準	352
-----------------------	-----

## はじめに

医学部長 服部 信孝

近年の医学の進歩は目覚ましく、医学部の学生が修得しなくてはならない知識・技能は膨大なものとなっています。したがって、限られた授業時間のなかで十分な学習効果をあげるためには、皆さんの「学び」に対する active な姿勢が重要になってきます。医学部の6年間では、将来自分が医師や研究者として活躍するために必要な知識・技能・態度を勉強することになりますが、実は医学部卒業後も生涯を通じてこの「学び」に対する active な姿勢を保持し続けることが求められます。医学部教育において最も大切なことは、受動的に知識を取得するのではなく、自ら学び、考え、問題を解決する能力を育成することです。皆さんには自ら学習する習慣（passive なものから active なものへ）を培ってもらいたいと思います。授業は教員による一方向の講義ではなく、team-based learning（TBL）や質疑応答を多く取り入れた双方向のものが好ましいと考えています。

この教育要項はこのような理念に基づき、皆さんが自主学習しやすいようにと、担当の先生方が苦心して作成されたものです。教育要項には、どの日にどのようなテーマで講義や実習が行われるかが記載されています。あらかじめ一読し予備知識をもって、講義や実習に臨んで下さい。そうすることで、より一層理解することができ、医学に興味をもてるようになると思います。この教育要項を大いに活用し、積極的に知識や技術を学び取ってもらいたいと願っています。

## 順天堂大学医学部 コンピテンシー

### 1. 診療技能・患者ケア

- a. 成人及び小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。
- b. 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。
- c. 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる。
- d. 病状説明・患者教育に参加できる。

### 2. 医学的知識

- a. 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。
- b. 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。
- c. 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。
- d. 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。
- e. 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。
- f. 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。

### 3. 医療安全

- a. 正確な医療知識・技術が医療安全につながることを理解できる。
- b. インフォームド・コンセントを理解し実践できる。
- c. 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。
- d. 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。
- e. 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。
- f. 自己の健康管理ができる。

## 4. チーム医療

- a. 医療チームの一員として積極的に参加できる。
- b. 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することができる。
- c. 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。

## 5. コミュニケーション

- a. 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。
- b. 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。
- c. プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。

## 6. 医療の社会性

- a. 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。
- b. 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。
- c. 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。

## 7. 倫理とプロフェッショナリズム

- a. 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。
- b. 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。
- c. 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。
- d. 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。

## 8. 自律的学習能力

- a. 自分の目標に向けた学習ができる。
- b. 適切な情報収集ができ、活用できる。
- c. 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。
- d. 医学研究に対する興味を高めることができる。

## 9. 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任

- a. 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。
- b. 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。
- c. 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。
- d. 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE 対策、交換留学などを含む)。



# 順 天 堂 の 建 学 の 理 念

## 順天堂の建学の理念

「順天堂」の歴史は、天保9年(1838年)初代堂主佐藤泰然が江戸・薬研堀(両国橋の袂)に蘭方塾を開いた時に遡る。そして順天堂は医育機関を併設した西洋医学の医療機関として、日本で最も長い歴史と伝統を持つ。

天保14年、佐倉に新たに塾を開くが、この幕末から明治初期に至る佐倉順天堂時代には、最新の西洋医学と医療技術の導入により患者に最善の医療を提供しようとあらゆる努力が払われた。これは、即ち、今でいう patient-centered medicine の実践を信条とした医療であった。また、順天堂は全国から入門する百数十名をこえる塾生の教育に力を入れたが故に、【日新の医学、佐倉の林中より生ず】という言葉が生まれるに到った。爾来、順天堂は常に時流を見据えて【不断前進】の理念を持ち続け創造的な歩みを進めてきた。

たゆまぬ前進と改革を続ける一方で、不易に守り通してきた精神は、【天道に則り、自然の摂理に順う】ことで、これこそが、中国の古典・易経に表された【順天応人】、孟子の言藁に見られる【順天存者、逆天滅者】であり、本学の名称の由来となる精神となっている。

医学に携わる者は、常に天道に真摯に従い、人間世界の援護者であり続けなければならない、従って、開学以来、本学が重視してきた信条は、まさに【人間医師】の育成であり、順天の精神を根底に持つ人材の育成である。

また、現在における【学校法人順天堂】では医療と医学教育に併せて、スポーツ健康科学部を設け、少人数制による全人格的教育をもって、体育・スポーツ・健康の維持、そして、健康増進の相互連関を究明し、医学知識の豊かな保健体育指導者の養成、更に、医療看護学部では看護師と保健師、助産師の育成にも力を注いでいる。このように順天堂は国民の病を癒すことのみならず、高齢者を含めた全国民の健康維持と増進をその理念として歴史を刻んできた。

順天堂の校章は、「仁」の文字を意匠化したもので明治時代から順天堂医院の薬袋に使用されていたものである。人ありて我あり、他への思いやり、慈しむ心、「仁」。病める人々の立場に立つ心、学是であるこの「仁」を大切に育み、次世代を担う学生や若い研究者の涵養を行いつつ近代医療を推進している。

## 順天堂大学医学部の使命

医学部は、人類の健康・福祉に寄与できる専門的な知識、技術を身につけ、「科学者」の視点を持ちつつ、感性豊かな教養人としての医師・医学者を養成することを目的（＝使命）とする。そのために、以下の目標を定める。

1. 科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術を身につける。
2. 不断前進する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を身につける。
3. 常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を慮り、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養する。
4. チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣を身につける。
5. 国際社会に役立ち、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を培う。

## 医学教育のあり方について・教員の責務と学生の義務

### 【ミッション】

- 1) 授業は、単に知識・技術の伝達ばかりではなく、教員と学生との直接的なコミュニケーションを通して、医師としての人間性を育成するための教育の場でもある。ベッドサイドでも、実習の場でも、教室においても当然そうである。
- 2) 教員には教育する責任があり、学生には履修義務がある。それがどうしてもよい、来なくてもよいというのでは、学習の場としての大学の存在意義を自己否定するものである。特に、医学部学生の不勉強は、患者に迷惑をかける。
- 3) 学生を教育することは、教員自らの研究・診療活動能力を向上させるうえで最も重要である。
- 4) 学生の学習意識を **PASSIVE** なものから **ACTIVE** なものに変化させるよう、教員側が全教科を通じて努力することと、その手法を工夫することが重要である。学生も自ら学ぶ意識を堅持し、積極的な姿勢で勉学に臨むことは必須である。
- 5) 学生のモチベーションの向上を図り、それに基づく教育体制を整備することは、本学全体の教育のみならず研究や臨床における活動水準を高めることに繋がる。
- 6) 授業時間中に前回または当日の授業内容の理解度を問う試験を行い、出席をとる。同時に学生の授業に対する意見を聞くことの徹底（教務課にて用意されている「授業評価票」使用の徹底）を図る。また、教育者としての自己評価・他者評価を重視する。
- 7) 学部教育や臨床教育（BSL）においては、教授・准教授・講師・助教が学生に対して直接教育するが、そのみに止まらず大学に集う者全てが教育に関与すべきである。病院などの現場においては、『屋根瓦方式』による教育の重要性を認識することが重要である。これは教員のみならず留まらない。学生も同級生・下級生に教えることによって知識の確認を行うべきである。

# 病院等での実習の心得

## 順天堂医院理念

順天堂の「天道に則り、自然の摂理に順う」精神で人々の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を守る。更に「不断前進」の精神で、創造的な改革を進め、医療人の育成および最善の医療の提供を目指す。

## 基本方針

1. 患者さん一人ひとりに、安全で根拠に基づく良質かつ高度な医療を提供する。
2. 患者さんと家族が満足できるサービスを提供する。
3. 患者さんが安心して快適な療養生活ができる環境を提供する。
4. 特定機能病院として、先進医療の開発・導入を行い、優れた医療技術を提供する。
5. 救急医療活動や在宅医療における役割を担う。更に災害時の拠点病院として地域医療に貢献する。
6. 省エネ、エコロジーを推進し、環境保全活動に努める。  
すべての医療従事者は、この実現のために取り組むものとする。

## 「患者さんの権利」

医療は患者さんと医療機関との十分な信頼関係で成り立っております。順天堂医院では、すべての患者さんに次の権利があると思料し、尊重した医療を行います。

1. 良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
2. 一人ひとりの人格や価値観などが尊重された医療を受ける権利があります。
3. ご自分の希望や意見を述べる権利があるとともに、希望しない医療を拒否する権利があります。
4. 理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
5. 十分な説明と情報提供を受けたうえで、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報を守られる権利があります。
7. 患者さんが主治医（かかりつけ医）から勧められた治療を選択するにあたり、納得して治療を受けられるよう、セカンドオピニオンにより、主治医（かかりつけ医）以外の医師に意見を求める権利があります。

## 「患者さんへのお願い」

順天堂医院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、適切な医療の提供にご協力くださいますようお願い申し上げます。

1. 誤認防止のため、患者さんに氏名（フルネーム）および年月日を確認しております。
2. 治療上必要なルールは、お守りください。また、治療について不安を感じましたら、どんなことでもすぐにお知らせください。
3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるよう配慮に努めております。他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。

## 順天堂医院：医師心得

順天堂医院の医師は診療・教育・研究に全力を尽すとともに以下の心得を堅く遵守されたい

1. 何より医療安全に留意すること（絶対に患者の心身を傷つけないこと）
2. 患者に、優しく、思いやりをもって、謙虚に！！ 接遇に最大の注意を払うこと！！（医療訴訟防止の原点）
3. 患者の秘密を守る（守秘義務・個人情報の保護）
4. コスト意識を持ち、無駄を省くこと
5. 順天堂医院に相応しい上品で清潔な服装と言動を（規定あり）
6. エレベーターは患者最優先、原則として私語禁止
7. 廊下は患者最優先！横に広がらず、どちらか片側を歩く
8. 原則として聴診器を首にかけて院内外を歩かない
9. 白衣にて院内外のレストランへの出入り禁止（職員食堂を除く）
10. 十分な説明とインフォームドコンセントの徹底

## 男性医師の服装についてのマニュアル

基本姿勢として、順天堂の歴史と伝統に恥じない上品な服装を心掛けること。ここに示したものは、一般論ではなく、順天堂としての指針を示したものである。

- 1) 清潔で不快感を与えないこと。(客観的に見て)色合い、組み合わせなどは、すべての年齢層に受け入れられるものであること。
- 2) ネームプレートは必ずよく見える位置に着用する。
- 3) 上着型白衣を着用の際はネクタイを着用し、前ボタンはきちんと留める。
- 4) ケーシー型白衣の下には無地・薄い色の下着を着用する。
- 5) 白衣の重ね着禁止。
- 6) 汚れ、しわが目立つ場合には速やかに着替える。
- 7) 白衣を着用しない時は、かならず首のボタンを留めネクタイを着用する。
- 8) 汚染の可能性のある業務を行う場合や、ネクタイが人にあたる場合には白衣を着用する。
- 9) 聴診器は、首にかけて歩いてはならない。
- 10) 緊急時を除き、手術着を着たまま手術室外及び集中治療室外に出てはならない。当直仮眠中にコールされた場合は、当直衣の上に白衣着用を認めるが、必ずボタンを留める。
- 11) マスクは鼻と口が覆われるように着用する。肩や袖などに通して移動しない。

1 頭 髪	清潔感があること。短髪が望ましい。 肩にかかるような長髪、パンチパーマ、極端な茶髪や金髪、スキンヘッドなど特殊な髪型は好ましくない。整髪剤は匂いの強くないものを使用する。
2 アクセサリー	見えるところには着用しない。ピアス・イヤリング・複数の指輪、他人から見えるネックレス・ペンダントは好ましくない。結婚指輪はOK。
3 香 水	ごく少量に押さえる。タバコの臭いは禁忌。
4 服 装	シャツ・ネクタイは、あまり派手なものはさける。 ズボン、スラックス・チノなど折り目のつくものであること。 ジーンズ等の作業パンツは好ましくない。
5 靴 下	必ず着用する。派手な原色の靴下やゴムの弛んだもの、踝の出るような短いもの・裸足は好ましくない。
6 靴	革靴(黒および茶系)、革製や白一色のスニーカーとする。 ブーツ、サンダル、クロックス、派手な色のスニーカーは好ましくない。

## 女性医師の服装についてのマニュアル

私たち女性医師は、患者さまから大学病院で働く医師として信頼され好感を抱いて頂けるよう、身だしなみには十分に気を遣う必要があります。

また、何時にも緊急事態に速やかに対処できるような、動きやすい服装であることも要求されます。更に、他の従事者からも好感がもてる服装でなければなりません。これは、どの診療科に従事している医師・職員にも共通して要求されることです。

したがって、自分自身が身につけたいものを身につけるのではなく、その場に相応しいものをいつも身につけることを信条として下さい。

常に私たち一人一人が患者さまから信頼感が得られる服装、患者さまの身を守って差し上げられる服装を日頃から心がけること、これにより順天堂の女性医師に対する患者さまの評価は、より高いものになると思いません。

1 頭 髪	清潔感を第一に考える。極端な茶髪やカラーは避ける。肩にかかる髪は束ねたりまとめたりする。髪飾りを使用する場合には目立たない地味な色のもを使用する。
2 アクセサリー	原則として必要なものではないため、派手なものや大きなものは身にまとわない。ファッションリングは患者の体を傷つける可能性もあるため、好ましくない。
3 香 水	原則としては必要なものではないため、匂わない程度。
4 化 粧	清潔感のある化粧とする。派手なアイメイク、ラメが多く含まれている化粧品は好ましくない。
5 服 装	上品で清潔感のある、機能面を重視した服装がよい。私服の延長ではなく白衣の下にまとう服装として相応しいものを選んで着用する。
6 靴 下	スカート、サンダルに素足は好ましくない。 ストッキングをはくこと。但し、派手な柄や黒色は好ましくない。
7 靴	動きやすい機能面に優れたものがよく、クロックスは好ましくない。緊急事態にも走れる靴でなければならない。派手な色彩のものは好ましくない。ハイヒールなど、病棟や外来で足音が大きいものは好ましくない。
8 マ ス ク	マスクは鼻と口が覆われるように着用する。 肩や袖などに通して移動しない。



順天堂大学  
医学部長 服部 信孝 殿

## 個人情報保護に関する誓約書

私は、順天堂大学医学部の学生として、順天堂大学学則における患者情報及び個人情報保護に関する諸規程を遵守します。

また、患者に関する情報および大学・病院関係者の個人情報を在学中はもちろん、卒業後も第三者に故意または過失によって漏洩したり、無断で使用したり、持ち出したりしないことを誓約いたします。

2019年 月 日

学 年： 1. 2. 3. 4. **5.** 6

学生番号： 21\*\*\*\*\*

署 名： 順 天 太 郎

注 1) この「誓約書」は、新学期オリエンテーション時に回収します。  
注 2) 内容をよく読み、記入例の様に、所定の欄(「学年」「学生番号」「氏名」)を記入すること。









順天堂大学

医学部長 服部 信孝 殿

## 個人情報利用に関する同意書

私の学業成績に関する情報を、医学教育の質の向上、教育研究の目的のため  
使用することに同意します。

2019年 月 日

学 年： 1. 2. 3. 4. 5. 6

学生番号： 21\*\*\*\*\*

署 名： 順 天 太 郎

注1)この「同意書」は、新学期オリエンテーション時に回収します。  
注2)内容をよく読み、記入例の様に、所定の欄(「学年」「学生番号」「氏名」)を記入すること。







## 履歴書

年 月 日現在

ふりがな		印	写 真 (4cm×3cm) 写真の裏面に 氏名を記入
氏 名			
生年月日	年 月 日生 (満 歳)	男・女	
携帯電話番号	E-MAIL		
ふりがな		電話 ( )	
現住所 〒 -		FAX ( )	
ふりがな		電話 ( )	
連絡先〒 (現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入)		FAX ( )	
年	月	学歴・職歴 (※学歴は高校入学から記入)	
(自己紹介／志望の理由 等)			

順天堂大学医学部 〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

本郷・お茶の水キャンパス事務室 教務課 03-5802-1019 (直通) [kyomu@juntendo.ac.jp](mailto:kyomu@juntendo.ac.jp)  
さくらキャンパス事務室 教務課 0476-98-1032 (直通) [sc-kyomu@juntendo.ac.jp](mailto:sc-kyomu@juntendo.ac.jp)

2019年度 M1開講科目 ナンバリング

分類	ナンバリング	科目名
必修	IME 101	医療プロフェッショナルリズム入門
	IME 102	医療入門
	IME 103	行動科学
	RMC 100	医学研究入門 I
	ENG 101	Practical English for TOEFL I
	ENG 102	Practical English for TOEFL II
	ENG 103	TOEFL演習
	SPH 101	スポーツと健康
	CHM 101	ライフサイエンスのための化学
	PHY 101	人体物理学
	BIO 101	細胞生物学
	MTH 101	統計解析への数学
	INBM 010	医学医療序論
	INBM 040	骨学
INBM 030	組織細胞生物学	
自然科学総合実習	CHM 111	(化学)定性分析
	CHM 112	(化学)生体物質の分離と定量の基礎
	PHY 111	(物理)物理学入門
	PHY 112	(物理)ミクロの世界から
	BIO 111	(生物)顕微鏡観察
	BIO 112	(生物)カエルの解剖
	MTH 111	(数学)情報処理 I
	MTH 112	(数学)情報処理 II
PBL	PBL 101	水と生命
	PBL 116	健康を支える科学
	PBL 119	バイオマテリアルと医療
	PBL 102	法則と方程式
	PBL 103	プログラミングとアルゴリズム
	PBL 104	素粒子の $\alpha$ $\beta$ $\gamma$
	PBL 105	医療の思想と倫理
	PBL 106	Medicine from a Global Perspective
	PBL 112	ことばの力、the power of words
	PBL 113	What does a test measure ?
	PBL 118	Listening Skills: Development and
	PBL 108	統計に基づいた科学的実証の実際
PBL 115	医事ニュースを読み解く統計学	
PBL 109	生物の多様性	
PBL 117	錯覚錯視の原理と応用	
PBL 111	Can we trust diet studies?	
自然科学系選択	BIO 090	Medical Biology in English
	MTH 123	2変数の微分積分入門
	PHY 123	相対論入門:時空とエネルギー
	BIO 123	ヒューマンバイオロジー
	CHM 123	分子の形
語学系選択	ENG 131	Pronunciation Clinic:Speaking
	ENG 111	Academic English for TOEFL I
	ENG 112	Academic English for TOEFL II
	ENG 113	Academic English for TOEFL III
	ENG 114	Academic English for TOEFL IV
	ENG 115	Academic English for TOEFL V
	ENG 116	Academic English for TOEFL VI
	ENG 121	TOEFL特別演習 I (BC)
	ENG 122	TOEFL特別演習 II (DE)
	ENG 123	TOEFL特別演習 III (BC)
	ENG 124	TOEFL特別演習 IV (DE)
	ENG 141	IELTS特別演習 I (A)
	ENG 142	IELTS特別演習 II (A)
	GER 101	ドイツ語 I
	GER 102	ドイツ語 II
	FRC 101	フランス語 I
	FRC 102	フランス語 II
	CHI 101	中国語 I
	CHI 102	中国語 II
	JPN101	日本語リテラシー
	JPN102	日本語アカデミックライティング

分類	ナンバリング	科目名
人文社会学系選択	HSH 101	コミュニケーション論
	HSH 105	生きる意志(倫理学)
	HSH 107	医療社会学
	HSH 108	医療の経済学
	HSH 109	医療行為と法
	HSH 110	文化の中の健康
自由選択	ELE 101	新しい世界を拓いた人々
	ELE 102	知の統合
	RMC 110	医学研究入門 II
	RMC 120	科学研究のための基礎
	RMC 130	科学研究ゼミナール
	ELE 103	マリン実習
スポーツ健康科学部【医療看護学部】開講科目	ELE 111	日本国憲法
	ELE 112	歴史学A・B
	ELE 113	音楽A・B
	ELE 114	心とからだの哲学【人間の生き方】
	ELE 115	法学
	ELE 116	美術A・B
	ELE 117	心理学
	ELE 118	社会学A・B
	ELE 119	経済学
	ELE 120	日本文学A・B
	ELE 121	経営学
	ELE 122	広告論
	ELE 123	社会心理学
	ELE 124	発達心理学A・B
	ELE 125	メディア経営論
ELE 126	スポーツ外傷・障害学	
ELE 127	スポーツと栄養	

略の解説	科目名
	IME Introduction to Medicine
	RMC Research, Medicine, and Career
	SPH Sports and Health
	BIO Biology
	CHM Chemistry
	PHY Physics
	MTH Mathematics
	PBL Problem Based Learning
	GER German
	FRC French
	CHI Chinese
	JPN Japanese
	HSH Human, Society, and Health
	ELE Elective
	INBM Integrative Basic Medicine

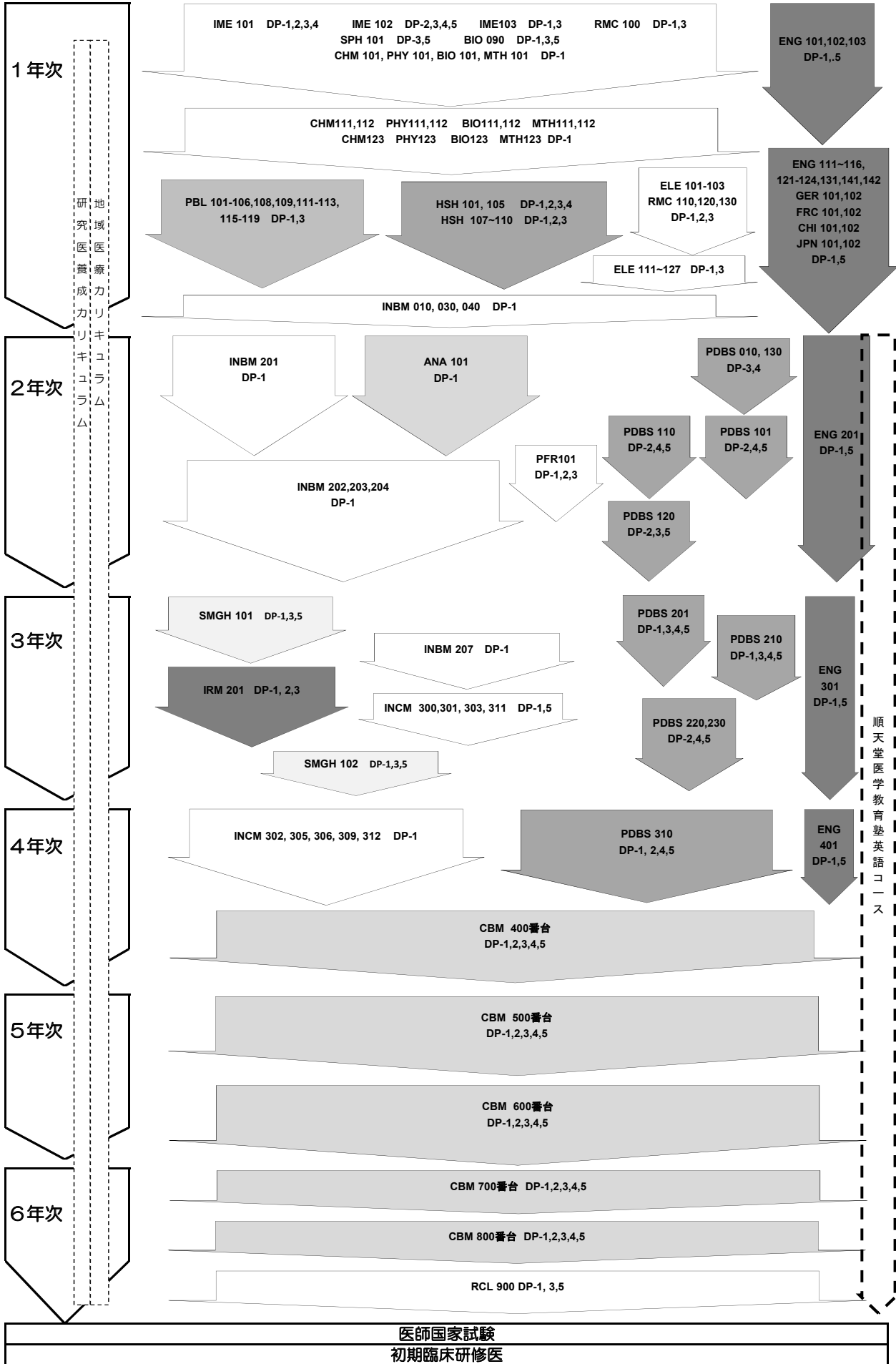
( XX )

医学部ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
	知識・理解	思考・判断	興味・関心	態度	技能
科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術が身についている。	○				○
不断前進する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を身につけている。			○	○	
常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を慮り、慈しむ心(学是「仁」)が涵養されている。		○			
チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣が身についている。					○
グローバル化する国際社会における諸問題に多面的な視点から対処し、解決できる能力と未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養が身についている。	○				○



# 医学部カリキュラムマップ (2019年度)

DP-1=知識・理解 DP-2=思考・判断 DP-3=興味・関心 DP-4=態度 DP-5=技能



# 医学部カリキュラム概略図 (2019年度)

[前期]

学年 / 月	4月	5月	6月	7月	8月							
1年次	入寮式・入学式	オリエンテーション	TOEFL	フレッシュパーソンスキャン	必修科目	医療プロフェッショナリズム入門	医療プロフェッショナリズム入門	前期試験週間	夏季休暇			
					選択必修科目	医療入門	医療入門					
2年次	新学期オリエンテーション	基礎医学 Zone A			Unit 1 総合試験	Unit 1 総合試験	Unit 1 総合試験	Unit 1 総合試験	Unit 1 総合試験	夏季休暇		
		組織学 (各論)	Zone A 前期試験	組織学 (各論) 神経解剖学							Zone A 中間試験	神経解剖学
3年次	新学期オリエンテーション	基礎医学 Zone E		Zone F		基礎ゼミナール		発表会	全体発表会	Zone E・Zone F 総合再試験		
		社会医学序論/疫学・統計学	[実習] 疫学・統計学	Zone E 総合試験	病理・病態	[実習] 病理学総論	Zone F 総合試験				English	English 最終試験
4年次	新学期オリエンテーション	臨床医学 Group 4	Group 5	Group 6	Group 7	Group 8	G4 総合試験	G5 総合試験	G6 総合試験	G7 総合試験	G8 総合試験	夏季休暇
		腎・生殖・泌尿	脳神経・精神・心身・老年医学	感覚器・運動	内分泌・代謝・栄養・外科	皮膚・頭頸部・感染症・中毒・災害・漢方						
5年次	新学期オリエンテーション	M5 臨床コア実習			M5 臨床実習		海外実習(1ヶ月)	海外実習前トレーニング (診断法、プレゼンテーション 等)	海外実習(1ヶ月)	海外実習前トレーニング (診断法、プレゼンテーション 等)	夏季休暇	
		(ローテーション⑥)	(ローテーション⑦)	(ローテーション⑧)	M4,M5臨床コア実習でローテーションしていない診療科を1年間かけてローテーションする。	選択実習, 海外実習						臨床実習(前期コア)試験
6年次	新学期オリエンテーション	M6 臨床実習	学生インターンシップ実習 (選択コース)			必修コース		総合試験	夏季休暇			
		臨床実習(後期)試験	期間 (第1クール)	(第2クール)	(第3クール)	(第4クール)	臨床科での診療参加型実習			海外臨床実習・報告会		

初期臨床研修医  
大学院医学研究科

(医学部附属病院) 順天堂医院, 静岡病院, 浦安病院, 練馬病院 / (その他)

【後期】

9月		10		11		12		1月		2		3月	
8月	マリン実習 看護実習 PBL	必修科目	医療プロフェッショナルズ入門	早期体験実習	医療プロ	TOEFL	医療プロ	年末年始休暇	医療プロ	後期試験週間	追・再試験期間	基礎医学入門 医学医療序論 骨学 組織細胞生物学 [実習]骨学 [実習]組織学	
			行動科学		行動科学		行動科学						
			Practical English for TOEFL I		TOEFL I		TOEFL I						
			Practical English for TOEFL II		TOEFL II		TOEFL II		TOEFL II				
			TOEFL演習		TOEFL演習		TOEFL演習		TOEFL演習				
			スポーツと健康		スポーツと健康		スポーツと健康		スポーツと健康				
			ライフサイエンスのための化学		ライフサイエンスのための化学		ライフサイエンスのための化学		化学				
			人体物理学		人体物理学		人体物理学		物理				
			細胞生物学		細胞生物学		細胞生物学		生物				
			統計解析への数学		統計解析への数学		統計解析への数学		数学				
		選択必修科目	自然科学総合実習 (化学/物理/生物/数学)		自然科学総合実習		自然科学総合実習		自然科学総合実習				
		選択科目	自然科学系, 語学系, 人文社会学系, 自由選択科目		選択科目		選択科目		選択科目				

PBL (Problem Based Learning) : 水と生命/健康を支える科学/バイオマテリアルと医療/法則と方程式/プログラミングとアルゴリズム/素粒子の $\alpha\beta\gamma$ /医療の思想と倫理/  
Medicine from a Global Perspective/ ことばの力, the power of words/What Does a Test Measure ?/Listening Skills: Development and Assessment/  
統計に基づいた科学的実証の実際/医事ニュースを読み解く統計学/生物の多様性/錯覚錯視の原理と応用/Can we trust diet studies?

Zone B		Zone C				Zone D		Zone C・D 総合再試験	
生化学/発生	Zone B (生化学) 総合試験	動物生理学/ 植物生理学/薬理学	Zone C1 試験	動物生理学/ 植物生理学/薬理学	Zone C2 試験	[実習] 微生物学/免疫学/寄生虫病学	Zone D 総合試験	医療体験実習	
[実習]生化学・分子生物学				[実習]生理・薬理学					
	遺骨返還式		Zone B 総合再試験						
English						English	English 最終試験		
(体験実習) 医学研究Ⅰ / OSCE運営補助 / 救急医学実習 / 医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム						基礎医学研究選択コース			
基本手技						基本手技 試験	基本手技 再試験		

臨床医学GroupZERO		Group 1		Group 2		Group 3		行動科学Ⅱ・社会医学	
臨床医学総論 (症候論 (臨床疫学・EBM) / 感染症・感染制御/外科/救急・災害/腫瘍学・緩和医療/放射線/病理/臨床薬理/社会医学/倫理・医療安全/輸血/医療面接/AI)		消化器・外科一般		心臓・血管・呼吸 胸郭・縦隔		小児・周産期		行動科学/社会医学	
G ZERO 総合試験		G1 総合試験		医療面接実習		G2 総合試験		G3 総合試験	
G2 総合試験		G2 総合試験		G1 総合再試験		G2 総合再試験		G3 総合再試験	
(自己トレーニング)		診察技法		診察技法		基本手技 再試験		診察技法 試験	
基本手技 試験		GZERO 総合再試験		診察技法		G2 総合再試験		G3 総合再試験	

臨床実習前トレーニング		M4 臨床コア実習			M4 臨床コア実習		
CBT	OSCE	CBT 再試験	(ローテーション①)	(ローテーション②)	(ローテーション③)	(ローテーション④)	(ローテーション⑤)
		ト臨床実習前OSCE試験前OSCE再試験	1. 内科系：循環器, 消化器, 呼吸器 2. 精神医学 (M5で実習を行う) 3. 神経学 4. 小児科			5. 外科系：上部・下部消化管, 肝臓, 乳腺・内分泌, 心臓血管外科, 呼吸器外科, 泌尿器外科 6. 産婦人科 7. 救急・災害医学 8. 附属病院：静岡, 浦安, 越谷, 高齢者, 練馬	
			M4 臨床コア実習			臨床コア実習	

M5 臨床実習		M5 臨床実習	
(診療科)		BSL 総合試験	
循内, 循外, 呼内, 腎内, 膠内, 血内, 代内, 精神, 神経, 小児, 上部, 下部, 肝・胆・膵, 泌尿器, 乳腺, 心外, 呼外, 児外, 脳外, 整外, 皮膚, 形成, 泌尿, 眼科, 耳鼻, 放射, 産婦, 麻酔・心, 臨検, 総合・救急, 輸血, 腫瘍, 緩和, リハビリ, 地域		BSL 総合再試験	
選択実習, 海外実習		選択実習, 海外実習	
海外実習利用リサーチ		海外実習前トレーニング (診断法, プレゼンテーション 等)	
臨床実習前OSCE (コア科) 総合再試験		BSL 総合再試験	

卒業試験期間				自己学習期間		自己学習期間		卒業試験	
卒業試験1： 循内/上部/下部/肝臓膵/乳腺	卒業試験5： 皮膚/眼/耳鼻/整形/形成/リハ	Post clinical clerkship OSCE	卒業補助試験A	卒業判定	自己学習期間 (学習支援)	自己学習期間 (学習支援)	卒業試験	卒業試験	卒業試験
卒業試験2： 精神/神経/脳外	卒業試験6： 腎内/泌尿/代内/膠原病		卒業補助試験B						
卒業試験3： 循内/呼内/心外/呼外	卒業試験7： 小児/児外/産婦人科		卒業補助試験C						
卒業試験4： 血液/腫瘍内科/臨床検査/人体病理/麻酔・心/緩和	卒業試験8： 総合診療/放射/公衆衛生/衛生/法医/救急		卒業補助試験D						

## M1 授業の目的と内容について

本学では、以下の観点からM1の一般教養教育ならびに基礎医学入門の授業を行う。

<目的>

- I 一般教養教育は、6年一貫の医学教育の重要な一部であり、医師として、社会人として不可欠な感性・人間性を養うものである。
- II M2以降の基礎・臨床医学へつながる、根本的な科学的方法と基礎医学知識を習得する。
- III 基礎的な医学の知識の習得を開始して、M2以降の基礎・臨床医学学習への期待感を高くもつ。
- IV PASSIVEな学習姿勢からACTIVEな学習姿勢へ転換する。

<一般教養教育の内容>

M1の4月～12月および1月にかけて、さくらキャンパスにおいて行う。

① 必修科目は次の12科目である。

語学系科目：

1. Practical English for TOEFL I
2. Practical English for TOEFL II
3. TOEFL 演習

医学系科目：

4. 医療プロフェッショナリズム入門
5. 医療入門

6. 行動科学
7. 医学研究入門 I
8. スポーツと健康

自然科学系科目：

9. ライフサイエンスのための化学
10. 人体物理学
11. 細胞生物学
12. 統計解析への数学

- ② 選択必修科目は、自然科学総合実習の 8 科目の中から 6 科目以上、PBL から 1 科目を選択する。
- ③ 選択科目については、自然科学系、語学系、人文社会学系、自由選択科目から合計 11 科目以上を選択する。スポーツ健康科学部開講科目の選択履修も可能である。

<基礎医学入門の内容>

M1 の 2 月から 3 月にかけて、本郷・お茶の水キャンパスにおいて次の必修 3 科目を行う。

1. 医学医療序論
2. 骨学
3. 組織細胞生物学

# 履修に関する基本事項について

## 1. 履修方法について

- ① 学年で学習する授業科目は、毎年度当初に当該学年のオリエンテーション時に教育要項等を配布する。
- ② 科目の学習にあたっては教育要項を利用する。
- ③ 一般教養（1 学年の 4 月～12 月および 1 月）の科目については、必修、選択必修、選択の各科目について、履修申請を指定の期日に行う。また、一般教養の科目における履修科目数は、33 科目を上限とする。
- ④ 基礎医学入門（1 学年の 2 月・3 月）の科目については、すべて必修科目のため履修申請の必要はない。

## 2. 一般教養の科目について

一般教養は、4 月から 8 月にかけての前期と、9 月～12 月および 1 月にかけての後期がある。必修科目、選択必修科目、選択科目があり、科目によってはクラスを分けて履修する授業がある。クラス分けの方法は、原則次の 2 通り。

イ. 学生番号によるクラス分け（自然科学総合実習他）

前番 }  
後番 } 入学者を番号順に前・後半の 2 グループに分け、前半を前番、後半を後番とする。

ロ. 学生の選択によるクラス分け

### （1）履修登録について

- ① 履修を希望する一般教養科目は、すべて履修登録すること。履修登録を行わないで受講しても評価は受けられない。
- ② 履修登録は、前期授業開始前に、後期開講科目も含めて登録する。
- ③ 後期授業開始前に、後期開講科目の履修登録（科目の追加・削除）を行う。ただし、科目によっては履修制限があり、履修登録できない科目があるので、注意する。
- ④ 履修制限がかかる科目があるので、必ず履修条件に合致するかを確認し、履修登録を行う。履修条件に合致しない場合、いかなる事由があろうとも履修することはできない。
- ⑤ 履修登録手続は、ウェブ（Juntendo Passport）にて行う。
- ⑥ 前期登録科目の変更は、前期授業開始後、所定期間内に限り認められる。
- ⑦ 後期開講科目の変更は、後期授業開始後、所定期間内に限り認められる。

- ⑧ 前期・後期とも仮登録期間であっても、授業に出席しなければ欠席扱いとなるので注意する。

## (2) 必修・選択必修科目について

- ① 必修科目 12 科目 (ただし、TOEFL 演習については、この科目の定期試験に合格すると同時に、2 回の TOEFL ITP と 1 回の TOEFL iBT の受験は必修とし、2 回目の TOEFL ITP で 475 点以上、または TOEFL iBT で 55 点以上を取得しなければならない。)

### ② 選択必修科目

#### イ) 自然科学総合実習

化学分野(「定性分析」・「生体物質の分離と定量の基礎」、物理分野(「物理学入門」・「ミクロの世界から」、生物分野(「顕微鏡観察」・「カエルの解剖」、数学分野(「情報処理Ⅰ」・「情報処理Ⅱ」)のそれぞれの分野から1科目以上、計6科目以上を選択する。

なお、本学学力入試にて物理を受験しなかった者、およびセンター利用で物理を高校で履修しなかった者は、「物理学入門」を必須とする。物理受験者および高校で物理を履修した者は、「ミクロの世界から」を必須とする。

注：必要最低履修科目数を超えて履修した科目数については、選択科目としてカウントすることができない。

#### ロ) PBL：9月を中心に実施される次の16科目の中から1科目を選択する。

「水と生命」、「健康を支える化学」、「バイオマテリアルと医療」、「法則と方程式」、「プログラミングとアルゴリズム」、「素粒子の $\alpha\beta\gamma$ 」、「医療の思想と倫理」、「Medicine from a Global Perspective」、「ことばの力、the power of words」、「What does a test measure?」、「Listening Skills: Development and Assessment」、「統計に基づいた科学的実証の実際」、「医事ニュースを読み解く統計学」、「生物の多様性」、「錯覚錯視の原理と応用」、「Can we trust diet studies?」

## (3) 選択科目について

- ① 進級条件は、自然科学系科目から1科目以上、語学系科目から4科目以上、人文社会学系科目から2科目以上を履修し、トータル11科目以上の選択科目に合格すること。従って、 $11-(1+4+2)=4$ 科目は完全に自分の興味ある分野の講義を自らの責任において選択することとなる。
- ② 選択科目における成績は、成績の良かった上位11科目の合計をもって評価される。従って、興味のある科目を数多く選択しても不利にならないような配慮をしている。
- ③ 同一時限に同時開講されている科目を複数選択することはできない。
- ④ 前期、後期の選択科目の配分については、各自の選択に任されるが、十分注意して余裕をもって選択科目を決めること。

- ⑤ 「Academic English for TOEFL」は、1科目以上の履修選択が望ましい。
- ⑥ 「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」は各外国語科目のⅠの講義を「合格」しているか、各外国語の外部検定試験に合格していない場合は履修できない。また、各外国語科目のⅡの講義を含めて進級要件である語学系選択科目数(4科目)を満たす場合には、前期成績(Ⅰの講義の成績)によって履修登録を見直す必要があることに十分留意すること。また、各外国語科目の該当外部検定試験の受験することが必要となっている。検定試験の受験料は自己負担となる。
- ⑦ 「マリン実習」は、経費として約10万円程度が別途必要となる。

#### (4) 評価方法について

- ① 前期および後期の学期ごとに期末試験を受験する。出席日数が2/3に満たない場合は受験資格が認められない。合否判定には、出席状況、臨時試験やレポート成績、勉学態度等も加味されるので、日頃の学習態度にも万全を期すこと。前期から後期にまたがる科目に対しては、前期と後期を総合して合否を判定する。
- ② 自然科学総合実習、PBLなどは当該授業のすべてに出席することは原則とする。授業時間内あるいは終了時に実技、レポート、試験等により判定する。
- ③ 一般教養科目における学業評価と評点およびGP(GPA\*を算出するための基礎点)の関係は、次の通りとする。

##### \* GPA (Grade Point Average) :

履修科目の評価に単位数を加味した加重平均値のことで、設定された算出基準・計算式で算出される。単に進級要件単位を取得するだけでなく、当該単位がどのような評価を伴うものであるかを可視化することにより、個々の学修の質をより高めることを目的とする。

判定	評価	評点	GP	内容
合格	A	100点～90点	4	特に優秀な成績
	B	89点～80点	3	優れた成績
	C	79点～70点	2	良好な成績
	D	69点～60点	1	合格と認められる成績
不合格	F	59点～0点	0	不合格
失格	失格(G)	/	—	全授業数の3分の1を超える欠席の場合 試験を放棄した場合(未受験および受験資格なし)

※失格(G) (「/」) は GPA 算出の対象外となる。



### 【GPA算出計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\begin{array}{|c|} \hline \text{Aの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 4 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Bの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 3 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Cの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 2 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Dの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 1 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Fの} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 0 \\ \hline \end{array}}{\text{履修単位(科目)数}}$$

- ④ 「不合格」と評価された一般教養科目は、再試験を受験することができるが、受験可能な上限科目数は3科目である。再試験の最高評点は60点となる。

なお、スポーツ健康科学部・医療看護学部・保健看護学部との共通開講科目および次の科目については再試験を実施しない。

- 1) 自然科学総合実習
- 2) PBL
- 3) 自由選択科目のうち

「新しい世界を拓いた人々」、「知の統合」、「マリン実習」、「科学研究のための基礎」、「科学研究ゼミナール」

※「/」と評価された科目も再試験は行わない。

### 3. 基礎医学入門の科目について

基礎医学入門は、2月から3月にかけての期間に3科目の必修科目を行う。

#### (1) 履修登録について

基礎医学入門3科目は、履修登録の必要はない。(1④を参照)

#### (2) 評価方法について

- ① 基礎医学入門3科目については、同日に行われる各科目の定期試験を受験する。各科目の講義出席回数が全講義回数の2/3に満たない場合または実習すべてに出席していない場合は、その科目の受験資格が認められない。すべての実習と一部の授業に全員が出席すること(詳細はM1カリキュラム表を参照)。各科目の合否判定には、出席状況、プレテスト・ポストテスト、レポート・スケッチ等の成績や勉学態度等も加味されるので、日頃の学習態度にも万全を期すこと。

- ② 基礎医学入門 3 科目の定期試験については合格または不合格と評価される。不合格科目については、その科目の定期試験再試験を課す。各科目の定期試験再試験の判定は教務委員会で審議する。
- ③ 基礎医学入門科目における学業評価と評点および GP の関係は、次の通りとする。

判定	評価	評点	GP	備考
合格	A	100 点～90 点	4	—
	B	89 点～80 点	3	
	C	79 点～70 点	2	
	D	69 点～60 点	1	
不合格	F	59 点～0 点	0	
失格	失格(G)	/	—	全授業数の 3 分の 1 を超える欠席の場合 試験を放棄した場合 (未受験および受験資格なし)

※ ※失格(G) (「/」) は GPA 算出の対象外となる。

#### 【GPA算出計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\boxed{\text{Aの修得}} \times 4 + \boxed{\text{Bの修得}} \times 3 + \boxed{\text{Cの修得}} \times 2 + \boxed{\text{Dの修得}} \times 1 + \boxed{\text{Fの}} \times 0}{\text{履修単位数}}$$

#### 4. 授業欠席に関する注意事項について

- ① 授業をやむを得ぬ事情により欠席する場合は、事前に欠席届を科目責任者あるいは担当者に提出する。事後提出の場合は、原則、欠席後 1 週間以内に提出することとする。
- ただし、さくらキャンパスでのオムニバスでの授業科目は、科目責任者が不在の場合に限り、教務課に提出することも認める。
- ② 欠席届の様式は、ウェブ (Juntendo Passport) からダウンロードして使用する。

- ③ 欠席届には、本人の署名・捺印、記載漏れのないようにし、必ず担任教員の確認と署名をいただくこと。
- ④ 欠席届には、欠席事由が病気の場合は診断書を、その他の場合は事由を証明する書類を添付しなければならない。診断書や証明する書類が添付されていない場合は、無断欠席として受理されない。
- ⑤ また、欠席届提出における取扱いは、科目責任者あるいは担当者が判断する。

## 5. 試験に関する注意事項について

- ① 試験は、授業（講義・座学）への2/3以上の出席で受験することができる。実習が行われる科目については、講義出席の受験資格と併せて、実習のすべてに出席することが受験資格である。
- ② 学生証のない者および授業料未納の者は、試験場に入場できない。
- ③ 試験場では、必要以外の物品を机の上に置くことができない。ただし、携帯電話、モバイル機器等の扱いはその都度、指示に従うこと。また、一切の物品の貸借はできない。
- ④ 試験開始後30分以上経過したときは、試験場に入場できない。また、30分以内の退場もできない。
- ⑤ 試験中不正行為をなしたと認められた者に対しては、事情の如何を問わず直ちに退場を命じ、所要の処置をとる。下記の「試験中不正行為者に対する処置について」を参照。
- ⑥ 事故又はやむを得ぬ事情のため受験できなかった場合は、追試験を受験することができる。  
ただし、イ・ロの手順で申請を行わなければならない。行わなかった場合は追試験の対象外となるので、十分注意すること。  
イ. 原則、当該試験終了までに教務課に必ず連絡すること。  
ロ. 追試験申請期間内に病気の場合は診断書を、その他の場合は事由を証明する書類を添付し、規定の申請書の提出や追試験料を納入した上で受験することができる。口頭あるいは電話等での連絡では追試験を受験することはできない。  
また、病気（特に感染症）の場合、教務課に診断名を速やかに報告すること。
- ⑦ 基礎医学入門定期試験の追試験は、定期試験再試験をもってこれに代える。
- ⑧ その他の必要事項は、一般教養（前期・後期）期間はウェブ（Juntendo Passport）にて、基礎医学入門期間は掲示にて公示する。

## 6. 試験中の不正行為に対する処置について

- ① 試験中試験監督者が、学生不正行為を発見して、その事実を確認したときは、その学生を試験場外に退出させる。
- ② 試験で不正行為を行った学生に対しては、理由の如何を問わず、学則第 63 条および第 64 条に則り、停学の懲戒処分とする。
  - i. 停学期間は 1 か月とする。
  - ii. 直接的に不正行為を行っていないくとも、不正行為に加担した場合にも原則として停学の処分を科す。
  - iii. 当該授業科目の成績を 0 点とする。
- ③ 試験終了後においても、当該科目担当者が不正行為があったと判断し、その事実を確認したときは、同様の処置を検討する。

## 2019年度 医学部 1年開講科目

分類	授業科目名	区分	進級要件
必修	医療プロフェッショナルリズム入門	必修	15科目合格すること *1 科目合格に加え、TOEFL ITP475点以上、またはTOEFL iBT55点以上取得すること。 <iBT受験の必修化>
	医療入門	必修	
	行動科学	必修	
	医学研究入門 I	必修	
	Practical English for TOEFL I	必修	
	Practical English for TOEFL II	必修	
	TOEFL演習 *1	必修	
	スポーツと健康	必修	
	ライフサイエンスのための化学	必修	
	人体物理学	必修	
	細胞生物学	必修	
	統計解析への数学	必修	
	基礎医学入門	医学医療序論	
骨学		必修	
組織細胞生物学		必修	
自然科学総合実習	(化学) 定性分析	選択必修	化学、物理、生物、数学の各分野から1科目以上、計6科目以上を選択し合格すること *2 入試にて物理未受験者「物理学入門」必須 入試にて物理受験者「ミクロの世界から」必須 *3 必要科目数を越えた分は、選択科目としてカウントすることができない。
	(化学) 生体物質の分離と定量の基礎	選択必修	
	(物理) 物理学入門	選択必修	
	(物理) ミクロの世界から	選択必修	
	(生物) 顕微鏡観察	選択必修	
	(生物) カエルの解剖	選択必修	
	(数学) 情報処理 I	選択必修	
	(数学) 情報処理 II	選択必修	
PBL	水と生命	選択必修	1科目を選択し合格すること
	健康を支える化学	選択必修	
	バイオマテリアルと医療	選択必修	
	法則と方程式	選択必修	
	プログラミングとアルゴリズム	選択必修	
	素粒子のαβγ	選択必修	
	医療の思想と倫理	選択必修	
	Medicine from a Global Perspective	選択必修	
	ことばの力、the power of words	選択必修	
	What Does a Test Measure ?	選択必修	
	Listening Skills: Developing and Assessing	選択必修	
	統計に基づいた科学的実証の実際	選択必修	
	医事ニュースを読み解く統計学	選択必修	
	生物の多様性	選択必修	
	錯覚錯視の原理と応用	選択必修	
	Can We Trust Diet Studies?	選択必修	
	自然科学系選択	Medical Biology in English	
2変数の微分積分入門		選択	
相対論入門:時空とエネルギー		選択	
ヒューマンバイオロジー		選択	
分子の形		選択	
語学系選択	Pronunciation Clinic : Speaking	選択	語学系から4科目以上選択し合格すること *4 「Academic English for TOEFL」は、1科目以上の履修選択が望ましい。 *5 ドイツ語・フランス語・中国語のIIの講義は、「I」の講義を「合格」していない場合は、履修できない。 *6 「日本語リテラシー」、「日本語アカデミックライティング」は留学生、帰国生などを主な対象とする。
	Academic English for TOEFL I	選択	
	Academic English for TOEFL II	選択	
	Academic English for TOEFL III	選択	
	Academic English for TOEFL IV	選択	
	Academic English for TOEFL V	選択	
	Academic English for TOEFL VI	選択	
	TOEFL特別演習 I (BC)	選択	
	TOEFL特別演習 II (DE)	選択	
	TOEFL特別演習 III (BC)	選択	
	TOEFL特別演習 IV (DE)	選択	
	IELTS特別演習 I (A)	選択	
	IELTS特別演習 II (A)	選択	
	ドイツ語 I	選択	
	ドイツ語 II	選択	
	フランス語 I	選択	
	フランス語 II	選択	
	中国語 I	選択	
	中国語 II	選択	
	日本語リテラシー	選択	
日本語アカデミックライティング	選択		

分類	授業科目名	区分	進級要件
人文社会学系選択	コミュニケーション論	選択	人文社会学系から2科目以上選択し合格すること
	生きる意志 (倫理学)	選択	
	医療社会学	選択	
	医療の経済学	選択	
	医療行為と法	選択	
	文化の中の健康	選択	
自由選択	新しい世界を拓いた人々	選択	選択科目としてカウント可
	知の統合	選択	
	医学研究入門 II	選択	
	科学研究のための基礎	選択	
	科学研究ゼミナール	選択	
スポーツ健康科学部【医療看護学部】開講科目	マリン実習	選択	人文社会学系選択科目としてカウント可
	日本国憲法	選択	
	歴史学A・B	選択	
	音楽A・B	選択	
	心とからだの哲学【人間の生き方】	選択	
	法学	選択	
	美術A・B	選択	
	心理学	選択	
	社会学A・B	選択	
	経済学	選択	
	日本文学A・B	選択	
	経営学	選択	
	広告論	選択	
	社会心理学	選択	
発達心理学A・B	選択		
メディア経営論	選択		
自由選択科目としてカウント可	スポーツ外傷・障害学	選択	
	スポーツと栄養	選択	

### ■ 進級要件

#### 【1】一般教養カリキュラム (さくらキャンパス)

分類・区分	科目数	その他・要件
必修科目	12	
選択必修科目 (自然科学総合実習)	6	化学、物理、生物、数学の各分野から1科目以上
選択必修科目 (PBL)	1	
選択科目	11以上	自然科学系1科目以上 語学系4科目以上 人文社会学系2科目以上
<b>小計</b>	<b>30以上</b>	

※一般教養カリキュラムの履修科目数は、33科目を上限とする。

#### 【2】基礎医学入門 (本郷・お茶の水キャンパス)

分類・区分	科目数	その他・要件
必修科目	3	

#### 医学部1年カリキュラム全体 (【1】 + 【2】)

分類・区分	科目数	その他・要件
<b>合計</b>	<b>33以上</b>	

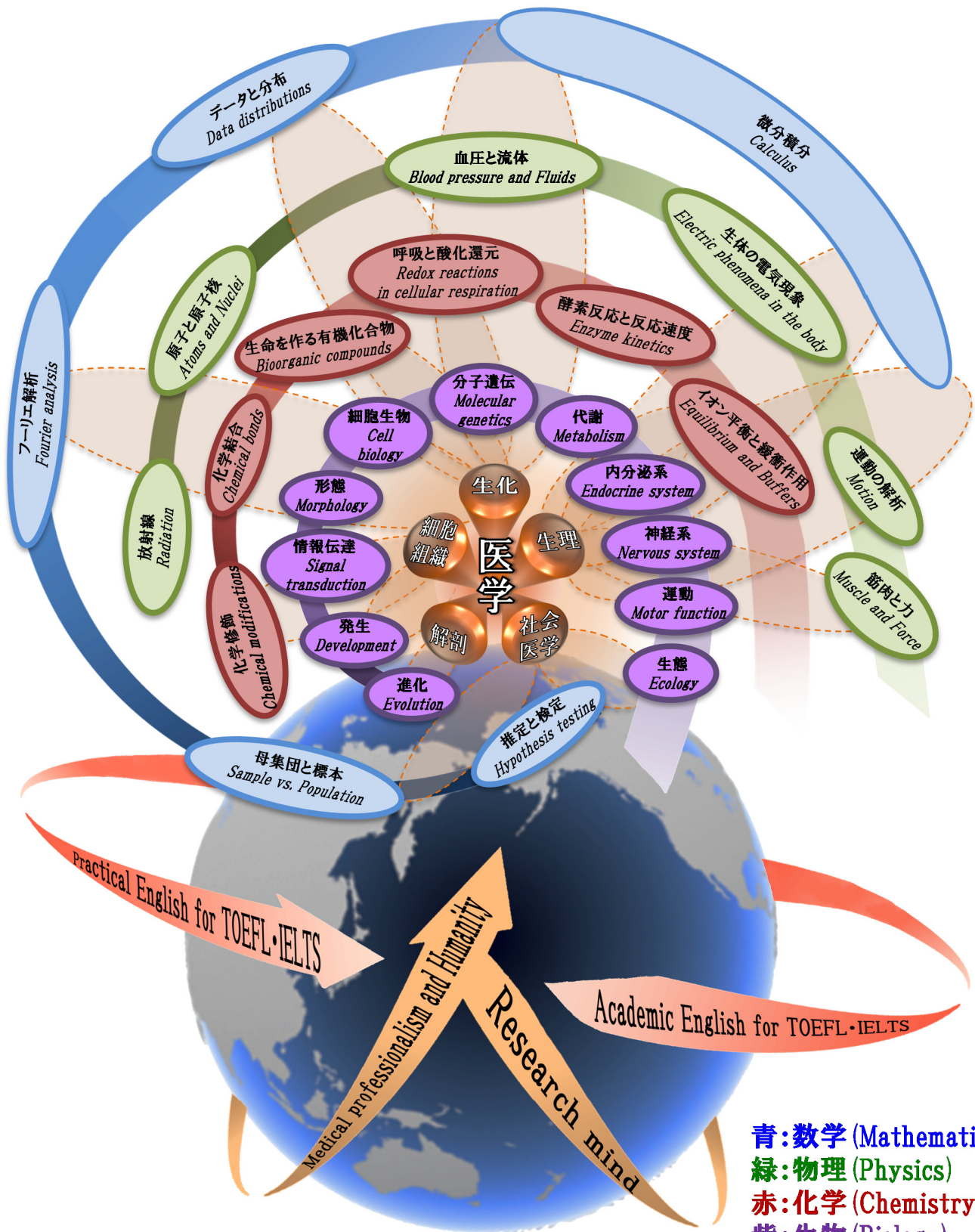
\* (A)・(B)は前期・後期とも同一の授業内容であるため、どちらか一方の選択のみ履修可。(ただし、前期A不合格の場合には後期B履修可)

\* 「人間の生き方」と「心とからだの哲学」はどちらか一方のみ履修可。

\* 「日本文学」、「日本文学(A)」、「日本文学(B)」は3科目のうち1科目のみ履修可。



# 一般教育と医学への橋渡しイメージ図



青:数学 (Mathematics)  
 緑:物理 (Physics)  
 赤:化学 (Chemistry)  
 紫:生物 (Biology)  
 橙:英語 (English)





科目名	科目コード	単位数	責任者
医療プロフェッショナルリズム入門	IME 101	1	岡田 隆夫・渡邊 マキノ・澤井 直
学習内容・概要			
<p>医師は医療のエキスパートとして多様な役割を果たしている。医師は患者に関わるとともに、医療チームの一員として協力関係を築き、医学知識を学習し適切に応用する必要がある。新たな知見・治療法の研究・開発も医師の役割の一つである。医療者・研究者として活動するためには、何よりもプロフェッショナルとして、高い倫理性・自己規制・行動規範を有し、自己・他者の人間存在を理解し尊重する姿勢を身につけなければならない。</p> <p>「医療プロフェッショナルリズム入門」は、プロフェッショナルの医師を志すあなたが①～④のような様々な側面から医の世界を捉え、確かな技能と知識とともに、他者の尊厳や価値観を理解・尊重できる豊かな人間性をもった医師として成長していくことを目標として設定されている。</p> <p>「医療プロフェッショナルリズム入門」は、年間を通した3つの早期体験実習をコアとして構成されており、各講義と3つの実習は密接な関連をもっている。</p> <p>① 生と死、健康と疾病の意味を理解し、人間に向き合う医師という職業について学び、医師のあるべき姿・倫理を考える。</p> <p>② 現代医学の歴史的背景の理解を通して、医の世界を視る広い視野を育てる。</p> <p>③ 社会と医学・医療の関わり合いを、福祉、高齢者介護・医療施設などの実習を通して理解し、社会が医学に何を求めているか、また、医学が社会に対して、どのような影響をおよぼしているかを理解する。</p> <p>④ 基礎・臨床医学の最先端に位置する先生方の話を聞き、今日の医療が捉えている人間像を知る。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>豊かな人間性を持ったプロフェッショナルを目指す学生として、他者に対する温かい想像力を持ち、仕事の現場で自ら課題を発見し、患者さんのために、仲間たちと気持ちよく仕事をすることができる医師・研究者となる素養を育てる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師・研究者としての職責を説明することができる。</li> <li>2. 患者中心の視点を持つことができる。</li> <li>3. 高いコミュニケーション能力を持ち、患者や他職種と意志疎通ができる。</li> <li>4. チーム医療および地域医療の重要性を説明することができる。</li> <li>5. 物事を統合的な広い視野に立って判断することができる。</li> <li>6. 研究心を持ち自己研鑽を重ねることができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>☆ 自分とは異なる文化や生活の中で育ってきた人々、多様な問題関心や価値観をもつ人々、世代、職種の異なる人々と積極的に接し、小さな枠にとらわれない広い視野をもって他者に対することのできる態度と姿勢を育てていくこと。</p> <p>☆ 医療や医学はもちろん、芸術やスポーツ、経済などの、一流の仕事を行なうプロフェッショナルの活動にできるだけたくさん触れる。</p> <p>☆ 医学・医療を含む、さまざまな書籍等の情報から、多様な人間社会に触れ、理解を深めていくこと。</p> <p>☆ 講義では医療に関する時事問題を取り上げることがある。新聞、雑誌をはじめ、様々なメディアで取り上げられる時事問題に積極的に関心をもつこと。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>☆ アクティブな態度で講義に臨むこと。質問の機会が与えられた時には、積極的に質問すること。</p> <p>☆ 医療の現場で長く実践してこられた方、患者さんをお招きして話をさせていただく機会がある。必ず講義に出席し、相手に対して礼を失することの無い態度で、謙虚に、なおかつ、積極的に意見交換をしながら、理解を深めるようにすること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 「早期体験実習」(オリエンテーション、反省授業を含む)への出席・レポート・評価、および、「医療プロフェッショナリズム入門」の出席、レポート、前期・後期筆記試験成績を加味して総合評価を行う。「医療プロフェッショナリズム入門」試験には「早期体験実習」に関する試験問題を含む。</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>「医療プロフェッショナリズム入門」全体としての教科書は指定しない。 講義ごと実習ごとに関連する書籍を選んで、学習する内容の理解を深めていくこと。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 5限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	医療プロフェッショナル入門オリエンテーション①	医師として、人間として	人間性、医師	【準備】受験生から医学生へと気持ちを切り替えてくる。	豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守る医師を志したことを認識することができる。		講義
		医療プロフェッショナル入門オリエンテーション②						講義
4/22 月 5限	医学教育研究室 特任教授 奈良 信雄	医療者のプロフェッショナルリズム①	国際社会の医療者プロフェッショナルリズム	プロフェッショナルリズム、プロフェッショナル、国際社会、コンピテンシー	【参考図書】奈良信雄著：地獄の沙汰も医者次第、集英社／福井次矢、奈良信雄編：内科診断学、医学書院	医師に必要なプロフェッショナルリズムを理解し、行動できる。	どのような医師になりたいか、各自で将来像を考えてみる。	講義
		医療者のプロフェッショナルリズム②						講義
5/13 月 5限	医学部学生部長 法医学研究室 齋藤 一之 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	医療プロフェッショナルリズム～先人に学ぶ～①	医師・医療者になるとは	順天堂大学医学部のコンピテンシー、倫理とプロフェッショナルリズム、接遇マナー	【予習】これまでの生活習慣を考える。順天堂大学医学部のコンピテンシーを調べる。 【復習】学んだことを基に、これまでの生活習慣を改める。	入学前の生活習慣を見直し、医学生としての倫理やマナーを実践することができる。		講義
		医療プロフェッショナルリズム～先人に学ぶ～②						講義
5/20 月 5限	医史学研究室 澤井 直	医療の歴史①	現代の医師-患者関係のルーツはどこにあるのか	医療、医師-患者関係、励起子	【復習】複数の過去の医師に関する評伝を読み、どのような医師-患者関係を築いていたのかを比較する。	古代から現代までの医師-患者関係のあり方の変遷を理解し、歴史を踏まえて目指すべき医師像を考えることができる。		講義
		医療の歴史②						講義
5/27 月 5限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	医療チームの一員としての基本的な態度①	病院見学オリエンテーション(1)	医療施設、コミュニケーション、チーム医療、対人関係、心理、行動	【予習】順天堂大学附属病院のHPで各病院の概要を調べる。 【復習・準備】コミュニケーション手法を復習し、病院見学に備える。	医学生として患者さんの前に立ち会話をかわす時の基本的マナーを知り、病院見学実習で実践することができる。	無断欠席の場合は6月18日の病院見学実習には参加できない。	講義
		医療チームの一員としての基本的な態度②						講義
6/3 月 5限	医療看護学部基礎看護学 寺岡 三左子	看護の役割と機能①	看護独自の機能とチーム医療	看護、看護師、専門職、看護技術、チーム医療、コミュニケーション	【復習】ノートを再読し、医学生に伝えたかったことを理解し、看護実習に向け準備をする。	医療現場での看護の役割と機能を理解できる。		講義
		看護の役割と機能②						講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/10 月 5限	膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ	病院の中で仕事をすること - 医師の責務 - ①	病院見学オリエンテーション(2)	適切な身だしなみ、態度、マナー、守秘義務、順天堂医院の医療従事者	【復習・準備】病院見学の服装を準備し、身なり、態度を整える。	医学生として病棟に立ち入る時の基本的なマナーを知り、病院見学実習で実践することができる。	無断欠席の場合は6月18日の病院見学実習には参加できない。	講義
		病院の中で仕事をすること - 医師の責務 - ②						講義
6/17 月 5限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	患者さんとのコミュニケーション①	病院見学オリエンテーション(3)	コミュニケーション、患者中心の視点、対人関係	【復習・準備】明日の病院見学に備えた準備をする	医学生として病棟に立ち入る時の基本的なマナーを知り、病院見学実習で実践することができる。	無断欠席の場合は6月19日の病院見学実習には参加できない。	講義
		患者さんとのコミュニケーション②						講義
6/18 火	膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	病院見学			【自己学習課題の設定】病院見学で学んだことを振り返り、医学生としての課題を自分で設定する。	チーム医療の重要性を理解し、医療従事者との連携を図る大切さを知り、説明することができる。	順天堂大学附属順天堂医院での実習(本郷・お茶の水キャンパス)	体験実習
6/24 月 5限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	病院見学の反省(1)	相互に体験を共有する	ピア・エデュケーション、病院、医療従事者、チーム医療	【予習】発表を準備する。 【復習】他チームの発表のポイントを纏める。	自分たちの体験したことを、他者に伝達できる。	学生どうしの相互学習	実習
		病院見学の反省(2) 看護実習希望調査	相互に体験を共有する	ピア・エデュケーション、病院、医療従事者、チーム医療	【予習】発表を準備する。 【復習】他チームの発表のポイントを纏める。	自分たちの体験したことを、他者に伝達できる。	火曜日・4限 (日時変更注意)	実習
7/1 月 5限	小児科学講座 田中 恭子	子どもの特性と臨床倫理①	小児医療の現場から考える	成長、発達、愛着、子どもの権利、臨床倫理、終末期医療、全人的ケア	【復習】ノートを再読し、学んだことをまとめる。	子どもの身体と心の発達段階、それぞれの段階で人間としての成長に必要なことを理解し、医療倫理の視点をもつことができる。		講義
		子どもの特性と臨床倫理①						講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式	
7/8 月 5限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	医療プロフェッショナリズム入門・前期まとめ				【準備】前期に学んだことをまとめ、本質を理解する。	医学生として、成長し、自身の将来像を想像することができる。		試験
8/21 水 1・2限	医学教育研究室 岡田 隆夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ	血圧	血圧の意味と測定法	最高血圧、最低血圧、脈圧、血圧調節	【復習】講義プリント、ノートを再読し、理解する。	血圧の意味と測定法を理解する。	看護実習オリエンテーション (本郷・お茶の水キャンパス) 集合時間・場所に注意	講義・実習	
		血圧測定と臨床実技実習	血圧を測定する	触診法、聴診法、聴診間隙	【復習】血圧測定の手順、注意点をまとめてメモをつくる。	血圧測定ができる。			
8/21 水 3・4限	膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護実習オリエンテーション①	看護実習の目的と内容・準備	患者中心の視点、コミュニケーション、マナー、態度、チーム医療	【準備】病院見学で学んだマナー、態度、服装を思い出す。夏休みモードから気持ちを切り替える。	看護実習に参加する準備ができる。	看護実習オリエンテーション (本郷・お茶の水キャンパス)	講義	
		看護実習オリエンテーション②						講義	
8/22 木	医療看護学部教員 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	医療看護学部での基礎実習	Aグループ	コミュニケーション、患者中心の視点、チーム医療、対人関係、心理、行動、ストレス	【予習】医療看護学部学内実習要項を良く読み込む。 【復習】学んだことのポイントをまとめる。	・看護の基礎的な技術を身につけることができる。 ・どのような配慮のもとに看護技術が実践されているか知り、看護実習で役立てることができる。	浦安キャンパスでの実習	体験実習	
8/23 金			Bグループ						
8/27 火 ～ 8/30 金	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護実習	Aグループ	課題発見、患者中心の視点、コミュニケーション、チーム医療、看護師、心理、行動	【自己学習課題の設定】自身の目標を設定する。 【復習】体験したことをレポートに纏める。	・チーム医療の実際を体験して理解することができる。 ・患者理解とは何かを体験を通して知ることができる。	順天堂大学附属5病院での病棟実習	体験実習	
8/30 金			Bグループ						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/2月 3限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護実習のまとめと反省	看護実習の目標は達成できたか	自己反省、他者理解、情報の相互伝達、自己課題発見	【自己学習課題の設定】医学生としての自分自身の今後の課題と目標を設定する。	自分の体験を客観的に見つめ直すとともに、他者の体験と問題意識が理解できる。	学生どうしの相互学習	体験実習
9/2月 4限	医学研究室 澤井 直 一般教育研究室 奥野 浩 和田 麻里 他	施設実習の概要説明・希望調査	施設実習の目的と実習施設	他者への配慮、施設介護、介護保険施設、コミュニケーション、対人関係	【予習】実習先として提示された施設の情報を集める。	施設実習の目的を理解した上で、自分が実習を希望する施設を考えることができる。		
9/28土 4限	リハビリテーション医学研究室 伊澤 奈々	高齢者のリハビリテーション医学①		患者中心のチーム医療、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、高齢者施設にいる職種、高齢者の特性	【予習】高齢者施設にいる職種、高齢者の身体機能的な特徴について調べる。 【復習】施設実習に活用できるように、講義資料を読み返す。	高齢者の身体機能的な特徴を理解し、施設実習や今後のBSLにおいて実践できる。	土曜日・4限 (日時変更注意)	講義
		高齢者のリハビリテーション医学①						講義
9/30月 4限	医療看護学部高齢者看護学 島田 広美	ボディメカニクス①	要介護高齢者の理解と技術支援	高齢者、施設、介護、活動、移動、ボディメカニクス	【予習】看護実習で実践した看護技術について復習しておく。 【復習】施設実習に活用できるように、講義資料を読み返す。	介助時のボディメカニクスの原則、活動に関わる援助方法と留意点を説明できる。		講義
		ボディメカニクス②						講義
10/7月 4限	総泉病院名誉院長 高野 喜久雄	高齢者医療の現場から①		認知症、高齢者、脳、活性化	【予習】高齢者医療の現状について調べる。 【復習】認知症の治療について学んだことをまとめる。	高齢者医療の現場における患者-医師関係を理解できる。		講義
		高齢者医療の現場から②						講義
10/21月 4限	医療看護学部高齢者看護学 杉山 智子	高齢者の介護について①		施設介護、介護保険施設、コミュニケーション	【予習】介護保険施設について調べる。 【復習】施設実習に活用できるように、講義資料を読み返す。	高齢者が介護を受ける場とその環境、基本的な介護方法を概説できる。		講義
		高齢者の介護について②						講義
10/28月 4限	医学教育研究室 呼吸器内科学 鈴木 勉	高齢の患者さんへの対応①	高齢者施設での実習のために	高齢者機能の特徴、高齢者施設実習での注意事項、注意すべき感染症	【予習】高齢者施設にいる職種、高齢者の身体機能的な特徴について調べる。 【復習】施設実習に活用できるように、講義資料を読み返す。	高齢者の生理的特徴を知り、また高齢者とのコミュニケーションの取り方を理解し、施設実習で活用することができる。		講義
		高齢の患者さんへの対応②						講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/11 月 4限	医史学研究室 澤井 直 薬理学講座 村山 尚 生化学第二講座 染谷 明正	施設実習オリエンテーション			【予習】病院見学、看護実習で学んだ留意点を復習しておく。 【準備】実習に必要なものを準備する。	高齢者福祉・医療施設で、高齢者とともに生活し、介護を体験することにより、医師として重要な、他者の心情を推測する力、思いやる態度、チーム内の相互協力を学ぶことができる。	高齢者施設での実習	体験実習
11/18 ～ 11/22	医学教育研究室 鈴木 勉 他 基礎医学系担当教員	施設実習		医療、福祉、介護、高齢者、患者中心の視点、チーム医療、患者の権利、患者のプライバシー、自己決定	【自己学習課題の設定】実習の目的を理解するとともに、自分自身の目標を設定する。 【復習】実習レポートをまとめる。			
11/25 月 4限	一般教育研究室 奥野 浩 和田 麻里 他 一般教育担当教員	施設実習の反省			【復習】自分の仲間たちが体験したことから学ぶ。			
12/2 月 4限	ライフケアシステム医師 辻 彼南雄	高齢者の在宅医療①	終末期のケア 看取りにふさわしい場所	在宅医療、人間としての死	【予習】在宅医療の現状について調べる。 【復習】終末期のケアに求められることについて考える。	他者の死を看取ることの意味を深く考えることができる。		講義
		高齢者の在宅医療②						講義
12/9 月 4限	解剖学・生体構造科学講座 市村 浩一郎	人体の形態をどのように学ぶか①	電子顕微鏡と人体解剖で見る人体	人体解剖、組織学、心臓、動脈、内皮、平滑筋	【復習】2月からの講義に向けて準備する。	・顕微鏡標本の作成法と観察法が理解できる。 ・人体解剖実習の意義が理解できる。		講義
		人体の形態をどのように学ぶか②						講義
12/13 金 4限	日本思春期学会幹事 宮崎 豊久 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	ネット社会のコミュニケーション概論①	プロフェッショナルとして身に着けるコミュニケーション	SNS、コミュニケーション、分かち合い、居場所、依存、関係性、情報漏洩、法とモラル、性情報、LGBT、ハラスメント、DV、ストレス、対症療法、予防	【予習】これまでの早期体験実習において遭遇した患者さんとのコミュニケーションについて振り返る。 【復習】患者さんとの関係性を作るうえで重要なことをまとめる。	様々なコミュニケーションシーンにおいて、困難に遭遇した時に一人で抱え込まずに対処することができる。		講義
		ネット社会のコミュニケーション概論②						講義
12/16 月 限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	医療プロフェッショナル入門・まとめ			【準備】体験実習を含め、医療プロフェッショナル入門で学んだことを振り返り、まとめておく。	人間として、医学生として、成長し、自身の将来像を想像することができる。		試験

科目名	科目コード	単位数	責任者
医療プロフェッショナルリズム入門・早期体験実習 (病院見学・看護実習・施設実習)	IME 101	1 (医療プロフェッショナルリズム入門 全体)	岡田 隆夫・渡邊 マキノ・澤井 直
学習内容・概要			
<p>3つの早期体験実習から構成されている。</p> <p>1. 病院見学では、初めて白衣で医療の現場に身を置く体験を通し、医学生としての自覚を高め、医療チームの一員としての基本的な態度とマナーを学ぶ。また、病院内で働く様々な職種の人々、病院内の多様な機能を見学し、チーム医療の実際を知る。</p> <p>2. 看護実習では、次の2つの目標のもとに次のことを行う。</p> <p>1) 将来医師となった時に互いに協力していく看護師の仕事を理解するために、病棟内で看護師と行動を共にし、指導のもとに仕事の一部を手伝う。</p> <p>2) 患者－医師関係の基本であるコミュニケーションの基礎を学ぶために、患者さんにお会いして話をお聞きする。</p> <p>3. 施設実習では、高齢者施設・医療施設で、高齢者と生活を共に、介護士の指導のもとに介護を体験することにより、医師として重要な他者の心情を推測する力、思いやる態度、チーム内の相互協力を学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>医療実践の場に自らの身を置き、医療従事者の仕事を手伝わさせていただき、患者さんと人間的にふれあうことにより、医師・医療者を目指す人間としてのアクティブな内面的変容を促す。</p> <p>医療現場に医学生として身を置き行動するときの、適切な身なり、言葉遣い、態度、マナーを体験から学ぶ。</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>1. 自己の健康管理ができる。</p> <p>2. 医療現場において医学生としての自覚を持ち、適切な接遇、態度、マナーを取ることができる。</p> <p>3. 医療チーム内における職種の異なるメンバーの仕事の内容を知り、それぞれの視点に立って医療現場を見ることができる。</p> <p>4. 実践的なコミュニケーション技術の基本を身に付けることができる。</p> <p>5. 自己理解の上に立ち、自らの課題を設定することができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>☆健康管理の仕方を学び、健康で元気よく、患者さんや医療チームに迷惑をかけることなく、実習に参加できるようにする。(医学生としての心構え)</p> <p>☆講義・オリエンテーションには必ず参加し、事前に配布された資料を良く読み、ポイントをしっかり把握しておく。</p> <p>☆温かい人間性は一朝一夕では身につかない。爽やかな挨拶、明るい笑顔、真摯に謙虚に他者から学ぶ姿勢と態度、そして、何よりも温かい心を日々育てていくよう心掛けること。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分</p>			



## 学習上の注意点

- ☆ 医療現場は、これから医師・医療者になろうとする医学生にとって学ぶことの宝庫です。あなた自身の学ぼうとする姿勢しだいで、多くのことを学ぶことができます。1人1人、自分自身の課題を設定して実習に臨んでください。ただし、思い込みで行動することは厳禁です。
- ☆ あなたには、まだ医師免許はありません。医療に関する専門的な知識もありません。あくまでも、専門職の方々の指導と指示のもとに行動してください。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
「早期体験実習」(オリエンテーション、反省授業を含む)への出席・レポート・評価、および、「医療プロフェッショナリズム入門」の出席、レポート、前期・後期筆記試験成績を加味して総合評価を行う。「医療プロフェッショナリズム入門」試験には「早期体験実習」に関する試験問題を含む。

成績評価基準:  
個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

「医療プロフェッショナリズム入門」全体としての教科書は指定しない。

実習名	担当者
病院見学	膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/27 月 5限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	医療チームの一員としての基本的な態度	病院見学オリエンテーション(1)	医療施設、コミュニケーション、チーム医療、対人関係、心理、行動	【予習】順天堂大学附属病院のHPで各病院の概要を調べる。 【復習・準備】コミュニケーション手法を復習し、病院見学に備える。	医学生として患者さんの前に立ち会話をかわす時の基本的マナーを知り、病院見学実習で実践することができる。	無断欠席の場合は6月18日の病院見学実習には参加できない。	講義
6/10 月 5限	膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	病院の中で仕事をするとのこと - 医師の責務 -	病院見学オリエンテーション(2)	適切な身だしなみ、態度、マナー、守秘義務、順天堂医院の医療従事者	【復習・準備】病院見学の服装を準備し、身なり、態度を整える。	医学生として病棟に立ち入る時の基本的なマナーを知り、病院見学実習で実践することができる。	無断欠席の場合は6月18日の病院見学実習には参加できない。	講義
6/17 月 5限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	患者さんとのコミュニケーション	病院見学オリエンテーション(3)	コミュニケーション、患者中心の視点、対人関係	【復習・準備】明日の病院見学に備えた準備をする	医学生として病棟に立ち入る時の基本的なマナーを知り、病院見学実習で実践することができる。	無断欠席の場合は6月18日の病院見学実習には参加できない。	講義
6/18 火 4限	膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	病院見学			【自己学習課題の設定】病院見学で学んだことを振り返り、医学生としての課題を自分で設定する。	チーム医療の重要性を理解し、医療従事者との連携を図る大切さを知り、説明することができる。	順天堂大学附属順天堂医院での実習(本郷・お茶の水キャンパス)	体験実習
6/24 月 5限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直	病院見学の反省(1)	相互に体験を共有する	ピア・エデュケーション、病院、医療従事者、チーム医療	【予習】発表を準備する。 【復習】他チームの発表のポイントを纏める。	自分たちの体験したことを、他者に伝達できる。	学生どうしの相互学習	実習
6/25 火 4限	医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	病院見学の反省(2) 看護実習希望調査						実習

実習名	担当者
看護実習	膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
8/21 水 1限	医学教育研究室 岡田 隆夫	血圧	血圧の意味と測定法	最高血圧、最低血圧、脈圧、血圧調節	【復習】講義プリント、ノートを再読し、理解する。	血圧の意味と測定法を理解する。	看護実習オリエンテーション(本郷・お茶の水キャンパス)集合時間・場所に注意	講義
8/21 水 2限	医学教育研究室 岡田 隆夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ	血圧測定と臨床実技実習	血圧を測定する	触診法、聴診法、聴診間隙	【復習】血圧測定の手順、注意点をまとめてメモをつくる。	血圧測定ができる。	看護実習オリエンテーション(本郷・お茶の水キャンパス)	実習
8/21 水 3・4限	膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護実習オリエンテーション	看護実習の目的と内容・準備	患者中心の視点、コミュニケーション、マナー、態度、チーム医療	【準備】病院見学で学んだマナー、態度、服装を思い出す。夏休みモードから気持ちを切り替える。	看護実習に参加する準備ができる。	看護実習オリエンテーション(本郷・お茶の水キャンパス)	体験実習
8/22 木	医療看護学部教員 生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ	医療看護学部での基礎実習	Aグループ	衛生的な手洗い、感染防護、患者移送、バイタル測定、コミュニケーション、患者中心の視点、チーム医療	【予習】医療看護学部学内実習要項を良く読み込む。 【復習】学んだことのポイントをまとめる。	・看護の基礎的な技術を身につけることができる。 ・どのような配慮のもとに看護技術が実践されているか知り、看護実習で役立てることができる。	浦安キャンパスでの実習	
8/23 金	医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和		Bグループ					

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
8/27 火 ～ 8/30 金	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医学教育研究室 澤井 直 膠原病内科・医学教育研究室 建部 一夫 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護実習	Aグループ  Bグループ	課題発見、患者中心の視点、コミュニケーション、チーム医療、看護師、心理、行動	【自己学習課題の設定】自分自身の目標を設定する。 【復習】体験したことをレポートに纏める。	・チーム医療の実際を体験して理解することができる。 ・患者理解とは何かを体験を通して知ることができる。	順天堂大学附属5病院での病棟実習	体験実習
9/2 月  3限	生理学第二講座・医学教育研究室 渡邊 マキノ 医学教育研究室 澤井 直 医学教育研究室・微生物学講座 關根 美和	看護実習のまとめと反省	看護実習の目標は達成できたか	自己反省、他者理解、情報の相互伝達、自己課題発見	【自己学習課題の設定】医学生としての自分自身の今後の課題と目標を設定する。	自分の体験を客観的に見つめ直すとともに、他者の体験と問題意識が理解できる。	学生どうしの相互学習	

実習名	担当者
施設実習	医史学研究室 澤井 直 一般教育研究室 奥野 浩 一般教育研究室 和田 麻里 薬理学講座 村山 尚 生化学第二講座 染谷 明正 医学教育研究室 鈴木 勉 生理学第二講座 渡邊 マキノ

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/2月 4限	医史学研究室 澤井 直 一般教育研究室 奥野 浩 和田 麻里 他	施設実習の概要説明・希望調査	施設実習の目的と実習施設	他者への配慮、施設介護、介護保険施設、コミュニケーション、対人関係	【予習】実習先として提示された施設の情報を集める。	施設実習の目的を理解した上で、自分が実習を希望する施設を考えることができる。	さくらキャンパス	体験実習
11/11月 4限	医史学研究室 澤井 直 薬理学講座 村山 尚 生化学第二講座 染谷 明正	施設実習オリエンテーション		医療、福祉、介護、高齢者、患者中心の視点、チーム医療、患者の権利、患者のプライバシー、自己決定	【予習】病院見学、看護実習で学んだ留意点を復習しておく。 【準備】実習に必要なものを準備する。	高齢者福祉・医療施設で、高齢者とともに生活し、介護を体験することにより、医師として重要な、他者の心情を推測する力、思いやる態度、チーム内の相互協力を学ぶ。	さくらキャンパス	
11/18月 ～ 11/22金	医学教育研究室 鈴木 勉 生理学第二講座 渡邊 マキノ 他 基礎医学系担当教員	施設実習			【自己学習課題の設定】実習の目的を理解するとともに、自分自身の目標を設定する。 【復習】実習レポートをまとめる。		高年齢者施設での実習	
11/25月 4限	一般教育研究室 奥野 浩 和田 麻理 他 一般教育担当教員	施設実習の反省			【復習】自分の仲間たちが体験したことから学ぶ。		さくらキャンパス	

科目名	科目コード	単位数	責任者
医療入門	IME 102	1	岡田 隆夫 渡邊 マキノ・ 關根 美和
学習内容・概要			
<p>医療入門では5つのカテゴリーの講義を通じて、以下のことを学ぶ。</p> <p>【国際社会の概念と将来医療の場で実践する知識ScienceとこころArts】</p> <p>【医療者のコミュニケーション】 良好な医師-患者関係を築くことができる医療面接や診察について学ぶ前段階として、面接を行う際の態度・言葉遣いや環境、相手の立場・年齢・気持ちに配慮したコミュニケーションスキル</p> <p>【医学生・医療者であるという自覚と健康】医療チームの健康と安全を確保して患者中心の信頼される医療を将来提供するために、今理解すべきこと・今開始すべきこと・今後行うべきでないこと</p> <p>【緊急事態に対応する医療入門】日常(学生)生活に潜む病気や外傷の原因と予防や対処法・緊急事態に遭遇した時の医学的応急処置</p> <p>【地域医療とチーム医療】保健・福祉・介護を含めた地域医療の重要性と基本理念・医療チームの多業種連携</p> <p>さらに「医の人間学 早期体験実習:病院見学・看護実習・施設実習」に必要な準備と授業担当先輩医師・医学研究者のキャリアのみちすじ</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>患者中心の医療や個人と社会の健康に貢献できる医学研究を医療者の倫理やマナーとプロフェッショナルリズムの概念に則り生涯継続する将来像を具体的にイメージして、医学医療のScienceとこころArtsの学習成果(Outcome)を獲得してゆくことができる</p>			
<p>[到達目標] 次頁以降に各授業の到達目標が示され、全授業を通しての到達目標は下記のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.医療者としてのコミュニケーションスキルの基礎を身につけ実践できる。</li> <li>2.医療者の職責を自覚し、他者の尊厳を尊重し、利他的に対応できる。</li> <li>3.医学生として自分自身の健康に留意し、健康の強化・維持に努めることができる。</li> <li>4.地域の保健・医療・福祉制度等を理解し、積極的に疾病予防・健康増進の活動ができる。</li> <li>5.常に自己を振り返り、評価及び管理を怠らず、法的責任を遵守した行動をとることができる。</li> <li>6.キャリアデザインを具体的に説明できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>①各授業が5つのカテゴリーのどれに属するかを確認し、各授業の準備学習(予習)を済ませて授業に出席する</li> <li>②授業担当者は本郷などの順天堂附属病院からその授業のためにさくらキャンパスに出向く。講義担当者にいつでも再会できるとはいえない。各授業の準備学習【予習】や学習上の注意に沿って自己学習し、講義内容や質問事項をあらかじめイメージして出席する。</li> <li>③科目全体の教科書は無い。授業資料の配布は授業開始前に教務課スタッフが行う。配布されたら直ちに資料の全体を概観する</li> <li>④資料が配布されない授業もあるので、講義ノートを必ず持参して出席する</li> </ol> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>①この科目の学習は1年では完結せず医学生からと医療者(医師・医学研究者)となる過程で必要な情報が伝達される。配付資料や講義ノート等の学習記録を保存し復習する。</p> <p>②順天堂の本郷などの病院の臨床系教員が多くの講義を分担する。専門用語などがわからない時は遠慮せずその場で質問する。授業中の質問は学生の積極性を示すとして高く評価される。授業後は質問の機会は当然無いであろう。</p> <p>③2月以降卒業までの全授業がこの科目のように各回異なる内容を異なる教員が講義するのでこの形式に慣れること。講義の曜日に注意すること。</p> <p>④教務課スタッフにより配布資料は授業開始前に、出席調査票・授業評価用紙は講義開始直後に室内を巡回して出席者に配布される。遅刻者・欠席者への事後配布は行われない。</p> <p>⑤出席調査票・授業評価用紙に回答して講義終了直後に教室で提出する。事務室教務課や次回の授業での事後提出は受理されない。</p> <p>⑥「医の人間学 早期体験実習:病院見学・看護実習・施設実習」の前に、この科目のそれらの実習に関係する授業について復習すること。</p> <p>⑦この科目の欠席届は岡田宛に作成して、教務課に提出する。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 「医療入門」の出席、Pre-test・Post-test、レポート、前期・後期筆記試験成績を加味して総合評価を行う。</p> <p>【定期試験(前期試験・後期試験)】 出題形式＝用語や数値、単語や文、文章を記述して解答する 合否判定方法＝2回の定期試験の成績を1:1の割合で合算 注意①レポート提出やプレ・ポストテスト・小テストが行われる場合はそれらの評価と定期試験評価が加算されることがある 出題範囲＝前期試験は試験日までの、後期試験は前期試験以降の学習内容 注意②両試験とも準備学習や指定された自己学習の内容が含まれる ③前期試験の成績は前期試験100点満とみなして発表される</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果を基として総合的な理解度および受講態度等を見て判定する。</p>	<p>科目としての指定しない; 授業で紹介されたテキストやHP等からの情報を確認すること</p> <p>【再試験の注意事項】 出題範囲は全授業の(準備学習等や自己学習を含む)学習内容; 出題形式は定期試験と同じ</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 3限	公衆衛生学講座 遠藤 源樹	公衆衛生学の基礎1	医学・医療と社会を結びつ ける公衆衛生的視点とは	公衆衛生の見方・考え方、 健康の決定要因	【予習】健康の社会的決定要因と は何か、各自で事前に調べてお くこと 【復習】講義配布資料の内容の 確認	①公衆衛生、社会医学とは何か を理解する ②公衆衛生的視点が必要な理 由を説明できる	特になし	講義
		公衆衛生学の基礎2						
4/16 火 4限	下部消化管外科学講 座 富木 裕一	バイタルサイン1	脈、血圧、呼吸、体温、その 取り方と意味すること	脈拍、血圧、呼吸、体温 救急医療	【予習】「生きている証拠」をあ げられるようにしておく	バイタルサインとは何か？を 説明できる	「フレッシュパーソン ズキャンプ・看護実 習・施設実習等」に 深く関係する	講義
		バイタルサイン2						
4/23 火 4限	総合診療科学講座 内藤 俊夫	医学生から始める感染症 への対策1	医療のプロフェッショナルと しての準備	インフルエンザ、マイコプラ ズマ、病原体、ワクチン、職 業感染防止、手指衛生、咳 嗽、医療者の健康管理、医 療関連感染症	【予習】ワクチンで予防できる流行 性ウイルス疾患について調べる 【復習】自分の抗体価とワクチン接 種歴について整理する 【自己学習課題】免疫を持っていな い疾患に対するワクチン接種を 行っておく	①医療従事者として就業する際 に、あらかじめ接種しておくべき 感染症について理解する ②体調不良時に就業しないで受 診をする意義を理解する	「病院見学・看護実 習・施設実習」など 医療施設での実習・ 研修に深く関係する	講義
		医学生から始める感染症 への対策2						
5/7 火 4限	浦安病院 救急診療科 石原 唯史	災害医療1	災害現場で、君は何ができる か？	トリアージ、災害ボランティ ア、災害医療の特殊性、災 害時の医療体制	【予習】災害時と日常の医療 の相違点を考える 【復習】模擬傷病者を作成、ト リアージ法を行い習得する	災害時における医療体制確 立の必要性と現場のトリア ージを説明できる	余裕があれば、災害 医学に関する最新 の臨床研究を紹介 する	講義
		災害医療2						
5/14 火 4限	医学教育研究室 呼吸器内科学 鈴木 勉	医療面接1	患者と医師の信頼関係の 構築、医療面接のステップ	医療面接のステップ、開 放型質問、閉鎖型質問、 医師の態度	診療参加型臨床実習に参加する 学生に必要とされる技能と態度 に関する学習・評価項目(社)医 療系大学間共用試験実施評価 機構(OSCEを統括する機構が 作成。診察時に注意すべき項目 が記載されており、これを中心に 実習と試験が行われる。医療面 接の項目を予習のしておくこと。) <a href="http://www.cato.umin.jp/index.html">http://www.cato.umin.jp/index.h tml</a>	①コミュニケーション能力の重要 性を理解する②医療面接のス テップを理解する(まずは導入、 主訴の把握、共感、解釈モデル から)③医師の態度類型と質問 法を知る。④共用試験OSCE。	①「病院見学・看護実 習・施設実習・臨床実 習」に深く関係する ②共用試験 (CBT/OSCE)のため の初歩的な知識であ る	講義
		医療面接2						
5/21 火 4限	熱帯医学・寄生虫病 学講座 美田 敏宏	熱帯医学入門1	開発途上国で実際に起こっ ていること	熱帯病、マラリア、開発研 究、研究医のキャリア	【予習】世界三大感染症の名 前と患者数、死亡者数を調べ る。臨床医以外の医師のキャ リアについて考えてみる。予 習時間45分。 【復習】講義配布資料を見直 し、自分ができていることを考 えてみる。復習時間45分。	熱帯地域を中心とした開発途 上国にある医療問題を①広 い角度から理解し、②新しい 視点を持ってその解決法を 考察できる。③研究医の仕事 と心構えを知る。	2年生以降で学習す る感染症、熱帯医学 の導入部となる。	講義
		熱帯医学入門2						



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/28 火 4限	スポーツ健康科学部 櫻庭 景植	救急医療に対する初期治療;スポーツ外傷を中心に1 救急医療に対する初期治療;スポーツ外傷を中心に2	スポーツ現場ですぐに役立つ たせる救急処置	捻挫、肉ばなれ、骨折、 RICE処置、救急医療	【予習】スポーツ外傷・傷害の総論として捻挫や脱臼、骨折の定義 【復習】周囲のスポーツ外傷の現場で現実に見て学び、復習	スポーツ現場ですぐに対応すべき基本、対応可能な処置方法を学ぶとともに、重度外傷に対する救急搬送の判断基準を知る	授業でスポーツ外傷初期治療を学ぶだけでなく、現場対応に恵まれた環境にいることを生かす	講義 および グループ 討論
6/4 火 4限	医学教育研究室 鶴岡 浩樹	家庭医療総論1 家庭医療総論2	プライマリ・ケア	家庭医、総合医、ACCCA、在宅医療、多職種協働(IPW)、EBM、物語能力、コミュニケーションスキル、社会資源	【予習】家庭医とはどんな医者かイメージしておく 【復習】ACCCAを振り返ろう	①日常病を説明できる ②家庭医のスキルを説明できる ③家庭や地域を考慮できる ④専門医や多職種と連携の重要性を理解できる	「施設実習」に深く関係する授業	講義
6/11 火 4限	神経学講座 山城 一雄	若年者と高齢者の頭痛とめまい1 若年者と高齢者の頭痛とめまい2	原因は? 対処法 どのような時に病院に行くべきか	片頭痛、回転性めまい、動揺感 患者の社会的・心理的背景	【予習】頭痛、めまいの種類を知っておく 【復習】頭痛、めまいの各種類の特徴を知る	頭痛、めまいの種類が生命にかかわるか否かを理解できるようになる	「施設実習」にも関係する授業	講義
6/22 土 4限	浦安病院 救急診療科 平野 洋平	応急処置1 応急処置2	夏季の救急応急処置	熱疲労、熱痙攣、熱射病、溺水、溺死、救急医療、中毒・食中毒	【予習】熱中症の基礎について勉強する 【復習】熱中症の危険因子および予防策を整理する。	①環境と健康・疾病との関係を概説できる ②熱中症の予防策を説明できる	特になし	講義
7/2 火 4限	皮膚科学講座 込山 悦子	女性医師というプロフェッション1 女性医師というプロフェッション2	社会とのつながり	専門医・認定医、男女共同参画、ライフイベント、ワークライフバランス、生涯教育	【予習】医師を志すと決めた理由を再確認する 【復習】医師というプロフェッションを生涯継続するイメージを育てる	医療者と社会とのつながりを理解する	皮膚疾患の提示がある	講義
7/9 火 4限	小児外科学講座 山高 篤行	外科道に魅せられて1 外科道に魅せられて2	Stay Strong	BeatBoston, Beat London、ガッツ、上には上がいる、落ち着いて地道な努力をする、患者さんの心の痛み、生涯学習、医療の評価	【予習】食道閉鎖・ヒルシュスプルング病の手術方法について確認する 【復習】予習内容について理解を深める	小児外科疾患の手術方法を理解習得する	特になし	講義
7/16 火 4限	日時は後日発表 試験監督 医学教育研究室 関根・渡邊	前期試験			【出題範囲】試験日までの学習内容; 準備学習(予習・復習)や指定された自己学習の課題の内容を含めて出題	この科目の学習アウトカムを發揮し、後期試験評価とあわせて、評価の基準を満たすことができる	出題形式=用語や数値、単語や文、文章を記述して解答する	試験

科目名	科目コード	単位数	責任者
行動科学	IME 103	1	岡田隆夫・柴田展人
学習内容・概要			
<p>医師を目指す学生にとって、「行動科学」は重要な課題である。患者さんと対面し、ともに歩む医師にとって、患者さんのみならず、そのご家族、自分自身、協働して働くコメディカルスタッフのこころの理解と行動科学の理解は必要不可欠な課題となる。さらに医師という職業を全うするためには、自分自身のこころを理解し、種々のストレスを乗り越えたとともに、自分自身に生じる精神現象を正確に把握する目も必要となろう。また様々な身体疾患に罹患、治療する中でも、様々な'こころ'の反応が生じる。正常な'こころ'の動き、またその異常な状態(精神障害、精神疾患)についても、概説する。講義では、「こころ/行動科学とは何か」、今後医学部生として、医師としての人生を歩む際のこころの課題とは何か、患者さん、ご家族が体験するこころの悩みとはどのようなものかを、具体的に説明する。また社会的な情勢とともに、精神障害、精神疾患と取り巻く環境は変化している。日々のニュースなどにも注目するような感性を持ち、医学生として大局から'こころ'、'行動科学'について積極的に興味を持てるようになっていただきたい。心理学、哲学、健康科学の側面からも、上記を多面的に理解していく。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>「こころとは何か」、「こころの健康とは何か」、「心理学とは」、「コメディカルの行動をどのように理解するか」、「チーム医療の行動科学」、「若い医師が罹患しやすい精神疾患についてはどのようなものがあるか」、「自殺について理解を深める」、「哲学と行動科学」「患者のモチベーションと治療効果の関連」、「身体疾患がこころに与える影響について理解する」、「健康科学と行動科学」、「神経生理と行動科学」を理解する。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.こころを理解し、行動科学、心理学、哲学を自身でアクティブラーニングにて理解を深める。</li> <li>2.自身、患者、家族、コメディカルスタッフの身体的・精神的・社会的ストレスと行動科学を理解する。</li> <li>3.チーム医療の中の行動科学を理解する</li> <li>4.健康科学、神経生理と行動科学を理解する</li> <li>5.医師として、行動科学を多面的に考える資質を身に付ける。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>講義は、あくまでも「行動科学」をみる視点(つまりこころをどのようにとらえるか)を、述べていく。したがってテーマごとに、自分なりに想像を膨らませて、自分の意見をまとめることが望まれる。キーワードについては、成書でもインターネット検索でも構わないので、自身の手で興味を持てる準備をしていただきたい。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>講義にはスマホなど、インターネットが繋げるツールを持参していただきたい。講義の冒頭に示すキーワード、キーセンテンスを自身の手で調べていただき、関心を高める時間を設ける。こころの課題に正解はない。講義は「こころ」をみる視点と、最低限の知識を提供するのみである。最も大切なことは、学んだことを自分なりにまとめなおすことである。講義の最後に、自身がさらに興味・関心を持って'こころ'、'行動科学'についてまとめる時間を作る。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 原則として以下のものを参考に、総合的に判断する。 ・各講義の中で展開される質疑・応答、 ・レポート</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>講義の中で、適宜示す。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/17 火 4限	柴田 展人	こころとからだの障害1	こころをどのように理解すればよいのか	WHOの健康の定義、客観的なからだーこころー社会、生きるからだーこころー社会精神保健福祉法	左記について自分なりに考えてくる	からだーこころー社会の捉え方を学ぶと同時に、WHOの健康の定義を理解する 精神障害と法律の関係を知る	キーワードについて質問するので自分の考えをまとめてくること	講義
		こころを理解する						
9/24 火 4限	長沼 淳	身体の哲学1	自己の身体は自分や他人にどのように理解されているか	対他的身体と主観的身体	からだは私の所有物なのか考えてくる	身体の持つ多義性を理解する	私とからだの関係について自分の考えをまとめてくること	講義
		身体の哲学2						
10/1 火 4限	柴田 展人	自殺について1	日本、諸外国の自殺の状況、対策について	厚生労働省自殺統計自殺対策基本法 いのちの電話 ゲートキーパー	左記について自分なりに考えてくる	自殺を巡る様々な問題について関心を高める	キーワードについて質問するので自分の考えをまとめてくること	講義
		自殺について2						
10/8 火 4限	島内 憲夫	健康の行動科学1	動機づけ	健康行動、行動変容、動機づけ、欲求、ヘルスプロモーション	予め資料集に目を通すこと。	1)人間の行動を喚起し、方向づけ、統合する内的要因(「動機づけ」を概説できる。 2)マズローの欲求段階説が説明できる。 3)健康行動や行動変容を行う動機づけを概説できる。 4)ヘルスプロモーションの概念とその方法について説明できる。		講義
		健康の行動科学2						
10/15 火 4限	柴田 展人	痛みに対する健常者の反応1	予防接種を通じて	インフルエンザ予防接種	左記について自分なりに考えてくる	インフルエンザ予防接種体験	「施設実習」にも関係する授業	実技
		痛みに対する健常者の反応2		インフルエンザ蔓延の予防				
10/29 火 4限	長沼 淳	心と身体の哲学1	心とからだはどのようにつながっているのか	主観的身体と物理的身体	私の身体は私のイメージ通りに存在しているのかを考えてくる	他者が規定する私の身体性について理解することができる	他者に見られることで私の自己理解がどのように変化してきたのか、振り返っておくこと	講義
		心と身体の哲学2						
11/5 火 4限	瀬山 邦明	医学生・医療者であるという自覚と健康1	医療従事者が知っておくべきタバコの知識	ニコチン、ニコチン依存症、喫煙および受動喫煙と疾病との関係、ニコチン代替療法、ニコチン受容体拮抗薬、禁煙指導	【予習】配付資料に予め目を通して授業に出席する 【復習】配付資料で紹介する参考資料を積極的に活用する 【自己学習課題】日本での喫煙環境・禁煙推進活動の推移に注目し、医師としての自覚を醸成する	①喫煙および受動喫煙による健康被害を説明できる ②禁煙による疾病予防の効果を説明できる ③禁煙指導を行える	「施設実習」に深く関係する授業	講義
		医学生・医療者であるという自覚と健康2						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/12 火	磯野真穂	医療人類学入門1	もしあなたの患者が外国人だったなら	異文化、国際医療、移民、他者理解	自身の異文化体験について振り返っておくこと	いっけん理解しがたい相手の行動を、相手の世界観に落とし込んで検討できる態度を身に付ける	自身の異文化体験について講義内で聞くので答えられるよう整理しておくこと	講義
4限		医療人類学入門2						
11/26 火	和田裕雄	老化と高齢者の特徴1	齢に伴う身体的変化、精神・心理的变化	老化学説、高齢者総合機能評価(CGA)、老年症候群、サルコペニア、ロコモティブ・シンドローム、認知症、転倒、(オーラル)フレイル、ポリファーマシー	配布資料で予習すること。実習についても深く考察すること。	加齢に伴う身体的変化、精神・心理的变化、高齢者に特有な疾患・病態の診断と治療、リハビリテーション、介護について体得する。	「施設実習」に深く関係する授業	講義
4限		老化と高齢者の特徴2						
11/30 土	村山 憲男	臨床心理学入門1	臨床心理士の役割を知る 正常心理について学ぶ	臨床心理士、カウンセリング、正常心理	予習:臨床心理士の役割を事前に調べておく 復習:疾病を有する患者さんの理解を深める	医師として臨床心理士の役割を理解し、協働して働く礎を築く	「施設実習」にも関係する授業	講義
4限		臨床心理学入門2						
12/3 土	長沼 淳	身体にまつわる自己決定の問題1	自分のからだをどこまで自由にできるのか	臓器移植、補助生殖医療、美容整形など	左記について自分なりに調べてくる	自己の身体の所有権、可処分権がどこにあるのかイメージすることができる	左記のことがらについて自分の考えを提示することができるようにしておくこと	講義
4限		身体にまつわる自己決定の問題2						
12/10 火	小西 清貴	神経生理学から見たところ1	ここは神経回路によって成り立っている	脊髄反射、高次認知機能、神経回路、神経系の階層性、神経心理学	左記について調べてくる	神経回路の実例およびこととの関連を理解できる		講義
4限		神経生理学から見たところ2						
12/17 火	柴田 展人	若い医師が罹患しやすい精神疾患 ①-1	うつ病をどのように考えるか 身体疾患によるうつ病	うつ病、双極性障害、メランコリー親和型、DSM-5、身体疾患とうつ病	左記について調べてくる	医学部生、医師、およびともに働く者が体験しやすい「うつ」の問題を理解できるようにする。	キーワードについて質問するので自分の考えをまとめてくること	講義
4限		若い医師が罹患しやすい精神疾患 ①-2						
1/7 火	柴田 展人	若い医師が罹患しやすい精神疾患 ②-1	摂食障害、ストレス、神経症、自律神経症状とは	過食症、拒食症、ストレス、コーピング、自律神経症状	左記について調べてくる	医学部生、医師が体験しやすいところの問題を理解できるようにする。	キーワードについて質問するので自分の考えをまとめてくること	講義
4限		若い医師が罹患しやすい精神疾患 ②-2						

科目名	科目コード	単位数	責任者
医学研究入門 I	RMC 100	1	櫻井 隆
学習内容・概要			
<p>医学の進歩が、基礎および臨床医学における様々な研究成果をベースにもたらされたことは周知の事実である。また、今後医学が発展するためにも過去と同様に研究の蓄積が必要である。この事実を正しく理解しておくことは、将来医師として診療や研究に携わる者にとっては必須である。生命科学と基礎医学・臨床医学は、密接に関連し発展している。医学研究がどのようにおこなわれ、それが実際の医療・政策等にどのように応用されるかを知ること、生命科学・基礎医学の視点で臨床医学を学ぶことの意味と、研究を通して医学の発展に貢献することの重要性を理解する。</p> <p>○ 基礎医学と臨床医学が両輪となって医学が発展しており、研究は医学の発展と医療の高度化を担うものである。研究が最先端医療や医師としてのキャリアに不可欠であることを医師・医学研究者の体験を通して理解する。講義により医師の多様なキャリア・社会貢献の形を知る。</p> <p>○ 社会の中で医学研究・医療を通して医師が果たすべき役割を理解する。医学の将来を展望し、研究による医学の発展・医療の高度化への貢献や医学上の重要課題を解決するリーダーとなることの重要性を認識する。</p> <p>○ 講義・ディスカッションを通じて、順天堂大学の医師・研究医養成のシステムとキャリアパスを理解し、医師・研究医、Physician Scientistとして社会に貢献する自分の将来と医学部6年間になすべきことを考える。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>医師の多様なキャリア・社会貢献の形を知る。          社会の中で医学研究・医療を通して医師が果たすべき役割を理解する。          研究による医学の発展・医療の高度化への貢献や医学上の重要課題を解決するリーダーとなることの重要性を認識する。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学の発展・医療の高度化における医学研究の意義について説明できる。</li> <li>2. 医師の多様なキャリアパス、社会貢献の形について述べることができる。</li> <li>3. 順天堂大学の医師・研究医養成のシステムについて説明できる。</li> <li>4. 自分の将来の目標のために医学部6年間に何をなすべきかについて述べるができる。</li> <li>5. 検索した文献を正しく引用し、ルールに従ってレポートを作成できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>☆ 5月9日の授業における指示に従い、与えられたテーマについてレポートにまとめ提出する。J-PASS を用い Word ファイルにて提出すること。締切:5月22日(水) 提出されたレポートの内容を7月4日の授業内で教材として使用することがある。個人情報にはわからないように処理するが、レポートの内容を教材に使用してほしくない場合は、レポートの最後に「※(理由)のため教材使用不可。」と理由及び教材への使用拒否の意思を明示すること。</p> <p>☆ 6月6日の授業の予習として、以下の論文を読んでおくこと。          Shigemura J, Tanigawa T, Saito I, Nomura S. Psychological distress in workers at the Fukushima nuclear power plants. JAMA. 2012 Aug 15;308(7):667-9.</p> <p>☆ 授業を参考に「自分が将来どのような医師・研究者を目指すのか」を考え、「その目標を達成するための研究の重要性」を自己学習してまとめる。それをもとに7月11日にグループディスカッションを行う。7月4日のレポート評価のフィードバックを生かし、各自その成果をレポートとしてまとめて提出する。分量はA4用紙10枚以内(表紙除く)とする。最低1件は参考資料からの引用をおこなうこと。その際、いたしかたない場合を除いて、Webページからの引用は避けること。締切:7月18日(木)17時 (J-PASS を用いて教務課に提出)</p> <p>7月11日の具体的内容、課題およびその締切等については、別途連絡を行う。</p> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>☆ あらかじめ予習を行い、授業中に質問するなど、積極的に授業に参加すること。</p> <p>☆ 課題に関する自己学習、発表内容・態度、感想、レポート(文体や形式、文献引用や図表の的確さ等)と期限内提出が評価される。期日後の提出は認められないことに注意すること(詳細は授業で説明される)。</p> <p>☆ マークシート形式の「授業評価票」を用いて出席の確認が行われる。講義終了直後に授業会場(教室等)で票を提出すること。事後の提出は受理されないことに注意すること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(レポート等)に関しては、講義中または講義後にフィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 各授業についての感想(30%)、ディスカッションの評価(20%)、レポート評価(50%)による。</p> <p>成績評価基準: 上記の評価等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>参考書: 医系大学院・研究留学、いつどこで何を? 流れがわかる研究トレーニング How To 佐藤雅昭、草場鉄周、富塚太郎 著、メディカルレビュー社</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 5限	薬理学講座 櫻井 隆	医学研究の意義	医学の発展・医療の高度化と研究	医学部カリキュラム、初期臨床研修、大学院、Physician Scientist、基礎研究医養成プログラム	順天堂大学のホームページにより医学部、大学院医学研究科博士課程、初期臨床研修の概要について調べておくこと。	順天堂大学における医師・研究医、Physician Scientist養成のシステムとキャリアパスを述べることができる。		講義
		医学研究の意義			http://www.juntendo.ac.jp/kenkyui/ 及び http://fukushima-tsunagu.jp の内容についても確認しておくこと。			
4/18 木 5限	一般教育研究室 田中 和廣 さくらキャンパス学術メディアセンター 功刀 みさ	医学情報-1 情報の活用と情報検索	研究における情報の活用-講義	情報の信憑性、ネット情報、情報検索	学術メディアセンター・データベースを利用して、復習課題を行う。	ネット情報の信憑性を理解し、信頼できる情報の検索方法を習得する。論文等の引用を正しく理解する。	計算機実習室、物理実習室(MM)に集合。ログインIDを確認しておくこと。	講義
		医学情報-1 情報の活用と情報検索	研究における情報の活用-実習	学術メディアセンター・データベース利用法	学術メディアセンター・データベースを利用して、復習課題を行う。			
4/25 木 5限	代謝内分泌学講座 綿田 裕孝	最先端医療-1 糖尿病の病態解明と新規治療法の開拓	糖尿病	糖尿病、疾患感受性遺伝子、膵β細胞発生分化、転写因子、リプログラミング	別途指示する項目について事前に調べておくこと。	研究は医学の発展と医療の高度化を担うものであることを理解する。		講義
		最先端医療-1 糖尿病の病態解明と新規治療法の開拓	若手研究者のプレゼンテーション・質疑応答					
5/9 木 5限	衛生学講座 松川 岳久	医学情報-2 医学生のためのレポート作成指南-1	情報に基づいて論旨を展開する	テクニカルライティング、論証レポート、実験レポート	レポート課題を提出する中で、講義内容に沿った構成でレポートを作成すること。	基本的なレポートの書き方を身に着ける。		講義
		医学情報-2 医学生のためのレポート作成指南-1						
5/16 木 5限	乳腺腫瘍学講座 齊藤 光江	最先端医療-2 乳がんはどのように発生してどのように治すのか?	がん治療最先端の開発	乳がん、化学療法分子標的薬臨床試験	がん患者や家族が書いた闘病記などを1つ読んでおいて下さい。	研究は医学の発展と医療の高度化を担うものであることを理解する。		講義
		最先端医療-2 乳がんはどのように発生してどのように治すのか?	若手研究者のプレゼンテーション・質疑応答					
5/23 木 5限	生化学第一講座 横溝 岳彦	最先端研究-1 「あぶら」が伝えるシグナル伝達	未知分子の機能に迫る	生理活性脂質、アスピリン、受容体、遺伝子欠損マウス	「アスピリン」という薬の薬効、作用機序、副作用について勉強しておくこと。WEB検索でも良い。	医療の進歩における基礎医学研究の重要性や醍醐味を理解する。		講義中に、「アスピリン」について質問する。
		最先端研究-1 「あぶら」が伝えるシグナル伝達						



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/30 木 5限	神経生物学・形態学 講座 小池 正人	最先端研究-2 細胞の病気 最先端研究-2 細胞の病気	オルガネラ異常と神経変性 疾患	小胞体、ゴルジ装置、リソ ソーム、オートファジー、ミ トコンドリア、光学顕微鏡、電 子顕微鏡	左記のオルガネラの構造と機 能について「細胞生物学」で 学習した内容を復習し、疑問 に思ったことをまとめておくこ と。	①医学における細胞生物学 の意義について理解する。 ②オルガネラを観察する様々 な方法について理解する。		講義
6/6 木 5限	公衆衛生学講座 谷川 武	最先端研究-3 集団の健康リスクを明らか にする 最先端研究-3 集団の健康リスクを明らか にする	疫学という診断方法から見 た社会の健康問題	疫学、社会医学、集団の健 康、PTSD、心の健康	疫学とは何か、事前に各自調 べておく。前ページ自己学習 欄に指定された論文を読んで おいて下さい。	疫学について概説できる。特 定集団の健康問題を考える 視点の重要性について説明 できる。		講義
6/13 木 5限	神経学講座 高梨 雅史	最先端医療-3 神経変性疾患の治療と研 究 最先端医療-3 神経変性疾患の治療と研 究	神経難病治療につなげる 基礎研究 若手研究者のプレゼンテー ション・質疑応答	パーキンソン病、神経難 病、分子遺伝学、分子生物 学	パーキンソン病をはじめとす る神経難病はどのようなもの かを調べる。	医学研究は臨床医学(診断、 治療)に連続するものである ことを理解する。		講義
6/20 木 5限	革新的医療技術開発 研究センター 飛田 護邦	色々な医師のキャリアパス 薬害の歴史と治験の発展	多様な医師のキャリアパス の紹介(とくに医療行政と研 究開発に携わる医師につ いて) 我が国の薬害の歴史と研 究開発の流れの紹介	厚労省、PMDA、薬害、研 究に関連する法令、治験、 医師のキャリアパス	Web等で、「PMDA」について 検索し調べておくこと。	・薬害の歴史を述べることに できる。 ・治験とは？をイメージでき る。		講義
6/27 木 5限	血液学講座 小松 則夫	最先端医療-4 白血病は本当に治るのか 最先端医療-4 白血病は本当に治るのか	白血病を治す薬の話 白根脩一助教のプレゼン テーション・質疑応答	分子標的療法、分化誘 導療法、急性白血病、 慢性骨髄性白血病	別途指示する項目について 事前に調べておくこと。	研究は医学の発展と医療の 高度化を担うものであることを 理解する。		講義
7/4 木 5限	衛生学講座 松川 岳久	医学情報-3 医学生のためのレポート 作成指南-2 医学情報-3 医学生のためのレポート 作成指南-2	レポート評価のフィードバッ ク	テクニカルライティング、論 証レポート、実験レポート	5/9の課題として作成したレ ポートについて、実例を挙げ て改善点を指摘する。自分の 作成したレポートについて、 いまいちど目を通しておくこ と。	基本的なレポートの書き方を 身に着ける。		講義
7/11 木 5限	基礎研究医養成プロ グラム 教員	キャリアデザイン グループ ディスカッション キャリアデザイン グループ ディスカッション	医師としてのキャリアと研究	医師のキャリアパス、キャリ アデザイン	前ページ自己学習欄に記載 の通り事前に準備しておく こと。	自分の将来の目標と研究の 関係を述べることができる。		グループ ディス カッシ ョン
7/18 木 5限		レポート作成・提出						

科目名	科目コード	単位数	責任者
Practical English for TOEFL I	ENG 101	1	Marcellus Nealy/Clay Bussinger/ Paul Conroy/Joseph Drakos
学習内容・概要			
<p>This class aims at improving receptive skills of English, e.g., listening and reading skills. Although the practical purpose of this class is to raise the score of TOEFL ITP and iBT, various styles of study materials will be offered.</p> <p>To achieve the above goal, students will learn English through various kinds of study methods such as dictation, shadowing, extensive reading, slash reading, skimming, scanning, and so on.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>Students will be able to improve receptive skills of English, e.g., listening and reading skills, so that students will be able to raise the score of TOEFL ITP and iBT.</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be able to deeply understand the TOEFL ITP and iBT and test-taking strategies.</li> <li>2. Students will be able to make valuable preparation for and practice of the TOEFL tests.</li> <li>3. Students will be able to understand listening strategies and how to practice them.</li> <li>4. Students will be able to comprehensively understand how written and spoken English are logically organized.</li> <li>5. Students will be able to increase English vocabulary through the study of vocabulary lists.</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>Students are expected to engage in extensive reading after school hours. The books to read will be specified and fundamental reading strategies will be instructed during the class.</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>•The class levels will be determined based on TOEFL ITP scores.</li> <li>•Students must attend more than 2/3 of the classes to take the midterm and final examinations.</li> <li>•The actual class activities may vary in each class. The weekly program is shown as a typical example.</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
Students will receive feedback in or out of class in terms of their performances for exams and other assignments.	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: Items to be graded include attendance, midterm and final exams, assignment submissions, and class participation. The relative weights of the graded items may vary in each class.</p> <p>成績評価基準 (Criteria): A final grade will be determined based on performances for exams and other assignments.</p>	Information of the teaching materials will be announced during the class.

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Course Introduction 1	Introduction to the activities included in each class	In-class assignment	Review in-class assignment	Understand the structure of the class	Actual activities will differ depending on the class.	Guidance
		Course Introduction 2	Introduction to the grading and homework system	Homework	Review homework system	Understand the requirements of the course		Guidance
4/18 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 1	Focus on main topics	Top-down listening	Preparation for a vocabulary quiz	Understand the TOEFL listening section structure	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 1	Vocabulary buildup	Vocabulary	Extensive reading	Understand the TOEFL reading section structure		Learning through praxis
4/25 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 2	Dictation	Bottom-up listening	Extensive listening	Understand the TOEFL listening section structure	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 2	Skimming	Top-down reading	Extensive reading	Understand the TOEFL reading section structure		Learning through praxis
5/9 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 3	Shadowing	Bottom-up listening	Preparation for a vocabulary quiz	Increase vocabulary	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 3	Scanning	Top-down reading	Extensive reading	Understand test-taking strategies		Learning through praxis
5/16 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 4	Focus on details	Bottom-up listening	Extensive listening	Understand listening test-taking strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 4	Slash reading	Bottom-up reading	Extensive reading	Understand reading test-taking strategies		Learning through praxis
5/23 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 5	Note-taking	Listening strategy	Preparation for a vocabulary quiz	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 5	Paragraph structure	Reading strategy	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
5/30 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 6	Focus on discourse markers	Top-down listening	Extensive listening	Understand how spoken English is logically organized	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 6	Passage structure	Top-down reading	Extensive reading	Understand how written English is logically organized		Learning through praxis

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/6 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 7	Explicit information	Bottom-up listening	Preparation for a vocabulary quiz	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 7	Passage coming before	Guessing based on the passage	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
6/13 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 8	Implicit information	Top-down listening	Extensive listening	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 8	Passage coming after	Guessing based on the passage	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
6/20 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 9	Focus on main topics	Top-down listening	Preparation for a vocabulary quiz	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 9	Vocabulary buildup	Vocabulary	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
6/27 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 10	Dictation	Bottom-up listening	Extensive listening	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 10	Skimming	Top-down reading	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
7/4 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 11	Shadowing	Bottom-up listening	Preparation for a vocabulary quiz	Increase vocabulary	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 11	Scanning	Top-down reading	Extensive reading	Understand test-taking strategies		Learning through praxis
7/11 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Review 1	Review of the semester	Top-down and bottom-up listening	Extensive listening	Review strategies and techniques learned in class	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Review 2	Information about the midterm exam	Top-down and bottom-up reading	Extensive reading	Reflect on attitudes toward learning		Learning through praxis
7/18 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Midterm exam 1	Review of the semester 1	Listening strategies	Review listening strategies	Understand strengths and weaknesses about listening	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Midterm exam 2	Review of the semester 2	Reading strategies	Review reading strategies	Understand strengths and weaknesses about reading		Learning through praxis

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/19 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Review 3	Feedback 1	Score report	Extensive listening	Understand strengths and weaknesses	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Review 4	Feedback 2	Diagnosis	Extensive reading	Reflect on attitudes toward learning		Learning through praxis
9/26 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 12	Focus on details	Bottom-up listening	Extensive listening	Understand listening test-taking strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 12	Slash reading	Bottom-up reading	Extensive reading	Understand reading test-taking strategies		Learning through praxis
10/3 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 13	Note-taking	Listening strategy	Preparation for a vocabulary quiz	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 13	Paragraph structure	Reading strategy	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
10/10 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 14	Focus on discourse markers	Top-down listening	Extensive listening	Understand how spoken English is logically organized	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 14	Passage structure	Top-down reading	Extensive reading	Understand how written English is logically organized		Learning through praxis
10/17 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 15	Explicit information	Bottom-up listening	Preparation for a vocabulary quiz	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 15	Passage coming before	Guessing based on the passage	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
10/24 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 16	Implicit information	Top-down listening	Extensive listening	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 16	Passage coming after	Guessing based on the passage	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
10/31 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 17	Focus on main topics	Top-down listening	Preparation for a vocabulary quiz	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 17	Vocabulary buildup	Vocabulary	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/7 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 18	Dictation	Bottom-up listening	Extensive listening	Understand listening strategies	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 18	Skimming	Top-down reading	Extensive reading	Understand reading strategies		Learning through praxis
11/14 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Listening activity 19	Shadowing	Bottom-up listening	Preparation for a vocabulary quiz	Increase vocabulary	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Reading activity 19	Scanning	Top-down reading	Extensive reading	Understand test-taking strategies		Learning through praxis
11/28 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Review 5	Review of previous classes	Time management	Extensive listening	Review strategies and techniques learned in class	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Review 6	Information about the TOEFL ITP test	Top-down and bottom-up reading	Extensive reading	Reflect on attitudes toward learning		Learning through praxis
12/5 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	TOEFL ITP 1	Actual test taking 1	Listening section	Extensive and intensive listening	Review listening strategies and techniques learned in class	Make sure you will concentrate on listening and reading throughout the test	Actual test taking
		TOEFL ITP 2	Actual test taking 2	Reading section	Extensive and intensive listening	Review reading strategies and techniques learned in class		Actual test taking
12/12 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Review 7	Feedback 1	Score report	Extensive listening	Understand strengths and weaknesses	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Review 8	Feedback 2	Diagnosis	Extensive reading	Reflect on attitudes toward learning		Learning through praxis
12/19 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Review 9	Focus on listening weakness	Top-down and bottom-up listening	Extensive and intensive listening	Understand how to increase listening skills	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Review 10	Focus on reading weakness	Top-down and bottom-up reading	Extensive and intensive listening	Understand how to increase reading skills		Learning through praxis
1/9 木 1~3限	A: Clay Bussinger B: Clay Bussinger C: Marcellus Nealy D: Paul Conroy E: Joseph Drakos	Final exam 1	Review of the semester	Listening strategies	Review listening strategies	Understand strengths and weaknesses	Actual activities will differ depending on the class.	Learning through praxis
		Final exam 2	Feedback	Reading strategies	Review reading strategies	Plan future studies		Learning through praxis

科目名	科目コード	単位数	責任者
Practical English for TOEFL II	ENG 102	1	小泉 利恵 / Clay Bussinger / Joseph Drakos /Grow,Deborah Anne
学習内容・概要			
This course will focus on developing the productive skills of speaking and writing. It is intended to prepare students for taking the TOEFL (especially TOEFL iBT).			
学習目標			
[一般目標] Students will be able (1) to increase students' speaking abilities, especially focusing on presentation and discussion and (2) to improve the students' writing abilities, especially focusing on essay writing and slide making for presentations.			
[到達目標] 1. Extensive listening practice 2. Valuable practice with logically organizing written and spoken English 3. Increased English vocabulary through the continued study of the Academic Word List 4. Additional practice with writing for academic purposes 5. Valuable preparation and practice for the TOEFL test			
自己学習(準備学習)			
Students will need to prepare for each lesson by studying the given topics in advance. Students must also be prepared to share their views and opinions on various topics covered. 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			



学習上の注意点	
This class will be divided based on the results of students' TOEFL scores. The actual activities of each class will vary based on the needs of students.	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
Students will receive feedback in or out of class in terms of their performances for exams and other assignments.	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: Evaluation will be based on student attendance, participation, exams and overall performance.</p> <p>成績評価基準 (Criteria): A final grade will be determined based on performances for exams and other assignments.</p>	To be announced in class.

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	TOEFL ITP examination	TOEFL ITP	Examination	No preparation to be required	To perform at your maximum capability	To concentrate on the 2 hours examination	Exam
		TOEFL ITP examination	TOEFL ITP	Examination	No preparation to be required	To perform at your maximum capability		
4/18 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Structure of TOEFL iBT	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Structure of TOEFL iBT	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
4/25 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 1	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 1	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
5/9 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 2	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 2	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
5/16 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 3	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 3	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
5/23 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 4	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 4	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/30 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 5	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 5	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
6/6 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 6	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 6	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
6/13 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 7	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 7	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
6/20 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson8	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 8	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
6/27 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 9	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 9	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
7/4 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 10	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 10	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
7/11 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 11	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 11	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
7/18 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Mid-term exam	Speaking and writing		To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.		learning through praxis
		Mid-term exam	Speaking and writing		To be announced during class			learning through praxis
9/19 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 12	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 12	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
9/26 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 13	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 13	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
10/3 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 14	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 14	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
10/10 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 15	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 15	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
10/17 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 16	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 16	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
10/24 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 17	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 17	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
10/31 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 18	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 18	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
11/7 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 19	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 19	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
11/14 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 20	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 20	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
11/28 木 1～3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 21	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 21	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/5 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	2nd TOEFL ITP examination	TOEFL ITP	Examination	No preparation to be required	To perform at your maximum capability	To concentrate on the 2 hours examination	Actual test taking
		3rd TOEFL ITP examination	TOEFL ITP	Examination	No preparation to be required	To perform at your maximum capability		Actual test taking
12/12 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Lesson 22	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Lesson 22	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
12/19 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Review	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Review	Speaking and writing	short essay, paragraph writing, short speech, discussion, presentation	To be announced during class			learning through praxis
1/9 木 1~3限	A:Grow Deborah B: Joseph Drakos C: Clay Bussinger D: 小泉 利恵 E: Grow,Deborah	Final exam	Review of the academic year		To be announced during class	To be able to speak and write English logically and without transcript. To express opinions and ideas effectively.	Evaluation will be based on performance.	learning through praxis
		Final exam	Review of the academic year		To be announced during class			learning through praxis

科目名	科目コード	単位数	責任者
TOEFL演習	ENG 103	1	浅野 恵子/小泉 利恵/藤田 亮子/ Joseph Drakos/Deborah Grow
学習内容・概要			
<p>・この講義では、北米留学に必須のTOEFL (Test of English as a Foreign Language) の受験対策の活動を通して、英語運用能力の養成を目指す。</p> <p>・TOEFLは世界的に使用されている英語熟達度テストであり、現在はTOEFL iBT (Internet-based test) におけるスコアが北米留学に必要となる。また、このテストは英語をどれだけ「知っているか」ではなく、「使えるか」に焦点をあて、より実生活に即したコミュニケーション能力を測定するためのものでもある。各大学が受け入れに必要な英語力をTOEFLの点数で公表しているため、TOEFLは、英語学習者が自分の英語力を実用レベルで判定し、世界での位置を知ることの出来る貴重な機会を提供しているとも言える。本科目でTOEFL受験の準備をしていく中で、総合的な英語力を身につけてほしい。前期・後期ともに、12月までに各自受験予定であり、留学において正式なスコアとなるTOEFL iBTに向けた、Speaking、Writingも含めた総合的な運用能力向上を目指す対策と、12月に学内で一斉に実施予定である、TOEFL ITP (Institutional Testing Program) に向けた対策を行う。</p> <p>・それぞれの週の活動内容の詳細は例であり、各担当者により異なる。</p>			
学習目標			
[一般目標]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEFL受験に向けて学習することで、読み、書き、聞き、話す力を向上させることができる。</li> <li>・TOEFL ITPとTOEFL iBT受験に向けた効果的な学習法を理解することができる。</li> </ul>			
[到達目標]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEFL ITPおよびiBTの問題形式を理解し、回答時に瞬時に対応できる。</li> <li>2. リスニングにおける方略を構築し、問題回答時に応用できる。</li> <li>3. ライティング構造に慣れ、形式の整ったパラグラフを書くことができる。</li> <li>4. TOEFL必須の専門用語に慣れ、問題回答時に使いこなせるようになる。</li> <li>5. 4技能のうち、自分の弱点となるスキルを把握し、ポートフォリオを使用することで、客観視できるようにする。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定された課題を事前に行っておくこと。</li> <li>・指定された語彙学習教材による学習を定期的に進めておくこと。</li> <li>・毎日少しずつ自主的な学習を進めておくこと。</li> <li>・授業で学んだ点をまとめ、小テストに向けて準備しておくこと。</li> </ul> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点													
<p>・本科目でTOEFL 受験の準備をしていく中で、総合的な英語力を身につけてほしい。</p> <p>・聞く、読む、話す、書くという英語の4技能を向上させるべく、各自地道に努力を続けてほしい。</p> <p>・定期的に教員に進行状況を伝え、弱点強化のためのアドバイスを求めるなど、教員への積極的な働きかけを期待する。</p> <p>・TOEFL ITPとiBTのスコアに応じて「TOEFL演習」の成績に加点・減点を行う。</p> <p>(1) 以下のように点数を成績に加点する。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 16.6%;">TOEFL ITPスコア: ~499点成績0点加算</td> <td style="width: 16.6%;">500~529点の場合、2点</td> <td style="width: 16.6%;">530~549点の場合、4点</td> <td style="width: 16.6%;">550~579点の場合、6点</td> <td style="width: 16.6%;">580~599点の場合、8点</td> <td style="width: 16.6%;">600~点の場合、10点</td> </tr> <tr> <td>TOEFL iBTスコア: ~29点の場合、0点加算</td> <td>30~49点の場合、2点</td> <td>50~69点の場合、4点</td> <td>70~89点の場合、6点</td> <td>90~99点の場合、8点</td> <td>100~120点の場合、10点</td> </tr> </table> <p>(2) TOEFL ITPスコア上昇を10点満点とし、以下のように点数を加減する。特別課題は点下降の度合いに応じて変える。1回目に十分力を発揮しなかったことが判明しているものは、0点加点とする。</p> <p>50点以上下降の場合、10点を減点(これに加え、特別課題を課し、面談を行う) 40点~49点以上下降の場合、7点を減点(これに加え、特別課題を課す)</p> <p>30点~39点以上下降の場合、5点を減点(これに加え、特別課題を課す)</p> <p>29点下降~29点上昇の場合、0点加算      30点~39点以上上昇の場合、5点加算</p> <p>40点~49点以上上昇の場合、7点加算      50点以上上昇の場合、10点加算</p>		TOEFL ITPスコア: ~499点成績0点加算	500~529点の場合、2点	530~549点の場合、4点	550~579点の場合、6点	580~599点の場合、8点	600~点の場合、10点	TOEFL iBTスコア: ~29点の場合、0点加算	30~49点の場合、2点	50~69点の場合、4点	70~89点の場合、6点	90~99点の場合、8点	100~120点の場合、10点
TOEFL ITPスコア: ~499点成績0点加算	500~529点の場合、2点	530~549点の場合、4点	550~579点の場合、6点	580~599点の場合、8点	600~点の場合、10点								
TOEFL iBTスコア: ~29点の場合、0点加算	30~49点の場合、2点	50~69点の場合、4点	70~89点の場合、6点	90~99点の場合、8点	100~120点の場合、10点								
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック													
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>													
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等												
<p>成績評価方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の積極的な参加度: 20%</li> <li>・授業での活動: 30%</li> <li>・テスト・レポート: 40%</li> <li>・語彙学習: 10%</li> </ul> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス別に初回の授業の中で指示する。</li> </ul> <p>【参考教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス別に初回の授業の中で指示する。</li> </ul> <p>【参考ウェブサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEFL. <a href="https://www.cieej.or.jp/toefl/">https://www.cieej.or.jp/toefl/</a></li> </ul>												



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	TOEFL ITP実施	リスニング・文法・リーディング	英語力測定	自分の苦手な点を勉強しておく。	TOEFL ITPのテスト形式や求められる英語力を理解できる。	実力を出せるように集中して試験に臨む。	演習
		Introduction to TOEFL ITP	TOEFL ITPに関する説明	英語力測定	自分の苦手な点を確認しておく。	TOEFL ITPのテスト形式や求められる英語力を理解できる。	実力を出せるように集中して試験に臨む。	演習
4/18 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	TOEFL ITP結果返却と Introduction to TOEFL ITP	リスニング・文法・リーディング	TOEFL ITPの形式	テストで分からなかった点を整理しておく。	TOEFL ITPのテスト形式や求められる英語力を理解できる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Introduction to TOEFL ITP	語彙	4技能の理解	小テストの準備をする。	課題について理解する。	各担当教員により、活動が異なる。	演習
4/25 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Introduction to TOEFL iBT	TOEFL iBTの構成を学ぶ	技能のバランス	前回の復習と小テストの準備をしておく。	TOEFL iBTのテスト形式や求められる英語力を理解できる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Sample iBT test	TOEFL iBTの出題傾向について学ぶ。	4技能の理解	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
5/9 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 1	時間配分を学ぶ	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 1	リスニング問題の出題傾向を知る	リスニング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
5/16 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 1	弱点を知る	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 1	リーディング問題の出題傾向を知る	リーディング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
5/23 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 2	アドバイスの基づき書き直す	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 2	音声変化を意識する	リスニング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/30 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 2	アドバイスに基づき書き直す	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 2	段落の構造を把握する	リーディング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
6/6 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 3	アドバイスに基づき書き直す	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 3	メモの取り方を学ぶ	リスニング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
6/13 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 3	繰り返しによりスピードを増す	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 3	主節・従属節の関係を確認する	リーディング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
6/20 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 4	アドバイスに基づき書き直す	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 4	推論を問う問題を分析する	リスニング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
6/27 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 4	モデルから学ぶ	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 4	スキヤニングを学ぶ	リーディング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
7/4 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 5	ライティングの構成を改善する	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 5	概要を問う問題を分析する	リスニング力向上	宿題と次週小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
7/11 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 5	談話標識に注目する	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 5	関連する語を認識する	リーディング力向上	宿題と次週の定期試験の準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
7/18 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Mid-term exam	前期の復習	弱点強化	前期の復習とテストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	実力を出せるように集中して試験に臨む。	演習
		Mid-term exam	前期の復習	弱点強化	夏休みの課題を計画的に行う。	夏休みの課題について理解する。	実力を出せるように集中して試験に臨む。	演習
9/19 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 6	定型表現を学ぶ	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 6	詳細を問う問題を推測する	リスニング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
9/26 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 6	時間配分を学ぶ	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 6	並列構造に着目する	リーディング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
10/3 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 7	言い換え表現を学ぶ	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 7	長い会話文に慣れる	リスニング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
10/10 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 7	採点基準を学ぶ	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 7	推論を問う問題を分析する	リーディング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
10/17 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 8	書く量を増やす	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 8	長いレクチャー問題に慣れる	リスニング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
10/24 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 8	言い換えの表現に着目する	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 8	多読の効果に着目する	リーディング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
10/31 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 9	書く量を増やす	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 9	多聴の効果に着目する	リスニング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
11/7 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 9	時間を確認しながら取り組む	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 9	詳細を問う問題を分析する	リーディング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
11/14 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Writing activity 10	総復習をする	弱点強化	前回の復習と小テストの準備をしておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 11	詳細を問う問題を分析する	リスニング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
11/28 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Speaking activity 12	総復習をする	弱点強化	前回の復習とテストの準備をしておく。	TOEFL ITPのテスト形式や求められる英語力を理解できる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 12	総復習をする	リーディング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/5 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	TOEFL ITP受験	リスニング・文法・リーディング	英語力測定	テストで分からなかった点を整理しておく。	学んだ技能を実践することができる。	テストに集中して臨めるように準備しておく。	一斉試験
		TOEFL ITP受験	リーディング・文法のポイントを復習する	英語力測定	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	一斉試験
12/12 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Review 1	総復習をする	弱点強化	自分の弱点と今後の学習の方向性をまとめておく。	学んだ技能を実践することができる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Listening activity 5	リスニングのポイントを復習する	リスニング力向上	前回の復習と小テストの準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
12/19 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Review 2	総復習をする	今後の学習	自分の弱点と今後の学習の方向性をまとめておく。	英語力の変化と技能の習得を認識できる。	積極的に挙手して発言する。	演習
		Reading activity 5	リーディングのポイントを復習する	リーディング力向上	宿題と次週の定期試験の準備をしておく。	課題について理解する。	グループワークに意欲的に取り組む。	演習
1/9 木 1～3限	A:Joseph Drakos B:浅野 恵子 C:Deborah Grow D:藤田 亮子 E:小泉 利恵	Final exam	総復習をする	後期に学習した方略の復習	Exam の準備(内容は授業時に指示)	学んだ技能を実践することができる。	テストに集中して臨めるように準備しておく。	演習
		Final exam	総復習をする	後期に学習した方略の復習	2年次に向けて、自分の苦手な箇所を勉強しておく。	英語運用能力を向上させることができる。	テストに集中して臨めるように準備しておく。	演習

科目名	科目コード	単位数	責任者
<p>スポーツと健康 (サッカー・バレーボール・レクリエーションスポーツ)</p>	<p>SPH 101</p>	<p>1 (スポーツと健康 全体)</p>	<p>(サッカー) 島寄 佑 (バレーボール) 中田 学 (レクリエーションスポーツ) 中丸 信吾</p>
<p>学習内容・概要</p>			
<p>(サッカー) コミュニケーション能力や社会性といった社会的スキルを養い、仲間と協力することやチームワークの大切さを学ぶ。また体力の維持・増進を図る。 (バレーボール) ネットの張り方や、バレーボールの基礎技術の習得、またルールやフォーメーションを理解し、ミニゲームや公式ゲームを行いバレーボールとはどういうものなのかを学習する。 (レクリエーションスポーツ) フライングディスクやユニバーサルホッケーなどのレクリエーションスポーツや既存の球技スポーツなどさまざまな種目を実施する。 本授業では、さまざまなスポーツに触れスポーツを楽しむ態度を養うこと、授業を通して社会性や協調性を養うこともねらいとして授業を展開する。</p>			
<p>学習目標</p>			
<p>[一般目標] (サッカー) 仲間と協力すること、仲間を思いやることができる。また、チームスポーツを安全に楽しむことができる。 (バレーボール) バレーボールの基礎技術の修得とともに、仲間との協調性やコミュニケーション能力を高め、チームワークの大切さを学ぶことができる。 (レクリエーションスポーツ) 各種スポーツを通じて、体力の維持・向上ならびに健康増進を目指し、生涯にわたりスポーツに親しむ態度を修得できる。また、本授業を通して集団での社会性や協調性を理解し実践する態度を修得できる。</p>			
<p>[到達目標] 1. サッカー: 仲間と協力して、成功の可能性を追求することができる。 2. サッカー: スポーツの楽しさや意義について理解を深め、スポーツと健康およびリスクについて考え、取り組むことができる。 3. バレーボール: バレーボールを通して健康・体力・社会性を養うことができる。 4. バレーボール: 仲間と協力し、チームワーク、協調性を育むことができる。 5. レクリエーションスポーツ: 生涯に亘る自身の健康の維持・増進を図ることができる。 6. レクリエーションスポーツ: 集団内での社会性や協調性など将来の医療現場での社会生活に応用できる。</p>			
<p>自己学習(準備学習)</p>			
<p>(サッカー) 専門書およびインターネット等を活用し、ゲームを行なうことのできるルール(知識)を理解すること。 毎時間、提示するキーファクターについて学習し、理解を深めること。 (バレーボール) 次回授業に学ぶ項目、技術の「ぐんぐん良くなるバレーボール」を読んでおく。 (レクリエーションスポーツ) 実技が中心となるので十分に体調を整えて授業に参加すること。 授業後には実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>(サッカー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に適した服装、シューズの準備をすること。</li> <li>・実技科目のため、日々の体調管理を怠らないこと。</li> </ul> <p>(バレーボール)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボールシューズを用意すること。</li> <li>・運動着を着用すること。</li> <li>・安全に注意すること。</li> </ul> <p>(レクリエーションスポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動着(ジャージ等)、室内シューズを準備すること。</li> <li>・屋外で実施する種目もあるため、その際は屋外シューズを準備すること。</li> <li>・安全に注意すること。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:</p> <p>(サッカー)</p> <p>授業への参加状況および受講態度80%、上達度および試合成績(20%)を総合的に評価します。</p> <p>(バレーボール)</p> <p>出席状況と授業態度80%、レポート20%、公式戦の結果(+<math>\alpha</math>点)を、総合的に判断します。</p> <p>(レクリエーションスポーツ)</p> <p>授業への参加状況と取り組み(80%)、レポート試験(20%)</p> <p>成績評価基準:</p> <p>個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>(サッカー)</p> <p>サッカー競技規則(公益財団法人日本サッカー協会 発行)(インターネットでも閲覧可能 <a href="https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/lawsofthegame_201617.pdf">https://www.jfa.jp/documents/pdf/soccer/lawsofthegame_201617.pdf</a>)</p> <p>(バレーボール)</p> <p>「ぐんぐん良くなるバレーボール」葛宗浩二著 ベースボールマガジン社</p> <p>(レクリエーションスポーツ)</p> <p>必要に応じて資料を配布する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/16 火 2限	島寄 佑	オリエンテーション	授業の概要説明 種目選択	名簿作成 受講について確認	【予習】シラバスを確認し、選択種目を決定しておく。 【復習】授業に関する説明を再確認してする。	サッカーの準備について理解できる。	更衣の必要なし。	講義
4/23 火 2限	島寄 佑	アイスブレイク&コーディネーション	仲間づくり	ステップワーク コミュニケーション	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	仲間の顔・名前を把握し、誰とも意思疎通ができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
5/7 火 2限	島寄 佑	ボールフィーリング ゲーム(4vs4)	ボールコントロール	両足を使う クッションコントロール ウェッジコントロール	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	ボールを上手に扱うことができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
5/14 火 2限	島寄 佑	パス&コントロール① ゲーム(4vs4)	パスの質・コントロールの質	インサイドパス インサイドコントロール	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	味方にパスをつなぐことができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
5/18 土 2限	島寄 佑	パス&コントロール② ゲーム(4vs4)	ロングキック	インフロントキック	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	浮いたボールでパスすることができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
5/21 火 2限	島寄 佑	ドリブル① ゲーム(3vs2)	ボールを運ぶ	両足を使う	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	ボールを自在に扱うことができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
5/28 火 2限	島寄 佑	ドリブル② ゲーム(4vs4)	相手をかかわす	フェイント	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	スピードの緩急やボールを自在にコントロールし、相手を抜くことができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
6/4 火 2限	島寄 佑	ボールを奪う ゲーム(4vs4)	ボールを奪う	ポジショニング 予測 ステップワーク あきらめない姿勢	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	正しいポジショニングを理解し、ボール奪取することができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
6/11 火 2限	島寄 佑	対人プレー ゲーム(8vs8)	ONとOFFの対応	攻撃の優先順位 守備のテクニック 攻守の切り替え	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	攻守両面で、味方とコミュニケーションを図り、プレーすることができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/15 土 2限	島寄 佑	シュート ゲーム(8vs8)	ゴール前の攻防	インステップキック	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	強いシュートでゴールを奪うことができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
6/25 火 2限	島寄 佑	クロスからのシュート ゲーム(8vs8)	センタリング ワンタッチシュート	ヘディング ボレー	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	浮いているボールに対して、タイミングよくプレーすることができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
7/2 火 2限	島寄 佑	ゲーム(11vs11)①	リーグ戦①試合	チームワーク	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	チームとして、協力し、プレーすることができる。ルールを理解し、プレーすることができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
7/9 火 2限	島寄 佑	ゲーム(11vs11)②	リーグ戦②システム	チームミーティング	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】授業内容、キーファクターの確認を行なう。	チームに効果的に関わり、協力して、プレーすることができる。ルールを理解し、プレーすることができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技
7/16 火 2限	島寄 佑	ゲーム(11vs11)③	リーグ戦③戦術・戦略	チームミーティング	【予習】体調を管理し、授業タイトルについて調べる。 【復習】全授業の振り返り	チームメイトとのコミュニケーションを通じて、チームの戦い方を考え、協力してプレーすることができる。	適切なシューズ、服装の準備および時間厳守で集合すること。	実技

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/16 火 2限	中田 学	オリエンテーション	バレーボールとは何だろう	「ぐんぐん良くなるバレーボール」本紹介	バレーボールについて調べてみる	バレーボールとはどんなものなのかを知ることができる	更衣不要	講義
4/23 火 2限	中田 学	グループづくりゲーム	楽しくチームを作る	円陣パスゲーム等	体調の管理をしっかりと行い、学んだ技術のイメージトレーニングをしてくる。	仲間とのコミュニケーション、協調性を学び、バレーボールの楽しさを学ぶ。	意欲的に仲間と交流しながら行う。	実技
5/7 火 2限	中田 学	パスの研究	パスを学ぼう	アンダー・オーバーパス。マントーマン。簡易ゲーム	体調の管理をしっかりと行い、学んだ技術のイメージトレーニングをしてくる。	パス技術の習得、バレーボールに必要な肩関節の進化について知ることができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技
5/14 火 2限	中田 学	スパイクの研究	ミニゲーム	オープンスパイク。Aクイック。簡易ゲーム	体調の管理をしっかりと行い、学んだ技術のイメージトレーニングをしてくる。	簡易ゲームのなかでスパイクが打てるようになる。	意欲的に授業に取り組む	実技
5/18 土 2限	中田 学	ブロックの研究 サーブレシーブの研究	ブロックと、フォーメーションを理解しよう。	ブロック。ケガ予防。サーブレシーブ。W型フォーメーション	体調の管理をしっかりと行い、学んだ技術のイメージトレーニングをしてくる。	ケガをしないブロックの仕方、サーブレシーブのフォーメーションを理解することができる。	ブロックはケガの発生が多いため、注意点を良く聞いて行う。	実技
5/21 火 2限	中田 学	サーブの研究	効果的なサーブとは	サーブの原則。自分に合ったサーブ	体調の管理をしっかりと行い、学んだ技術のイメージトレーニングをしてくる。	サーブの打ち方を学び、自分に合ったサーブを見つけることができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技
5/28 火 2限	中田 学	フォーメーションの研究	様々なフォーメーションを学ぼう	サーブレシーブ・ブロック・スパイクレシーブフォーメーション	体調の管理をしっかりと行い、学んだ技術のイメージトレーニングをしてくる。	ゲームに必要な様々なフォーメーションを学び、理解する。	意欲的に授業に取り組む。	実技
6/4 火 2限	中田 学	チーム作り	選手の能力に合ったチームを作ろう	チーム作り。ゲーム形式。	体調の管理をしっかりと行い、学んだ技術のイメージトレーニングをしてくる。	各選手の能力を見て、チームをつくることことができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技
6/11 火 2限	中田 学	練習ゲーム	練習ゲーム	リーグ戦のための練習	ゲームの進行の仕方、ルールを再度復習しておく。	公式ゲームを行い、自分達に合った戦術を考えることができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/15 土 2限	中田 学	公式ゲーム	公式ゲーム	リーグ戦	練習試合をふまえて、自チームに合った戦術、フォーメーションを考えてくる。	公式ゲームを行い、自分達に合った戦術を考えることができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技
6/25 火 2限	中田 学	公式ゲームと評価	公式ゲームと評価	リーグ戦	公式ゲームの反省点を考え、再度、戦術、フォーメーションを考えてくる。	公式ゲームを行い、自分達に合った戦術を考えることができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技
7/2 火 2限	中田 学	公式ゲーム	公式ゲーム	リーグ戦	練習試合をふまえて、自チームに合った戦術、フォーメーションを考えてくる。	公式ゲームを行い、自分達に合った戦術を考えることができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技
7/9 火 2限	中田 学	公式ゲーム	公式ゲーム	リーグ戦	練習試合をふまえて、自チームに合った戦術、フォーメーションを考えてくる。	公式ゲームを行い、自分達に合った戦術を考えることができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技
7/16 火 2限	中田 学	公式ゲームと評価 まとめ	公式ゲームと評価	リーグ戦	公式ゲームの反省点を考え、再度、戦術、フォーメーションを考えてくる。	公式ゲームを行い、自分達に合った戦術を考えることができる。	意欲的に授業に取り組む。	実技

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/16 火 2限	中丸 信吾	オリエンテーション	授業の概要説明 種目選択	授業展開	シラバスの内容を熟読しておくこと。	授業の概要を理解し種目選択する。	更衣不要	講義
4/23 火 2限	中丸 信吾	アイスブレイキング	レクリエーションゲーム	コミュニケーション能力	実施内容を確認の上、十分に体調を整えておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	レクリエーションゲームを通してお互いを知ることができる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
5/7 火 2限	中丸 信吾	フライングディスク1	ディスクの持ち方 個人技能	バックハndsロー サイドアームロー キャッチング	実施内容を確認の上、十分に体調を整えておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	フライングディスクの基本技能を習得できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
5/14 火 2限	中丸 信吾	フライングディスク2	ディスクゴルフ ラウンド	ルール ディスクコントロール	実施内容を確認の上、十分に体調を整えておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	ゲームを通してスポーツを楽しむ態度を養うとともにグループでのコミュニケーション能力を習得できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
5/18 土 2限	中丸 信吾	フライングディスク3	アルティメット ミニゲーム	ルール セルフジャッジ チームワーク	実施内容を確認の上、十分に体調を整えておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	ゲームを通してスポーツを楽しむ態度を養うとともにグループでのコミュニケーション能力を習得できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
5/21 火 2限	中丸 信吾	フライングディスク4	アルティメット ゲーム	ルール セルフジャッジ チームワーク	実施内容を確認の上、十分に体調を整えておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	ゲームを通してスポーツを楽しむ態度を養うとともにグループでのコミュニケーション能力を習得できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
5/28 火 2限	中丸 信吾	仲間づくりゲーム	ASE(Action Socialzation Experence)	コミュニケーション チームワーク	実施内容を確認の上、十分に体調を整えておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	ゲームを通してグループでのコミュニケーション能力を習得できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
6/4 火 2限	中丸 信吾	スラックライン1	ラインの張り方、乗り方	体の使い方	実施内容を確認の上、十分に体調を整えておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	新しいスポーツに取り組むことでスポーツを楽しむ態度を習得できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
6/11 火 2限	中丸 信吾	スラックライン2	さまざまな乗り方	体の使い方	実施内容を確認の上、十分に体調を整えておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	新しいスポーツに取り組むことでスポーツを楽しむ態度を習得できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/15 土 2限	中丸 信吾	バドボン	ゲームの進め方 ダブルスゲーム	ルール チームワーク	実施内容を確認の上、充分に体調を整えておくこと。実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	バドボンのルールを理解し実践できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
6/25 火 2限	中丸 信吾	ペタンク	ゲームの進め方 ゲーム	ルール チームワーク	実施内容を確認の上、充分に体調を整えておくこと。実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	ペタンクのルールを理解し実践できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
7/2 火 2限	中丸 信吾	クップ	ゲームの進め方 ゲーム	ルール チームワーク	実施内容を確認の上、充分に体調を整えておくこと。実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	クップのルールを理解し実践できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
7/9 火 2限	中丸 信吾	インディアカ1	ゲームの進め方	ルール チームワーク	実施内容を確認の上、充分に体調を整えておくこと。実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	インディアカのルールを理解し実践できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技
7/16 火 2限	中丸 信吾	インディアカ2	ゲーム(ホーム&アウェイ方式) 前期授業の振り返り	ルール チームワーク	実施内容を確認の上、充分に体調を整えておくこと。実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	インディアカのルールを理解し実践できる。 レクリエーションなスポーツの取り組み方について理解し実践できる。	各種スポーツでの道具使用の際には安全に十分注意する。	実技

科目名	科目コード	単位数	責任者
スポーツと健康 (トレーニングの基礎理論と方法)	SPH 101	1 (スポーツと健康 全体)	青木 和浩・柳谷 登志雄・河村 剛光 荻原 朋子・中丸 信吾・坂本 彰宏
学習内容・概要			
<p>健康やスポーツの基礎となる体力を高めるためのトレーニングの基礎理論並びに方法論についての理解を深める。  各自の体力に応じた様々なトレーニングの実践ならびに各自の目的に応じたトレーニングの活用方法について学習する。  授業内容は、トレーニングの基礎理論とその具体的方法について、教室での講義や実験室などの実習、体育館での実技を通して、健康やスポーツ科学への学問的な理解を深めることと各自の健康にかかわる体力向上を目的として展開する。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]  スポーツの基礎となる体力を高めるためのトレーニングの基礎理論並びに方法論についての理解を深め、各自の体力や目的に応じた様々なトレーニングを実践し活用することができる。  さらにスポーツを通じたコミュニケーション能力を身に付ける。</p>			
<p>[到達目標]  1.健康・スポーツに関わる基礎知識と各測定方法を理解する。  2.怪我を防ぐためのストレッチングを身に付ける。  3.体力を高めるためのトレーニング方法を身に付ける。  4.各種スポーツのルールを理解する。  5.各種スポーツを通してコミュニケーション能力を身に付ける。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>実技においては十分に体調を整えて授業に参加すること。  教室での実習においては当該授業内容のキーワードを事前に学習しておくこと。  実技・実習ともに授業後には実施した内容を振り返り、基礎理論と方法について理解を深めておくこと。  【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>授業は実技を中心に行うため体調を整えて受講すると共に安全面に留意すること。特にトレーニング場では、バーベルなどの用器具があるので安全面に十分配慮した行動をとること。また、各自、運動に適した服装と体育館用シューズを用意すること。            実習は、グループに分かれて進めるため、受講内容が前後することもある。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:            原則、以下の2項目から判定します。            ・授業での評価(授業内容ごとに計4回の評価:各20%、合計80%)            ・健康とスポーツに関するレポート課題(20%)</p> <p>成績評価基準:            個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>必要に応じて、授業時に各担当教員から資料を配布する。            〈参考〉順天堂大学スポーツ健康科学部編「体カトレーニング論(含実習)実習ノート」</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/17 火 3限	青木 和浩 柳谷 登志雄 荻原 朋子 河村 剛光 中丸 信吾	ガイダンス	授業の概要説明	授業概要、授業展開、成績評価	シラバスの内容を熟読しておくこと。	授業概要・授業展開・成績評価を理解する。	更衣不要	講義
9/24 火 3限	河村 剛光 青木 和浩	健康と体力	体力の定義・分類 体力測定	体力の分類、筋力、敏捷性 健康関連体力	「体力」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	体力の概念と体力測定方法について実習を通して理解し習得できる。	実験機材および測定器具使用の際には安全に十分注意する。	講義 実技
10/1 火 3限	河村 剛光 青木 和浩	スポーツと眼	競技力に関わる視機能と、その測定方法	動体視力、視野、反応時間	「動体視力」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	競技力に関わる視機能とその測定方法について実習を通して理解し習得できる。	実験機材および測定器具使用の際には安全に十分注意する。	講義 実技
10/8 火 3限	河村 剛光 青木 和浩	体脂肪の測り方	健康・スポーツに関わる体脂肪と、その測定方法	体脂肪率、身体組成、インピーダンス法	「体脂肪」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	健康・スポーツに関わる体脂肪とその測定方法について実習を通して理解し習得できる。	実験機材および測定器具使用の際には安全に十分注意する。	講義 実技
10/15 火 3限	中丸 信吾 青木 和浩	ストレッチング エアロバイク	各種ストレッチング 有酸素運動のトレーニング	シェイプアップ 柔軟性、障害予防	「ストレッチング」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	各種ストレッチングおよび有酸素運動のトレーニングについて実践を通して理解し習得できる。	トレーニング器具使用の際には安全に十分注意する。	実技
10/29 火 3限	中丸 信吾 青木 和浩	縄を用いた運動	縄を用いたゲーム、大縄跳び	健康づくり レクリエーション	「縄跳び運動」について事前に調べておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	レクリエーション(縄を用いた運動)を通してコミュニケーション能力を習得できる。	トレーニング器具使用の際には安全に十分注意する。	実技
11/5 火 3限	中丸 信吾 青木 和浩	メディシンボール	メディシンボールを用いた筋力トレーニング	健康づくり 筋持久力	「メディシンボール」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	メディシンボールを用いた筋力トレーニングについて実践を通して理解し習得できる。	トレーニング器具使用の際には安全に十分注意する。	実技
11/12 火 3限	荻原 朋子 青木 和浩	ネット型ゲーム	簡易化したバレーボール型ゲーム	コミュニケーション	「ネット型ゲーム」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	ネット型ゲーム(バレーボール)を通してグループにおけるコミュニケーション能力を習得できる。	実技実施の際には安全に十分注意する。	実技



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/26 火 3限	荻原 朋子 青木 和浩	ネット型ゲーム	バレーボール	コミュニケーション チームワーク	「バレーボール」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	ネット型ゲーム(バレーボール)を通してグループにおけるコミュニケーション能力を習得できる。	実技実施の際には安全に十分注意する。	実技
11/30 土 3限	柳谷 登志雄 青木 和浩	スカッシュ	スカッシュの基本技能	スカッシュの基本技能	「スカッシュ」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	スカッシュの基本技能を身に付ける	実技実施の際には安全に十分注意する。	実技
12/3 火 3限	柳谷 登志雄 青木 和浩	スカッシュ	スカッシュのルールとゲーム	スカッシュのルール	「スカッシュ」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	スカッシュのルールを理解しゲームを実施できる	実技実施の際には安全に十分注意する。	実技
12/10 火 3限	坂本 彰宏 青木 和浩	マシンウエイト	ウエイトスタック式マシンを用いた筋力トレーニング	ノーチラスマシン サイバックスマシーン	「マシンウエイト」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	マシンを用いた筋力トレーニングについて実践を通して理解し習得できる。	トレーニング器具使用の際には安全に十分注意する。	実技
12/17 火 3限	坂本 彰宏 青木 和浩	フリーウエイト	バーベルを用いた筋力トレーニング	筋力、筋肥大	「筋力」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	バーベルを用いた筋力トレーニングについて実践を通して理解し習得できる。	トレーニング器具使用の際には安全に十分注意する。	実技
1/7 火 3限	坂本 彰宏 青木 和浩	目的に応じた運動処方	体力や目的に応じたトレーニングプログラムの立案と実施	運動処方、体力レベル、運動の目的	「運動処方」について事前に学習しておくこと。 実施した内容を振り返り理解を深めておくこと。	目的に応じた運動処方について実践を通して理解し習得できる。	トレーニング器具使用の際には安全に十分注意する。	実技

科目名	科目コード	単位数	責任者
ライフサイエンスのための化学	CHM 101	1	馬場 猛・志村 絵理・石原 量
学習内容・概要			
<p><b>前期</b>            わずか100余りの元素があるだけで、これが組み合わせたり、組み換えられたりすることによりあらゆる物質が構成される。生命体もその例外ではなく高度に統一された非常に複雑な化学反応の積み重なりであり、化学物質の移動や反応が生命の営みと密接な関係を持っている。従って、生命現象を理解するためには、化学の知識、考え方は不可欠であろう。授業は基礎理論からスタートさせ、生命現象へとアプローチしていき、化学を理解するための基礎的概念を講義する。</p> <p><b>後期</b>            生体は有機物をはじめとした極めて多種類の化学物質の集合体であり、複雑な生体反応は化学実験室で起こる化学反応と同じ化学的原理、反応機構に従って進行する。授業では、生体構成成分であるアミノ酸、炭水化物、脂質、ヌクレオチドなどの構造と機能、及びそれら生体分子の諸反応(生合成、代謝、酵素反応、など)について有機化学の視点で概説する。</p>			
学習目標			
<p><b>【一般目標】</b>            生体内で起こる反応や生命現象を司る有機化合物がどのように、またなぜ連続的・化学変換、相互変換するかについて理解するため、化学の基礎的な知識を習得し、この基礎化学能力を応用するための基本的技能を身につける。</p>			
<p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学物質の生体への作用を化学理論と関連づけることができる。</li> <li>2. 生命現象を司る化合物の基本的な反応機構を理解できる。</li> <li>3. 生体物質の特性、構造と機能を理解することができる。</li> <li>4. 生体の代謝反応の全体の流れを説明できる。</li> <li>5. 化学の基礎的な知識を習得し、基礎化学能力を応用して生命現象を分子レベルで説明する力を身につけることができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校化学を事前に復習しておくこと。</li> <li>・常に生命科学関係の記事に注目し、最新の知識を身につける態度を養うこと。</li> </ul> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b>            1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生番号順に2クラスに分けて授業を展開する。</li> <li>• 化学は暗記だけではなく、考え方や原理を理解することが大切である。必ず復習し、理解を確実にしておくことが重要である。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p><b>【成績評価方法】</b> 定期試験の成績(80%)、授業内に行う確認問題(10%)、取り組む姿勢(10%)を総合的に評価する。</p> <p><b>【成績評価基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 物質の構造や性質について生体への作用と関連づけて説明できる。 (到達目標1、3、5: 定期試験・確認問題)</li> <li>• 化学反応に関わる計算問題を解答できる。 (到達目標1、5: 定期試験・確認問題)</li> <li>• 有機化学の基本的な反応機構を示すことができる。 (到達目標2、5: 定期試験・確認問題)</li> <li>• 生体の代謝に登場する物質やその反応の流れを整理して説明できる。 (到達目標4、5: 定期試験・確認問題)</li> </ul>	<p><b>【指定教科書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• General Chemistry: The Essential Concepts 6th edition (McGraw-Hill)</li> <li>• The Organic Chemistry Of Biological Pathways (Roberts &amp; Company)</li> </ul> <p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• メディカル化学(裳華房)</li> <li>• バイオサイエンス化学(東京化学同人)</li> </ul> <p>プリントを配布する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/16 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	溶液の化学	生体分子の溶解とその溶液	浸透圧、溶解度、溶媒和	溶解と溶液の性質について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	物質の溶解と溶液の性質を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		溶液の化学(演習)	生体分子の溶解とその溶液	浸透圧、溶解度、溶媒和		物質の溶解と溶液の性質を説明することができる。		授業時間内で理解するように努めること。
4/23 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	化学反応速度論	生体反応とその反応速度	一次反応、活性化エネルギー、酵素反応、ミカエリス・メンテン	化学反応の速度について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	化学反応の速度は何で決まるかを説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		化学反応速度論(演習)	生体反応とその反応速度	一次反応、活性化エネルギー、酵素反応、ミカエリス・メンテン		化学反応の速度は何で決まるかを説明することができる。		授業時間内で理解するように努めること。
5/7 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	酸・塩基と緩衝液	生体液の性質	水素イオン濃度、酸解離定数、塩の加水分解、緩衝液	緩衝作用について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	酸・塩基からpH緩衝作用を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		酸・塩基と緩衝液(演習)	生体液の性質	水素イオン濃度、酸解離定数、塩の加水分解、緩衝液		酸・塩基からpH緩衝作用を説明することができる。		授業時間内で理解するように努めること。
5/14 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生体系における熱力学	ATPと化学エネルギー	エンタルピー、エントロピー、ギブス自由エネルギー、解糖系	熱力学について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	化学エネルギーとは何かを説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生体系における熱力学(演習)	ATPと化学エネルギー	エンタルピー、エントロピー、ギブス自由エネルギー、解糖系		化学エネルギーとは何かを説明することができる。		授業時間内で理解するように努めること。
5/18 土 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	酸化還元反応	生体と酸化・還元	ネルンストの式、電子伝達系、膜電位	酸化還元反応について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	酸化還元反応とは何かを説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		酸化還元反応(演習)	生体と酸化・還元	ネルンストの式、電子伝達系、膜電位		酸化還元反応とは何かを説明することができる。		授業時間内で理解するように努めること。
5/21 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	原子の構造と性質①	原子の電子構造	プランク定数、ボーア理論、バルマー系列、ハイゼンベルグの不確定性原理	ボーア理論について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	水素原子のスペクトル、ボーアの理論について説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		原子の構造と性質①(演習)	原子の電子構造	プランク定数、ボーア理論、バルマー系列、ハイゼンベルグの不確定性原理		水素原子のスペクトル、ボーアの理論について説明することができる。		授業時間内で理解するように努めること。
5/28 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	原子の構造と性質②	原子軌道	シュレーディンガー方程式、波動関数、原子軌道、電子配置	原子軌道について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	原子軌道の概念を把握し、原子の電子配置について説明できる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		原子の構造と性質②(演習)	原子軌道	シュレーディンガー方程式、波動関数、原子軌道、電子配置		原子軌道の概念を把握し、原子の電子配置について説明できる。		授業時間内で理解するように努めること。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/4 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	確認演習	前期前半の復習	物質の状態と変化	これまでの講義を復習しておくこと。	物質の状態と変化を理解し、基礎的な化学計算ができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
		確認演習	前期前半の復習	物質の状態と変化		物質の状態と変化を理解し、基礎的な化学計算ができる。	授業時間内で理解するように努めること。	発表
6/11 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	化学結合①	共有結合	共有結合、ルイス構造、形式電荷、オクテット則	共有結合について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	化学結合の成り立ちについて説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		化学結合①(演習)	共有結合	共有結合、ルイス構造、形式電荷、オクテット則		化学結合の成り立ちについて説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
6/15 土 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	化学結合②	分子の構造と原子軌道の混成	原子価結合法、混成軌道、分子軌道法	混成軌道について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	分子の形成を原子軌道・分子軌道から説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		化学結合②(演習)	分子の構造と原子軌道の混成	原子価結合法、混成軌道、分子軌道法		分子の形成を原子軌道・分子軌道から説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
6/25 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	分子間相互作用	生体と分子間力	静電的相互作用、ファンデルワールス力、水素結合、疎水性相互作用	分子にはたらく力について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	化合物や分子をつくる分子間相互作用を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		分子間相互作用(演習)	生体と分子間力	静電的相互作用、ファンデルワールス力、水素結合、疎水性相互作用		化合物や分子をつくる分子間相互作用を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
7/2 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	配位化合物の化学	生体における錯体	キレート剤、配位子、結晶場理論	配位結合について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	有機金属化合物を形成する配位結合を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		配位化合物の化学(演習)	生体における錯体	キレート剤、配位子、結晶場理論		有機金属化合物を形成する配位結合を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
7/9 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	核化学	生物に対する放射線の影響	核分裂、核融合、質量欠損	放射線について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	放射性物質の有用性と環境問題を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		核化学(演習)	生物に対する放射線の影響	核分裂、核融合、質量欠損		放射性物質の有用性と環境問題を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
7/16 火 3限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	有機化学序論	官能基の化学	官能基、鏡像異性体、ラセミ混合物	有機化合物の基本的な構造について学習しておくこと。 講義中に出された問題を解いておくこと。	有機化合物の異性体を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		有機化学序論(演習)	官能基の化学	官能基、鏡像異性体、ラセミ混合物		有機化合物の異性体を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/17 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学序論①	ケクレ構造式	ケクレ構造式、形式電荷、孤立電子対	分子の色々な書き表し方について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	ケクレ構造式を読み解くことができる	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学序論①(演習)	ケクレ構造式	ケクレ構造式、形式電荷、孤立電子対		ケクレ構造式を読み解くことができる	授業時間内で理解するように努めること。	演習
9/24 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学序論②	共鳴	電子密度、共鳴構造、 $\pi$ 結合	共鳴構造について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	共鳴とは何かを説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学序論②(演習)	共鳴	電子密度、共鳴構造、 $\pi$ 結合		共鳴とは何かを説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
10/1 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学序論③	酸-塩基反応	共役塩基、誘起、軌道	共役塩基について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	酸-塩基の化学を論じることができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学序論③(演習)	酸-塩基反応	共役塩基、誘起、軌道		酸-塩基の化学を論じることができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
10/8 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学に共通する反応機構①	置換反応	求核、求電子、 $S_N1$ 反応、 $S_N2$ 反応	求核・求電子について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	置換反応の反応機構を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学に共通する反応機構①(演習)	置換反応	求核、求電子、 $S_N1$ 反応、 $S_N2$ 反応		置換反応の反応機構を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
10/15 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学に共通する反応機構②	脱離反応	E1反応、E2反応、脱離基	塩基について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	脱離反応の反応機構を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学に共通する反応機構②(演習)	脱離反応	E1反応、E2反応、脱離基		脱離反応の反応機構を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
10/29 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学に共通する反応機構③	付加反応	位置選択性、マルコフニコフ、アンチマルコフニコフ	位置選択性について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	付加反応の反応機構を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学に共通する反応機構③(演習)	付加反応	位置選択性、マルコフニコフ、アンチマルコフニコフ		付加反応の反応機構を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
11/5 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	確認演習	後期前半の復習	反応機構	これまでの講義を復習しておくこと。	化合物の基本的な反応機構を理解することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
		確認演習	後期前半の復習	反応機構		化合物の基本的な反応機構を理解することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	発表

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/12 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学反応機構①	生体分子	アミノ酸、核酸、補酵素	核酸などの一般的な生体分子について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	一般的な生体分子について論じることができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学反応機構①(演習)	生体分子	アミノ酸、核酸、補酵素		一般的な生体分子について論じることができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
11/26 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学反応機構②	炭水化物の化学	単糖、多糖、グルコース	糖質について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	炭水化物の基本的構造と機能を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学反応機構②(演習)	炭水化物の化学	単糖、多糖、グルコース		炭水化物の基本的構造と機能を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
11/30 土 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学反応機構③	炭水化物代謝	解糖、ピルビン酸、クエン酸回路	糖質の基本的構造について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	解糖とクエン酸回路を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学反応機構③(演習)	炭水化物代謝	解糖、ピルビン酸、クエン酸回路		解糖とクエン酸回路を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
12/3 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学反応機構④	脂質の化学	脂質二重層、生体膜、コレステロール	脂質について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	脂質の基本的構造と機能を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学反応機構④(演習)	脂質の化学	脂質二重層、生体膜、コレステロール		脂質の基本的構造と機能を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
12/10 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学反応機構⑤	脂質代謝	トリアシルグリセロール、脂肪酸、ステロイド	脂質について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	脂質の消化と輸送を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学反応機構⑤(演習)	脂質代謝	トリアシルグリセロール、脂肪酸、ステロイド		脂質の消化と輸送を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
12/17 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学反応機構⑥	アミノ酸代謝	脱アミノ化、尿素回路、異化代謝	アミノ酸について学習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	尿素合成の経路とアミノ酸の異化代謝を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学反応機構⑥(演習)	アミノ酸代謝	脱アミノ化、尿素回路、異化代謝		尿素合成の経路とアミノ酸の異化代謝を説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習
1/7 火 2限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量	生物化学反応機構⑦	エネルギー代謝の統合と制御	糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝	生物化学反応機構①～⑥について復習しておくこと。講義中に出された問題を解いておくこと。	臓器間の代謝のつながりについて説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	講義
		生物化学反応機構⑦(演習)	エネルギー代謝の統合と制御	糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝		臓器間の代謝のつながりについて説明することができる。	授業時間内で理解するように努めること。	演習

科目名	科目コード	単位数	責任者
人体物理学	PHY 101	1	田中 和廣・清 裕一郎
学習内容・概要			
<p>・ 人体を形作る骨や筋肉は、それらにかかる力の大きさや向きも、それらの動きも力学法則に従っている。また、血液のような流体の運動も、力学法則に従っている。前期は、これら人体の現象のしくみを理解するために、具体例と照らし合わせながら力学を勉強する。</p> <p>・ 人体の神経伝達も、呼吸や心臓の動きを引き起こす筋肉活動も、電磁気学の法則が深くかかわっている。また、医療検査や治療においても、電磁気学の法則が応用されているものがたくさんある。後期は、それらのしくみを理解するために、具体例と照らし合わせながら電磁気学・放射線を勉強する。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 力学及び電磁気学から放射線までの物理の基本を習得し、人体及び医療における物理現象を理解し説明できるようになる。</li> <li>・ 静力学における「力のつりあい・力のモーメントのつりあい」、動力学における「運動方程式」「運動量・エネルギー・角運動量の保存」を理解し、応用できるようになる。</li> <li>・ 電磁気学における「静電場」「電気回路」「電磁波」「生体電気」「磁気とMRI」の原理と、放射線の人体への影響を理解できるようにする。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 力のつりあい・力のモーメントのつりあいを用いて、ボディメカニクスを説明できる。</li> <li>2. 運動方程式および運動量・エネルギーの計算を用いて、着地や衝突による人体への力学的影響を説明できる。</li> <li>3. ベルヌーイの法則及びポアズイユの法則を説明でき、血圧や血流に応用できる。</li> <li>4. 超音波の性質を理解して、超音波画像診断装置のしくみを説明できる。</li> <li>5. 細胞膜電位の発生機構と活動電位の伝導を物理法則に関連づけて説明できる。</li> <li>6. 放射線の種類、性質、単位を理解し、放射線の生体への影響や医療への応用を説明できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習: 指定教科書“Physics in Biology and Medicine” Paul Davidovits の指定箇所をあらかじめ読んでおくこと。</li> <li>・ 復習: 学習箇所を復習し指定教科書のEXERCISESに挑戦すること。疑問等が湧いてきたら次回の講義でクラスで議論しよう。</li> <li>・ 課題レポート: レポート作成の際は、調べたことを自分の論理で再構築し、理解を助ける図式等を用いて書く事。ネット検索のみならず、テキストや書籍で内容を確認するように習慣づけるとよい。丸写しは厳禁。</li> </ul> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業には積極的に参加することが重要である。疑問に思ったことについて、積極的に質問し、議論を通じて理解をしていくように努めること。</li> <li>・ 演習問題、参考プリント等を授業中に配布するので、自主的に学習すること。自分の手でためて確認し、考察し、話し合ってください。</li> <li>・ 授業日程は、授業の進行状況により多少前後することがある。</li> <li>・ 授業はクラス分けがあり、物理で受験した学生及び高校で物理を履修した学生はAクラスを、それ以外の学生はBクラスを履修すること。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(プレテスト, 小テスト, レポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 定期試験(70%)、課題レポート(30%)、積極的な参加態度を総合的に評価する。</p> <p>成績評価基準: 1. 力学・電磁気学等の問題について、その背景を具体的に述べることができる(レポート) 2. 力学・電磁気学等の基本的な用語の意味を理解している(定期試験) 3. 力学・電磁気学等の法則性について、論理的に説明できる(定期試験) 4. 授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する</p>	<p>【指定教科書】 “Physics in Biology and Medicine” Paul Davidovits, Academic Press</p> <p>【参考教科書】 「物理 生命科学のための基礎シリーズ」川久保達之、工藤成史、古野泰二、前田忠計 実教出版</p> <p>【参考書】 「力学と電磁気学」原康夫 東京教学社 「力と運動」 Paul G. Hewitt, John Suchocki and Leslie A. Hewitt 共立出版 「ファインマン物理学1 力学」坪井忠二訳 岩波書店</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[Aクラス]								
4/15 月 1限	田中 和廣	生体のしくみ・活動と物理法則	アクティブラーニングのスケジュール決め	active learning	予習)前期の14回の授業の日程を確認してくること。	複雑な生命システムも物理法則にしたがっていることを理解できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		エネルギー保存則と運動方程式	微積分を使った力学入門	velocity, acceleration, potential energy, conservation of energy	復習)指定教科書のPrefaceを自己学習すること。	ニュートンの運動方程式を微分方程式として説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
4/22 月 1限	田中 和廣	からだの平衡と安定性	人体に生じる力のつり合い	center of mass, reaction force, static equilibrium	予習)指定教科書の§1.0~1.2を自己学習してくること。	重心の位置と安定性の関係を説明できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		微分方程式としての運動方程式	落下運動でどのように終端速度に近づくか?	equation of motion	復習)授業で出題するレポート課題に挑戦すること。	空気中や液体中での落下の運動方程式の解を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
4/27 土 1限	田中 和廣	倒されそうになったら?	からだの安定性は何で決まるのか?	torque, stability of bodies, forces by skeletal muscles	予習)指定教科書の§1.3~1.4を自己学習してくること。	トルクのつり合いを用いて姿勢と安定性の関係を説明できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		剛体の回転の運動方程式	回転の慣性は何で決まるのか?	angular velocity, angular acceleration, moment of inertia	復習)回転の運動方程式の導出を復習すること。	慣性モーメント、トルクを使って、剛体の運動方程式を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
5/13 月 1限	田中 和廣	前腕とひじをてこに見立てると?	関節の静力学	three types of levers, fulcrum, lever model, pivot point, elbow with a weight	予習)指定教科書の§1.5~1.6を自己学習してくること。	てこの3種のクラス分類と特性を説明できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		物理振り子の周期運動	調和振動子の運動方程式の解は?	period and frequency of a simple harmonic motion	復習)授業で出題するレポート課題に挑戦すること。	固定軸のまわりの物理振り子のゆれの周期を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
5/20 月 1限	田中 和廣	前かがみで持ち上げると腰への負担はどのくらい?	股関節および腰椎にはたらく力	force and torque balance, limping, bent back	予習)指定教科書の§1.7~1.8を自己学習してくること。	力とトルクのつり合いを、いろいろな関節に適用できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		体の重みで脚はどれだけ縮むか?	骨に生じるひずみと応力	strain, stress, Young's modulus	復習)指定教科書の§5.0~5.2を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	ひずみ、応力、ヤング率の関係を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/25 土 1限	田中 和廣	つま先片足直立時のアキレス腱	アキレス腱にはたらく引張力は？	standing tip-toe	予習) 指定教科書の § 1.9～1.10を自己学習してくること。	力とトルクのつり合いを使って、人体への応用問題が解ける。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		飛び降りたときの骨折リスクは？	着地の衝撃	impact force by falling and landing	復習) 指定教科書の § 5.3～5.4を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	運動量保存則を使って、着地で人体が受ける衝撃を求めることができる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
5/27 月 1限	田中 和廣	人体と摩擦	摩擦がないと歩けない！	static friction, kinetic friction, coefficients of friction, hip joint	予習) 指定教科書の § 2.0～2.2を自己学習してくること。	摩擦力について、人体への応用問題が解ける。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		Exercises and discussions in English I	Dynamics of human body in collisions	airbags, whiplash injury in a rear-end collision	復習) 指定教科書の § 5.5～5.9を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	人体における動力学と筋肉・骨の破壊強度から、けがの危険を推測できる。	アクティブラーニングの議論、質疑応答に積極的に取り組むこと。英語での演習と質疑応答にも挑戦！	演習・討論
6/3 月 1限	田中 和廣	月面では垂直跳びの記録はいくらになるか？	等加速度運動と垂直跳び	uniform acceleration, effect of gravity, work and power	予習) 指定教科書の § 3.0～3.2を自己学習してくること。	等加速度運動の応用として、垂直跳びの高さを説明できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		水に沈まずに浮かび続けるには？	静止している流体	pressure, Pascal's principle, buoyancy	復習) 指定教科書の § 7.0～7.2, 7.4, 7.5を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	圧力と浮力の関係を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
6/10 月 1限	田中 和廣	さまざまな跳躍競技の動力学	走り高跳び、棒高跳び、走り幅跳びの記録の限界は？	running high jump, pole vaulting, running broad jump	予習) 指定教科書の § 3.3～3.6を自己学習してくること。	放物運動の応用として、さまざまな跳躍競技で見られる軌道を説明できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		大きい風船と小さい風船でどちらが内部の圧力が高いか？	表面張力とは？	surface tension, Laplace's law	復習) 指定教科書の § 7.7, 7.9を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	表面張力を使って、ラプラスの法則を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
6/17 月 1限	田中 和廣	スカイダイバーの運命	サイズが倍になると終端速度は何倍になるか？	effect of air resistance, terminal velocity, energy consumption	予習) 指定教科書の § 3.7～3.8を自己学習してくること。	終端速度のサイズ依存性を説明できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		Exercises and discussions in English II	Applications of surface tension	capillary action	復習) 指定教科書の § 7.3, 7.11を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	表面張力を使って、毛管現象と負の圧力を説明できる。	アクティブラーニングの議論、質疑応答に積極的に取り組むこと。英語での演習と質疑応答にも挑戦！	演習・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/22 土 1限	田中 和廣	ランナーはカーブでなぜ内側に傾くのか？	遠心力のトルクは？	centrifugal force, angular velocity	予習) 指定教科書の § 4.0~4.3を自己学習してくること。	運動によりからだに加わる慣性力とそのトルクを説明できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		流体の運動におけるエネルギー保存	ベルヌーイの法則	Bernoulli's equation, flow rate, equation of continuity	復習) 指定教科書の § 8.0~8.1を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	側圧、静水圧、動圧を使ってベルヌーイの法則を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
6/24 月 1限	田中 和廣	背の高さが倍だと歩く速さは何倍になるか？	歩行とランニングの動作の振り子モデル	physical pendulum, moment of inertia	予習) 指定教科書の § 4.4~4.6を自己学習してくること。	歩行動作の特性を物理振り子に見立てて説明できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		逆立ちしたとき顔が真っ赤になるのは？	さまざまな部位の血圧	blood pressure, aorta, systolic pressure, diastolic pressure	復習) 指定教科書の § 8.4~8.6, 8.11を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	ベルヌーイの法則を応用して、部位による血圧の違いを説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
7/1 月 1限	田中 和廣	ランニングでのエネルギー消費量は？	物理振り子の運動エネルギー	energy expended in running, maximum rotational energy	予習) 指定教科書の § 4.7~4.9を自己学習してくること。	ランニングのエネルギー消費量を見積もることができる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		粘性のある流体が細い管内を流れると？	エネルギーロスによる圧力降下は？	viscosity, Poiseuille's law, laminar flow, turbulent flow	復習) 指定教科書の § 8.2~8.3を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	粘性とポアズイユの法則を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
7/8 水 1限	田中 和廣	昆虫の飛翔の物理学	ミツバチのホバリングのエネルギー消費	hovering flight, insect wing muscles, power for hovering	予習) 指定教科書の § 6.0~6.5を自己学習してくること。	前期授業で学んだ内容を総合して昆虫の飛翔を分析できる。	アクティブラーニングの発表、質疑応答に積極的に取り組むこと。	発表・討論
		Exercises and discussions in English III	Pressure and flow in human body	arterial blood pressure in the head and the legs, power by the pumping action of the heart	復習) 指定教科書の § 8.7~8.10を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	人体における圧力や流体力学から、血圧、血液循環を考えることができる。	アクティブラーニングの議論、質疑応答に積極的に取り組むこと。英語での演習と質疑応答にも挑戦！	演習・討論
9/28 土 3限	清 裕一郎	超音波1: 超音波の伝搬	超音波で距離を測る	period, frequency, wavelength, repetition frequency, resolution	予習) 指定教科書の § 12.1を自己学習してくること。	波動に関する基本的な用語を理解して、波形を描くことができる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		超音波1: 超音波の伝搬	生体内を伝搬する超音波	acoustic impedance, reflection and transmission	復習) 指定教科書の § 12.3.3を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	音響インピーダンスから透過波/反射波の強度を計算できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/30 月 3限	清 裕一郎	超音波2:超音波画像	超音波で体内を見る	pulse echolocation, probe, A-mode, B-mode, M-mode	予習) 指定教科書の § 12.4 を自己学習してくる。	超音波画像がどのようにして作られるか理解し説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		超音波2:超音波画像	超音波の屈折, ドップラー法	Doppler effect, Snell's law, refraction, diffraction	復習) 指定教科書の § 12.8 をを復習し関連する演習問題を自己学習すること。	屈折の法則, ドップラー法を用いた血流測定の方法を説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論
10/7 月 3限	清 裕一郎	超音波3:まとめと確認テスト	超音波の医療への応用	sonogram, probe, artifact	予習) 配布プリント(超音波1~3)を自己学習してくる。	超音波が医療機器にどのように利用されているか説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		Exercises and discussions in English I	超音波の人体への影響	sonogram, probe, artifact	復習) 超音波画像診断装置の人体に与える影響と安全性について復習すること。	超音波が人体に与える影響を理解し説明できる。	グループで演習問題に取り組み、解答を英語で発表してみよう。	演習・討論
10/21 月 3限	清 裕一郎	生体電気1:電場と電位	電場と電位の数学的表現	Coulomb's law, potential energy, electric dipole	予習) 指定教科書の Appendix B を自己学習してくる。	電場と電位の物理的な意味を説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		生体電気1:電場と電位	心電図は何を測っているのか	Electrocardiogram(ECG), Einthoven's triangle, Kirchhoff's law	復習) 指定教科書の § 14.2.1 を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	ダイポールの作る電位を説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論
10/28 月 3限	清 裕一郎	生体電気2:軸索の電気的特性	軸索の形状と電気抵抗	Ohm's law, voltage, resistance, capacitance, length constant	予習) 指定教科書の § 13.1.4 を自己学習してくる。	軸索の形状から電気抵抗を計算できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		生体電気2:軸索の電気的特性	膜電位の発生機構を理解しよう	membrane potential, osmotic pressure, chemical potential, Nernst equation	復習) 指定教科書の § 13.1.2 を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	膜電位の発生機構を説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論
11/11 月 3限	清 裕一郎	生体電気3:活動電位の伝搬	軸索を流れるイオン電流	electric resistance, length constant	予習) 指定教科書の § 13.1.4 を自己学習してくる。	軸索の電気的な特性から長さ定数を計算し、その物理的な意味を説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		生体電気3:活動電位の伝搬	活動電位はどのようにして伝搬するのか?	action potential, ion channel, voltage-gated channel	復習) 指定教科書 § 13.1.5 を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	神経伝導とイオン・チャンネルの関係を説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/25 月 3限	清 裕一郎	生体電気4: まとめと確認テスト	Na-Kポンプとエネルギー収支	Na-K pump, chemical potential	予習) 配布プリント(生体電気1~4)を復習して授業に臨むこと。	化学ポテンシャルを用いてNa-Kポンプにおけるエネルギー収支を計算できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		Exercises and discussion in English 2	人間も電気回路である	Na-K pump, chemical potential	復習) 神経伝導における、膜電位、イオン・チャンネル、ポンプの存在意義について復習すること。	神経伝導を理解するための物理法則について説明できる。	グループで演習問題に取り組み、解答を英語で発表してみよう。	演習・討論
12/2 月 3限	清 裕一郎	MRI1:プロトン・スピン	スピンと磁石の関係	spin, magnetic moment, gyromagnetic ratio,	予習) 前期人体物理の「慣性モーメント、トルク」の箇所を復習して臨むこと。	プロトン・スピンと磁気モーメントの関係について説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		MRI1:プロトン・スピン	スピンの歳差運動	Lamor frequency, precession, rotating frame	復習) 配布プリント(MRI1)を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	スピンの歳差運動について運動方程式を用いて説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論
12/9 月 3限	清 裕一郎	MRI2:核磁気共鳴	電磁波でスピンを操る	nuclear magnetic resonance, radio frequency, Bloch equation	予習) 指定教科書の§17.2.1を自己学習してくる。	核磁気共鳴とラーマー周波数の関係について説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		MRI2:核磁気共鳴	縦緩和・横緩和	longitudinal relaxation time, transverse relaxation time	復習) 配布プリント(MRI2)を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	磁場中の核磁化の励起と緩和について物理的なピックアップを説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論
12/13 金 3限	清 裕一郎	MRI3:FIDシグナル	電磁誘導とシグナル測定	free induction decay, Faraday's law, electromagnetic induction	予習) 指定教科書§17.2.2を自己学習してくる。	電磁誘導の法則とFIDシグナルの関係を説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		MRI3:FIDシグナル	T1強調画像・T2強調画像	spin echo, exponential decay, relaxation time, T1 weighted image, T2 weighted image, density weighted image	復習) 配布プリント(MRI3)を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	T1強調画像とT2強調画像の特徴を説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論
12/16 月 3限	清 裕一郎	MRI4:まとめと確認テスト	MRI画像はどのようにして作られる	fourier imaging, NMR imaging	予習) 配布プリント(MRI1~4)を復習して授業に臨むこと。	核磁気共鳴とMRI画像の関係について説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		Exercises and discussion in English 3	医療とMRI	NMR imaging, functional MRI	復習) プロトンスピン、電磁波、核磁気共鳴とMRI画像の関係を復習して関連する演習問題を自己学習すること。	静磁場の人体への影響とMRIの安全性について説明できる。	グループで演習問題に取り組み、解答を英語で発表してみよう。	演習・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/21 土 3限	清 裕一郎	放射線1:原子の構造	原子を作っているもの	atom, electron, nucleus	予習) 指定教科書 § 16.1を自己学習してくる。	原子と原子核の構造について説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		放射線1:原子の構造	原子核と陽子・中性子	nucleon, proton, neutron, quark	復習) 配布プリント(放射線1)を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	放射性壊変について説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論
1/6 月 3限	清 裕一郎	放射線2:放射性物質と放射線	放射性物質と放射線の違い	half-life, radioactive isotope, radial rays, alpha ray, beta ray, gamma ray	予習) 指定教科書 § 16.5を自己学習してくる。	放射性物質と放射線について説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		放射線2:放射性物質と放射線	放射線量の単位	Units of radiation dose: Bq, Gry, Sv	復習) 指定教科書 § 17.3を復習し関連する演習問題を自己学習すること。	放射線量に関する単位について説明できる。	グループ・ワークに取り組み、活発に議論すること。	演習・討論
1/14 火 3限	清 裕一郎	放射線3:まとめと確認テスト	物理学的半減期と生物学的半減期	physical half-life, biological half-life	予習) 配布プリント(放射線1~3)を復習して授業に臨むこと。	放射線の医療への応用について説明できる。放射線防護の3原則について説明できる。	講義中は集中して、グループ・ワークに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		Exercises and discussion in English 4	放射線が人体に与える影響	Bq, Gy, Sv	復習) 配布プリント(放射線2)を復習に活用すること。	放射線が人体に与える影響を説明できる。	グループで演習問題に取り組み、解答を英語で発表してみよう。	演習・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[Bクラス]								
4/15 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	静力学の基礎1	アーチ橋はなぜ強い?	vector, addition and decomposition of forces, static equilibrium,	指定教科書の1ページから8ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	力のつり合いを理解し、力の分解・合成ができるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		静力学の基礎2	アーチ橋はなぜ強い?	vector, addition and decomposition of forces, static equilibrium,	指定教科書の1ページから8ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	力のつり合いを理解し、力の分解・合成ができるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
4/22 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	からだの静力学1	人体に生じる力のつり合い	vector, addition and decomposition of forces, static equilibrium, forces by skeletal muscles	指定教科書の1ページから8ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	力のつり合いを理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		からだの静力学2	人体に生じる力のつり合い	vector, addition and decomposition of forces, static equilibrium, forces by skeletal muscles	指定教科書の1ページから8ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	力のつり合いを理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
4/27 土 1限	田中 和廣 清 裕一郎	からだの安定性は何で決まるのか?1	人体の重心はどこだ?	center of mass, torque, three types of levers, fulcrum, stability of bodies	指定教科書の3ページから6ページと56ページから58ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	力のモーメントのつり合いを理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		からだの安定性は何で決まるのか?2	人体の重心はどこだ?	center of mass, torque, three types of levers, fulcrum, stability of bodies	指定教科書の3ページから6ページと56ページから58ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	力のモーメントのつり合いを理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
5/13 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	関節の静力学1	腰への負担はどのくらい?	lever model, pivot point, force and torque balance	指定教科書の9-20ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	力と力のモーメントのつり合いを理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		関節の静力学2	腰への負担はどのくらい?	lever model, pivot point, force and torque balance	指定教科書の9-20ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	力と力のモーメントのつり合いを理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
5/20 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	Exercises and discussions in English I 1	Statics of human body - arm, hip, lower back, foot-	elbow with a weight, bent back, standing tip-toe	指定教科書の21-22ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	人体における静力学を活かした看護への利用などを考える。	グループで英語のみを用いて、問題に取り組み、その後英語で発表する。	講義・討論
		Exercises and discussions in English I 2	Statics of human body - arm, hip, lower back, foot-	elbow with a weight, bent back, standing tip-toe	指定教科書の21-22ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	人体における静力学を活かした看護への利用などを考える。	グループで英語のみを用いて、問題に取り組み、その後英語で発表する。	講義・討論



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/25 土 1限	田中 和廣 清 裕一郎	並進運動と衝突1	コインを衝突させると、どうなる？	velocity, Newton's cradle, conservation of momentum and energy	指定教科書の275ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	運動量及びエネルギーの保存を理解し、力学の基礎問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		並進運動と衝突2	コインを衝突させると、どうなる？	velocity, Newton's cradle, conservation of momentum and energy	指定教科書の275ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	運動量及びエネルギーの保存を理解し、力学の基礎問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
5/27 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	さまざまな動作の運動学1	磁石をはさんで、パチンコ玉をぶつけると、どうなる？	uniform acceleration, work and power	指定教科書の274ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	外力のある時の運動量の非保存を理解し、力学の基礎問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		さまざまな動作の運動学2	磁石をはさんで、パチンコ玉をぶつけると、どうなる？	uniform acceleration, work and power	指定教科書の274ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	外力のある時の運動量の非保存を理解し、力学の基礎問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
6/3 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	さまざまな動作の動力学3	重いものと軽いもの、どちらが先に落ちるのか？	equation of motion, effect of gravity and air resistance, energy consumption	指定教科書の30-42ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	自由落下及び運動方程式を理解し、力学の基礎問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		さまざまな動作の動力学4	重いものと軽いもの、どちらが先に落ちるのか？	equation of motion, effect of gravity and air resistance, energy consumption	指定教科書の30-42ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	自由落下及び運動方程式を理解し、力学の基礎問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
6/10 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	Exercises and discussions in English II 1	Dynamics in human body - bone fracture due to a fall-	impact force by falling and landing, whiplash injury in a rear-end collision	指定教科書の43ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	人体における動力学から、衝撃やけがについて、応用を考える。	グループで英語の取り組みを用いて、問題に取り組み、その後英語で発表する。	講義・討論
		Exercises and discussions in English II 2	Dynamics in human body - bone fracture due to a fall-	impact force by falling and landing, whiplash injury in a rear-end collision	指定教科書の43ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	人体における動力学から、衝撃やけがについて、応用を考える。	グループで英語の取り組みを用いて、問題に取り組み、その後英語で発表する。	講義・討論
6/17 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	回転運動と物理振り子の動力学1	歩行とランニングの動作の振り子モデル	centrifugal force, angular velocity, moment of inertia, frequency	指定教科書の45-59ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	回転運動を理解し、力学の基礎問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		回転運動と物理振り子の動力学2	歩行とランニングの動作の振り子モデル	centrifugal force, angular velocity, moment of inertia, frequency	指定教科書の45-59ページを自己学習してくる。講義内容をまとめておく(復習)。	回転運動を理解し、力学の基礎問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/22 土 1限	田中 和廣 清 裕一郎	静止している流体1	からだの中の圧力	pressure, Pascal's principle, buoyancy of aquatic animals	指定教科書の82-99ページを自己学習してくること	圧力を理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		静止している流体2	からだの中の圧力	pressure, Pascal's principle, buoyancy of aquatic animals	指定教科書の82-99ページを自己学習してくること	圧力を理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
6/24 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	流体の圧力と流速1	胃洗浄をしてみよう	Bernoulli's law, viscosity, blood pressure,	指定教科書の101-102,107-113ページを自己学習してくること。講義内容をまとめておく(復習)。	流体の法則を理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		流体の圧力と流速2	胃洗浄をしてみよう	Bernoulli's law, viscosity, blood pressure,	指定教科書の101-102,107-113ページを自己学習してくること。講義内容をまとめておく(復習)。	流体の法則を理解し、人体への応用問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
7/1 月 1限	田中 和廣 清 裕一郎	粘性のある流体の運動1	ドロドロ血液だどう流れる?	viscosity, Poiseuille's law, blood pressure	指定教科書の103-115ページを自己学習してくること。講義内容をまとめておく(復習)。	粘性流体の法則を理解し、血圧との関係の問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
		粘性のある流体の運動2	ドロドロ血液だどう流れる?	viscosity, Poiseuille's law, blood pressure	指定教科書の103-115ページを自己学習してくること。講義内容をまとめておく(復習)。	粘性流体の法則を理解し、血圧との関係の問題が解けるようになる。	積極的に演示実験や議論に参加すること。	講義・討論
7/8 水 1限	田中 和廣 清 裕一郎	Exercises and discussions in English III	Pressure and flow in human body	pressure, Pascal's principle, Bernoulli's law, Poiseuille's law, buoyancy of aquatic animals	指定教科書の114-115ページを自己学習してくること。講義内容をまとめておく(復習)。	人体における圧力や流体力学から、循環や看護応用などを考える。	グループで英語のみを用いて、問題に取り組み、その後英語で発表する。	講義・討論
		Exercises and discussions in English VI	Physics in human body and medicine	Static forces, motions and forces, fluids	指定教科書の1-116ページを自己学習してくること。講義内容をまとめておく(復習)。	人体及び医療における物理現象を取り上げて、前期に学んだ物理法則を適応して分析する。	グループで英語のみを用いて、問題に取り組み、その後英語で発表する。	講義・討論
9/28 土 3限	田中 和廣	音波	音はどう伝わるか	period, frequency, hertz (Hz), pure tone, wavelength, intensity	予習) 指定教科書の§ 12.0~12.2.3を自己学習してくること。	波動に関する基本的な用語を理解して、波形を描くことができる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		波動としての音	重ね合わせと干渉	reflection, refraction, superposition, interference, standing wave, resonant frequency, coherent	復習) 授業の参考資料を復習に活用し、指定教科書の関連する演習問題を自己学習すること。	正弦波およびその重ねあわせを用いて、音波の性質を説明できる。	アクティブラーニングに取り組み、活発に議論すること。	講義・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/30 月 3限	田中 和廣	音はどう聴こえる？	聴覚と耳	loudness, pitch, quality, fundamental, harmonics	予習) 指定教科書の § 12.3 ~12.3.3 を自己学習していただくこと。	音の発生と検出の特性を、適切な用語と単位を用いて説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		聴こえる音の高さと大きさは何で決まるか	周波数と強さ	threshold of hearing, threshold of pain, logarithmic intensity, decibel (dB)	復習) 授業の参考資料を復習に活用し、指定教科書の関連する演習問題を自己学習すること。	音の強さを音波が運ぶエネルギーを用いて説明できる。	アクティブラーニングに取り組み、活発に議論すること。	講義・討論
10/7 月 3限	田中 和廣	聴こえない音波	超音波	echo, ultrasonic wave, ultrasonic imaging, sonogram, probe, artifact	予習) 指定教科書の § 12.4 ~12.8 を自己学習していただくこと。	超音波の反射・吸収によって、生体内組織の可視化や侵襲が可能であることを説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		Exercises and discussions in English I	Clinical uses of sound	Doppler effect, ultrasonic flow meter, diathermy, focused ultrasound surgery	復習) 授業の参考資料を復習に活用すること。音の生体への応用と人体への影響について復習すること。	ドップラー効果を用いて、超音波血流計の原理を説明できる。	アクティブラーニングの議論、質疑応答に積極的に取り組むこと。英語での演習と質疑応答にも挑戦！	発表・討論
10/21 月 3限	田中 和廣	電気理論の基礎	電場と電位	Coulomb's law, field lines, electric field, dipole field, potential energy, voltage	予習) 前期「物理学入門」で実習した「電気力と電場」を見直し、指定教科書の Appendix B (§ B.1~B.7) を自己学習していただくこと。	クーロンの法則と電場、電位との関係を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		電気が流れると	電流と電気回路	electric current, Ohm's law, voltage, resistance, conductance, capacitance, Kirchhoff's law	復習) 授業の参考資料を復習に活用すること。	基本的な回路素子(抵抗、コンデンサー)のはたらきを説明できる。	講義中は集中して、アクティブラーニングに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
10/28 月 3限	田中 和廣	神経細胞の電気シグナル伝達	軸索の電気抵抗と電気容量	neuron, dendrite, axon, axon membrane, node of Ranvier, squid axon	予習) 指定教科書の § 13.0 ~13.1.3 を自己学習していただくこと。	軸索の形状から抵抗と容量を計算できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		軸索における電位	静止電位と活動電位	sodium pump, membrane potential, resting potential, nerve impulse, action potential	復習) 授業の参考資料を復習に活用し、指定教科書の関連する演習問題を自己学習すること。	膜電位の発生機構を説明できる。	アクティブラーニングに取り組み、活発に議論すること。	講義・討論
11/11 月 3限	田中 和廣	電気ケーブルとしての軸索	軸索中の電気伝導モデル	electrical cable, leaky insulator, capacitance, resistance, myelinated axon, nonmyelinated axon	予習) 指定教科書の § 13.1.4 ~13.1.6 を自己学習していただくこと。	軸索の等価回路によるモデル化を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		弱い刺激に対する応答	活動電位はどのようにして伝播するのか？	action potential, ion channel, voltage-gated channel, voltage attenuation, length constant	復習) 授業の参考資料を復習に活用し、指定教科書の関連する演習問題を自己学習すること。	軸索の電氣的な特性から“長さ定数 $\lambda$ ”を計算し、その物理的な意味を説明できる。	アクティブラーニングに取り組み、活発に議論すること。	講義・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/25 月 3限	田中 和廣	筋肉の活動電位	筋電図	synaptic transmission, muscle spindle, surface potential, electromyography	予習) 指定教科書の § 13.1.7 ~13.4を自己学習してくること。	活動電位により軸索外表面に電圧降下が発生することを説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		植物、骨、魚の電気	圧電効果	action potential in plants, piezoelectric effect, osteoblast, osteoclast, electric eel	復習) 授業の参考資料を復習に活用し、指定教科書の関連する演習問題を自己学習すること。	植物、骨、魚などの代謝活動に伴う表面電位について説明できる。	アクティブラーニングの議論、質疑応答に積極的に取り組むこと。英語での演習と質疑応答にも挑戦!	発表・討論
12/2 月 3限	田中 和廣	心電計と脳波計	表面電位	electrocardiograph, electrode, pacemaker, electroencephalograph	予習) 指定教科書の § 14.0 ~14.3を自己学習してくること。	心電図や脳波は電気技術で何を測っているのか説明できる。	講義中は集中して、アクティブラーニングに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
		電気ショックの影響	感電	electrical shock, pain, dissipation of electrical energy, fibrillation, defibrillator, heart pacemaker	復習) 授業の参考資料を復習に活用し、指定教科書の関連する演習問題を自己学習すること。	感電のリスクが何に左右されるのか説明できる。	アクティブラーニングに取り組み、活発に議論すること。	講義・討論
12/9 月 3限	田中 和廣	制御システム	フィードバック	control system, sensory neuron, autonomous, nerve impulse, hormone, feedback system	予習) 指定教科書の § 14.4 ~14.6.2を自己学習してくること。	典型的な制御系をブロック図を描いて概説できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		Exercises and discussion in English II	Control systems with feedback	input, output, amplifier, negative feedback, positive feedback, system analysis	復習) 授業の参考資料を復習に活用し、指定教科書の関連する演習問題を自己学習すること。	フィードバック・制御系にシステム解析の手法を応用できる。	アクティブラーニングに取り組み、活発に議論すること。	講義・討論
12/13 金 3限	田中 和廣	原子が出す光はどんな色か	光の粒子性	electron, nucleus, proton, neutron, spectral line, Thomson model, Nagaoka model, Rutherford model	予習) 指定教科書 § 16.0 ~16.1を自己学習してくること。	原子スペクトルが原子の構造を直接反映していることを説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		電子殻とエネルギー準位	ボーアの原子モデル	allowed orbit, energy level, ground state, excited state, transition, Planck constant, absorption spectrum	復習) 授業の参考資料を復習し、関連する演習問題を自己学習すること。	K殻、L殻、M殻等の電子殻と電子軌道・エネルギー準位の対応を概説できる。	アクティブラーニングに取り組み、活発に議論すること。	講義・討論
12/16 月 3限	田中 和廣	量子力学入門	電子の波動性	spectrometer, matter wave, diffraction pattern, de Broglie's hypothesis, quantum mechanics	予習) 指定教科書 § 16.2 ~16.6を自己学習してくること。	ボーアの量子条件を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		紫外線より波長が短くなると	X線の正体	electron microscope, X-ray, highly excited atoms, crystallography, tomographic technique	復習) 授業の参考資料を復習し、関連する演習問題を自己学習すること。	X線の発生原理と構造解析への応用の基本原理を説明できる。	アクティブラーニングの議論、質疑応答に積極的に取り組むこと。英語での演習と質疑応答にも挑戦!	発表・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/21 土 3限	田中 和廣	レーザー	干渉性光子の増幅とレーザーの発生	spontaneous emission, stimulated emission, inverted population, laser, coherent, monochromatic	予習) 指定教科書 § 16.7～16.8を自己学習してくる。	レーザーの特性を生かした応用を概説できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		原子間力顕微鏡	走査型プローブ顕微鏡	laser surgery, optical coherence tomography, scanning probe microscope, atomic force microscope	復習) 授業の参考資料を復習し、関連する演習問題を自己学習すること。	電子顕微鏡と対比し、原子間力顕微鏡の特徴・性能を説明できる。	アクティブラーニングに取り組み、活発に議論すること。	講義・討論
1/6 月 3限	田中 和廣	原子核	アイソトープ	isotope, $\alpha$ particle, $\beta$ particle, $\gamma$ ray, radioactive nucleus, radioactivity, decay, half-life	予習) 前期「物理学入門」で実習した「放射線( $\gamma$ 線)」を見直し、指定教科書 § 17.1～17.2.1を自己学習してくる。	放射性原子核の半減期について説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		核磁気共鳴	原子核はスピンしている	NMR, nucleon, spin, magnetic moment, gyromagnetic ratio, Larmor frequency, radio frequency, precession	復習) 授業の参考資料を復習に活用し、指定教科書の関連する演習問題を自己学習すること。	核磁気共鳴とラーマー周波数の関係について説明できる。	講義中は集中して、アクティブラーニングに必要な基礎知識を習得すること。	講義・討論
1/14 火 3限	田中 和廣	MRI	核磁気共鳴によるイメージング	spin lattice relaxation time, spin-spin relaxation time, MRI, magnetic field gradient, functional MRI	予習) 前期「物理学入門」で実習した「放射線( $\gamma$ 線)」を見直し、指定教科書 § 17.2.2～17.6を自己学習してくる。	勾配磁場中の核磁気共鳴による空間分布の画像化を説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、問いかけに積極的に応答すること。	講義・討論
		放射線のエネルギー	放射線の物質への作用	controlled dose of radiation, radiation therapy, beam of gamma ray, food irradiation, radioactive tracer	復習) 授業の参考資料を復習し、関連する演習問題を自己学習すること。	放射線が人体に与える影響を説明できる。	講義中は集中して、アクティブラーニングに必要な基礎知識を習得すること。	発表・討論

科目名	科目コード	単位数	責任者
細胞生物学	BIO 101	1	松本 顕・和田 麻理 Robert F. Whittier・内田 桂吉
学習内容・概要			
<p>生物の基本単位は”細胞”であり、その機能や構造を学ぶことは、医学を学ぶ上でも大変に重要である。本講義では、図・文章ともに大変にわかりやすいと定評がある「エッセンシャル細胞生物学」を教科書として細胞に関する以下の基礎知識を学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の構造・成分・形態</li> <li>2. 細胞がエネルギーを獲得するしくみ(呼吸と代謝)</li> <li>3. 遺伝子の構造とその複製のしくみ(分子遺伝学の基礎)</li> <li>4. 遺伝子の情報をもとにタンパク質が作られるしくみ</li> <li>5. 種々の細胞での情報伝達のしくみ</li> <li>6. 細胞が分裂するしくみ</li> </ol> <p>学習がある程度進展する毎に、日英両方の専門用語を用いた演習を行う(日程表に「細胞生物学演習」と記載)。演習には英語での質疑応答、口頭発表、レポートを含む。これ以外にも、不定期に英語での講義、発音練習、グループ討論、プレゼンテーションを行う。英語演習は主としてProf. Whittierが担当する。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>上記6項目について、専門用語を日英両方で理解し、基本的な概念を自分の言葉で説明できるようになる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.細胞の構造・成分・形態に関して、日英両方の専門用語を用いて説明することができる。</li> <li>2.呼吸と代謝に関して、日英両方の専門用語を用いて説明することができる。</li> <li>3.遺伝子の構造と複製の仕組みに関して、日英両方の専門用語を用いて説明することができる。</li> <li>4.転写と翻訳の仕組みに関して、日英両方の専門用語を用いて説明することができる。</li> <li>5.細胞での情報伝達に関して、日英両方の専門用語を用いて説明することができる。</li> <li>6.細胞分裂と発生の仕組みに関して、日英両方の専門用語を用いて説明することができる。</li> <li>7.学んだ知識を、2年次以降での基礎医学系講義に活用することができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>・講義前に指定教科書の該当章を熟読すること。講義後にも、もう一度該当章を熟読し、章末の演習問題に取り組むこと。</p> <p>・高校での「生物Ⅰ」「生物Ⅱ」あるいは「生物基礎」「生物」の内容に自信のない者は、高校の授業で使用するいわゆる”図表”(たとえば下段の参考書1~3、もちろん、それら以外でも構わない)を1冊入手して、適宜参考にすることを勧める。</p> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>・専門用語、キーワードは日英両方で覚えること。指定教科書の章末の演習問題には英語でも解答できることが望ましい。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p><b>【成績評価方法】</b> 定期試験(前後期ごとに行う)、プレテスト、ポストテスト、レポート、平常点(出席回数および学習態度など)を総合して評価する。</p> <p><b>【成績評価基準】</b> 1. 「細胞」に関して基本的な用語の意味を理解している(定期試験、プレテスト、ポストテスト、レポート) 2. 「細胞」の機能や構造に関して論理的に説明できる(定期試験、プレテスト、ポストテスト、レポート) 3. 出席回数、授業中の発言、グループワーク、プレテストおよびレポートへの取り組み状況によって学習態度を評価する(平常点)</p>	<p><b>【指定教科書】</b> エッセンシャル細胞生物学 第4版(南江堂)。原書”Essential Cell Biology 4th edition”(Garland Science)の併読を勧める。提示される英単語、演習問題、討論課題は原書からの出典とする。</p> <p><b>【参考書】</b> 1.サイエンスビュー生物総合資料 実教出版 2.ニューステージ生物図表 浜島書店 3.ダイナミックワイド図説生物 東京書籍 4.現代生物学 ウォーレス 東京化学同人 5.基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 羊土社 6.生命科学 羊土社 7.キャンベル生物学 丸善</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/10 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	医学を学ぶ基盤となる生 物学の知識とは？	医学部における生物学の2 つの大きな軸:細胞と器官 系	人体の階層性、分子、細胞 内小器官、細胞、組織、臓 器(器官)、器官系	①基礎医学の諸科目、 ②人体の器官系と関連する 臓器(器官)、 について事前に調べておくこ と	①教養課程の生物学と基礎医学 の諸科目との関連性について説 明できる。	準備学習の内容を 基に双方向授業を 行います。	講義
			医学部における生物学の2 つの大きな軸:細胞と器官 系	人体の階層性、分子、細胞 内小器官、細胞、組織、臓 器(器官)、器官系	③細胞内小器官、 について事前に調べておくこ と	②人体の器官系と関連する臓器 について概説できる。 ③人体を構成する細胞に共通す る構造について概説できる。	準備学習の内容を 基に双方向授業を 行います。	講義
4/17 水 1限	内田 桂吉	細胞とは①	生命共通の仕組み	organelle	指定教科書の第1章について 自己学習してくること。	細胞小器官の各機能を説明 できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
		細胞とは①	生命共通の仕組み	cytosol, mitochondria	指定教科書の第1章について 自己学習してくること。	細胞小器官の各機能を説明 できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
4/24 水 1限	内田 桂吉	細胞とは②	原核細胞と真核細胞	prokaryote	指定教科書の第1章について 自己学習してくること。	原核細胞から、真核細胞へ の進化を説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
		細胞とは②	原核細胞と真核細胞	eukaryote	指定教科書の第1章について 自己学習してくること。	原核細胞から、真核細胞へ の進化を説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
5/8 水 1限	内田 桂吉	細胞をつくる物質①	化学結合	chemical bond, ionic bond, covalent bond	指定教科書の第2章について 自己学習してくること。	細胞を構成する分子の化学 的特性を説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
		細胞をつくる物質①	化学結合	hydrophilic, hydrophobic	指定教科書の第2章について 自己学習してくること。	細胞を構成する分子の化学 的特性を説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
5/22 水 1限	内田 桂吉	細胞をつくる物質②	細胞の化学成分	nucleic acid, protein	指定教科書の第2章について 自己学習してくること。	細胞を構成する化学成分を 説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
		細胞をつくる物質②	細胞の化学成分	carbon hydrate, H2O, lipid bilayer	指定教科書の第2章について 自己学習してくること。	細胞を構成する化学成分を 説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
5/29 水 1限	Robert F. Whittier	細胞生物学演習① (英語による演習)	細胞の構造と成分に関する まとめと英語での演習	organelle, prokaryote, eukaryote	指定教科書の第1章、第2章 について自己学習してくること。 と。	細胞構造と細胞をつくる分子 について日本語と英語で説 明できる。	指定教科書を持参 すること。 (原書が望ましい)	講義
		細胞生物学演習① (英語による演習)	細胞の構造と成分に関する まとめと英語での演習	nucleic acid, protein	指定教科書の第1章、第2章 について自己学習してくること。 と。	細胞構造と細胞をつくる分子 について日本語と英語で説 明できる。	指定教科書を持参 すること。 (原書が望ましい)	講義



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/5 水 1限	松本 顕	遺伝情報とは何か①	DNAと染色体	double helix, chromatin, histone	指定教科書の第5章について自己学習してくること。	DNAと染色体の構造を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		遺伝情報とは何か①	DNAと染色体	nucleosome, heterochromatin	指定教科書の第5章について自己学習してくること。	DNAと染色体の構造を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
6/12 水 1限	松本 顕	遺伝情報とは何か②	DNAの複製の仕組み	DNA replication	指定教科書の第6章について自己学習してくること。	DNAの半保存的複製を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		遺伝情報とは何か②	DNAの複製の仕組み	replication fork	指定教科書の第6章について自己学習してくること。	DNAの半保存的複製を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
6/19 水 1限	松本 顕	遺伝情報とは何か③	DNAの修復の仕組み	DNA repair	指定教科書の第6章について自己学習してくること。	DNAの損傷と修復の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		遺伝情報とは何か③	DNAの修復の仕組み	proof reading	指定教科書の第6章について自己学習してくること。	DNAの損傷と修復の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
6/26 水 1限	Robert F. Whittier	細胞生物学演習② (英語による演習)	DNAの構造、複製、修復に関するまとめと英語での演習	DNA, double helix, chromatin, histone	指定教科書の第5章、第6章について自己学習してくること。	DNAの構造と複製、修復について日本語と英語で説明できる。 (原書が望ましい)	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義
		細胞生物学演習② (英語による演習)	DNAの構造、複製、修復に関するまとめと英語での演習	DNA replication, DNA repair	指定教科書の第5章、第6章について自己学習してくること。	DNAの構造と複製、修復について日本語と英語で説明できる。 (原書が望ましい)	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義
6/29 土 1限	和田 麻理	遺伝情報を伝達する仕組み①	DNA～RNA転写	transcription, mRNA, transcription factor	指定教科書の第7章について自己学習してくること。	遺伝子の転写の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		遺伝情報を伝達する仕組み①	DNA～RNA転写	splicing, genetic code, exon, intron	指定教科書の第7章について自己学習してくること。	遺伝子の転写の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
7/3 水 1限	和田 麻理	遺伝情報を伝達する仕組み②	RNA～タンパク質翻訳	translation, protein, tRNA	指定教科書の第7章について自己学習してくること。	遺伝子の翻訳の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		遺伝情報を伝達する仕組み②	RNA～タンパク質翻訳	codon, anti-codon, ribosome	指定教科書の第7章について自己学習してくること。	遺伝子の翻訳の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
7/10 水 1限	和田 麻理	遺伝子発現の調節	転写調節と転写後調節	enhancer, suppressor, promoter, activator	指定教科書の第8章について自己学習してくること。	転写調節および転写後調節の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		遺伝子発現の調節	転写調節と転写後調節	homeobox, RNAi, siRNA	指定教科書の第8章について自己学習してくること。	転写調節および転写後調節の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
7/17 水 1限	Robert F. Whittier	細胞生物学演習③ (英語による演習)	遺伝子発現の調節に関するまとめと英語での演習	transcription, translation	指定教科書の第7章、第8章について自己学習してくること。	遺伝子発現の調節について日本語と英語で説明できる。	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義
		細胞生物学演習③ (英語による演習)	遺伝子発現の調節に関するまとめと英語での演習	enhancer, suppressor	指定教科書の第7章、第8章について自己学習してくること。	遺伝子発現の調節について日本語と英語で説明できる。	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義
9/18 水 1限	内田 桂吉	細胞内のエネルギーはどのようにつくられるか①	糖と脂肪の分解と利用	ATP, glucose	指定教科書の第13章について自己学習してくること。	細胞がエネルギーを得る仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞内のエネルギーはどのようにつくられるか①	糖と脂肪の分解と利用	pyruvate catabolism, fatty acid	指定教科書の第13章について自己学習してくること。	細胞がエネルギーを得る仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
9/25 水 1限	内田 桂吉	細胞内のエネルギーはどのようにつくられるか②	酸素を使わない方法	fermentation, glycolysis	指定教科書の第13章について自己学習してくること。	嫌気呼吸の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞内のエネルギーはどのようにつくられるか②	酸素を使わない方法	yeast, bacteria, acetyl-CoA	指定教科書の第13章について自己学習してくること。	嫌気呼吸の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
10/2 水 1限	内田 桂吉	細胞内のエネルギーはどのようにつくられるか③	酸素を使う方法	mitochondria, electron-transport chain	指定教科書の第14章について自己学習してくること。	好気呼吸の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞内のエネルギーはどのようにつくられるか③	酸素を使う方法	oxidative phosphorylation	指定教科書の第14章について自己学習してくること。	好気呼吸の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
10/9 水 1限	Robert F. Whittier	細胞生物学演習④ (英語による演習)	エネルギー代謝に関するまとめと英語での演習	ATP, glycolysis	指定教科書の第13章、第14章について自己学習してくること。	エネルギー代謝の概要を日本語と英語で説明できる。	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義
		細胞生物学演習④ (英語による演習)	エネルギー代謝に関するまとめと英語での演習	oxidative phosphorylation	指定教科書の第13章、第14章について自己学習してくること。	エネルギー代謝の概要を日本語と英語で説明できる。	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
10/16 水 1限	松本 顕	細胞内外を隔てる生体膜 ①	細胞膜の構造と膜輸送	membrane structure, signal transduction	指定教科書の第11章および第12章について自己学習してくる事。	細胞膜の構造と膜輸送の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞内外を隔てる生体膜 ①	細胞膜の構造と膜輸送	ion channel, transporter, ATPase, pump	指定教科書の第11章および第12章について自己学習してくる事。	細胞膜の構造と膜輸送の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
10/23 水 1限	松本 顕	細胞内外を隔てる生体膜 ②	細胞内区画と細胞内輸送	protein sorting, vesicular transport	指定教科書の第15章について自己学習してくる事。	タンパク質を細胞小器官に輸送する仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞内外を隔てる生体膜 ②	細胞内区画と細胞内輸送	secretory pathways	指定教科書の第15章について自己学習してくる事。	タンパク質を細胞小器官に輸送する仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
10/30 水 1限	松本 顕	細胞はどのように情報を伝えるか①	細胞間情報伝達の仕組み ①:Gタンパク質共役型受容体	G protein coupled receptor, hormone, neurotransmitter,	指定教科書の第16章について自己学習してくる事。	Gタンパク質を介する細胞間シグナル伝達の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞はどのように情報を伝えるか①	細胞間情報伝達の仕組み ①:Gタンパク質共役型受容体	second messenger	指定教科書の第16章について自己学習してくる事。	Gタンパク質を介する細胞間シグナル伝達の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
11/6 水 1限	松本 顕	細胞はどのように情報を伝えるか②	細胞間情報伝達の仕組み ②:酵素共役型受容体	tyrosin kinase	指定教科書の第16章について自己学習してくる事。	酵素共役型受容体を介する細胞間シグナル伝達の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞はどのように情報を伝えるか②	細胞間情報伝達の仕組み ②:酵素共役型受容体	enzyme-coupled receptors	指定教科書の第16章について自己学習してくる事。	酵素共役型受容体を介する細胞間シグナル伝達の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
11/13 水 1限	Robert F. Whittier	細胞生物学演習⑤ (英語による演習)	生体膜と細胞間情報伝達に関するまとめと英語での演習	G protein coupled receptor, hormone, neurotransmitter,	指定教科書の第11章、第12章、第15章、第16章について自己学習してくる事。	生体膜の機能と細胞内シグナル伝達の概要を日本語と英語で説明できる。	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義
		細胞生物学演習⑤ (英語による演習)	生体膜と細胞間情報伝達に関するまとめと英語での演習	second messenger, enzyme-coupled receptors	指定教科書の第11章、第12章、第15章、第16章について自己学習してくる事。	生体膜の機能と細胞内シグナル伝達の概要を日本語と英語で説明できる。	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/27 水 1限	和田 麻理	細胞の運動	細胞骨格	cytoskeleton, actin, tubulin	指定教科書の第17章について自己学習してくること。	細胞骨格を構成するタンパク繊維について説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞の運動	細胞骨格	intermediate filament, motor protein	指定教科書の第17章について自己学習してくること。	細胞骨格を構成するタンパク繊維について説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
12/4 水 1限	和田 麻理	細胞はどのように増えるか	体細胞分裂のしくみ	cell cycle, mitosis, cyclin, check point, kinetochore	指定教科書の第18章について自己学習してくること。	細胞周期と有糸分裂の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		細胞はどのように増えるか	体細胞分裂のしくみ	apoptosis, necrosis, caspase	指定教科書の第18章について自己学習してくること。	細胞周期と有糸分裂の仕組みを説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
12/11 水 1限	和田 麻理	配偶子形成	減数分裂のしくみ	gamete, meiosis, homologous recombination	指定教科書の第19章について自己学習してくること。	生殖細胞における減数分裂を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		配偶子形成	減数分裂のしくみ	allele, polymorphism, phenotype, SNPs	指定教科書の第19章について自己学習してくること。	生殖細胞における減数分裂を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
12/18 水 1限	和田 麻理	幹細胞とがん	組織の維持と更新	stem cells, clone	指定教科書の第20章について自己学習してくること。	再生医学の概要を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
		幹細胞とがん	組織の維持と更新	ES cells, iPS cells, cancer	指定教科書の第20章について自己学習してくること。	再生医学の概要を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
1/8 水 1限	Robert F. Whittier	細胞生物学演習⑥ (英語による演習)	細胞骨格と細胞分裂に関するまとめと英語での演習	cytoskeleton, cell cycle	指定教科書の第17～20章について自己学習してくること。	細胞分裂の概要を日本語と英語で説明できる。	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義
		細胞生物学演習⑥ (英語による演習)	細胞骨格と細胞分裂に関するまとめと英語での演習	mitosis, meiosis, stem cells	指定教科書の第17～20章について自己学習してくること。	細胞分裂の概要を日本語と英語で説明できる。	指定教科書を持参すること。 (原書が望ましい)	講義

科目名	科目コード	単位数	責任者
統計解析への数学	MTH 101	1	奥野 浩・川村 浩之
学習内容・概要			
<p>統計学とその基礎となる数学を学ぶ。 主たる内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計データの取り扱い(代表値とばらつき、ヒストグラム、散布図)</li> <li>・統計学の数学的基礎(確率と統計、確率分布、正規分布、中心極限定理)</li> <li>・統計的推測(母集団と標本、バイアス、点推定と区間推定、仮説検定、回帰分析)</li> </ul> <p>また、統計学が医学でどのように用いられているかを学ぶ。</p>			
<p>[一般目標]</p> <p>確率的なものの見方に習熟し、統計学についての基本知識を身に付ける。 様々な統計解析の背後にある数学を理解し、必要に応じて発展的な手法を自学できるようになる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 確率論の基礎概念(乗法定理、ベイズの定理、確率分布、中心極限定理)を説明できる。</li> <li>2. 確率分布の概念について説明でき、基本的な分布を使って確率計算ができる。</li> <li>3. 2変数の相関と単回帰分析が説明できる。</li> <li>4. 母平均・母比率の信頼区間が計算できる。</li> <li>5. 母平均・母比率についての仮説検定が行える。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>予習: 講義前に教科書の該当箇所を読み、概要を理解しておくこと。</p> <p>復習: 講義内容の理解を確かにするために教科書の練習問題を積極的に解くこと。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

- ・1回目の講義時に、試験を行います。これにより、クラス分けを実施して1年間の講義を行います。
- ・授業では受け身にならずに積極的に発言・質問をすること。
- ・各授業の内容はそれ以前の授業の内容を前提とするので小まめに復習すること。
- ・統計解析に用いられる数学をすべて理解するのは難しいが、できるだけ論理の流れを理解するように心がけてもらいたい。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)や試験に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法

定期試験、小テスト、課題レポート、授業への参加等を総合的に評価する。

成績評価基準:

個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

指定教科書

統計解析入門[第2版] 篠崎信雄・竹内秀一 共著 サイエンス社

参考教科書

「医療統計力」を鍛える! 千葉康敬 著 総合医学社

ここから学ぼう! 図解医療統計 本気で統計を始めたい人のための入門書

柳澤 尚武, 西崎 祐史 (共著), 代田 浩之 (監修) 総合医学社

An introduction to medical statistics 4th ed. M. Bland, Oxford University Press

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[Aクラス]								
4/12 金 1限	奥野 浩	イントロダクション	統計学とはなんだろうか?	記述統計と推測統計、 確率と統計	指定教科書の第1章を事前に 勉強しておくこと。	本講義のテーマと目標を理 解する。	指定教科書を持参 すること。	講義
			クラス分け試験					演習
4/19 金 1限	奥野 浩	記述統計と推測統計	2つの統計	記述統計、推測統計	指定教科書の第2章を事前に 勉強しておくこと。	記述統計と推測統計との差を 説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
			確率で表す	確率と統計				確率的な考え方を理解する。
4/26 金 1限	奥野 浩	統計データのまとめ方1	量的データの整理	質的データと量的データ	指定教科書の第2章を事前に 勉強しておくこと。	データから統計量が計算でき る。	指定教科書を持参 すること。	講義
			統計とグラフ	統計量、箱ひげ図、 度数分布表、ヒストグラム		度数分布表からヒストグラムを 作成できる。		講義
5/10 金 1限	奥野 浩	統計データのまとめ方2	2つの量の関係を探る	分割表、散布図、相関係数	指定教科書の第3章を事前に 勉強しておくこと。	オッズ比や相関係数などの定 義と意味を理解する。	指定教科書を持参 すること。	講義
			相関と因果	層別		相関と因果関係の違いを理 解する。		講義
5/17 金 1限	奥野 浩	確率の計算	ベイズの定理	集合と確率、加法定理	指定教科書の第4章を事前 に勉強しておくこと。	加法定理、条件付き確率を説 明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
			条件付き確率	条件付き確率、乗法公式		乗法公式を説明できる。		講義
5/24 金 1限	奥野 浩	小試験1	ここまでのまとめ	平均、分散、標準偏差 確率	テキスト第4章までを復習して おくこと。		指定教科書を持参 すること。	試験
		確率分布	確率分布からわかること	確率変数、確率関数、 確率密度関数、 経験的確率、確率モデル	指定教科書の第5章を事前 に勉強しておくこと。	確率変数の意味を説明でき る。		講義
5/31 金 1限	奥野 浩	確率変数の平均値と標準 偏差	用語を理解する	確率分布	指定教科書の第5章を事前 に勉強しておくこと。	確率変数の平均値、分散、標 準偏差の定義を説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義
			母集団の平均値	母平均、母分散		確率変数の平均値、分散、標 準偏差の定義を計算できる。		講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/7 金 1限	奥野 浩	二項分布とポアソン分布	正しいコインは10回投げると5回表がでるのか	ベルヌーイ試行	指定教科書の6.1, 6.2を事前に勉強しておくこと。	二項分布の性質を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
				二項分布、ポアソン分布		ポアソン分布について理解する。		講義
6/14 金 1限	奥野 浩	正規分布とその応用	正規分布は重要です	正規分布、誤差関数、標準偏差とパーセント点	指定教科書の6.3を事前に勉強しておくこと。	正規分布がいかに関局的な分布であるかを理解する。	指定教科書を持参すること。	講義
			正規分布を利用した確率計算	二項分布の正規近似		正規分布表を用いて確率計算ができる。		講義
6/21 金 1限	奥野 浩	多次元の確率分布	確率変数の和の分布	同時分布と周辺分布、	指定教科書の第7章を事前に勉強しておくこと。	2次元確率分布と2変数の相関の関係を理解する。多変数の和の平均値、分散の求め方がわかる。	指定教科書を持参すること。	講義
			相関係数の計算	共分散と相関係数、期待値と分散の加法性		相関係数を求められる。		講義
6/28 金 1限	奥野 浩	小試験2	確率分布	確率分布からの計算	指定教科書第5-7章を復習しておくこと。		指定教科書を持参すること。	試験
			統計的推測	推定、検定		指定教科書の第8章を事前に勉強しておくこと。		統計的推測について説明できる。
7/5 金 1限	奥野 浩	標本分布と統計的推測	標本データから母集団を推測する	標本平均の分布、標準誤差、大数の法則、	指定教科書の第8章を事前に勉強しておくこと。	標本分布の概念を理解する。	指定教科書を持参すること。	講義
			中心極限定理	中心極限定理		中心極限定理の意味を説明できる。		講義
7/12 金 1限	奥野 浩	比率の推定	100人の意見は、全体を表すのか。	母比率の区間推定、信頼係数、信頼区間	指定教科書の9.5, 9.6を事前に勉強しておくこと。	信頼区間の意味を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
			母比率の区間推定の計算	二項分布の正規近似、標準誤差		母比率の区間推定ができる。		講義
7/19 金 1限	奥野 浩	前期のまとめ	前期全体の復習	正規分布、区間推定、中心極限定理	これまでの流れを復習しておくこと。	標本から母集団に関する推測を行う際の論理が説明できる。	指定教科書を持参すること。	演習



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/13 金 1限	奥野 浩	平均値の推定1	誤差を含めた推定	不偏推定量、区間推定、信頼区間	指定教科書の9.1-9.3を事前に勉強しておくこと。	点推定と不偏推定量の概念を説明できる。標本の大きさと標準誤差の関係を理解する。信頼区間の意味を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
			大標本の場合の区間推定	中心極限定理、標準誤差		正規分布を利用して母平均の信頼区間を求められる。		講義
9/20 金 1限	奥野 浩	平均値の推定2	データがすくないとき	小標本、スチューデントのt分布、自由度	指定教科書の9.4-9.5を事前に勉強しておくこと。	正規分布とカイ2乗分布、t分布の関係を理解する。t分布を用いた区間推定ができる。	指定教科書を持参すること。	講義
			t分布を利用した区間推定	標準誤差		t分布を利用して母平均の信頼区間を求められる。		講義
9/27 金 1限	奥野 浩	統計的推測のまとめ	母比率の区間推定	二項分布の正規近似、標準誤差	区間推定について復習しておくこと。	さまざまな区間推定を適切に行える。	指定教科書を持参すること。	演習
			母平均の区間推定	中心極限定理、標準誤差				演習
10/4 金 1限	奥野 浩	小試験3	推定の試験		指定教科書第9章を復習しておくこと。		指定教科書を持参すること。	試験
		平均値の検定1	帰無仮説とはなにか？	帰無仮説、対立仮説	指定教科書の10.1, 10.2を事前に勉強しておくこと。			講義
10/11 金 1限	奥野 浩	仮説検定	仮説検定	帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、		仮説検定の手続きと論理を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義
			第1種の誤り	第1種の誤り、第2種の誤り、検出力				統計的有意性の意味を説明できる。
10/18 金 1限	奥野 浩	平均値と比率の検定1	大標本の場合の母平均の検定	正規分布、標準誤差	指定教科書の10.2, 10.3を事前に勉強しておくこと。	区間推定と検定の関係が説明できる。Z検定のp値を求められる。	指定教科書を持参すること。	講義
			小標本の場合の母平均の検定	t分布		平均値の差の検定が行える。		講義
10/25 金 1限	奥野 浩	平均値と比率の検定2	母比率の検定	正規分布 2項分布の正規近似	指定教科書の9.7,10.4を事前に勉強しておくこと。	t分布を利用して母平均の検定が行える。	指定教科書を持参すること。	講義
			大標本の場合の母平均の差の検定	正規分布の加法性		t分布を利用して母平均の差の検定が行える。		講義
11/1 金 1限	奥野 浩	平均値と比率の検定3	小標本の場合の母平均の差の検定	分散の合併	指定教科書の9.8,10.5を事前に読んでおくこと。	母比率の検定ができ、p値を求められる。	指定教科書を持参すること。	講義
			母比率の差の検定	母比率の推定		母比率の差の検定ができ、p値を求められる。		講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/8 金 1限	奥野 浩	関連性の検定	カイ2乗検定	適合度検定	指定教科書の10.6を事前に勉強しておくこと。	適合度検定が行える。	指定教科書を持参すること。	講義
				独立性の検定		独立性の検定が行える。		講義
11/15 金 1限	奥野 浩	検定のまとめ	平均値の検定 比率の検定	標準誤差、正規分布、 t分布	指定教科書の10章を復習しておくこと	正規分布を利用した検定ができる	指定教科書を持参すること。	演習
			カイ2乗検定	期待度数、 $\chi^2$ 乗分布		$\chi^2$ 乗検定ができる。		演習
11/29 金 1限	奥野 浩	小試験4	仮説検定の試験	z検定、t検定、カイ2乗検定	仮説検定について復習しておくこと。	検定の州類を理解し、使い分けができるようになる。	指定教科書を持参すること。	試験
			仮説検定の試験	z検定、t検定、カイ2乗検定		仮説検定について復習しておくこと。		検定の州類を理解し、使い分けができるようになる。
12/6 金 1限	奥野 浩	回帰分析1	1つの変数を他の変数で説明する。	単回帰モデル、回帰直線	指定教科書の第11章を事前に勉強しておくこと。	単回帰モデルと回帰係数を説明できる。残差と決定係数の意味がわかる。	指定教科書を持参すること。	講義
			単回帰	最小二乗法、残差、決定係数		最小二乗法を説明できる。		講義
12/20 金 1限	奥野 浩	回帰分析2	回帰式を求める。	回帰係数	指定教科書の第11章を事前に勉強しておくこと。	回帰係数を求める方法を理解	指定教科書を持参すること。	講義
			回帰式の計算	決定係数		決定係数を求められる。		講義
1/10 金 1限	奥野 浩	後期のまとめ	演習 ・区間推定 ・仮説検定	標準誤差、信頼区間、 帰無仮説、対立仮説、 有意水準、棄却域、p値	後期の内容を復習しておくこと。	問題の内容を理解して、適切な処理ができるようになる。	指定教科書を持参すること。	演習
			演習 ・回帰分析	回帰直線、最小二乗法、 決定係数				演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[Bクラス]								
4/12 金 1限	川村 浩之	イントロダクション	統計学とはなんだろうか？	記述統計と推測統計、 確率と統計	(予習) 指定教科書の第1章を勉強し ておくこと。	本講義のテーマと目標を理 解する。	指定教科書を持参 すること。	講義
			クラス分け試験					演習
4/19 金 1限	川村 浩之	統計データのまとめ方(I)	量的データの整理	データの種類とグラフ 度数分布表、ヒストグラム	(予習) 指定教科書の第2章を勉強し ておくこと。	各グラフの使い分けができ る。ヒストグラムの解釈ができ る。	指定教科書を持参 すること。	講義・討論
				統計量、外れ値、標準化	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			様々な統計量が計算できる。 変数の標準化が説明できる。
4/26 金 1限	川村 浩之	統計データのまとめ方(II)	2つの量の関係を探る	クロス集計表、オッズ比、 相対リスク	(予習) 指定教科書の第3章を勉強し ておくこと。	オッズ比や相対リスクの定義 と意味を理解する。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
				散布図、相関係数、層別、 交絡因子	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			相関と因果の違いを理解す る。
5/10 金 1限	川村 浩之	確率論の基礎	前回の復習	層別、交絡因子	(予習) 指定教科書の第4章を勉強し ておくこと。	交絡因子を説明できる。 層別の目的を説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義・討論
			ベイズの定理	条件付き確率、陽性的中率	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			陽性的中率を計算できる。
5/17 金 1限	川村 浩之	確率分布(I)	確率分布からわかること	離散型確率変数、 確率分布 確率分布の特性値	(予習) 指定教科書の第5章、6.1、 6.2を勉強しておくこと。	確率分布の特性値(平均、 分散、標準偏差)の意味を 理解し、計算できる。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			サイコロを600回振ると1の 目は何回でるか？	確率モデル、 2項分布、 ポアソン分布	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			2項分布とポアソン分布を用 いた簡単な計算ができる。
5/24 金 1限	川村 浩之	確率分布(II)	連続型確率変数	連続型確率変数、 確率密度関数、 確率分布の特性値	(予習) 指定教科書の第5章、6.3を勉 強しておくこと。	連続型確率変数の分布の特 性値の求め方がわかる。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			正規分布とはなにか？	正規分布、 68-95-99.7ルール	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			正規分布に従う変数につい ての簡単な計算ができる。
5/31 金 1限	川村 浩之	正規分布とその応用	正規分布は統計学の強力 な武器である！	標準正規分布、Zスコア、 確率とパーセント点	(予習) 指定教科書の6.3を事前に勉 強しておくこと。	正規分布表を利用した計算 ができる。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			酔っぱらいはどこに辿り 着くか？	2項分布の正規近似、 連続修正	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			2項分布の正規近似を用いた 確率計算ができる。連続修正 を説明できる。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/7 金 1限	川村 浩之	中間テスト	前期前半の復習	分布の代表値と変動、 確率、確率分布	(予習) 配布プリント、manabaのドリル などを見直しておくこと。	データの整理、確率分布による 確率計算ができる。ベイズ の定理を応用できる。	指定教科書を持参 すること。	試験
					(復習) 試験で分からなかった箇所を 復習しておくこと。			講義
6/14 金 1限	川村 浩之	多次元の確率分布	2次元の確率分布	同時分布と周辺分布、 共分散と相関係数	(予習) 指定教科書の第7章を事前に 勉強しておくこと。	2次元の確率分布と2変数の 相関係数が計算できる。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			多変数の和の確率分布	期待値・分散の加法性、 正規分布の再生性	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			独立な正規変数の和の確率 分布がわかる。
6/21 金 1限	川村 浩之	標本分布と統計的推測	標本データから母集団を 推測する	母集団と標本、無作為標 本、 標本平均の分布、	(予習) 指定教科書の8章、9.6を事前 に勉強しておくこと。	中心極限定理が説明できる。 標本平均の確率分布が説明 できる。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			母比率の区間推定	標本比率の分布、 標準誤差、信頼区間	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			母比率の区間推定が行える。 標準誤差を説明できる。
6/28 金 1限	川村 浩之	母平均の区間推定	母平均の区間推定	標準誤差と標本サイズ、 大標本	(予習) 指定教科書の9.1-9.3を事前 に勉強しておくこと。	大標本での母平均の区間推 定が行える。標本の大きさ と誤差の関係が説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			バイアスとはなにか？	ランダムエラーとバイアス、 内的妥当性と外的妥当性、 因果関係と交絡	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			バイアスを説明できる。 外的妥当性を説明できる。
7/5 金 1限	川村 浩之	母平均の推定・検定	少ないデータを生かす	小標本、t分布、自由度	(予習) 指定教科書の9.4、10.1、10.3 を事前に勉強しておくこと。	正規分布とt分布の関係を説 明できる。t分布を用いた区 間推定ができる。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			p値とはなにか？	p値、Z検定	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			母比率の仮説検定が行える。
7/12 金 1限	川村 浩之	仮説検定	帰無仮説とはなにか？	帰無仮説、対立仮説、 有意水準、棄却域	(予習) 指定教科書の10.1-10.3を事 前に勉強しておくこと。	大標本の場合の母比率、母 平均の仮説検定が行える。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			母平均の検定	t検定、 $\alpha$ エラーと $\beta$ エラー	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			小標本の場合の母平均の仮 説検定が行える。検定の過誤 について説明できる。
7/19 金 1限	川村 浩之	前期後半の復習	重要事項の復習	母集団と標本、中心極限定 理、 区間推定と仮説検定	(予習) 前期の学習事項を見直して おくこと。	標本から母集団を推測する 際の論理を説明できる。	指定教科書を持参 すること。	講義・演習
			推定と検定(補足)	大数の法則、p値と棄却 域、 検出力	(復習) 配布プリントをよく読んで練習 問題を解くこと。			1標本の区間推定と仮説検定 が行える。p値の意味が説明 できる。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/13 金 1限	川村 浩之	2群間の比較I	前期の復習	独立2群の平均値の差	(予習) 指定教科書の9.7,10.4を事前に勉強しておくこと。	2群の平均値の差の分布を用いた計算が行える。(大標本)	指定教科書を持参すること。	講義・演習
			有意差とはなにか？	母平均の差の推定・検定(大標本)	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	2群の平均値の差の推定・検定ができる。(大標本)		講義・演習
9/20 金 1限	川村 浩之	2群間の比較II	どちらの治療法がより効果的か？	母平均の差の推定・検定(小標本)、t検定	(予習) 指定教科書の9.7,10.4を事前に読んでおくこと。	2群の平均値の差の推定・検定ができる。(小標本)	指定教科書を持参すること。	講義・演習
			対応のあるデータとは？	対応のあるt検定、マッチング	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	対応のあるt検定が行える。対応の有無によって異なる統計処理を正しく選択できる。		講義・演習
9/27 金 1限	川村 浩之	2群間の比較III	比率の差の推定・検定	共通母比率、Z検定、95%CI	(予習) 指定教科書の9.8,10.5,10.6を事前に勉強しておくこと。	比率の差の推定・検定が行える。	指定教科書を持参すること。	講義・演習
			比率の2群比較	オッズ比、カイ2乗検定	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	2群間のカイ2乗検定ができる。		講義・演習
10/4 金 1限	川村 浩之	仮説検定の注意点	検出力と標本サイズ	$\alpha$ エラー、 $\beta$ エラー、効果量、検出力、標本サイズ	(予習) 多重比較の問題とは何か、各自調べておくこと。	標本サイズ、標準誤差、検出力の関係を説明できる。	指定教科書を持参すること。	講義・演習
			多重比較の問題	ボンフェローニ法	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	多重比較の問題とその対処法を説明できる。		講義・演習
10/11 金 1限	川村 浩之	ノンパラメトリック検定入門	正規分布に従わないデータを取り扱う	Mann-WhitneyのU検定	(予習) Mann-WhitneyのU検定とは何か、各自調べておくこと。	Mann-WhitneyのU検定が行える。	統計処理の全体の流れを理解するように努めること。	講義・演習
			対応のあるデータ	Wilcoxonの符号付順位検定	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	Wilcoxonの符号付順位検定が行える。		講義・演習
10/18 金 1限	川村 浩之	後期前半のまとめ	p値の意味を理解する。	p値、統計的有意性、標本サイズ	(予習) これまで仮説検定について学んだことを事前に見直して	統計的有意性が必ずしも臨床的有意性を意味しないことを理解する。	指定教科書を持参すること。	講義・演習
			2群比較と因果関係	交絡因子、バイアス、研究デザイン	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	研究デザインとバイアスについて説明できる。		講義・演習
10/25 金 1限	川村 浩之	中間テスト	後期前半の復習	様々な区間推定、様々な仮説検定	(予習) これまでの練習問題、manabaのドリルなどを見直しておくこと。	様々な区間推定と仮説検定を適切に行える。	指定教科書を持参すること。	試験
					(復習) 配布プリントをよく読んで試験で分からなかった箇所を見直しておくこと。			講義
11/1 金 1限	川村 浩之	カイ2乗検定	適合度検定とはなにか？	カイ2乗分布、自由度	(予習) 指定教科書の10.6を事前に勉強しておくこと。	適合度検定が行える。自由度を正しく同定できる。	指定教科書を持参すること。	講義・演習
			独立性の検定	カイ2乗分布、自由度	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	独立性の検定が行える。自由度を正しく同定できる。		講義・演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/8 金 1限	川村 浩之	F検定と分散分析	2群間の分散の比較	F分布、F検定	(予習) F検定、ANOVAとは何か、各自調べて予習しておく。	分散の比較のF検定が行える。	統計処理の全体の流れを理解するように努めること。	講義・演習
			多群間の母平均の比較	1元配置分散分析(One-way ANOVA)、分散分析表	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	分散分析表の解釈ができる。		講義・演習
11/15 金 1限	川村 浩之	単回帰モデル	ある変量から他の変量を予測する。	単回帰モデル、最小二乗法、回帰直線とSDライン、平均への回帰	(予習) 指定教科書の11.1-11.3を事前に勉強しておくこと。	単回帰モデルと回帰係数を説明できる。データから回帰直線が求められる。	指定教科書を持参すること。	講義・演習
			回帰モデルの誤差	残差、決定係数、誤差の推定とRMSE	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	残差と決定係数の意味が分かる。回帰モデルによる予測の誤差を求められる。		講義・演習
11/29 金 1限	川村 浩之	重回帰モデル	重回帰モデル	交絡因子の調整、重回帰分析	(予習) 重回帰モデルとは何か、各自調べて予習しておく。	回帰係数の誤差を理解する。重回帰分析の意味とエクセルのアウトプットが理解できる。	指定教科書を持参すること。	講義・演習
			エクセルのアウトプット	補正R2乗値、回帰係数、p値と信頼区間	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	Excelによる重回帰分析のアウトプットを正しく解釈できる。		講義・演習
12/6 金 1限	川村 浩之	ロジスティック回帰モデル	ロジスティック回帰モデル	ロジスティック回帰モデル、調整オッズ比	(予習) ロジスティック回帰とはなにか、各自調べておくこと。	ロジスティック回帰モデルとはなにか、説明できる。	統計処理の全体の流れを理解するように努めること。	講義・演習
			統計ソフトのアウトプット	回帰係数、p値と信頼区間調整オッズ比	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	統計ソフトによるロジスティック回帰分析のアウトプットを正しく解釈できる。		講義・演習
12/20 金 1限	川村 浩之	生存時間解析入門	KM曲線とログランク検定	生存曲線、ハザード、 Kaplanマイヤー法、ログランク検定	(予習) 生存曲線とはなにか、各自調べておくこと。	ハザードの意味を説明できる。生存曲線の比較について説明できる。	統計処理の全体の流れを理解するように努めること。	講義・演習
			Cox比例ハザードモデル	Cox比例ハザードモデル、p値と信頼区間、調整ハザード比	(復習) 配布プリントをよく読んで練習問題を解くこと。	統計ソフトによるCox比例ハザードモデルによる分析のアウトプットを正しく解釈できる。		講義・演習
1/10 金 1限	川村 浩之	これまでの復習	期末試験プレテスト	区間推定、仮説検定、2群間・多群間の比較、回帰分析、多変量モデル	(予習) これまでの練習問題、manabaのドリルなどを見直しておくこと。	推測統計の基礎的手法を用いることができる。多変量モデルのアウトプットの解釈ができる。	指定教科書を持参すること。	演習
								講義

科目名	科目コード	単位数	責任者
定性分析	CHM 111	1	馬場 猛・志村 絵理 石原 量・大森 大二郎
学習内容・概要			
<p>我々の身の回りにある物質は、一般的に混合物である。どのような学問分野でも物質を扱うところでは、その混合物の成分と量を調べる必要がある。成分を決定する方法を定性分析、量を決定する方法を定量分析という。定性分析、特に金属イオンの混合物からそれぞれのイオンをその反応性の違いに基づいて分離していく手法は、生体物質の系統的な分析法に通じるものであり、自然科学の系統性を学ぶ基本的な手法として重要である。本実習では廃棄物の環境に及ぼす影響を考え、種々の試薬の使用量が少ない半微量法(セミクロ法)で、0℃～100℃付近の間で行われる化学変化による金属イオンの分離、具体的にはI族からIV族に所属する、<math>\text{Ag}^+</math>、<math>\text{Pb}^{2+}</math>、<math>\text{Bi}^{3+}</math>、<math>\text{Cu}^{2+}</math>、<math>\text{Fe}^{2+}</math>(<math>\text{Fe}^{3+}</math>)、<math>\text{Mn}^{2+}</math>、<math>\text{Co}^{2+}</math>、<math>\text{Ni}^{2+}</math>、<math>\text{Zn}^{2+}</math>の9種の金属イオンについての系統分析を行う。</p>			
学習目標			
<p><b>【一般目標】</b>            実験、観察を通して、物質の性質や反応といった化学的知識をより深く認識し、それに基づいて物質を分析する化学的思考を養う。</p>			
<p><b>【到達目標】</b>            1. 金属イオンの定性分析の基本的知識を身につけることができる。            2. 酸・アルカリの希釈、沈殿操作、濾過操作など基礎的実験技術や実験器具の扱いを身につけることができる。            3. 化学実験における安全(服装、薬品の扱いなど)に注意して実験できる。            4. 適切な廃液処理を行うことによる環境配慮の姿勢を身に付けることができる。            5. 実験ノートを書き、実験結果を整理し、レポートにまとめて報告することができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>実験は事前に十分な基礎知識がなければ、目的を達成することができない。また、実験内容の理解の上、具体的な実験方法や手段などを調べておかなければ、実験中、無駄な時間を費やすことになり、また時には危険を伴うこともある。実験前には十分な予習を行い、実験の目的、内容、方法などを理解しておく必要がある。そのために実験ノートを用い、予習を行い、前日までに予習ノートを提出することを義務付けている。</p>			
<p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b>            1時限あたり 予習:45分、 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
白衣および保護眼鏡を着用の上、決められた注意事項を必ず守り実習を行うこと。	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
レポートを返却し、適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p><b>【成績評価方法】</b> 成績は試験(未知試料の分析)(40%)、実習態度(20%)、実験ノート(20%)、レポート(20%)を総合的に評価する。</p> <p><b>【成績評価基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金属イオンの反応をを説明することができる。 (到達目標1、5:実験ノート、レポート)</li> <li>・基礎的実験技術や実験器具を正しく扱うことができる。 (到達目標2、3、4:未知試料の分析、実習態度)</li> </ul>	<p><b>【指定教科書】</b> 「生命科学のための化学実験」、高橋知義、他編、東京教学社</p> <p><b>【参考書】</b> 「化学実験-基礎と応用-」、須賀恭一、他編著、東京教学社 「化学実験の事故と安全」、日本化学会編 丸善 「実験化学ガイドブック」、日本化学会編、丸善 「セミクロ無機定性分析」、林謙次郎、他著、東京教学社 「分析化学」、長島弘三、他著、裳華房</p>



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[後番]予定表								
4/10 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 無機定性分析①	実習における注意、 試薬調製	実験室での注意事項、準備 と後始末、事故対策、実験 記録	薬品、ガラス器具の取り扱い について学習しておくこと。 化学実習における注意点に ついて復習しておくこと。	危険物や廃液の取り扱い方 および実験マナーについて 正しく実施できる。	白衣、保護眼鏡を着 用の上、注意事項を 必ず守り実習を行う こと。	講義 実習
4/17 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 無機定性分析②	I 族、II 族陽イオン分析	加熱と冷却、沈殿の分離、 溶解度、pHと沈殿、陽イオ ンの分類、分属、 $\text{Ag}^+$ 、 $\text{Pb}^{2+}$ 、 $\text{Cu}^{2+}$ 、 $\text{Bi}^{3+}$	I、II 族陽イオン分析実験操 作をノートに書くこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着 用の上、注意事項を 必ず守り実習を行う こと。	講義 実習
4/24 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 無機定性分析③	III族、IV族陽イオン分析	溶解度積、水酸化物の溶 解度、 $\text{Fe}^{2+}$ ( $\text{Fe}^{3+}$ )、 $\text{Mn}^{2+}$ 、 $\text{Co}^{2+}$ 、 $\text{Ni}^{2+}$ 、 $\text{Zn}^{2+}$	III、IV族陽イオン分析実験操 作をノートに書くこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着 用の上、注意事項を 必ず守り実習を行う こと。	講義 実習
5/8 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 無機定性分析④	未知試料の分析	塩化物、硫化物、水酸化 物、錯イオン	I～IV族陽イオン分析実験 操作をノートに書くこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着 用の上、注意事項を 必ず守り実習を行う こと。	講義 実習
5/22 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 無機定性分析⑤	未知試料の分析	塩化物、硫化物、水酸化 物、錯イオン	ノートに書いた実験操作をよく 理解しておくこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着 用の上、注意事項を 必ず守り実習を行う こと。	実習
5/29 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 無機定性分析⑥	未知試料の分析	塩化物、硫化物、水酸化 物、錯イオン	ノートに書いた実験操作をよく 理解しておくこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着 用の上、注意事項を 必ず守り実習を行う こと。	実習
6/5 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 再実習						

## 定性分析

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[前番]予定表								
6/12 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 無機定性分析①	実習における注意、 試薬調製	実験室での注意事項、準備 と後始末、事故対策、実験 記録	薬品、ガラス器具の取り扱い について学習しておくこと。 化学実習における注意点に ついて復習しておくこと。	危険物や廃液の取り扱い方 および実験マナーについて 正しく実施できる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、 注意事項を必ず守り実習を行 うこと。	講義 実習
6/19 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 無機定性分析②	I 族、II 族陽イオン分析	加熱と冷却、沈殿の分離、 溶解度、pHと沈殿、陽イオ ンの分類、分属、 $\text{Ag}^+$ 、 $\text{Pb}^{2+}$ 、 $\text{Cu}^{2+}$ 、 $\text{Bi}^{3+}$	I、II 族陽イオン分析実験操 作をノートに書くこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、 注意事項を必ず守り実習を行 うこと。	講義 実習
6/26 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 無機定性分析③	III族、IV族陽イオン分析	溶解度積、水酸化物の溶 解度、 $\text{Fe}^{2+}$ ( $\text{Fe}^{3+}$ )、 $\text{Mn}^{2+}$ 、 $\text{Co}^{2+}$ 、 $\text{Ni}^{2+}$ 、 $\text{Zn}^{2+}$	III、IV族陽イオン分析実験操 作をノートに書くこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、 注意事項を必ず守り実習を行 うこと。	講義 実習
6/29 土 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 無機定性分析④	未知試料の分析	塩化物、硫化物、水酸化 物、錯イオン	I～IV族陽イオン分析実験 操作をノートに書くこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、 注意事項を必ず守り実習を行 うこと。	講義 実習
7/3 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 無機定性分析⑤	未知試料の分析	塩化物、硫化物、水酸化 物、錯イオン	ノートに書いた実験操作をよく 理解しておくこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、 注意事項を必ず守り実習を行 うこと。	実習
7/10 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 無機定性分析⑥	未知試料の分析	塩化物、硫化物、水酸化 物、錯イオン	ノートに書いた実験操作をよく 理解しておくこと。 結果をノートに書き、考察して おくこと。	無機陽イオンの系統分析の 原理を説明でき、化学物質を 正しく取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、 注意事項を必ず守り実習を行 うこと。	実習
7/17 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 再実習						

科目名	科目コード	単位数	責任者
生体物質の分離と定量の基礎	CHM 112	1	馬場 猛・志村 絵理 石原 量・大森 大二郎
学習内容・概要			
<p>近年、生命科学の進歩は目覚ましい。基礎学問分野である化学を独立した体系として学ぶのではなく、化学と生命科学がオーバーラップした境界領域の知識を学ぶことこそ重要である。化学に関する知識・理論を基盤として、生命科学分野にアプローチしていくことで生命現象に新たな洞察を得るような実習を展開する必要がある。本実習では、生化学的実験を行う上で重要なバックグラウンドとなる、試薬の調製(特にpH調整)、緩衝液の原理、紫外・可視吸光度分析といった化学の基本原理を学ぶ。さらにこれらの基本原理を理解した上で、試料から生体物質(DNA)を抽出し、その一部の配列を増幅、あるいは切断し、長さにより分離するという一連の操作を体験することにより、核酸の調製法、酵素の取り扱い、PCR法、電気泳動法などの分子生物学の基礎的手技を習得する。</p>			
学習目標			
<p><b>【一般目標】</b> 生体物質への理解を深め、生化学的実験における基本的な原理やスキルを身につけ、化学の目を通して生命現象のメカニズムを分子の構造と機能の観点から洞察することができる科学的態度を養う。</p>			
<p><b>【到達目標】</b> 1.実験の原理や考え方を理解し、基礎的実験技術や実験器具の扱いを身につけることができる。 2.化学実験における安全(服装、薬品の扱いなど)に注意して実験できる。 3.適切な廃液処理を行うことによる環境配慮の姿勢を身に付けることができる。 4.実験結果をもとにデータ解析を行うことができる。 5.実験ノートを書き、実験結果を整理し、レポートにまとめて報告することができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>化学実験は、注意深く観察し、よく考えながら実行することにより、実験に対する基本的態度や正しい化学知識が身に付いていく。従って危険防止の点からも実験室では常に真剣な態度で行動する事が必要であり、また、実験室に入って初めて実験書を開くのではなく、実験の目的、原理、手順をあらかじめよく調べておくことが必要である。</p>			
<p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

本実験はすべてグループ実験となるので、共同実験者全員が同じ程度に理解できるように互いに協力して実験を行うように心がけること。白衣および保護眼鏡を着用の上、決められた注意事項を必ず守り実習を行うこと。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

レポートを返却し、適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

## 【成績評価方法】

成績は確認問題(20%)、実習態度(20%)、実験ノート(20%)、レポート(40%)を総合的に評価する。

## 【成績評価基準】

- 生体物質の構造や性質について説明できる。  
(到達目標1、5:確認問題、実験ノート、レポート)
- 基礎的実験技術や実験器具を正しく扱うことができる。  
(到達目標1、2、3:実習態度)
- 実験結果に対して適切なデータ処理ができる。  
(到達目標4、5:実習態度、レポート)

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

## 【参考書】

1. 生命科学のための化学実験、高橋知義、他編、東京教学社
2. 化学実験－基礎と応用－、須賀恭一、他編著、東京教学社
3. 化学実験の事故と安全、日本化学会編、丸善
4. 改訂 バイオ試薬調製ポケットマニュアル、田村隆明著、羊土社
5. ラボノートの書き方 岡崎康司、隅藏康一編、羊土社
6. バイオ実験イラストレイテッド 秀潤社
  - ①分子生物学実験の基礎 ②遺伝子解析の基礎 ③<sup>+</sup>本当にふえるPCR

## 【参考文献】

必要に応じて、プリントを配布する。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[後番]予定表								
9/18 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 実習の概要	実験の安全と注意	準備、後始末 実験の記録 基本的実験手法	薬品、器具の取り扱いについて学習しておくこと。 実習における注意点について復習しておくこと。	化学実験における注意事項を体得できる。	実験上の注意点をよく聞き、必ず理解するよう心掛けること。	講義
9/25 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 生体物質の分離と定量の基礎(1)	試薬調製	pHメーター、オートクレーブ	実験操作をノートに書くこと。 実験記録や結果をノートに書き、考察しておくこと。	試薬調製に必要な薬品、機器を正しくかつ安全に取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、注意事項を必ず守り実習を行うこと。	講義 実習
10/2 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 生体物質の分離と定量の基礎(2)	プラスミドの抽出	大腸菌、プラスミド、DNA抽出、アルカリ-SDS法、遠心機	実験操作をノートに書くこと。 実験記録や結果をノートに書き、考察しておくこと。	プラスミド抽出の方法及び原理を説明することができる。核酸の生化学的性質を説明することができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、注意事項を必ず守り実習を行うこと。	講義 実習
10/9 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 生体物質の分離と定量の基礎(3)	PCR及び制限酵素処理	PCR, primer, template, 制限酵素、核酸の濃度測定、分光光度計	実験操作をノートに書くこと。 実験記録や結果をノートに書き、考察しておくこと。	PCR及び制限酵素処理の原理を説明できる。実験機器の取り扱い方法を正しく理解し、指示通りに実験を実施することができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、注意事項を必ず守り実習を行うこと。	講義 実習
10/16 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 生体物質の分離と定量の基礎(4)	アガロースゲル電気泳動	電気泳動、アガロース、マーカー	実験操作をノートに書くこと。 実験記録や結果をノートに書き、考察しておくこと。	アガロースゲル電気泳動の原理を説明できる。実験機器の取り扱い方法を正しく理解し、指示通りに実験を実施することができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、注意事項を必ず守り実習を行うこと。	講義 実習
10/23 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 生体物質の分離と定量の基礎(5)	データ解析	プレゼンテーション、レポート作成	指定されたレポートを作成すること。	実験結果を分析、解釈し、仮説を立てることができる。科学的態度でプレゼンテーション、質疑応答ができる。	レポート作成の注意点をよく聞き、必ず理解するよう心掛けること。	講義
10/30 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[後番] 再実習						

## 生体物質の分離と定量の基礎

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[前番]予定表								
11/6 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 実習の概要	実験の安全と注意	準備、後始末 実験の記録 基本的実験手法	薬品、器具の取り扱いについて学習しておくこと。 実習における注意点について復習しておくこと。	化学実験における注意事項を体得できる。	実験上の注意点をよく聞き、必ず理解するよう心掛けること。	講義
11/13 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 生体物質の分離と定量の基礎(1)	試薬調製	pHメーター、緩衝液、オートクレーブ	実験操作をノートに書くこと。 実験記録や結果をノートに書き、考察しておくこと。	試薬調製に必要な薬品、機器を正しくかつ安全に取り扱うことができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、注意事項を必ず守り実習を行うこと。	講義 実習
11/27 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 生体物質の分離と定量の基礎(2)	プラスミドの抽出	大腸菌、プラスミド、DNA抽出、アルカリ-SDS法、遠心機	実験操作をノートに書くこと。 実験記録や結果をノートに書き、考察しておくこと。	プラスミド抽出の方法及び原理を説明することができる。核酸の生化学的性質を説明することができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、注意事項を必ず守り実習を行うこと。	講義 実習
12/4 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 生体物質の分離と定量の基礎(3)	PCR及び制限酵素処理	PCR, primer, template, 制限酵素、核酸の濃度測定、分光光度計	実験操作をノートに書くこと。 実験記録や結果をノートに書き、考察しておくこと。	PCR及び制限酵素処理の原理を説明できる。実験機器の取り扱い方法を正しく理解し、指示通りに実験を実施することができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、注意事項を必ず守り実習を行うこと。	講義 実習
12/11 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 生体物質の分離と定量の基礎(4)	アガロースゲル電気泳動	電気泳動、マーカー	実験操作をノートに書くこと。 実験記録や結果をノートに書き、考察しておくこと。	アガロースゲル電気泳動の原理を説明できる。実験機器の取り扱い方法を正しく理解し、指示通りに実験を実施することができる。	白衣、保護眼鏡を着用の上、注意事項を必ず守り実習を行うこと。	講義 実習
12/18 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 生体物質の分離と定量の基礎(5)	データ解析	プレゼンテーション、レポート作成	指定されたレポートを作成すること。	実験結果を分析、解釈し、仮説を立てることができる。科学的態度でプレゼンテーション、質疑応答ができる。	レポート作成の注意点をよく聞き、必ず理解するよう心掛けること。	講義
1/8 水 3・4限	馬場 猛 志村 絵理 石原 量 大森大二郎	[前番] 再実習						

科目名	科目コード	単位数	責任者
物理学入門	PHY 111	1	田中 和廣・清 裕一郎・小岩 義典
学習内容・概要			
<p>人体の動きから人体内部の生命現象に至るまで、これらを惹き起こす元になっているのは物質とその相互作用であり、これらは物理学の法則に従っている。また、医療の現場である病院は医療機器に満ちていて、これらの医療機器も物理学の原理に従って動作しているのである。この授業では、生命とその周囲で起こる様々な現象の、最も基礎の部分を支えている物理学の原理・法則について学び、それらが医療の世界でも重要な役割を果たしていることに理解を深めることを目標とする。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]            実習を通じて、物理学の基本的な概念、運動と加速度、エネルギー、電流、電場、磁場、電気振動、放射線等の基礎について学ぶ。</p>			
<p>[到達目標]            1. 物理実験の目的と原理を理解した上で古典物理学的な実験を行い、データを適正に取り扱い、レポートにまとめる。            2. 重力の下での物体の運動の基本法則を理解し、等加速度運動を求める。            3. 電気力と電場を理解し、クーロンの法則を求める。            4. 音速、周波数、周期といった波の基本的な性質を説明できる。            5. 放射線の由来と基本的性質を理解して放射線を計測し、物質による放射線の吸収特性を説明できる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>1. 予習レポート            実験の目的、基礎となる理論、実験装置、実験手順をまとめて、指定期日までに提出すること。</p> <p>2. 実習レポート            実験の測定データの表、測定データをまとめたグラフ、得られた結果を明記し、結果についての考察をまとめて、指定期日までに提出すること。</p>			
<p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b>            実習前に予習レポートの作成を行い実験に備えること、実習後は収集したデータを解析し考察をまとめて実習レポートを完成させること。            1時限あたり 予習:45分、復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>1. 本学入学試験で物理を受験しなかった者は、この科目を必ず履修しなければならない。 物理受験者も履修できる。</p> <p>2. 実験室に必ずテキスト、実験ノートおよび指定参考書を持参し、実験中に生じた疑問の解決に役立てるようにする。 また、グループ内での議論により問題解決への糸口を見出す努力も大切である。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>実習前に予習事項の理解度を確認する小テストを行い、予習レポートの内容とその理解に関してフィードバックを行う。実習レポートの内容が不十分な場合は、修正と再提出を指示する。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 予習レポート, 実習レポート, 参加態度を総合して評価する</p> <p>成績評価基準: 予習確認テスト, 予習・実習レポートと実習態度等を基に、理解度と学習目標の達成度を総合的に判定する。</p>	<p>【テキスト】 自然科学総合実習物理 (順天堂大学物理学教室編)</p> <p>【指定参考書】 「生命科学のための基礎シリーズ 物理」 大島泰郎 監修(実教出版)</p>



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[前番]予定表								
4/10 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] 実習講義1	「A.運動論、B.電気力、C.オシロスコープと波、D.放射線」のいずれかふたつ	物理実習の目的、内容	予習)実習テキスト、指定参考書の関連事項を予習しておくこと。 復習)講義で配布された資料等を復習すること	実験の目的、原理を理解する。	テキスト・ノートを持参すること。	講義
4/17 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] 実習講義2	「A.運動論、B.電気力、C.オシロスコープと波、D.放射線」のいずれかふたつ	物理実習の目的、内容	予習)実習テキスト、指定参考書の関連事項を予習しておくこと。 復習)講義で配布された資料等を復習すること	実験の目的、原理を理解する。	テキスト・ノートを持参すること。	講義
4/24 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] A. 運動論の基礎	運動の記述と等加速度運動	位置、速度、加速度、地球の重力、力、質量、自由落下、重力加速度	予習)実験に関する予習レポートを作成し、期日までに提出すること。 復習)実験データを解析し実習レポートを作成し、期日までに提出すること。	等加速度運動を求め、重力の下での基本法則を理解する。	テキスト・ノートを持参すること。	実習
5/8 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] B. 電気力と電場	静電気を測定しよう	クーロンの法則、電場、ヴェンデグラフ、電気力線、力の釣り合い	予習)実験に関する予習レポートを作成し、期日までに提出すること。 復習)実験データを解析し実習レポートを作成し、期日までに提出すること。	電気力と電場を理解し、クーロンの法則を求める。	テキスト・ノートを持参すること。	実習
5/22 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] C. オシロスコープによる波形観測	物理現象や生命現象に伴う電気信号の波形の観測	発振器による波形、周波数測定 波形の加算、うなり、位相変化	予習)実験に関する予習レポートを作成し、期日までに提出すること。 復習)実験データを解析し実習レポートを作成し、期日までに提出すること。	オシロスコープの使い方を習得し、波の性質を学ぶ。	テキスト・ノートを持参すること。	実習
5/29 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] D. 放射線(γ線)	放射線は物質によりどのように吸収されるか	放射性元素、原子核の崩壊、α・β・γ線、ガイガーカウンター、吸収係数、放射線計測と統計誤差	予習)実験に関する予習レポートを作成し、期日までに提出すること。 復習)実験データを解析し実習レポートを作成し、期日までに提出すること。	放射線を理解し、γ線の吸収曲線を求める。	テキスト・ノートを持参すること。	実習
6/5 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] 実習予備日						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[後番]予定表								
6/12 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] 実習講義1	「A.運動論、B.電気力、C.オシロスコープと波、D.放射線」のいずれかふたつ	物理実習の目的、内容	予習)実習テキスト、指定参考書の関連事項を予習しておくこと。 復習)講義で配布された資料等を復習すること	実験の目的、原理を理解する。	テキスト・ノートを持参すること。	講義
6/19 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] 実習講義2	「A.運動論、B.電気力、C.オシロスコープと波、D.放射線」のいずれかふたつ	物理実習の目的、内容	予習)実習テキスト、指定参考書の関連事項を予習しておくこと。 復習)講義で配布された資料等を復習すること	実験の目的、原理を理解する。	テキスト・ノートを持参すること。	講義
6/26 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] A. 運動論の基礎	運動の記述と等加速度運動	位置、速度、加速度、地球の重力、力、質量、自由落下、重力加速度	予習)実験に関する予習レポートを作成し、期日までに提出すること。 復習)実験データを解析し実習レポートを作成し、期日までに提出すること。	等加速度運動を求め、重力の下での基本法則を理解する。	テキスト・ノートを持参すること。	実習
6/29 土 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] B. 電気力と電場	静電気を測定しよう	クーロンの法則、電場、ヴァンデグラフ、電気力線、力の釣り合い	予習)実験に関する予習レポートを作成し、期日までに提出すること。 復習)実験データを解析し実習レポートを作成し、期日までに提出すること。	電気力と電場を理解し、クーロンの法則を求める。	テキスト・ノートを持参すること。	実習
7/3 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] C. オシロスコープによる波形観測	物理現象や生命現象に伴う電気信号の波形の観測	発振器による波形、周波数測定 波形の加算、うなり、位相変化	予習)実験に関する予習レポートを作成し、期日までに提出すること。 復習)実験データを解析し実習レポートを作成し、期日までに提出すること。	オシロスコープの使い方を習得し、波の性質を学ぶ。	テキスト・ノートを持参すること。	実習
7/10 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] D. 放射線(γ線)	放射線は物質によりどのように吸収されるか	放射性元素、原子核の崩壊、α・β・γ線、ガイガーカウンター、吸収係数、放射線計測と統計誤差	予習)実験に関する予習レポートを作成し、期日までに提出すること。 復習)実験データを解析し実習レポートを作成し、期日までに提出すること。	放射線を理解し、γ線の吸収曲線を求める。	テキスト・ノートを持参すること。	実習
7/17 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] 実習予備日						

科目名	科目コード	単位数	責任者
ミクロの世界から	PHY 112	1	田中 和廣・清 裕一郎・小岩 義典
学習内容・概要			
目に見えるマクロな現象が、ミクロの世界から理解できることがある。マクロな剛体の運動は質点の集まりとして、オーロラや半導体はミクロな荷電粒子の電磁現象として理解できる。フランク・ヘルツの実験では、ミクロな原子の世界を支配している量子力学を学ぶ。この授業では、ミクロの世界から様々な現象をとらえ、最も基礎の部分を支配している物理学の原理・法則について学ぶことを目標とする。			
学習目標			
[一般目標] 実習を通じて、剛体の力学、原子、電子、電磁気力、比電荷、ホール効果、半導体、エネルギー準位について学ぶ。			
[到達目標] 1.物理実験の目的と原理を理解した上でミクロな世界の物理実験を行い、データを適正に取り扱い、レポートにまとめる。 2.重力の下での剛体の運動の基本法則を理解し、剛体の物理量を求める。 3.磁場の中の荷電粒子の運動の法則を理解し、電子の比電荷を求める。 4.オームの法則をミクロな視点から説明できる。 5.原子内の電子軌道が電子の波動性に由来することを理解し、エネルギー準位と原子スペクトルの関係を説明できる。			
自己学習(準備学習)			
1. 予習レポート 実験の目的、基礎となる理論、実験装置、実験手順をまとめて、指定期日までに提出すること。  2. 実習レポート 実験の測定データの表、測定データをまとめたグラフ、得られた結果を明記し、結果についての考察をまとめて、指定期日までに提出すること。			
【自己学習(準備学習)に必要な時間】 実習前に予習レポートの作成を行い実験に備えること、実習後は収集したデータを解析し考察をまとめて実習レポートを完成させること。 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

学習上の注意点	
<p>1. 本学入学試験で物理を受験した者は、この科目を必ず履修しなければならない。 物理受験でない者も履修できる。</p> <p>2. 実験室に必ずテキスト、実験ノートおよび指定参考書を持参し、実験中に生じた疑問の解決に役立てるようにする。 また、グループ内での議論により問題解決への糸口を見出す努力も大切である。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>実習前に予習事項の理解度を確認する小テストを行い、予習レポートの内容とその理解に関してフィードバックを行う。実習レポートの内容が不十分な場合は、修正と再提出を指示する。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 予習レポート, 実習レポート, 参加態度を総合して評価する</p> <p>成績評価基準: 予習確認テスト, 予習・実習レポートと実習態度等を基に、理解度と学習目標の達成度を総合的に判定する。</p>	<p>【テキスト】 自然科学総合実習物理 (順天堂大学物理学教室編)</p> <p>【指定参考書】 「生命科学のための基礎シリーズ 物理」 大島泰郎 監修(実教出版)</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[前番]予定表								
9/18 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] 実習講義1	「A.剛体、B.比電荷、C.半 導体、D.フランク・ヘルツ」 のいずれかふたつ	物理実習の目的、内容	予習)実習テキスト、指定参考 書の関連事項を予習しておく こと。 復習)講義で配布された資料 等を復習すること	実験の目的、原理を理解す る。	テキスト・ノートを持 参すること。	講義
9/25 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] 実習講義2	「A.剛体、B.比電荷、C.半 導体、D.フランク・ヘルツ」 のいずれかふたつ	物理実習の目的、内容	予習)実習テキスト、指定参考 書の関連事項を予習しておく こと。 復習)講義で配布された資料 等を復習すること	実験の目的、原理を理解す る。	テキスト・ノートを持 参すること。	講義
10/2 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] A. 簡単な剛体の運動	斜面を転がり落ちる剛体	剛体の運動エネルギー・慣 性モーメント 並進、重心、角速度	予習)実験に関する予習レポ ートを作成し、期日までに提出 すること。 復習)実験データを解析し実 習レポートを作成し、期日ま でに提出すること。	等加速度運動を求め、重力 の下での基本法則を理解す る。	テキスト・ノートを持 参すること。	実習
10/9 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] B. 電子の比電荷	オーロラを実験室で見よう	電流と磁場、ローレンツ力、 素電荷、比電荷、フレミング の左手の法則	予習)実験に関する予習レポ ートを作成し、期日までに提出 すること。 復習)実験データを解析し実 習レポートを作成し、期日ま でに提出すること。	電流が作る磁場を理解し、磁 場中の荷電粒子の運動を利用 して電子の比電荷を求め る。	テキスト・ノートを持 参すること。	実習
10/16 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] C. 半導体のホール効果	流れている電流の正体	オームの法則と自由電子模 型、電子・正孔とキャリアー、 P型・N型半導体、ホール効 果	予習)実験に関する予習レポ ートを作成し、期日までに提出 すること。 復習)実験データを解析し実 習レポートを作成し、期日ま でに提出すること。	ホール効果の測定を通して、 電気現象のミクロなメカニ ズムを理解する。	テキスト・ノートを持 参すること。	実習
10/23 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] D. フランク・ヘルツの実 験	量子力学入門:原子の構造	プランク定数、量子条件、 エネルギー準位、 光子の放出・吸収	予習)実験に関する予習レポ ートを作成し、期日までに提出 すること。 復習)実験データを解析し実 習レポートを作成し、期日ま でに提出すること。	原子のエネルギー準位の存 在の証拠を確認し、そのエ ネルギー差を求める。	テキスト・ノートを持 参すること。	実習
10/30 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[前番] 実習予備日						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[後番]予定表								
11/6 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] 実習講義1	「A.剛体、B.比電荷、C.半 導体、D.フランク・ヘルツ」 のいずれかふたつ	物理実習の目的、内容	予習)実習テキスト、指定参考 書の関連事項を予習しておく こと。 復習)講義で配布された資料 等を復習すること	実験の目的、原理を理解す る。	テキスト・ノートを持 参すること。	講義
11/13 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] 実習講義2	「A.剛体、B.比電荷、C.半 導体、D.フランク・ヘルツ」 のいずれかふたつ	物理実習の目的、内容	予習)実習テキスト、指定参考 書の関連事項を予習しておく こと。 復習)講義で配布された資料 等を復習すること	実験の目的、原理を理解す る。	テキスト・ノートを持 参すること。	講義
11/27 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] A. 簡単な剛体の運動	斜面を転がり落ちる剛体	剛体の運動エネルギー・慣 性モーメント 並進、重心、角速度	予習)実験に関する予習レポー トを作成し、期日までに提出す ること。 復習)実験データを解析し実習 レポートを作成し、期日までに 提出すること。	等加速度運動を求め、重力 の下での基本法則を理解す る。	テキスト・ノートを持 参すること。	実習
12/4 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] B. 電子の比電荷	オーロラを実験室で見よう	電流と磁場、ローレンツ力、 素電荷、比電荷、フレミング の左手の法則	予習)実験に関する予習レポー トを作成し、期日までに提出す ること。 復習)実験データを解析し実習 レポートを作成し、期日までに 提出すること。	電流が作る磁場を理解し、磁 場中の荷電粒子の運動を利用 して電子の比電荷を求め る。	テキスト・ノートを持 参すること。	実習
12/11 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] C. 半導体のホール効果	流れている電流の正体	オームの法則と自由電子模 型、電子・正孔とキャリアー、 P型・N型半導体、ホール効 果	予習)実験に関する予習レポー トを作成し、期日までに提出す ること。 復習)実験データを解析し実習 レポートを作成し、期日までに 提出すること。	ホール効果の測定を通して、 電気現象のミクロなメカニズ ムを理解する。	テキスト・ノートを持 参すること。	実習
12/18 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] D. フランク・ヘルツの実 験	量子力学入門:原子の構造	プランク定数、量子条件、 エネルギー準位、 光子の放出・吸収	予習)実験に関する予習レポー トを作成し、期日までに提出す ること。 復習)実験データを解析し実習 レポートを作成し、期日までに 提出すること。	原子のエネルギー準位の存 在の証拠を確認し、そのエネ ルギー差を求める。	テキスト・ノートを持 参すること。	実習
1/8 水 3・4限	田中 和廣 清 裕一郎 小岩 義典	[後番] 実習予備日						

科目名	科目コード	単位数	責任者
顕微鏡観察	BIO 111	1	和田 麻理 ・ 松本 顕 ・ 内田 桂吉
学習内容・概要			
<p>この実習では顕微鏡を用いて動物の細胞・組織・器官を観察し、それらの基本構造、また細胞分裂の仕組みなどについて理解を深める。また、実習後半では、生きているニワトリの胚および固定された切片標本を観察することにより、細胞が集まって個体を作り上げていく仕組みを理解する。これらを通して、顕微鏡観察と解剖の基本技術を身につけ、正確で詳細な観察を行い、生物の機能と構造に関する理解を深める。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい光学顕微鏡の取り扱いができるようになる。</li> <li>・生物観察の基本である精密なスケッチができるようになる。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光学顕微鏡および実体顕微鏡の正しい取り扱いができる。</li> <li>2. 生物観察の基本である精密なスケッチができる。</li> <li>3. 生物を形づくる基本である細胞、組織、器官系の観察を通じて、生物の階層性を認識できる。</li> </ol>			

自己学習(準備学習)	
<p>生物の階層性を形成する細胞、組織、器官形成に関して顕微鏡を用いた実習を行う。顕微鏡を漫然と覗くのではなく、何を観察し、どこが重要なのかといったポイントを理解するためには、事前に各実習内容に関するキーワードについて、中学や高校の教科書・図表などを用いた自己学習が必要である。  <b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>	
学習上の注意点	
<p>実習の説明あるいは関連した講義は授業のはじめに行うが、それらをよく理解しないと実際の作業ができないため、遅刻は厳禁である。                      生物サンプルの準備の都合で、実習項目の順序が前後する場合がある。実習室内での飲食、スマートフォン等携帯端末の使用を禁止する。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:                      実習後に提出する観察スケッチを主な評価対象とするが、実習解説時および実習中の参加態度、確認テストも考慮して総合的に判断する。</p> <p>成績評価基準:                      提出された課題、確認テスト等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>[生物全般の参考書]                      サイエンスビュー生物総合資料 実教出版                      エッセンシャル・キャンベル生物学 原書6版 丸善など                      なお、以下の資料は実習室に準備されているので、必要に応じて適宜参照すること。                      顕微鏡の使い方 田中義麿著 裳華房                      染色体の研究 中西 宥著 東京大学出版会                      減数分裂 伊藤 道夫 東京大学出版会                      脊椎動物発生学 久米 又三編 培風館</p>



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[前番]予定表								
4/12 金 3・4限	和田 麻理 松本 顕 内田 桂吉	ガイダンス 顕微鏡の使い方 細胞周期①卵割	顕微鏡の構造・機能 標本の観察方法 ウニの初期発生の観察	光学系、メカニカル系、 倍率、焦点、 初期発生、卵割、割球、 胞胚、原腸胚	動物のからだづくり(受精卵か ら胚形成まで)について自己 学習しておくこと。	動物の初期発生のしくみにつ いて説明できる。光学顕微鏡 が使用できる。	白衣の準備。	実習
4/19 金 3・4限		細胞周期②核分裂	分裂期の染色体の観察	細胞周期、分裂期、核分 裂、染色体の凝縮、細胞質 分裂	細胞周期について自己学習 しておくこと。	細胞周期と、細胞分裂に伴う 染色体の変化について説明 できる。	白衣の準備。	実習
4/26 金 3・4限		組織標本の観察	マウス小腸の観察	組織、器官、 上皮、神経、筋、結合組織	生物の階層性について自己 学習しておくこと。	動物の組織について説明で きる。消化管の基本構造が説 明できる。	白衣の準備。	実習
5/10 金 3・4限		発生のしくみ① 初期生胚の観察	ニワトリ4日目胚の観察	胚発生、神経管、脳、眼、 心臓、鰓	器官形成(特に胚発生)につ いて自己学習しておくこと。	ニワトリ初期胚の器官形成に ついて説明できる。	白衣の準備。 解剖器の準備。	実習
5/17 金 3・4限		発生のしくみ② 連続切片標本の観察	ニワトリの連続切片による各 器官の観察	眼盃、レンズ、 鰓孔、動脈弓、 キユヴェイエ管	器官形成(特に脳、心臓)に ついて自己学習しておくこと。	連続切片像から、ニワトリ初期 胚の内臓配置を立体構築し て説明できる。	白衣の準備。	実習
5/24 金 3・4限		顕微鏡観察に関するまと めと確認	まとめと確認テスト	階層性、細胞周期、 器官形成	前5回の実習で行った内容に ついて復習しておくこと。	生物の階層性、細胞周期等 について説明できる。		試験
5/31 金 3・4限		A組再実習					病欠等で全5回の解 剖実習を満たしてい ない学生が対象。	実習

顕微鏡観察

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[後番]予定表								
6/7 金 3・4限	和田 麻理 松本 顕 内田 桂吉	ガイダンス 顕微鏡の使い方 細胞周期①卵割	顕微鏡の構造・機能 標本の観察方法 ウニの初期発生の観察	光学系、メカニカル系、 倍率、焦点、 初期発生、卵割、割球、 胞胚、原腸胚	動物のからだづくり(受精卵か ら胚形成まで)について自己 学習しておくこと。	動物の初期発生のしくみにつ いて説明できる。光学顕微鏡 が使用できる。	白衣の準備。	実習
6/14 金 3・4限		細胞周期②核分裂	分裂期の染色体の観察	細胞周期、分裂期、核分 裂、染色体の凝縮、細胞質 分裂	細胞周期について自己学習 しておくこと。	細胞周期と、細胞分裂に伴う 染色体の変化について説明 できる。	白衣の準備。	実習
6/21 金 3・4限		組織標本の観察	マウス小腸の観察	組織、器官、 上皮、神経、筋、結合組織	生物の階層性について自己 学習しておくこと。	動物の組織について説明で きる。消化管の基本構造が説 明できる。	白衣の準備。	実習
6/28 金 3・4限		発生のしくみ① 初期生胚の観察	ニワトリ4日目胚の観察	胚発生、神経管、脳、眼、 心臓、鰓	胚の初期発生について自己 学習しておくこと。	ニワトリ初期胚の器官形成に ついて説明できる。	白衣の準備。 解剖器の準備。	実習
7/5 金 3・4限		発生のしくみ② 連続切片標本の観察	ニワトリの連続切片による各 器官の観察	眼盃、レンズ、 鰓孔、動脈弓、 キユヴィエ管	器官形成(特に脳、心臓、鰓) について自己学習しておくこ と。	連続切片像から、ニワトリ初期 胚の内臓配置を立体構築し て説明できる。	白衣の準備。	実習
7/12 金 3・4限		顕微鏡観察に関するまと めと確認	まとめと確認テスト	階層性、細胞周期、 器官形成	前5回の実習で行った内容に ついて復習しておくこと。	生物の階層性、細胞周期等 について説明できる。		試験
7/19 金 3・4限		B組再実習					病欠等で全5回の解 剖実習を満たしてい ない学生が対象。	実習

科目名	科目コード	単位数	責任者
カエルの解剖	BIO 112	1	和田 麻理・松本 顕・内田 桂吉
学習内容・概要			
カエルを材料として、動物のからだの基本的な構造を学ぶ。外部の観察を行った後、内臓について、消化器官系、循環器系、泌尿生殖器系、筋肉系、神経系に分け、それぞれの特徴を知る。またこの実習を通して、解剖に必要な器具の扱いを学ぶと同時に、生物の解剖を行う際の基本姿勢を身につける。			
学習目標			
[一般目標]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物のからだの基本的な構造を理解する。</li> <li>・主な臓器や組織の名称を日英両方で理解する。</li> <li>・精密な観察に基づくスケッチを行う。</li> <li>・解剖に必要な器具の扱い方を習得する。</li> </ul>			
[到達目標]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.解剖に必要な器具の扱い方を習得できる。</li> <li>2.主な臓器や組織について、日英両方の専門用語を用いて説明できる。</li> <li>3.詳細な観察に基づいてスケッチができる。</li> <li>4.動物のからだの基本構造を理解できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
臓器・器官系に関して、体腔内での配置や簡単な機能に関する最低限の基礎知識がないと本実習を行うことは困難である。事前に中学・高校の教科書や図表などによる、各臓器・器官系に関する自己学習が必要である。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

学習上の注意点	
各器官系に関する講義、また解剖手順の説明については授業のはじめに行うが、それらをよく理解しないと実際の作業ができないため、遅刻は厳禁である。白衣、解剖用具、その他作業に必要なものを忘れないこと。実習室内での飲食、スマートフォンなど携帯端末の使用を禁止する。	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 実習後に提出するスケッチを主な評価対象とするが、実習の事前解説および解剖実習中の参加態度、確認テストも考慮して総合的に判断する。</p> <p>成績評価基準: 提出された課題、確認テスト等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>総合動物学第一巻「蛙」(吉岡俊亮) 蛙学(市川 衛)裳華房 比較解剖手技(H. G. Rowett)西村書店 The anatomy of the frog (A.Ecker) A. Asher &amp; Co. N.Y. 日本動物解剖図説 広島大学生物学会編 森北出版</p> <p>以上の資料は実習室に準備されているので、適宜参照すること。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式	
[前番]予定表									
9/13 金 3・4限	和田 麻理 松本 颯 内田 桂吉	カエルの解剖1	外形観察と消化器系を中心とした内臓全般の観察	前肢、後肢、頭部形態、心臓、肺、胃、小腸、直腸、肝臓、胆嚢、膵臓、生殖器	キーワードに関して自己学習しておくこと。	各臓器の構造と名称、体腔内での配置を図示して説明できる。	トノサマガエルまたは小型ウシガエルを使用。	実習	
9/20 金 3・4限		カエルの解剖2	循環器系の観察	体循環、肺循環、動脈、静脈、心房、心室、静脈洞、大動脈弓、下行大動脈、上大静脈	キーワードに関して自己学習しておくこと。	大まかな血液の流れが説明できる。	ウシガエルを使用。	実習	
9/27 金 3・4限		カエルの解剖3	泌尿生殖器系の観察	腎臓、輸尿管、膀胱、卵巣、輸卵管、子宮、精巣、輸精尿管	キーワードに関して自己学習しておくこと。	泌尿生殖器系の名称、配置、機能について図示して説明できる。	ウシガエルを使用。	実習	
10/4 金 3・4限		カエルの解剖4	脊髄神経の観察	中枢神経、末梢神経、運動神経、感覚神経、脊髄神経、自律神経、連絡枝	キーワードに関して自己学習しておくこと。	脊髄神経、交感神経の構造について図示して説明できる。	ウシガエルを使用。	実習	
10/11 金 3・4限		カエルの解剖5	後肢筋肉および座骨神経の観察	大腿四頭筋、縫工筋、長内転筋、大内直筋、大内転筋、半膜様筋、腓腹筋、アキレス腱	キーワードに関して自己学習しておくこと。	後肢筋肉の構造を図示して説明できる。	ウシガエルを使用。	実習	
10/18 金 3・4限		解剖のまとめと確認	器官系、臓器の確認テスト(英語名称を含む)	消化器系、循環器系、泌尿器系、神経系、運動器	カエルの解剖1～5に出てきた器官系、各臓器の名称について復習しておくこと。	臓器の配置図を元に、臓器の名称を日本語と英語で述べることができる。	manabaの練習問題を全て合格しておくこと。	試験	
10/25 金 3・4限		A組実習						病欠等で全5回の解剖実習を満たしていない学生が対象。	実習

カエルの解剖

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[後番]予定表								
11/1 金 3・4限	和田 麻理 松本 顕 内田 桂吉	カエルの解剖1	外形観察と消化器官を中心とした内臓全般の観察	前肢、後肢、頭部形態、心臓、肺、胃、小腸、直腸、肝臓、胆嚢、膵臓、生殖器	キーワードに関して自己学習しておくこと。	各臓器の構造と名称、体腔内での配置を図示して説明できる。	トノサマガエルまたは小型ウシガエルを使用。	実習
11/8 金 3・4限		カエルの解剖2	循環器系の観察	体循環、肺循環、動脈、静脈、心房、心室、大動脈弓、下行大動脈、前主静脈	キーワードに関して自己学習しておくこと。	大まかな血液の流れが説明できる。	ウシガエルを使用	実習
11/15 金 3・4限		カエルの解剖3	泌尿生殖器系の観察	腎臓、輸尿管、膀胱、卵巣、輸卵管、子宮、精巣、輸精尿管	キーワードに関して自己学習しておくこと。	泌尿生殖器系の名称、配置、機能について図示して説明できる。	ウシガエルを使用	実習
11/29 金 3・4限		カエルの解剖4	脊髄神経の観察	中枢神経、末梢神経、運動神経、感覚神経、脊髄神経、自律神経、連絡枝	キーワードに関して自己学習しておくこと。	脊髄神経、交感神経の構造について図示して説明できる。	ウシガエルを使用	実習
12/6 金 3・4限		カエルの解剖5	後肢筋肉および座骨神経の観察	大腿四頭筋、縫工筋、長内転筋、大内直筋、大内転筋、半膜様筋、腓腹筋、アキレス腱	キーワードに関して自己学習しておくこと。	後肢筋肉の構造を図示して説明できる。	ウシガエルを使用	実習
12/20 金 3・4限		解剖のまとめと確認	器官系、臓器の確認テスト(英語名称を含む)	消化器系、循環器系、泌尿器系、神経系、運動器	カエルの解剖1～5に出てきた器官系、各臓器の名称について復習しておくこと。	臓器の配置図を元に、臓器の名称を日本語と英語で述べることができる。	manabaの練習問題を全て合格しておくこと。	試験
1/10 金 3・4限		B組再実習					病欠等で全5回の解剖実習を満たしていない学生が対象。	実習

科目名	科目コード	単位数	責任者
情報処理 I	MTH 111	1	奥野 浩 ・ 川村 浩之 前崎 信孝 ・ 齋藤 麻由美
学習内容・概要			
MS Excelの基本的な操作を学ぶ。 統計学の基礎について学ぶ。			
学習目標			
[一般目標] Excelの基本操作ができるようになる。 中心極限定理等の統計学の基礎となる知識を得る。			
[到達目標] 1.Excelを使って、表を作成できる。 2.Excelを使って、グラフを作成できる。 3.Excelを使って基本的なデータベースの処理ができる。 4.標準偏差の意味を理解し説明できる。 5.中心極限定理の意味を理解し説明できる。			
自己学習(準備学習)			
あまり自信のない学生は、あらかじめ入門書等を購入し、購読しておくこと。 統計学に関しては、「統計解析への数学」のテキストを読んでおくこと。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

学習上の注意点	
<p>コンピュータの利用方法がわからないとき、主にWeb検索を使い利用法を調べることになる。このとき、正式な用語を知っていると素早く必要な情報が得られやすい。このため、正式な用語を覚えておくこと。わからない用語があるときは教員に尋ねること。</p> <p>実習室は、実習で利用されていない時間帯は開放されているので、操作がよくわからないときは適宜復習をすること。</p> <p>2つのクラスに分けて同じ実習を行う。クラス分けはJ-passにて掲示を出すのでそれに従うこと。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題に関しては、次の実習時に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:            実習中に提出されるファイル20%            実習中の態度等10%            確認テスト70%</p> <p>成績評価基準:            確認試験の結果、実習の課題を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>参考書</p> <p>篠崎信夫・竹内秀一 統計解析入門 サイエンス社</p>



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[後番]予定表								
4/12 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	この実習について	1.実習の概要 2.作表の基本	絶対参照 相対参照 関数 標準偏差	予習: Excelの用語について調べること。  復習: 習った操作を復習しておくこと。	絶対参照と相対参照を使い分けることができる。	うまくコピーできるの はどのような式か理解 すること。	実習
4/19 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	グラフ	1.グラフの基本	グラフツール 散布図 ドットプロット 箱ひげ図	予習: 箱ひげ図について調 べること。  復習: 習った操作を復習し ておくこと。	グラフツールが使える。	グラフでもコピーと編 集ができること理解 すること。	実習
4/26 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	離散型確率分布	1.度数分布表からの平均値 と分散の計算 2.離散型確率分布	2項分布 ポアソン分布 標本分散	予習: 2項分布について調 べること。  復習: 習った操作を復習し ておくこと。	度数分布表から平均値と分 散を計算できる。 2項分布について説明でき る。	確率密度関数と積 率分布関数の使い 方に注意する。	実習
5/10 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	連続型確率分布	1.連続型確率分布 2.正規分布	正規分布 標準化	予習: 正規分布の標準化に ついて調べること。  復習: 習った操作を復習し ておくこと。	正規分布を利用した確率計 算ができる。	確率密度関数と積 率分布関数の使い 方に注意する。	実習
5/17 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	二項分布の近似	1.ピボットテーブル 2.二項分布の近似	ピボットテーブル 二項分布の正規近似 二項分布のポアソン近似	予習: 二項分布について調 べること。  復習: 習った操作を復習し ておくこと。	二項分布を正規近似できる 条件を理解し、正規近似を 使った確率計算ができるよ うになる。	2項分布を近似する ときの条件に注意す る。	実習
5/24 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	まとめ	確認テスト	Excel	これまでの実習について復習 しておくこと。	Excelが操作できるようにな る。	どのような操作をして いるか理解して操作 すること。	実習
5/31 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	予備日						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[前番]予定表								
6/7 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	この実習について	1.実習の概要 2.作表の基本	絶対参照 相対参照 関数 標準偏差	予習: Excelの用語について調べること。  復習: 習った操作を復習しておくこと。	絶対参照と相対参照を使い分けることができる。	うまくコピーできるの はどのような式か理解 すること。	実習
6/14 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	グラフ	1.グラフの基本	グラフツール 散布図 ドットプロット 箱ひげ図	予習: 箱ひげ図について調 べること。  復習: 習った操作を復習し ておくこと。	グラフツールが使える。	グラフでもコピーと編 集ができること理解 すること。	実習
6/21 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	離散型確率分布	1.度数分布表からの平均値 と分散の計算 2.離散型確率分布	2項分布 ポアソン分布 標本分散	予習: 2項分布について調 べること。  復習: 習った操作を復習し ておくこと。	度数分布表から平均値と分 散を計算できる。 2項分布について説明でき る。	確率密度関数と積 率分布関数の使い 方に注意する。	実習
6/28 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	連続型確率分布	1.連続型確率分布 2.正規分布	正規分布 標準化	予習: 正規分布の標準化に ついて調べること。  復習: 習った操作を復習し ておくこと。	正規分布を利用した確率計 算ができる。	確率密度関数と積 率分布関数の使い 方に注意する。	実習
7/5 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	二項分布の近似	1.ピボットテーブル 2.二項分布の近似	ピボットテーブル 二項分布の正規近似 二項分布のポアソン近似	予習: 二項分布について調 べること。  復習: 習った操作を復習し ておくこと。	二項分布を正規近似できる 条件を理解し、正規近似を 使った確率計算ができるよ うになる。	2項分布を近似する ときの条件に注意す る。	実習
7/12 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	まとめ	確認テスト	Excel	これまでの実習について復習 しておくこと。	Excelが操作できるようにな る。	どのような操作をして いるか理解して操作 すること。	実習
7/19 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	予備日						

科目名	科目コード	単位数	責任者
情報処理Ⅱ	MTH 112	1	奥野 浩・川村 浩之 前崎 信孝・齋藤 麻由美
学習内容・概要			
この実習ではExcelを用いて区間推定や仮説検定などの推測統計の様々な手法を学ぶ。乱数による数値実験や具体的なデータ処理を通して区間推定や仮説検定の理解を深めることを目標とする。また、分散分析や重回帰分析、スピアマンの順位相関係数など手計算は難しいが医療統計でマスターしておくべき事柄を取り扱うことで必修科目「統計解析への数学」を補完する。			
学習目標			
[一般目標] Excelの関数を利用して、さまざまな統計量を計算できるようになる。 グラフの作成し、データを可視化できるようになる。 様々な区間推定・仮説検定が行えるようになる。 回帰モデルによる分析が行えるようになる。			
[到達目標] 1.Excelで基本的な統計関数を使える。 2.Excelで母平均・母比率の信頼区間を求められる。 3.Excelで基本的な仮説検定を行える。 4.Excelの分析ツールを用いて分散分析・重回帰分析が行える。			
自己学習(準備学習)			
必修科目「統計解析への数学」のテキスト「統計解析入門」の復習をしておくこと。 情報処理Ⅰで学んだことを前提とするので情報処理Ⅰを履修していない場合にはExcelの基本操作を自習しておくことが必須である。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分			

学習上の注意点	
<p>配布プリントをしっかりと読んで意味を理解した上でExcel操作を行うことを心掛けてほしい。            実習室は、実習で利用されていない時間帯は開放されているので、操作がよくわからないときは実習室に来て適宜復習をすること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題に関しては、次の実習時に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法：            実習中に提出されるファイル20%            実習中の態度等10%            確認テスト70%</p> <p>成績評価基準：            確認試験の結果、実習の課題を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>参考書</p> <p>篠崎信夫・竹内秀一 統計解析入門 サイエンス社            「医療統計力」を鍛える！ 千葉康敬 著 総合医学社            ここから学ぼう！ 図解医療統計 本気で統計を始めたい人のための入門書            柳澤 尚武, 西崎 祐史 (共著), 代田 浩之 (監修) 総合医学社            An introduction to medical statistics 4th ed. M. Bland, Oxford University Press</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[後番]予定表								
9/13 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	データの整理と標本分布	母集団と標本の関係	度数分布表 ヒストグラム 大数の法則 中心極限定 理 標本分布	指定参考書第8章を勉強して おくこと。また、実習後に復習 をすること。	ヒストグラムを作成できる。 平均や分散の標本分布が説明 できる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
9/20 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	区間推定	母平均・母比率を推定する	区間推定 小標本 大標本 オッズ比 相関係数	指定参考書第9章を勉強して おくこと。また、実習後に復習 をすること。	母平均・母比率の信頼区間 の計算ができる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
9/27 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	仮説検定	平均値の差の検定 独立性の検定	帰無仮説 有意水準 t-検定 $\chi^2$ 乗検定	指定参考書第10章を勉強し ておくこと。また、実習後に復 習をすること。	仮説検定の流れを理解する。 Excelで t-検定、 $\chi^2$ 乗検定 ができる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
10/4 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	相関と回帰	相関係数と単回帰モデル	調整オッズ比 相関係数 スピアマンの順位相関係数 単回帰式 RMSE 平均への回帰	指定参考書第11章を勉強し ておくこと。また、実習後に復 習をすること。	スピアマンの順位相関係数が 計算できる。単回帰式と誤差 が計算できる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
10/11 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	分散分析と重回帰モデル	分析ツールを使って	F検定 分散分析 ドットプロット 重回帰モデ ル 補正R2乗値 回帰係数の信頼区間	前回の内容を復習をしておく こと。また、実習後に復習を すること。	分析ツールを用いて様々な 解析が行える。アウトプットの 解釈ができる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
10/18 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	まとめ	確認テスト	Excel	これまでの実習について復習 しておくこと。	Excelを利用して基本的な統 計処理ができる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
10/25 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	予備日						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
[前番]予定表								
11/1 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	データの整理と標本分布	母集団と標本の関係	度数分布表 ヒストグラム 大数の法則 中心極限定 理 標本分布	指定参考書第8章を勉強して おくこと。また、実習後に復習 をすること。	ヒストグラムを作成できる。 平均や分散の標本分布が説明 できる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
11/8 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	区間推定	母平均・母比率を推定する	区間推定 小標本 大標本 オッズ比 相関係数	指定参考書第9章を勉強して おくこと。また、実習後に復習 をすること。	母平均・母比率の信頼区間 の計算ができる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
11/15 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	仮説検定	平均値の差の検定 独立性の検定	帰無仮説 有意水準 t-検定 $\chi^2$ 乗検定	指定参考書第10章を勉強し ておくこと。また、実習後に復 習をすること。	仮説検定の流れを理解する。 Excelで t-検定、 $\chi^2$ 乗検定 ができる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
11/29 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	相関と回帰	相関係数と単回帰モデル	調整オッズ比 相関係数 スピアマンの順位相関係数 単回帰式 RMSE 平均への回帰	指定参考書第11章を勉強し ておくこと。また、実習後に復 習をすること。	スピアマンの順位相関係数が 計算できる。単回帰式と誤差 が計算できる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
12/6 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	分散分析と重回帰モデル	分析ツールを使って	F検定 分散分析 ドットプロット 重回帰モデ ル 補正R2乗値 回帰係数の信頼区間	前回の内容を復習をしておく こと。また、実習後に復習を すること。	分析ツールを用いて様々な 解析が行える。アウトプットの 解釈ができる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
12/20 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	まとめ	確認テスト	Excel	これまでの実習について復習 しておくこと。	Excelを利用して基本的な統 計処理ができる。	統計処理の内容を 理解しながらExcel操 作を行うこと。	実習
1/10 金 3・4限	奥野 浩 川村 浩之 前崎 信孝 齋藤 麻由美	予備日						

科目名	科目コード	単位数	責任者
水と生命	PBL 101	1	馬場 猛
学習内容・概要			
<p>水にまつわる話には際限がない。それだけ人間のみならず生物にとって水が必要欠くべからざる物質であり、水の恩恵をこうむっている証拠である。この水の神秘はどこにあるのだろうか。答えは「常温常圧で水」である。この地球環境で水は液体として存在することができ、さらに、ものをよく溶かす優れた溶媒としての性質が相まって生命誕生のゆりかごとなったのである。本講義では、学生自身が、水に関する自然科学の不思議、疑問、あるいは問題等のテーマを設定し、進行方法や役割分担を決定して、積極的に学習および討議し発表する。</p>			
学習目標			
<p><b>【一般目標】</b>          生命を支える水の性質、その生命との関わりというテーマについて問題点を抽出し、自ら考え、情報を集め、グループメンバーと協力して課題を解決し、その成果をまとめ、わかりやすい形で発表するために必要な基礎的能力を身につける。</p>			
<p><b>【到達目標】</b>          1. 生命を支える水というテーマに対して問題点を抽出することができる。          2. 問題解決に必要な情報を収集し、複数のアイデアを、その理由をつけて提案できる。          3. グループワークの一員として、他者と協働し、適切な行動をとることができる。          4. 聴衆に合った効果的なプレゼンテーションをデザインし、発表することができる。          5. 多様な意見を集約し、証拠によって裏付けした報告書を作成することができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水の性質、およびその働きに関して学習しておくこと。</li> <li>・水に関連した情報を普段から積極的に集めておくこと。</li> </ul> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b>          1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

本講義はグループによる問題解決型学習形式で実施する。また、発表形式を取り入れて、今後諸君にとって必ず必要となるプレゼンテーションの仕方についても学ぶ。積極的に自ら学んで知識を獲得し、他の人と討論を重ね、知識を深めていく姿勢で臨んでほしい。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

ログノートを返却し、適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

## 【成績評価方法】

取り組む姿勢(20%)、ログノート(20%)、プレゼンテーション(30%)、報告書(30%)を総合的に評価する。

## 【成績評価基準】

- ・自ら問題を発見し、その意義を説明できる。  
(到達目標1:取り組む姿勢)
- ・幅広い分野、複数のソースから情報を収集できる。  
(到達目標2:取り組む姿勢、ログノート)
- ・チームとして役割分担を意識し、協力して行動できる。  
(到達目標3:取り組む姿勢、ログノート)
- ・聴衆の反応を見ながら適切に発表できる。  
(到達目標4:プレゼンテーション)
- ・課題に対する解決が的確で、説得力のある報告書を書くことができる。  
(到達目標5:報告書)

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

## 【参考書】

- 「生命から見た水」上平 恒著 共立出版
- 「水の科学Q & A」ペトリアノフ著 坂口訳 東京図書
- 「水の話」伊勢村寿三著 培風館



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	馬場 猛	イントロダクション	PBLとは					講義 グループ 学習
9/ 2～4限	馬場 猛	情報収集と討論	グループ研究	水素結合、 融点・沸点、 密度、 誘電率、 非共有電子対、 溶解度、		<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに対して問題点を抽出できる。</li> <li>・図書館やインターネットを利用して必要な知識や情報を収集できる。</li> </ul>		グループ 学習
9/ 2～4限	馬場 猛	情報収集と討論	グループ研究	水和、 親水性・疎水性、 溶解熱、 相図、 重水と軽水、	グループごとに、課題に対する情報収集や議論、発表準備を行っておくこと。また報告書を作成すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで情報を共有し、協力して成果をまとめることができる。</li> <li>・効果的なプレゼンテーションができる。</li> </ul>	議論、討論、質疑応答に積極的な姿勢で臨むこと。	グループ 学習
9/ 2～4限	馬場 猛	プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションに関する講義、 グループ研究	氷の多形、 DNA、 タンパク質、 糖、 細胞、 凍らない水		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションに対して的確なディスカッションができる。</li> </ul>		講義 グループ 学習
9/ 2～4限	馬場 猛	報告会	グループ発表					発表

科目名	科目コード	単位数	責任者
健康を支える科学	PBL 116	1	志村 絵理
学習内容・概要			
<p>我々ヒトを含め、生命は「複雑系」という言葉で表現される程、膨大な種類の生命現象に支えられ、生きている。我々の健康はこれら生命現象のバランスと密接な関係にあり、食事・睡眠・運動等の生活習慣や体質・精神状態といった様々な因子が影響している。</p> <p>本PBL(Problem Based Learning)では、健康に関連する疑問や問題等をテーマとしてグループ毎に設定し、情報収集及び討論、必要があれば実験を行う。そして最終的に導き出した結論や得られた結果をまとめ、全体でのプレゼンテーション及び報告書の作成を行う。これら一連の内容を通し、問題に対して自らその本質を掴み、解決を目指す方法を習得する。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解決すべき問題に対して、解決に至る道筋を自ら設定することができる。</li> <li>・ 問題解決に向け、適切な基礎知識を精査することができる。</li> <li>・ 他者と協調しながら科学的思考による議論を行い、共に結論へ向かうことができる。</li> <li>・ 聴衆に適したプレゼンテーション及び質疑応答を行うことができる。</li> <li>・ 論理的な文章で報告書を作成することができる。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.健康にまつわる内容について着目し、学習項目を設定することができる。</li> <li>2.科学的な調査及び資料収集を行うことができる。</li> <li>3.科学的な議論を行うことができる。</li> <li>4.議論した内容について資料を作成し、指定時間内でプレゼンテーションすることができる。</li> <li>5.学んだ内容について文章として適切にまとめることができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>健康に関わる内容について日頃から意識し、興味のある事柄を考えておくこと。</p>			

学習上の注意点	
<p>グループ毎に問題を設定し、その解決を行うPBL形式の授業である。問題設定に始まり、グループ討議、自己学習、活動記録の作成、そして成果報告に至るまでグループ単位での行動となる。様々な場面において、積極的に取り組み、他者と協調して結論を導き出すよう心がけること。</p>	
成績評価方法	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>出席状況、参加態度、ログノート、発表内容、グループで導き出した結果、報告書を総合して評価する。</p>	<p>グループで協力し、インターネット、書籍、学術雑誌等から必要な資料を収集する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	志村 絵理	オリエンテーション 「科学的に健康を考える」 グループ学習	PBLについて グループ分け 課題検討・資料収集・グループ 討論	健康を支える科学	・課題候補を事前に各自で考 えておく。 ・2日目以降に備え、グルー プ毎に立てた学習計画を各 自把握しておく。	・課題を設定することができる。 ・学習計画を立案することが できる。	・学習計画及び時間 配分に気を配りなが ら、活動すること。 ・実験を希望する場 合は、担当教員に相 談すること。	PBL形式
9/ 2～4限	志村 絵理	グループ学習	資料収集 グループ討論	・課題に関連する基礎知識を 調べておく。 ・発表及び報告書内容を視 野に入れ、進捗状況及び学 習計画をグループ毎に日々 確認する。	・適切な資料を入手するこ とができる。 ・自己学習で得た知識をグ ループで共有し、議論する ことができる。			
9/ 2～4限	志村 絵理	グループ学習	資料収集 グループ討論					
9/ 2～4限	志村 絵理	発表準備	資料収集・グループ討論 発表スライドの作成	・これまでに得られた成果を 振り返り、発表内容の展開に ついて事前に各自でアイデア をまとめておく。	・発表規則に適した発表スラ イドの作成及び口頭発表の 準備を行うことができる。			
9/ 2～4限	志村 絵理	発表 報告書作成	プレゼンテーション 質疑応答 報告書作成	プレゼンテーション 質疑応答 報告書作成	・発表後の質疑応答にて想定 される問題を各自で確認して おく。	・他グループの発表について 議論に参加することができ る。 ・課題について、適切に文章 としてまとめることができる。	発表	

科目名	科目コード	単位数	責任者
バイオマテリアルと医療	PBL 119	1	石原 量
学習内容・概要			
<p>医療は、多くの人やものが高度に機能し合うことで達成され、一人の人(例えば医師)や、一つのもの(例えばメス)だけで達成することは難しい。医療を支えてきたコンポーネントの中に、バイオマテリアル(生体材料)がある。バイオマテリアルとは、生体や生体成分に接して使用することを目的とした材料のことで、人工心臓や人工血管といった人工臓器はその代表である。生体に直接接触するものでなくても、人工透析装置などは生体成分である血液に触れることからバイオマテリアルの一つである。近年では実際に生体内にある物質を材料として利用するケースも少なくない。これらバイオマテリアルが医療の中で一定の役割を果たしてきたことは想像に難くないだろう。</p> <p>本講義では、将来的な視野を広げるためにも、学生自身が着目した医療の問題に対して、その問題を解決するためのバイオマテリアルを設計するという挑戦的な試みを実施する。グループメンバーと協力・議論しながら課題を抽出し、その課題を解決するための材料に求められる条件を模索し、発表し、報告書にまとめる。</p>			
学習目標			
<p><b>【一般目標】</b>  「バイオマテリアルと医療」を題材に、様々なソースから情報を収集し、課題を抽出し、効果的な発表をし、適切な報告書を作成するための基礎的能力を身につける。個人ではなくグループで活動することから、グループ活動に必要な能力も同時に養う。</p>			
<p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バイオマテリアルと医療それぞれの定義や、関係、課題について説明することができる</li> <li>2. 必要な情報を学術的な著書や論文からも収集することができる</li> <li>3. グループの一員として、議論を前に進めるための適切な行動をとることができる</li> <li>4. プレゼンテーションの重要事項を理解し、効果的な発表をすることができる</li> <li>5. 理系作文の基本を理解し、適切な報告書を作成することができる</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマテリアルと医療それぞれの定義、関係、または課題に関して学習しておくこと</li> <li>・バイオマテリアルと医療に関連した情報を普段から積極的に集めておくこと</li> </ul> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b>  1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

本講義はグループによる問題解決型学習形式で実施する。また、プレゼンテーションおよび報告書を通じて、将来必ず必要となるであろうプレゼンテーションスキルおよび理系作文についても学ぶ。グループという形式をとるものの、これらはまさに研究活動そのものであり、積極的に本講義に参加し、能力および知識を深めて欲しい。

ログノート、プレゼンテーション、および報告書に対して適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

## 【成績評価方法】

取り組む姿勢(20%)、ログノート(20%)、プレゼンテーション(30%)、報告書(30%)を総合的に評価する。

## 【成績評価基準】

- バイオマテリアルと医療に関して定義、関係、課題について調べてきたか  
(到達目標1:取り組む姿勢)
- 学術的な書籍や論文を含め、複数のソースから適切な情報を収集できるか  
(到達目標2:取り組む姿勢, ログノート)
- グループの一員として、積極的に議論に参加し協力するなど適切に行動したか  
(到達目標3:取り組む姿勢, ログノート, プレゼンテーション)
- 十分な発表準備, 効果的な発表, 適切な質疑応答ができたか  
(到達目標4:ログノート, プレゼンテーション)
- 理系作文の基本を理解した報告書を書くことができたか  
(到達目標5:報告書)

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

## 【参考書】

- 「未来医療への挑戦者たち」(東京女子医科大学先端生命医科学研究所)
- 「バイオマテリアル:その基礎と先端研究への展開」  
田畑 泰彦, 埴 隆夫(東京化学同人)
- 「バイオマテリアルサイエンス 第2版:基礎から臨床まで」  
石原 一彦, 山岡 哲二, 大矢 裕一, 中野 貴由(東京化学同人)

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	石原 量	イントロダクション バイオマテリアルと医療	情報収集	文献検索  バイオマテリアル, 医療	予習として, バイオマテリアルについて調べておく 授業後, 医療の問題について調べる	グループで着目する医療の問題を絞り込む	積極的に授業に参加すること	講義/ グループ活動
9/ 2～4限	石原 量	バイオマテリアル設計 (I)	情報収集, グループ討論	研究医, 文献検索, クリティカルシンキング, 創造性  材料設計, 医療	学術論文を読んでもみる	文献の検索方法・読み方について学び, 新規バイオマテリアルの設計を試みる	積極的に授業に参加すること	グループ活動
9/ 2～4限	石原 量	バイオマテリアル設計 (II)	情報収集, グループ討論	研究医, 文献検索, クリティカルシンキング, 創造性  材料設計, 医療	学術論文を読んでもみる	文献の検索方法・読み方について学び, 新規バイオマテリアルの設計を試みる	積極的に授業に参加すること	グループ活動
9/ 2～4限	石原 量	バイオマテリアル設計 (III)	情報収集, グループ討論 プレゼンテーション準備	プレゼンテーションスキル (論理, 構造)	予習として, プレゼンテーションについて調べておく 授業後はプレゼンテーションスライドを完成させる	良いプレゼンテーションに共通する事項を知る	積極的に授業に参加すること	グループ活動
9/ 2～4限	石原 量	バイオマテリアルの提案	プレゼンテーション, 質疑応答, 報告書作成	プレゼンテーションスキル, 理系作文	プレゼンテーションスライドを完成させておく 授業後は反省し, 報告書を完成させる	良いプレゼンテーションをし, 質問に的確に答え, 理系作文について知る	積極的に授業に参加すること	グループ活動/ 講義

科目名	科目コード	単位数	責任者
法則と方程式	PBL 102	1	田中 和廣
学習内容・概要			
<p>自然科学のみならず社会科学や経済学においてもさまざまな法則が知られており、これらの法則の多くは方程式で表される。方程式は、法則を数量の間の関係として表現し、これに基づいた詳細な結果の予測を可能とするため、科学においてきわめて強力な役割を果たす。このPBL(問題に基づく主体的学習形式の授業)では、各グループで一つの方程式----自然科学の方程式でも社会科学・経済学の方程式でもよいが高校までの学習では出てこないもの----を選び、この一つの方程式に様々な視点・切り口からアプローチする。特に、この方程式の発見の歴史、方程式が表す意味と導き方を調べ上げ、さらに、この方程式を解いて得られる解のビジュアル化や、方程式に余分な項を付け加えると方程式に基づく結果の予測がどう変わるか、などの考察を進める。こうしてグループで選んだ一つの方程式を“骨までしゃぶり尽くし”、方程式が表現している法則の本質をあぶり出すことを目標とする。以上のプロセスを、各グループごとの討論により問題解決への戦略を主体的に決めて進めることにより、研究の醍醐味の一端を体験する機会とする。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>①高校までの学習では出てこない方程式でPBLの期間中に理解可能と思われるものを一つ選び、それにまつわる歴史・人々とその発見の経緯を調べ上げる。</p> <p>②この方程式の導き方を調べ、それを再現する。できれば二通り以上の方法で行う。</p> <p>③この方程式の解を求めビジュアル化する。紙と鉛筆、あるいはコンピューターを駆使して。方程式の条件を実験室でつくり生じる結果を測定してもよい。</p> <p>④この方程式に余分な項を付け加えたときに、③で得た解がどのように影響を受けるかを求め、ビジュアル化する。</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>1.グループでの討論を柱として、主体的に解決すべき課題を適切な見通しをもって設定することができる。</p> <p>2.必要な資料調査、自己学習、仮説提起と検証、考察、および学習内容のグループでの集約を自主的に進めることができる。</p> <p>3.方程式を解くために戦略を練り試行錯誤し、様々な方法を比較検討して問題解決できるようになる。</p> <p>4.結果を整理し視覚にうったえるよう図式化し、プレゼンテーション用にまとめて発表して、内容について討論することができる。</p> <p>5.PBLの活動全体を総括し、グループで協力して報告書にまとめることができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>パソコンで方程式の解を求めたりビジュアル化するために、数式処理ソフトMathematicaの解を探索する機能やグラフィックス機能を利用する。数式処理ソフトの使い方に慣れるように、参考書「Mathematicaへの誘い 今日から始める基礎と応用」の第1部、およびMathematicaのチュートリアル機能を参照して自己学習すること。</p>			
<p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】1時限あたり 予習45分、復習45分</p>			



## 学習上の注意点

PBL形式(問題に基づく主体的学習形式)で行う授業である。受講者一人一人が、授業の各段階に主体的・積極的に取り組むことが求められる。参考となる資料は、図書やビデオ、インターネット上の情報などもたくさんあるので積極的に活用し、課題解決に役立つ資料を各自で探し出していくことが望まれる。ただし、各情報は信頼できるものであるかどうかを検討、確認した上で使うようにし、採用した情報については出典を明示すること。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

グループでの討論で出てくる疑問点や困難に対し、ヒントや方針の立て方をアドバイスする。プレゼンテーション、報告書について、修正が必要なところを適宜フィードバックし完成まで行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
PBLの活動全体を総合的に評価する。  
授業参加態度・ログノート 35%、プレゼンテーション 35%、報告書 30%

成績評価基準:  
到達目標1~3の達成度を授業参加態度・ログノートで評価し、到達目標4をプレゼンテーションで評価し、到達目標5を報告書の内容と完成に向けた取り組みで評価する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

【参考書】  
「数学・物理100の方程式」 数学セミナー増刊 日本評論社  
「ケンブリッジ物理公式ハンドブック」 ウォーン著 共立出版  
「Physics in Biology and Medicine」 Davidovits著 Academic Press  
「環境問題の数理科学入門」 ハート著 シュプリンガー・ジャパン  
「Mathematicaへの誘い 今日から始める基礎と応用」 中川栄一・勝明次郎著 成山堂書店  
「数学の道具箱 Mathematica 基本編」 宮岡悦良著 近代科学社  
「試して分かる高校数学 Mathematicaでトライ!」 大塚道明著 現代数学社  
「はやわかりMathematica」 榊原進著 共立出版  
その他、授業の際に適宜指示する。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	田中 和廣	“グループの方程式”を一つ選ぶ	グループ討論による問題提起	課題設定	予習)【参考書】および関連書籍の中から自分で気に入ったものを選んで目を通し自己学習してくる。(学習時間2時間) 復習) Mathematica スチューデント版をインストールし、起動できることを確かめ、参考書「Mathematicaへの誘い 今日から始める基礎と応用」第1部の1に出ている簡単な入力例を実行してみる。(学習時間2時間)	見たことのない方程式の中から、理解可能と思われるものを一つ選ぶ。適切な見通しをもって課題設定できる。	ノートパソコンのある学生は持参すること。	PBL
9/ 2～4限	田中 和廣	“グループの方程式”はいかにして発見されたか?	資料調査と自己学習	グループ討論、調査	予習) グループで選んだ方程式について検索し自己学習してくる。(学習時間2時間) 復習) 参考書「Mathematicaへの誘い 今日から始める基礎と応用」第1部の2～6に出ている実行例を、自分のノートパソコンのMathematicaで実際に試してみる。(学習時間2時間)	必要な資料を探索して取捨選択し、選んだ方程式の氏素性を調査する。適切に情報収集できるようにする。	ノートパソコンのある学生は持参すること。	PBL
9/ 2～4限	田中 和廣	“グループの方程式”を解くためなら手段を選ばない!	仮説設定と検証	グループ討論、計算、考察	予習) 参考書「Mathematicaへの誘い 今日から始める基礎と応用」第1部の7～12に出ている実行例を、自分のノートパソコンのMathematicaで実際に試してみる。(学習時間2時間) 復習) Mathematicaを用いた解の探索を、方程式に含まれるパラメーター、初期条件、境界条件をさまざまに変えて試し、記録しまとめる。(学習時間2時間)	方程式を解くために、戦略を練り、試行錯誤し、様々な方法を比較検討して、問題解決できるようにする。	ノートパソコンのある学生は持参すること。	PBL
9/ 2～4限	田中 和廣	“グループの方程式”をビジュアル化する	プレゼンテーション用資料作成	グループ討論、集約 発表内容の検討と考察	予習) ログノートの内容を整理し直し、プレゼンテーション用資料作成に備えて自己学習してくる。(学習時間2時間) 復習) プレゼンテーションの導入およびまとめの内容が簡潔でわかりやすいものになるよう再度練り直すこと。計算結果のグラフをMathematicaのグラフィックス機能で見やすく作成すること。(学習時間2時間)	結果を集約・整理し、視覚にうたえるよう図式化して表現し、プレゼンテーション用にまとめられるようになる。	ノートパソコンのある学生は持参すること。	PBL
9/ 2～4限	田中 和廣	“グループの方程式”の完全理解: 法則をあぶり出す	各グループのプレゼンテーション	質疑、討論 パワーポイント等	予習) 発表の持ち時間を意識し、プレゼンテーションのリハーサルをしていく。(学習時間2時間) 復習) ログノートの記録および発表会での討論もふまえて、報告書を作成すること。(学習時間4時間)	聴衆を意識したわかりやすい発表ができるようになる。適切に質疑応答できるようにする。	ノートパソコンのある学生は持参すること。	PBL

科目名	科目コード	単位数	責任者
プログラミングとアルゴリズム	PBL 103	1	清 裕一郎
学習内容・概要			
<p>我々は日常生活において、様々な問題に出会う。そのような時に、問題解決のための道筋を考えることがアルゴリズムであり、それを実践的なレベルで実現することがプログラミングに対応している。本PBL「プログラミングとアルゴリズム」では、様々な問題の中からパソコンを使った問題解決を探るPBLである。具体的な研究課題は様々である。学生自ら解決すべき問題(課題)を探し、その解決のための道筋(アルゴリズム)を考えて具体的なプログラミングまで到達するのが目標である。また、AIやディープ・ラーニングといった近年のコンピュータ・サイエンスの発展についても学ぶ機会として欲しい。それらがどのようなアルゴリズムで動作しているのかを理解することは、人間の思考や行動を理解するのにも役立つだろう。様々な問題解決のアルゴリズムを学び、実際に手を動かしてプログラミングをしたり、他人が作ったプログラムを動かして動作原理を確認して欲しい。本PBLでは、知識の蓄積だけではなく、問題点を仲間と共有し、議論をくり返し、問題解決のためのプログラミングへと発展させる。お互いに協力しながら様々な視点から課題解決へと進む。また、発表会では積極的に発言・討論して欲しい。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>問題解決のための道筋(アルゴリズム)を考えながら、具体的な手法を形にすること(プログラミング)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生同士でグループを作り、お互いに協力しながら、どのようなことがやりたいか話し合う。</li> <li>・問題提起から解決に至るプロセスを学生自身で管理・運営しながら、全体発表会にて成果を発表する。</li> <li>・問題解決に至るプロセスを整理し、論理的な文章で報告書を作成する。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.各々が問題点を整理し、他人に説明・議論し、協力しながらグループ全体としての「問題提起」まで発展させることができる。</li> <li>2.問題解決に至るプロセスを他の学生と確認・協力しながらPBL活動を管理・運営できる。</li> <li>3.科学論文の書き方の基本を身につけ、論理的で明瞭な文章で報告書を作成できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>事前に研究してみたい課題の候補を考えおくこと。課題として関連するテーマを選んだ学生同士でグループを組んでもらう。PBL活動の最初の段階で、持ち寄った課題候補について議論し、グループ全体としての課題を決定する。一日の終わりには、活動を見直しログ・ノートに記録を取る。新しく分かったことや今後解決すべき点などを分析し、次回のPBL活動では何をすべきかといった方針を明確にすること。</p> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分、復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

PBL活動は自主的に学習することを前提として組み立てられている。全員が積極的に取り組み、お互いに協力して進めてゆくこと。問題点や研究の方向性に関しては、常にグループ内で共有すること。インターネットや雑誌・論文等を検索して情報を収集することは必要だが、得られた情報は必ず自ら考えて、信頼できる情報であるか判断すること。PBL活動は情報を収集して纏めるだけの学習ではなく、自ら考え、アイデアを出し合い、仲間と協力しながら新しい知見を獲得することを目指す。また、PBLは全回出席が必須である。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

PBL活動で記入したログノートを提出してもらい、毎回の活動内容と今後の活動予定等に関してフィードバックを行う。

## 成績評価方法:

以下の事項を総合的に評価する

- ・学習態度:積極的な取り組みが重要。グループ内での協力も評価
- ・毎日のログ・ノート:情報を整理し纏める能力、課題への取り組み具合
- ・中間発表:課題に関する理解度と取り組み具合
- ・発表会でのプレゼンテーション:分かりやすく、他人を引きつける発表(発表会におけるプレゼンテーションは、他のグループからの評価点も考慮する)
- ・報告書:明瞭で説得力のある論理と科学論文の体裁等を重視

## 成績評価基準:

到達目標1～3を、学習態度、ログノート、報告書と、発表会でのプレゼンテーション・スキル等も合わせて総合的に評価する。

PBL活動は学生の主体的な活動であるので、指定の教科書はない。それぞれの課題に応じて、論文検索やインターネットを通じて必要な資料を収集すること。

PBL活動の第一回目に参考資料として、関連書籍や論文を紹介する。必要であればコピーをとったり、図書館で借りて読むと良い。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	清 裕一郎	イントロダクション 「プログラムで何ができるか」	課題検討・調査・グループ 討論	・ニューラルネットワーク ・機械学習 ・ディープラーニング ・画像認識 ・シミュレーション ・PCによるデータ分析	手始めに、キーワード検索から始めて、幾つかのトピックスを勉強してみると良い。新たな疑問や更に新しいキーワードを知るだろう。 身の周りを注意深く観察すると、様々な研究テーマを見つけることができるだろう。普段から、「こういうプログラムがあったら便利だ」や「どうやったら答えにたどり着けるのだろう」と思うようなことを探す。 情報を収集するだけではなく、自分なりの考えを持つこと。またPBL活動中に感じた疑問はグループで議論し、突き詰めて考えること。	次の技術や能力を身につける ・積極的な学習態度 ・科学論文の書き方の基本 ・共同研究のための協調性 ・問題点を明確にする能力 ・論理的な思考方法 ・プレゼンテーションの技術 ・発表や討論におけるマナー	本PBLはグループ活動である。他の学生と協力し進めること。お互いに刺激し合い、一人一人ではできないような有意義な活動にできるように心がけること。	PBL形式
9/ 2～4限	清 裕一郎	プログラミングとアルゴリズム1	調査・グループ討論・プログラミング	・ゲーム制作 ・暗号化技術 ・アニメーション制作 ・ライフ・ゲーム				
9/ 2～4限	清 裕一郎	プログラミングとアルゴリズム2	調査・グループ討論・プログラミング	[言語] ・C++ ・Python ・Java ・Ruby ・R				
9/ 2～4限	清 裕一郎	プログラミングとアルゴリズム3	プログラミング・グループ別 討論・プレゼンテーション資料作成					
9/ 2～4限	清 裕一郎	プログラムを実行してみよう	プレゼンテーション 報告書作成	科学論文の書き方, プレゼンの技術	発表や報告書作成についてグループで話し合い、目指すものを確認しておくこと。	論理的で明瞭な報告書作成とプレゼンテーションができるようになる。		

科目名	科目コード	単位数	責任者
素粒子の $\alpha$ $\beta$ $\gamma$	PBL 104	1	初田 真知子
学習内容・概要			
<p>物はそれ以上壊れない、“素”である粒子、“素粒子”からできている。素粒子である電子(<math>\beta</math>線)や光子(<math>\gamma</math>線)は、放射線治療としてがん治療に利用されている。<math>\alpha</math>線はキャンプ用のランタンを明るくさせるのに利用されている。このように、放射線の実態が素粒子である。また、原子力発電で避けて通れないのも、この放射線の問題である。</p> <p>一方、電磁波は光波でもあり、光子と呼ばれる素粒子でもある。重力は重力子と呼ばれる素粒子でもある。そして、電磁気力や重力などすべての力を統一する素粒子理論の構築は、アインシュタインの夢であった。</p> <p>この授業では、このように幅広く放射線、放射線治療、素粒子理論などからテーマを見つけ、グループ学習を行う。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>PBL: Problem Based Learning、課題解決型学習ができるようになる。  PBLとは、少人数グループで課題を設定し、検討・反省を反復しながら行う自己主導学習のことである。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光、電磁波、放射線、放射線診断、放射線治療、素粒子物理学等、広い意味で素粒子に関する課題をグループで設定する。</li> <li>2. 科学雑誌、書籍、専門書、論文等から情報収集し、文献を検索できるようになる。</li> <li>3. グループで実験や観察あるいは調査を行い、その結果をフィードバックして討論しながら、問題に取り組む。</li> <li>4. 全体の流れを考慮し、わかりやすく発表する。</li> <li>5. 科学的に論拠を提示しながら論理的に書き、引用を明記して、報告書を作成する。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>PBLで取り組む課題の分野が決定したら、早くから書籍、一般科学雑誌、学術誌などのいろいろなメディアからの情報を集め、関心のあるテーマを見つけ、それを熟成させ、グループ討論を通して解決していけるようにする。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分以上, 復習:45分以上</p>			

学習上の注意点	
<p>PBLで取り組む課題の分野が決定したら、早くから書籍、一般科学雑誌、学術誌などのいろいろなメディアからの情報を集め、関心のあるテーマを見つけ、それを熟成させ、グループ討論を通して解決していけるようにする。</p> <p>放射線測定器を用いて、いろいろな実験を行うこともできる。</p> <p>放射線医学総合研究所見学を行うこともある。この際、放射線治療についてその実際を観察し、疑問点等について討論する。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 参加態度、ログノート、発表、報告書を総合して評価する。</p> <p>成績評価基準: (到達目標の番号に対する基準を以下の通りとする)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.グループで設定した課題について、基本事項を調べ理解している。</li> <li>2.文献検索を行い、課題解決に必要な情報を得られている。</li> <li>3.グループで議論し、協力して問題解決に取り組んでいる。</li> <li>4.発表は、内容が充実し、わかりやすいものである。</li> <li>5.報告書は、内容が充実し、わかりやすいものである。</li> </ol>	<p>書籍、一般科学雑誌、学術誌等の資料</p>

PBL(素粒子の $\alpha$   $\beta$   $\gamma$ )

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	初田 真知子	資料収集、グループ学習、討論	素粒子物理、放射線	素粒子、放射線、放射線治療、重粒子線治療	資料収集、自己学習	グループ学習、討論		PBL
9/ 2～4限	初田 真知子	資料収集、グループ学習、討論	素粒子物理、放射線	素粒子、放射線、放射線治療、重粒子線治療	資料収集、自己学習	グループ学習、討論		PBL
9/ 2～4限	初田 真知子	資料収集、グループ学習、討論	素粒子物理、放射線	素粒子、放射線、放射線治療、重粒子線治療	資料収集、自己学習	グループ学習、討論		PBL
9/ 2～4限	初田 真知子	資料収集、グループ学習、討論	素粒子物理、放射線	素粒子、放射線、放射線治療、重粒子線治療	資料収集、自己学習	グループ学習、討論		PBL
9/ 2～4限	初田 真知子	発表		放射線、素粒子物理	発表準備	グループ発表と討論		発表



科目名	科目コード	単位数	責任者
医療の思想と倫理	PBL 105	1	長沼 淳
学習内容・概要			
<p>医学・医療は何のために存在しているのか。単純な問いだがこれに対してすべての人を一度に納得させる答えを用意することは困難だろう。まして人々の価値観が大きく分かれるような問題含みの行為を行おうとする場合には、相矛盾する考え方の折り合いをつけて、実行を可能にする工夫が強く求められる。</p> <p>本講座においては、上述のような多様な価値観が交錯し問題となっている社会や医療上の問題を取り上げ、それぞれの価値観が主張する思想を確認することを出発点に置く。そしてそれらの思想を解体、再構築し少しでも多くの人々の理解をえて、人びとに幸福をもたらすことのできる調停の方法を考え、そうしたことを可能にするための条件を追究、検討していきたい。具体的には、受講する諸君が自ら課題を選択し、自分たち自身で調査、分析していくことで、人々が医療などに期待していること、不安に思っていることを明らかにしてもらおう。そしてそうした価値観、主張をふまえて、医療はどのような思想、哲学をもって、医療行為を行っていくべきなのかを検討し、現時点での判断を示してもらい、参加者全員で当該判断の妥当性や、修正すべき点を述べあい、必要とされる倫理とはどのようなものなのかを議論してもらいたい。こうした過程を経ることによって、医療が持つべき根本原理＝思想と倫理の基盤を少しでも明らかにすることができればと思う。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>医学・医療における根本的な思想とそれを社会において実現するための倫理の必要性を理解できるようにする。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理問題の複雑さについて理解できる。</li> <li>2. 倫理的態度の多様さについて理解できる。</li> <li>3. 思想と倫理の密接な関係について理解できる。</li> <li>4. 根本的な問題解決の困難さについて理解できる。</li> <li>5. 医療とは生身の人間同士のつながりであることを実感できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>医学・医療が一般社会においてどのような期待を担い、またどのような課題を抱えているのか、普段の生活において関心を持ち、全体像へと少しでも接近しようという想像力を強く働かせる姿勢を持ち続けてほしい。またPBL期間中は、教室内での議論を振り返り、熟成させる時間を帰宅後にも確保し、翌日の授業に備えておくことも重要である。</p> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>本授業は単なる講義ではない。学生諸君の主体的な問題発見、解決法の探求の作業が要求されるものである。したがって、授業に積極的に参加することはもちろんであるが、常日頃よりさまざまな社会的な問題に対するアンテナを張り巡らせておくことが望ましい。漠然としたものでも構わないので、多くの問題に対して、自分の基本的なスタンスを決めておくといった配慮も求められる。テーマの選択は参加者の希望にできるだけ沿うよう配慮する予定である。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 出席点、課題に取り組む姿勢、ほかのメンバーとの協調、ログブック、プレゼンテーションなど、本授業における姿勢、結果を総合的に判断して評価する。</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>教科書は用いない。参考書等は授業内において適宜指示する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	長沼 淳	オリエンテーション、班ごとの活動	授業の概要	医療の思想とは	課題設定への心構え	調査活動、ならびに分析の開始	結論を先に用意しないこと	講義/グループ活動
9/ 2～4限	長沼 淳	班ごとの活動	知識の拡大	正解は一つではない	課題の分析	個人作業と共同作業の結合ができる	個人と班の有機的な連携を行う	グループ活動
9/ 2～4限	長沼 淳	班ごとの活動	午後は中間発表	効果的なプレゼンとは?	プレゼンの方法について考えておく	ここまでの成果と今後の課題を明確にできる	技巧に走らない	午後はグループごとの発表
9/ 2～4限	長沼 淳	班ごとの活動	精度を高める	それでも「前」に進まなくてはいけない	課題の分析、まとめ	中間報告の検証と最終報告への準備	自分たちの考えと他人の考えを区別する	グループ活動
9/ 2～4限	長沼 淳	班ごとの活動	最終報告・反省	妥当性の確保	適切な発表の方法を考えておく	思想と倫理の必要性を理解する	視野を広く確保しておく	グループ活動

科目名	科目コード	単位数	責任者
Medicine from a Global Perspective	PBL 106	1	Marcellus Nealy
学習内容・概要			
<p>The primary objective of PROJECT BASED LEARNING (PBL) is for students to gain knowledge and skills by working for an extended period of time to investigate an engaging and complex question, problem, or challenge. Through this activity student will identify and research a global issue that is related to medicine and analyze the issue in the context of Japan.</p> <p>Medicine from a Global Perspective also gives students hands-on experience and practice with researching high level information in English. This skill will be necessary for all students when they become doctors regardless of whether they work abroad or only in Japan.</p> <p>Finally PBL aims to begin the process of shaping students into active learners. An active learner is one who takes responsibility for his or her own academic development by actively seeking out information, asking questions, participating in discussion, and working with classmates to gain knowledge, understand information, or solve problems. The most successful student and doctor is one who is able to actively take charge of his or her own learning.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>In PBL the teacher will act only as a facilitator and consultant. Students will be required to work in small groups. Each group will be expected to identify a global issue in medicine and how that issue relates to Japan. Once the core issues have been identified and discussed each group must do two things: 1. Make a presentation (including power point), 2. Write a report. Because PBL aims to contribute to career development skills, both the presentation and report me be done in English.</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.Experience with working together as a group for a common objective.</li> <li>2.Critical thinking about topics related to global medicine and how they relate to medical practice in Japan.</li> <li>3.Essential practice using English for academic and professional communication (reading, writing, and speaking).</li> <li>4.Increased English vocabulary through the research and study of the group's topic.</li> <li>5.Increased awareness of how to be an active learner.</li> </ol>			

自己学習(準備学習)	
<p>この授業は、英語で書かれた素材を適宜サーチして調査することをベースにして、グループによる問題解決形学習形式で実施する。テーマが決まれば、自ら英語で書かれた(話された)素材を図書館あるいはインターネットで収集する。そしてそれらの内容を分析し、各自でその内容をもとに概略をまとめ、自分の主張を考える。方向がまとまるにつれ、英語でのプレゼンおよび小論文の準備にとりかかる。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>	
学習上の注意点	
<p>プレゼンテーション技術、討論の方法、レポートのまとめ方などについても学ぶので能動的な参加態度が必要である。また、別途指示するが、資料については剽窃とにならないように注意し、正しい引用のしかたを身につけること。無断で資料の一部をそのまま、あるいは一部改変して自分の書いたものであるように小論文を作成したりプレゼンを行った場合には、剽窃、つまり著作権を侵害したこととなるので、評価を行わない。一日のうち何回かグループごとに集合が指示され、活動の進捗状況と成果がチェックされる。小論文については授業が終了後にも体裁を整え、書かれた英語のチェックをするため、担当教員とのやり取りが継続する。これもすべてクリアし、小論文が最終的に教員に受け付けられた段階で授業が終わったことになるので注意すること。なお、最終的なPBLの期日は後日アナウンスされる。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 日々の活動への参加状況、グループへの貢献度、プレゼン、小論文すべてを総合的に評価して成績を算出する。</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>授業中に指示する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	Marcellus Nealy	資料収集、討論、1日のまとめ	自己学習、グループ学習の方法を学ぶ	情報検索、資料要約	英語文献の要約、引用文献参照方法の確定	自己学習、グループ学習の方法がわかるようになる。	グループ構成員全員がそれぞれ担当を決めて十分力を発揮すること。	グループによるActive Learning
9/ 2～4限	Marcellus Nealy	資料収集、討論、1日のまとめ	自己学習、グループ学習の実践	情報検索、資料要約	英語文献の要約、引用文献参照方法の確定	自己学習、グループ学習の実践により日々の成果を形あるものにできる。	グループ構成員全員がそれぞれ担当を決めて十分力を発揮すること。	グループによるActive Learning
9/ 2～4限	Marcellus Nealy	資料収集、討論、小論文作成開始、1日のまとめ	自己学習、グループ学習の実践	情報検索、資料要約、プレゼン準備、小論文準備	英語文献の要約、引用文献参照方法の確定	自己学習、グループ学習の実践により日々の成果を形あるものにできる。	グループ構成員全員がそれぞれ担当を決めて十分力を発揮すること。	グループによるActive Learning
9/ 2～4限	Marcellus Nealy	発表準備、不足分の資料収集、討論、小論文作成、1日のまとめ	自己学習、グループ学習の実践	情報検索、資料要約、プレゼン準備、小論文準備、プレゼンリハーサル	小論文執筆、小論文中の引用文献参照方法の確定、プレゼンスライド作成と内容の暗唱	自己学習、グループ学習の実践により日々の成果を形あるものにできる。	グループ構成員全員がそれぞれ担当を決めて十分力を発揮すること。	グループによるActive Learning
9/ 2～4限	Marcellus Nealy	プレゼンテーション、小論文作成	グループ発表	グループ発表、他者評価、自己評価	PBL授業終了後も指示により小論文の修正加筆は継続して行われる。	他グループの発表を評価することで自らの成果を自己評価できる。	グループ構成員全員がそれぞれ担当を決めて十分力を発揮すること。	グループによるActive Learning

科目名	科目コード	単位数	責任者
ことばの力、the power of words	PBL 112	1	浅野 恵子
学習内容・概要			
<p>誰かと話している時に、何気ない一言にとっても励まされたり、感動したり、勇気を与えられたりすることがある。あるいは逆に傷ついたりとても落ち込んだり、誤解を招いたりすることは常に起こりうることである。同じことを言われても相手や環境が異なると感じ方が違ったりする経験は数多くある。医療の分野で言えば、実際の医療現場でも治療同等または時によってはそれ以上に医師の発する言葉の重要性を考える必要があるのが現状といえよう。本PBLでは、日常何気なく用いている言語や自分が習得してきた外国語等、その「ことばの持つ力」全般について自分なりに疑問に思う点を分析していく。その際に、自らが解決課題を見つけ、関連した資料を調べると同時に、他の学生間で意見を交換し、そこから自分の疑問点に立ち返り、課題を解決する思考力を培っていく方法を習得する。</p> <p>科目名を英語と日本語で表記してあるが、言語は限定しない。ある特定の言語の内容に特化してもよいし、他の言語と比較対照を行ってもよい。PBL中の活動及び発表は英語でも日本語でもよい。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>ことばにおいて各自が追求しようと思った問題点に沿って自己学習及びグループ討論により解決の糸口を見つけることができるようになる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ことばについて問題意識をもち、それを分析解決することができる。</li> <li>2. 問題解決のために文献を調べ、意見をまとめることができる。</li> <li>3. 自分の提示した問題提起をグループ間内で説明し、理解させることができる。</li> <li>4. 自分の調べた内容を他人に分かりやすくプレゼンテーションできる。</li> <li>5. 自分の調べた内容を形式に沿った形で、報告書を作成できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>日常生活から医療現場その他、さまざまな面で使用されていることばに対して常に問題意識を持ち、自分なりの興味の焦点を考えておく。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時間あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
最終的にはグループ全体のまとまりを重視し、一つのテーマに焦点をあてるが、それまでの過程である、問題意識の保持、問題解決への資料収集、グループ間の協調性、日々の記録ノート作成等は各自の積極的な取り組みからしか生まれない。常に自主性を意識と調和を意識して取り組むこと。	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(ログノート記載)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 以下の点を総合的に判断して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 活動記録であるログノートの提出</li> <li>2) 発表会でのプレゼンの内容もしくは方法</li> <li>3) 日々の自主的学習態度</li> <li>4) 報告書の作成</li> </ol> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ことばの問題について、その背景を具体的に述べるができる(プレゼンテーション)</li> <li>2. 言語に関連した分野の基本的な意味を理解している(ログノートへの記載)</li> <li>3. 調べた言語関連分野について、先行研究を明記してに説明できる(報告書作成)</li> <li>4. 授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する(平常点)</li> </ol>	<p>随時紹介するが、基本的には自分で文献、資料にあたり、グループ間で協力して探す。インターネットからの検索にとどまらず、図書館等も有効に活用し、情報源の信憑性に留意しながら情報を入手すること。</p>



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	浅野 恵子	イントロダクション グループ研究にあたって の準備 グループ分け	テーマの検討・方向性、発 表	ことばの力 the power of words	各自でことばに対する問題意識を持ち、テーマを見つけ、自発的に学習する。個人で解決できないときにはグループ間で討論し、資料を再調査し問題点を掘り下げしていく。	今後の自主学習にも応用できる方法の基本を身につける。問題点を洗い出し解決するための資料収集・グループ討論を行う。報告書を作成することで、論文執筆の基本的方法を習得する。	各自が積極的に討論に参加し、他者との意見を交換することで自身の追求する問題点に焦点を絞る。最終的にグループとしてまとまりのあるプレゼンテーションができるようにする。	PBL形式
9/ 2～4限	浅野 恵子	グループ別研究 グループ討論・調査 報告書作成方法	内容検討・資料集め・グ ループ討議					
9/ 2～4限	浅野 恵子	グループ別研究 グループ討論・調査	内容検討・資料集め・グ ループ討議					
9/ 2～4限	浅野 恵子	グループ別研究 グループ討論・調査 調査発表準備、資料作成	内容検討・資料集め・グ ループ討議 発表準備最終					
9/ 2～4限	浅野 恵子	全体発表会 報告書作成	プレゼンテーションと質疑 応答 報告書作成	発表聴衆に分かりやすい発表を心掛け、パワーポイントを作成する。質疑応答に対応できるように各自問題点を再度確認する。				

科目名	科目コード	単位数	責任者
What does a test measure?	PBL 113	1	小泉 利恵
学習内容・概要			
この授業では、身近なテストに関わる問題について英語で書かれた素材を検索し、それを基に問題の本質の理解を深め、問題解決のためのアプローチの方法を習得することを目標としている。題材は、英語のテストや、TOEFL・IELTS等の大規模標準化テストに限らず、受講者が興味を持ったテストを扱うことができる。			
学習目標			
[一般目標] テストについて英語で書かれた資料を基にして、扱うべき問題を決め、関連する諸問題を深く学び、考察するとともに、テストの観点から、国際的または学術的な視点の確立を目指す。また、テストを題材に、批判的な思考力を学ぶ場とする。			
[到達目標] 1. テストに関連した問題やテーマについて、国際的または学術的な視点から深く考察することができる。 2. テストに関連した問題やテーマについて、それらの原因や背景、現状を英語でまとめて報告できる。 3. 問題の解決法や将来の展望などについて論理的に英語で論じることができる。 4. 得られた知識・知見をレポートとして英語でまとめ、その概略を英語で発表することができる。			
自己学習(準備学習)			
この授業は、英語で書かれた素材を適宜検索し、読み込みながらまとめることを基本にし、グループによる問題解決型学習形式で実施する。テーマを決め、英語で書かれた素材を図書館あるいはインターネットで自ら収集する。各自でそれらの内容を分析し、概略をまとめ、自分たちの結論を考える。それと同時に、英語のプレゼンテーションおよびレポートの準備にとりかかる。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分			

## 学習上の注意点

- ・資料・レポートのまとめ方、プレゼンテーション技術、議論の方法などについても学ぶため、能動的な参加態度が必要である。
- ・別途指示するが、資料については剽窃とならないように注意し、正しい引用の仕方を身につけることを求める。最終レポートやプレゼンテーションにおいて、無断で資料の一部を、そのままあるいは一部改変して自分の書いたものとして提示することがないように、各自と教員が確認を行う。
- ・グループごとに集合し、活動の進捗状況と成果を教員に報告する。
- ・レポートについては、授業終了後にも改訂を加え、英語や構成の確認を行うため、担当教員とのやりとりが継続する。重要事項をすべて遵守し、レポートが教員に受け付けられた段階で授業が終わったことになるので注意すること。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

発表資料やレポート等に関して、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。フィードバックは、内容や文体、引用方法などを含む。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
 ①学習プロセス(コミュニケーション力、問題設定・解決力、組織的行動力、知識獲得力、ログノート)44%  
 ②プレゼンテーション(発表内容、構成、発表の工夫、発表姿勢)28%  
 ③報告書(内容、構成、文章の体裁、参考文献)28%

成績評価基準:  
 日々の活動への参加状況、グループへの貢献度、提出物、プレゼンテーション、レポートすべてを総合的に評価して成績を算出する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

図書館、インターネット等から関連資料を検索・収集して、読み込む。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	小泉 利恵	導入、テーマの決定、資料収集とまとめ	自己学習、グループ学習の方法を学ぶ	情報検索、資料要約	①テーマに沿った問いを複数考えておくこと。 ②関連文献の検索方法を復習しておくこと。	自己学習、グループ学習の 実践により、日々の成果を形 あるものにできる。	グループ構成員全 員がそれぞれ担当 を決めて十分力を発 揮すること。	グループ による Active learning
9/ 2～4限	小泉 利恵	資料収集とまとめ、資料の引用方法の学習、討議、一日のまとめ	自己学習、グループ学習の実践	情報検索、資料要約	①関連文献を適切な方法を使って検索しておくこと。 ②資料の引用方法を復習しておくこと。	テストに関連した問題やテーマについて、国際的または学術的な視点から深く考察することができる。	グループ構成員全 員がそれぞれ担当 を決めて十分力を発 揮すること。	グループ による Active learning
9/ 2～4限	小泉 利恵	資料収集とまとめ、討議、プレゼンテーション資料作成、一日のまとめ	自己学習、グループ学習の実践	情報検索、資料要約、プレゼンテーション・レポート準備	①英語文献を理解し、まとめしておくこと。 ③プレゼンテーション用スライドの作成を進めておくこと。	テストに関連した問題やテーマについて、それらの原因や背景、現状を英語でまとめて報告できる。	グループ構成員全 員がそれぞれ担当 を決めて十分力を発 揮すること。	グループ による Active learning
9/ 2～4限	小泉 利恵	プレゼンテーション資料完成、レポート作成、一日のまとめ	グループ学習の実践	プレゼンテーション・レポート準備、プレゼンテーションのリハーサル	①プレゼンテーションの練習を行い、内容をほぼ暗記しておくこと。 ②レポートの執筆を進めておくこと。	問題の解決法や将来の展望などについて論理的に英語で論じることができる。	グループ構成員全 員がそれぞれ担当 を決めて十分力を発 揮すること。	グループ による Active learning
9/ 2～4限	小泉 利恵	プレゼンテーション、レポート作成	グループ発表	グループ発表、自己評価、相互評価	①レポートの執筆を進めておくこと。 ②執筆にあたっての質問をまとめておくこと。	得られた知識・知見をレポートとして英語でまとめ、その概略を英語で発表することができる。	グループ構成員全 員がそれぞれ担当 を決めて十分力を発 揮すること。	グループ による Active learning

科目名	科目コード	単位数	責任者
Listening Skills: Development and Assessment	PBL 118	1	藤田 亮子
学習内容・概要			
<p>リスニング力は、コミュニケーションで最も重要な技能の一つであると言われる。            外国語のリスニングにおいては、母語の発音との違いで聞き取りが難しく感じることがあり、相手の意図することを理解する力も求められる。            本PBL(Problem Based Learning)では、「リスニング」という広いテーマに関して疑問点や問題点を設定し、文献を調べてグループメンバーと議論を重ね、深く考察を行う。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]            リスニングという広いテーマから、興味のある課題を設定し、グループメンバーと協力して考察を深め、英語で発表、報告をするための基礎的な力を身に着ける。</p>			
<p>[到達目標]            1. リスニングに関するテーマを設定し、考察を深めることができる。            2. 英語で書かれた文献を読んで内容をまとめることができる。            3. 各自調べた内容を相手に分かりやすく伝え、グループメンバーと討論ができる。            4. グループメンバーと役割分担をして協働的に学習することができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>リスニングに関し、自分の興味があるテーマを事前に考えておく。興味のあるテーマについて、英語で書かれた文献を探しておく。</p>			

## 学習上の注意点

個人の積極的参加と、グループメンバーとの協働学習が必須となる授業である。  
 テーマを絞り込み、関連する情報の収集、討論、考察、を経て英語での成果報告に至る。  
 ログノートには、グループごとに討論した内容と自主学習の成果を書き留め、教員に報告する。  
 報告書に関しては、正しい引用方法を用い、剽窃とならないように注意すること。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

毎時、ログノートと報告に関して、フィードバックを行う。報告書に関しては、提出後、改訂を加えてフィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

出席状況、学習態度、グループへの貢献度、ログノート、プレゼンテーション、報告書を総合して評価する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

図書館、インターネット等を有効に活用し、グループで協力して関連資料を探す。信頼性のある情報源であることにも気を付ける事。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	藤田 亮子	イントロダクション、テーマの決定、発表	グループ分け、テーマの方向性	資料検索、資料要約、グループ学習	資料収集、自己学習	自己学習、グループ学習を通してテーマを設定し、考察することができる。	グループメンバーで良く話し合いをしてテーマを決め、役割分担も決めること。	講義 グループ学習
9/ 2～4限	藤田 亮子	資料の引用方法の学習、資料収集、資料のまとめ	内容検討、自己学習、グループ討議	資料検索、資料要約、グループ学習	資料収集と要約、一日のまとめ	各テーマに関連する資料を基に、グループ討議、自己学習を通して深く考察することができる。	グループメンバー一人一人がグループに貢献できるよう積極的参加をすること。	グループ学習
9/ 2～4限	藤田 亮子	報告書作成方法の学習、資料収集、プレゼンテーション資料作成	内容検討、自己学習、グループ討議	資料検索、プレゼンテーション準備	資料収集と要約、一日のまとめ	グループ討議、自己学習を通して、各テーマの関連資料を英語でまとめ、考察し、報告することができる。	グループで情報を共有して、討論し、協力して成果をまとめること。	グループ学習
9/ 2～4限	藤田 亮子	プレゼンテーション資料作成、報告書作成	内容検討・グループ討議	資料検索、プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料作成、一日のまとめ	各テーマに関して資料検索、考察した結果を、論理的に英語で発表することができる、	グループで協力してプレゼンテーション資料を作成すること。	グループ学習
9/ 2～4限	藤田 亮子	プレゼンテーション、報告書作成	プレゼンテーション、報告書作成	プレゼンテーションと質疑応答 報告書作成	プレゼンテーション準備、報告書作成	各テーマに関して資料検索、考察した結果を、聴衆に分かり易いように効果的に発表することができる、	グループで協力して効果的なプレゼンテーションを行うこと。	発表 グループ学習

科目名	科目コード	単位数	責任者
統計に基づいた科学的実証の実際	PBL 108	1	奥野 浩
学習内容・概要			
<p>医学で一番利用されている数学は、統計であるといわれている。その一方、実際にデータを扱った事のない初学者にとって、統計学は理解しにくいものとなっている。本講座では、さらにその中でもよく利用されている「仮説検定」という統計処理を、「体験」する。その過程で、統計処理がどのような流れで行われ、どんな理屈を使っているかを体感する。この経験を通して、統計処理を理解し、Excelを利用して実際の処理ができるようになる。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>仮説検定の実際を理解し、<math>\chi^2</math>乗検定やt検定をできるようになる。  自分の興味のあることについて、データの収集から、統計処理、結果の解釈という一連の流れを理解できる。  グループ学習を通して、問題解決のための討論の重要性を知る。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.問題を解決するために、自ら学べるようになる。</li> <li>2.問題について、討論し、解決できるようになる。</li> <li>3.必要なデータを集められる。</li> <li>4.データを適切に処理できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>必修講義「統計解析への数学」のテキスト「統計解析入門」の第10章を予習しておくこと。  統計処理を行うデータは、アンケートを作成して得るか、既存の統計データを利用することになる。自分の興味のあるデータがどのようにしたら得られるか考えておくこと。  <b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



## 学習上の注意点

ログノートを充実させること。PBL中の行動のすべてをそこに記載するように心がけること。  
 グループとして問題解決をすることが、ここでは求められている。プレゼンテーションに至るまでの過程も重要で、グループ内のディスカッションを有効に行うこと。  
 最終日に他のPBLと合同で発表会を開く予定である。その場での学生間の質疑応答、プレゼンテーションの評価も成績に反映される。  
 終了後、各グループごとに報告書の提出すること。報告書も成績に反映される。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

ログノートを利用して、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
 ログノート及び学習態度 44%  
 プレゼンテーション 28%  
 報告書 28%

成績評価基準:  
 ログノート、プレゼンテーションを基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

参考書  
 篠崎信雄・竹内秀一 統計解析入門 サイエンス社  
 東京大学教養部統計学教室編 統計学入門  
 R.Norches, Epidemiology and Biostatistics

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	奥野 浩	統計を使う時には	統計のながれ	母集団と標本 仮説検定 帰無仮説 確率	「入門数理統計学」の第8章 を予習しておくこと。	仮説検定とは何であることを理解する。	グループディスカッションがうまく機能するように心がけること。	PBL
9/ 2～4限	奥野 浩	調査	何についてしらべるのか?	データ アンケート調査 2次データ	グループ内でどのようなデータを集めて、統計処理を行うか合意を得ておくこと。	主張する内容を考え、それを実証するためのデータの取得の方法を理解する。	グループディスカッションがうまく機能するように心がけること。	PBL
9/ 2～4限	奥野 浩	データの収集	どのようなデータをあつめるか	データ アンケート調査 2次データ	必要なデータの取得方法を考えておくこと。	必要なデータを取得する。	グループディスカッションがうまく機能するように心がけること。	PBL
9/ 2～4限	奥野 浩	データの解析	Excelを使った統計解析	Excel 関数	Excelの操作に自信のない学生はExcelの入門書に目を通しておくこと。	Excelを使って統計処理ができる。	グループディスカッションがうまく機能するように心がけること。	PBL
9/ 2～4限	奥野 浩	発表会	発表と質疑応答	プレゼンテーション	発表のための資料を作成すること。	相手の講演を聞き、質問する。 プレゼンテーションを行い質問に適切にこたえる。	他の科目の履修者に考慮してプレゼンテーションを準備する。	PBL

科目名	科目コード	単位数	責任者
医事ニュースを読み解く統計学	PBL 115	1	川村 浩之
学習内容・概要			
<p>「コーヒーを飲むと心臓病になりにくい」、「バナナは花粉症に効く」。新聞や雑誌には医療や健康にまつわる研究報告が毎週のように掲載される。メカニズムが明確なものから「やってみたらそうなった」というものまで様々あるが、いずれも統計的有意性をその根拠としている。このPBLでは新聞や雑誌、ウェブサイトなどに掲載された、我々が親しみやすい医事ニュースをテーマとして取り上げ、その統計的根拠について調査、議論、考察を行う。</p> <p>まずはテーマについてグループ・ディスカッションを行い、背景知識についてグループ学習を行う。その後原論文にあたって特に実験・観測の統計解析に重点をおいた検討を行い、その信憑性(考えられるバイアス、有意性の度合い)やどんな追実験が望まれるか、などについて検討する。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに関して明らかにすべき課題をディスカッションを通して探り、グループで協力して解明にあたる。</li> <li>・原論文で用いられている統計解析の意味を理解し、批判的に検討する。</li> <li>・テーマの設定、実験の方法、結果の解析、考察についてプレゼンテーションを行い、報告書にまとめる。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験デザインと統計解析の具体例を説明できる。</li> <li>2. 医学統計の応用についての批判的検討を行える。</li> <li>3. ディスカッションを通じた共同学習が行える。</li> <li>4. 調べた事からについてパワーポイントを用いたプレゼンテーションが行える。</li> <li>5. 調べた事からについて図表入りのワード文書にまとめることができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>取り上げたい医事ニュース(何らかの形で統計学が用いられる研究に関するもの)を事前に各新聞社やCNN, BBCなどのウェブサイトから探しておくこと。          必修科目「統計解析への数学」のテキスト「統計解析入門」の9章、10章を予習しておくこと。  <b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>少人数グループによるPBL形式の授業なので各自が自覚をもって主体的に取り組むこと。 統計処理でわからないことは教科書やウェブ等で調べること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(学習事項のまとめ等)に関しては、授業中または授業後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: ログノート(30%)、授業参加態度(30%)、プレゼンテーション(20%)、報告書(20%)を総合して評価する。</p> <p>成績評価基準: 実習への取り組み、毎日のまとめ発表、発表会でのプレゼンテーションや報告書の内容を元に総合的に判定する。</p>	<p>指定教科書 統計解析入門[第2版] 篠崎信雄・竹内秀一 共著 サイエンス社</p> <p>参考教科書 医学論文のための統計手法の選び方・使い方 阿部貴行・佐藤裕史・岩崎学 著 東京図書 An introduction to medical statistics 4th ed. M. Bland, Oxford University Press</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	川村 浩之	医事ニュース	グループ討論による課題設定	テーマ選択、課題設定、調査	事前に興味のある医事ニュースを収集しておくこと。	テーマについて何をどこまで明らかにするかを主体的に設定する。	各自が主体的にグループ研究に参加すること	PBL
9/ 2～4限	川村 浩之	科学的根拠とはなにか?	グループ討論による原論文の検討と調査	実験デザイン、統計解析	医事ニュースの原論文を分担して読んでおくこと。	実験結果から結論を導く際の科学的根拠を理解する。	各自が主体的にグループ研究に参加すること	PBL
9/ 2～4限	川村 浩之	統計学の果たす役割	グループ学習による統計解析の理解	統計的推測、区間推定、仮説検定	原論文で用いられている統計解析について各自調べておくこと。	用いられている統計解析の手続きと意味を理解する。統計処理を実際に行って結果をチェックする。	各自が主体的にグループ研究に参加すること	PBL
9/ 2～4限	川村 浩之	プレゼンテーション準備	グループ討論による統計解析の検討	実験デザイン、バイアス、標本サイズ	最初の3日間で明らかにしたことをパワーポイントにまとめておく。	用いられている統計解析の妥当性を考察する。学んだことや考察をプレゼンテーションとしてまとめる。	各自が主体的にグループ研究に参加すること	PBL
9/ 2～4限	川村 浩之	発表会	プレゼンテーション、報告書作成	パワーポイント、プレゼンテーション・スキル、科学論文の書き方	プレゼンテーション資料を作成しておくこと。	相手に伝わるプレゼンテーションを行い、聴衆からの質問に適切に答える。	各自が主体的にグループ研究に参加すること	PBL

科目名	科目コード	責任者
生物の多様性	PBL 109	和田 麻理
学習内容・概要		
<p>生物多様性には 個を生み出す遺伝的多様性、生物種間の多様性、生態系の多様性など様々なレベルのものが含まれる。各自が興味をもったレベルの多様性について、自由に課題を設定し、議論を進めていき、多様性(diversity)についての理解を深める。各自が問題意識をもち、積極的に課題に取り組む姿勢が求められる。また、グループ内で役割を分担し、各自の責任を果たすことが重要である。プレゼンテーション、聞く姿勢も評価の対象とするため、毎回、全員出席での発表会を課す。</p>		
学習目標		
<p>[一般目標] 各自が選択した多様性に関連したテーマに沿って積極的に自己学習を進め、問題解決ができるようになる。</p>		
<p>[到達目標] 1.多様性に関するテーマを設定し、自己学習ができる。 2.グループで設定した問題点について、積極的に討議する事ができる。 3.他者にわかりやすいプレゼンテーションができる。 4.問題意識をもって他者の発表を聞く事ができる。 5.報告書を作成することで、論文を書く上での基本的な技術が身につく。</p>		
自己学習(準備学習)		
<p>グループでのテーマの決定にあたって、日頃から多様性に関して問題意識をもつことが重要である。グループ討議に発展させていくために、各自がリサーチリテラシーに注意した上で、確かなソースから情報を得ること。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>		

学習上の注意点	
<p>テーマの決定から発表会、報告書の提出まで、個人の積極的な参加に加え、グループ学習では協調的な姿勢が求められる。確かな情報をもとに議論をすすめる上で、リサーチレテラシーに注意すること。ログノートに毎日の成果、記録をとり、次への課題につなげられるようにすること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(レポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 以下のものを総合的に判断する。ログノート、成果報告、発表会での発表、質疑応答の姿勢、レポート、学習態度。</p> <p>成績評価基準: 発表や質疑応答、提出された報告書等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>適宜相談には応ずるが、必要な文献、資料は図書館等においてグループで協力して探す。なお、最終的にはレポートの形で報告書を提出するため、信頼性の高い情報源からの情報入手を心がけること。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	和田 麻理	イントロダクション グループ研究にあたっての 準備	グループ分け、 テーマの検討と方向性、発 表	生物の多様性	各自で多様性に関する問題 意識をもち、自発的に学習す る。	各グループで設定したテーマ 毎に問題点を探し、積極的に 討論することを通して、グルー プ学習の基本を身につける。	各自が積極的に議 論に参加し、また、 他者の意見を聞くこ とが重要である。グ ループでの調和をと りながら、1つのテー マに沿ってプレゼン テーションまで進め て行くこと。	PBL
9/ 2～4限	和田 麻理	グループ別研究1 グループ討論、調査	内容検討、試料集め問題 点					
9/ 2～4限	和田 麻理	グループ別研究2 グループ討論、調査	内容検討、試料集め問題 点の改善、中間発表					
9/ 2～4限	和田 麻理	グループ別研究3 グループ討論、調査発表 準備、資料作成	発表内容の検討、 準備、発表練習					
9/ 2～4限	和田 麻理	グループ別研究4 発表準備、資料作成 グループ別発表	プレゼンテーション及び討 論、報告書作成、まとめ	パワーポイントを用いたプレ ゼンテーション、質疑応答	発表会参加者にとってわかり やすい発表が出来るように準 備する。報告書の形でまとめ られるよう準備する。			



科目名	科目コード	単位数	責任者
錯覚錯視の原理と応用	PBL 117	1	松本 顕
学習内容・概要			
<p>静止した絵なのに動いて見える、平行な直線なのに傾いて見える、同じ長さなのに違って見える、などの不思議な図形を錯視図形とよぶ。実在する対象の誤った知覚(すなわち錯覚)は視覚以外でも生じ、ヒトの認知機能を探る上で重要なヒントを与えてくれる。</p> <p>本PBLでは、そういった錯覚(多くは錯視)に関して、</p> <p>①誤りが起こる生理学的原因を探る(文献調査)</p> <p>②諸条件を変更するとどんなことが生じるかを自ら試す(実験)</p> <p>③学んだ原理を応用して錯視図形を自分で描いてみる(作品制作)</p> <p>という3つのステップを通して、学生自らが課題を見つけ、資料を調べ、他人と意見の交換をしつつ、思考力や洞察力、観察力を培い、知識を応用する技術と態度を習得する。</p> <p>※ソフトの種類は問わないが、コンピュータによる描画が出来ることが要求される。ただし、視覚以外の錯覚に取り組む場合はこの限りではない。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「錯覚」「錯視」に関連した自分の興味を明瞭化し、焦点となる問題点を具体化できる。</li> <li>・興味や疑問を持ったキーワードについて、自分が納得できるレベルまで自己学習、実験できる。</li> <li>・疑問点や理解したことを応用し、それらをプレゼンテーションして(あるいはレポートにまとめ)、他人を納得させられる。</li> <li>・班員と協力的に討議しながらプロジェクトを推進し、問題の解決を模索できる。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.錯覚や錯視の背景にある生理学的原理が理解できる。</li> <li>2.錯覚や錯視が生じる原理を応用した作品を作成できる。</li> <li>3.グループ学習において、自主的に課題設定ができる。</li> <li>4.グループ討議において的確なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。</li> <li>5.学んだことを科学的なレポートの形式で表現できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「錯覚」「錯視」に関する自分の興味の焦点、それを明らかにするための方法、自分にとって不明な点はどこにあるかを事前に掘り下げておく。漠然と考えるだけでなく、具体的な資料を収集したり考えを文章にまとめたりして、他人の前で発表でき、理解して貰える状態にまで準備しておく。</li> <li>・「新入生キャンプ」での「スモールグループ ディスカッション」を思い出し、討論のマナーや方法を復習しておくこと。</li> <li>・「医学研究入門 I」などで学習した「リサーチリテラシー」や「論文の書き方」についてよく復習しておくこと。</li> <li>・コンピュータを使って作図が出来るようになっておく。使用するソフトウェアに関する指定はない。</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の行動記録であるログノートをこまめに記載し、1日の最後に活動や議論を振り返り、翌日からの調査の方向性を明瞭化すること。</li> <li>・最終的にレポートを作成する際は、参考文献に基づいた論理的な議論を展開すること。</li> </ul> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</p> <p>1時限あたり 予習:45分、復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによるProject Based Learning形式で実施し、プレゼンテーションや討論の方法についても学ぶ。</li> <li>課題設定、調査の方向性の決定、資料収集、実験、作品制作、発表内容の組み立て、質疑への応答まで、全て学習者1人1人の積極性、班員同士の協調性にまかされている。授業への積極的な参加が強く要求される。</li> <li>・最終日には全体発表会を行う。チューターや他の教員からだけでなく学生相互の質疑応答を含む。</li> <li>発表会の参加者全員による、発表内容や発表態度、質疑応答の的確さの評価を行い、成績に反映させる。</li> <li>・全体発表会后、指示された様式、分量のレポートを提出すること。</li> <li>このレポートは、全員分を集めた報告書(冊子体)として発刊される予定である。内容以外に、記述形式や文献引用のマナーも重要な採点対象となる。</li> <li>・全回出席が必須である。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:</p> <p>【原則、以下のものを参考に総合的に判断する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の活動記録であるログノート(毎日終了時に提出)</li> <li>・中間報告会や最終報告会での発表 (発表の巧拙以外に態度や質疑応答の的確性も評価対象)</li> <li>・学習内容を応用してグループ作製した作品の独自性</li> <li>・レポート</li> <li>・学習態度、特に積極性と協調性</li> </ul> <p>成績評価基準: ログノート、発表、作品、レポート、学習態度から“ルーブリック”に従って総合的に評価する。ルーブリックによる評価基準については講義中に説明する。</p>	<p>参考資料を自分で探し出すのも本PBLでの学習の一環である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず複数の参考図書、文献にあたって調査を行うこと。議論の際には出典の引用を必須とする(引用形式に不備のあるレポートは大幅な減点対象となる)。</li> <li>・インターネット検索も活用してよいが、場合によっては資料としての価値が全くない、あるいは議論の根拠とするには不適當なものも含まれていることを認識しておくこと。一部の図書も同様である(正当な根拠のない情報に基づく発表や議論を行った場合も大幅な減点対象となる)。</li> <li>・ある程度の参考資料はチューター側で準備しているので、必要ならば適宜相談するとよい。</li> </ul>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2～4限	松本 顕	イントロダクション グループ分け グループ別討論1 調査	授業概要の説明 班分け 問題点のあぶり出し 方向性決定 資料調査、原理の追及	錯覚と錯視 ・形状、大きさの錯視 ・明るさの錯視 ・色の錯視 ・動きの錯視 ・奥行き錯視 etc.	・授業キーワードは調査に取り 組む際の一例を示している だけである。これに捉われず に各自で課題をあぶりだして 調査、考察、討論を進めるこ とを歓迎する。  ・関連する資料はチューター 側でも準備しているが、図書 館などで各自で探す努力を すること。  ・参考資料は必ず複数の文 献にあたり、レポートに正式に 引用できる形でログノートにメ モをとること。	以下の能力を今後の学習や 研究に充分に応用できる。 ・積極的学習態度 ・リサーチリテラシー ・問題の焦点を絞る能力 ・討論の基本姿勢 ・グループ学習 ・論文執筆の基本	以下について常に 心がけること。 ・積極的な参加態度 ・論理的な思考 ・明瞭な説明 ・話を聞く態度 ・協調性ある議論 ・建設的な質問 ・根拠の出典明示 ・独自性	PBL形式
9/ 2～4限	松本 顕	調査と実験 グループ別討論2	錯視図形の作成 条件を変更して実験					
9/ 2～4限	松本 顕	実験と応用 グループ別討論3	条件を変更する実験の続き グループ討議 独自の錯視図形の制作					
9/ 2～4限	松本 顕	応用 グループ別討論4	錯視図形制作の続き グループ討議 プレゼンテーションの準備					
9/ 2～4限	松本 顕	グループ別討論5  全体発表会	プレゼンテーション  発表と質疑応答	プレゼンテーション  発表と質疑応答	パワーポイントでの発表準備 プレゼンと質疑応答のマナー について事前学習しておく レポートをまとめる			

科目名	科目コード	単位数	責任者
Can We Trust Diet Studies ?	PBL 111	1	Robert Whittier
学習内容・概要			
<p>The British scientist David Colquhoun has written “We know little about the effect of diet on health. That’s why so much is written about it.” In fact, it would be difficult logically to challenge Dr. Colquhoun’s opinion. Beyond the need to get sufficient calories and essential nutrients such as vitamins and minerals, and the recognition that chronic overeating is bad, there is little that we rigorously know about healthy eating. The advice of medical societies has swung back and forth through the years on what makes a healthy, balanced diet. What balance of carbohydrate to fat intake is ideal? Among fats, what balance of saturated, mono-unsaturated and omega-3 unsaturated fats is good? Even today, experts continue to disagree. In this 5-day PBL, students cannot decide which expert to believe. Instead we should try to understand the difficulties in studying human nutrition that have made such disagreement possible. In clinical medicine, what is considered weak evidence and what is considered strong?, A critical understanding of the challenges nutritional studies face will also help students evaluate a wide variety of other clinical studies.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Through self-study, students will gain a better understanding of key concepts and controversies in an area that interests them.</li> <li>• Students will gain a better understanding in general about how medical and scientific inquiry goes about trying to answer questions.</li> <li>• Students will improve their ability to cooperate as a team to achieve a common objective, a key skill that classroom instruction rarely promotes.</li> <li>• Students will improve their ability to explain key concepts and controversies to others in a concise (簡潔な) way.</li> <li>• Students will learn to write a short research report with references correctly cited to support stated facts and claims.</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.Students will narrow the topic to a single question or very small group of closely related questions.</li> <li>2.Students will give a clear, concise oral presentation explaining the question they asked, why it is important or interesting, and what they learned.</li> <li>3.Students will prepare a 2 page written report in English with proper citations of their information sources.</li> <li>4.Students will deepen their understanding of the specific subject they select.</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Students should start to read and think about specific question before the actual course begins, and begin collecting relevant materials. They may also wish to start talking with other students assigned to this course in order to start forming tentative study groups. The question each group chooses must be a clear one that each student can explain, and that scientific studies can attempt to answer. A definitive answer may not yet exist, but relevant studies should exist.</li> </ul> <p>During the course</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Students must maintain a logbook of their activities each day, with their plans for the following day.</li> </ul>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Science can answer some questions rigorously, but the more complex the system, the more conclusions must be based on "weight of the evidence." It is important for students to be able to distinguish correlation from causality. What is a "surrogate endpoint," and why are such measurements used? What is a "prospective study," and what are its strengths and weaknesses? How can modern technologies such as smartphones be used to improve diet studies? How can study participant selection (or self-selection) alter the results? How many participants does a study need to detect small effects? How much will a study cost? There are many questions to consider in designing a study.</li> <li>• The instructor will provide coaching not only with the posing of research questions, but also with respect to expressing ideas in English and putting together an effective oral presentation. The 2-page report must be written in English, but the oral presentation may be in either English or Japanese.</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
成績評価方法: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Daily log notes of activities explaining main points learned or accomplished, and questions or tasks remaining.</li> <li>• Intermediate oral reports and communication within group.</li> <li>• Report and final presentation</li> <li>• Level of personal effort and extent of group cooperation</li> </ul>	Students will find materials in the library or available over the Internet, but will receive guidance from the instructor on searching for such materials and on evaluating the reliability of sources.

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/ 2~4限	Robert Whittier	Explanation of grading criteria. Mutual introduction of research question by group. Debate. Daily summary	Organizing self-study and group study	Grading criteria Finding information Summarizing information	Through preparatory reading and consultation, define the question your group will address.	Understand "The Question," how your group will explore it, and your personal assignments.	Each member of a group should have a clear assignment	Active Group Learning
9/ 2~4限	Robert Whittier	Wrestling with the question. Daily summary	Implementing self-study and group study	Finding information Summarizing information	Read and summarize reference materials. Find new materials as needed.	Self-study, recognizable progress in understanding, individual and group responsibility.	Each member makes distinguishable contributions and coordinates with the others.	Active Group Learning
9/ 2~4限	Robert Whittier	Wrestling with the question. Daily summary	Implementing self-study and group study	Finding information and images. Outline of presentation and report	Read and summarize reference materials. Find new materials as needed.	Self-study, recognizable progress in understanding, individual and group responsibility.	Each member makes distinguishable contributions and coordinates with the others.	Active Group Learning
9/ 2~4限	Robert Whittier	Presentation and report 1st draft. Identify weaknesses. Daily summary	Individual efforts and group coordination	Prepare and rehearse presentation. Prepare report. Fill in any gaps.	Identify knowledge gaps and uncertainties. Are these genuine unknowns?	Will your presentation be understood? Will it evoke interest? Do the text, images and animations each contribute?	Each member makes distinguishable contributions and coordinates with the others.	Active Group Learning
9/ 2~4限	Robert Whittier	Present group findings and report.	Group presentation	Presentations. Evaluation of other groups.	Rehearse and polish presentation.	Evaluating the other groups' presentations will help you to improve your own presentation skills for the future.	Enthusiasm and clarity. An oral presentation should NEVER be read.	Active Group Learning

科目名	科目コード	単位数	責任者
Medical Biology in English	BIO 090	1	Robert F. Whittier
学習内容・概要			
Biomolecules, eucaryotic cell structure, energy production and the flow of information in the cell will be reviewed. More advanced portions of the course will deal with protein trafficking through the various membrane-enclosed compartments, signal transduction, cell death pathways, and the threat of emerging and reemerging infectious diseases.			
学習目標			
[一般目標]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Reduce the barriers students face in using English language materials in problem-solving and self-directed study.</li> <li>• Improve students ability to understand medical science-related oral lectures and meeting presentations.</li> <li>• Reinforce students' understanding of basic concepts in cell biology and genetics.</li> <li>• Introduce students to basic concepts in signal transduction, ER stress, apoptosis and infectious diseases.</li> </ul>			
[到達目標]			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be able to understand ~350 spoken chemical and biomedical terms spoken in English and provide concise translations into Japanese.</li> <li>2. Students will understand the biological meaning and context of these terms and be able to choose the correct words to insert into paragraphs.</li> <li>3. Students will be able to read complex multiple-choice questions based on topics covered in the course and apply logic to select the best answer.</li> <li>4. Students will develop a rough quantitative understanding of biological phenomena such as energy production and use, and nucleic acid replication fidelity.</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>Memorization of weekly vocabulary lists will be expected along with advance reading of related materials from the textbook, Essential Cell Biology. While necessary, however, vocabulary memorization alone is insufficient; the associated concepts must also be thoroughly understood. Students who are weaker in English should hand copy English chapter summaries point by point alongside the corresponding Japanese.</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

Memorization and repetition are important for learning words. In contrast, solving problems requires both knowledge and an understanding of concepts.

Advance reading can be done in either English or Japanese versions of the textbook, but students who do not memorize the vocabulary on schedule will find themselves unable to understand lectures, and will fall seriously behind in the course.

Quizzes will help students to assess their own understanding of the material and so students should complete the quizzes without help from their classmates. Honest scores will also serve as valuable feedback for the instructor to understand how well each lesson was understood.

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:

- Weekly participation in quiz: 1 pt/quiz
- Midterm exam: ~30%
- Final exam: ~60%

成績評価基準:

個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

The textbook will be "Essential Cell Biology" (Bruce Alberts, 4th edition)  
There will also be weekly vocabulary and lecture slide handouts, as well as English chapter summaries.



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/17 火 1限	Robert F. Whittier	Introduction and atoms to macromolecules	Study resources, cell structure and model organisms. Chemical elements, bonds and molecules of life.	procaryote, eucaryote, membranes, model organisms	Chapter 1, Chapter 2 and vocabulary	Understand eucaryotic cell structure and why model organisms are useful. Understand chemical elements and bonds.	Keep up with the course. The flashcards are useful!	lecture
9/24 火 1限	Robert F. Whittier	Protein structure, chemical energy and catalysis	Where most of life happens	amino acids, levels of structure, hydrophobicity activation energy	Chapter 4 and vocabulary	Understand protein structure and the central importance of water.	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
10/1 火 1限	Robert F. Whittier	The Central Dogma	DNA makes RNA makes Protein	replication, transcription, translation, codons	Chapter 7 and vocabulary	Know the flow of biological information, and where it occurs in a eucaryotic cell	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
10/8 火 1限	Robert F. Whittier	Mutations and genetics	DNA replication, repair, mutations,	Mutations, inheritance, peddigrees, dominance	Chapter 6 and vocabulary	Know the types of mutations, how they occur, and how to analyze a pedigree.	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
10/15 火 1限	Robert F. Whittier	Gene expression	Transcriptional and post-transcriptional regulation	cbromatin states, enhancers, microRNAs	Chapter 8 and vocabulary	Gain a rudimentary understanding of how genes are regulated, and how cells differentiate.	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
10/29 火 1限	Robert F. Whittier	Mid-term exam	~30% of student grade		Review handouts, vocabulary, and chapter summaries	Confirm students' grasp of previous lectures	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
11/5 火 1限	Robert F. Whittier	Review of mid-term exam, Introduction to membranes	Lipid bilayers, membrane proteins	Membrane fluidity, membrane asymmetry, phospholipids	Chapter 11 and vocabulary	prepare students to understand membrane-based cell activities	Assigned seating and strict exam rules	exam
11/12 火 1限	Robert F. Whittier	Mitochondria & oxidative phosphorylations	The power stations of the cell	Chemiosmotic coupling, Separate genome, inner and outer membranes	Chapter 14 前半 and vocabulary	Understand how cells harvest energy through oxidation, the membranes' role in this and cytoplasmic inheritance.	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz

Medical Biology in English

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/26 火 1限	Robert F. Whittier	Protein trafficking	Membrane compartments	cytosol, ER, ER stress, Golgi apparatus, vesicles	Chapter 15 and vocabulary	Understand how cells harvest energy through oxidation, the membranes' role in this and cytoplasmic inheritance.	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
11/30 土 1限	Robert F. Whittier	Signal transduction I	How cells sense their internal and external environments	cytosol, ER, ER stress, Golgi apparatus, vesicles	Chapter 16 前半 and vocabulary	Understand where proteins are made, how they get to their destinations, and what ER stress is.	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
12/3 火 1限	Robert F. Whittier	Signal transduction II	Signaling homeostasis, amplification, integration	2nd messengers, cascades, protein channels	Chapter 16 後半 and vocabulary	Understand the need for signal transduction and fast vs slow pathways	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
12/10 火 1限	Robert F. Whittier	Apoptosis and necrosis	Signaling homeostasis, amplification, integration	2nd messengers, cascades, protein channels	Chapter 16 後半 and vocabulary	Understand the most common mechanisms by which signals are transduced.	Preparation will aid in understanding the lecture.	Lecture & quiz
12/17 火 1限	Robert F. Whittier	Apoptosis and necrosis	To be or not to be	caspases, blebbing, eat-me signal, cancer, oncotic necrosis	parts of chapter 18, vocabulary	Understand the need for programmed cell death and how it occurs.	Preparation will aid in understanding the lecture.	lecture & quiz
1/7 火 1限	Robert F. Whittier	Infectious diseases	The constant threat	Emerging and re-emerging diseases, sanitation, the spread of antibiotic resistance	vocabulary	Understand why infectious diseases remain a threat in light of the concepts covered in this course	Not time to relax! This material will also be on the final exam.	Lecture

科目名	科目コード	単位数	責任者
2変数の微分積分入門	MTH 123	1	奥野 浩
学習内容・概要			
<p>微分積分は解析学の入門であり、大学における数学の入り口の一つである。          高校時に学んだ微分および積分を、新たに数学的に厳密に議論し、さらにその発展として2変数関数の微分および積分を学ぶ。          極限を数学的に扱うために、実数の性質から始める。さらに、数列の収束、関数の連続性を理解する。その知識を利用して、1変数の微分および積分とそれぞれの応用について学ぶ。また、あらたに広義積分の概念を学ぶ。          2変数関数について、微分可能性および偏微分を学び、その応用として2変数関数のテイラー展開や極値問題を学ぶ。また、2変数関数の累次積分・重積分を学び、それと体積との関係を学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]          極限の概念を理解する。          基本的な微分および積分の計算ができるようになる。          2変数関数の微分および積分の意味を理解し、計算できるようになる。</p>			
<p>[到達目標]          1. 関数の微分の意味を理解して説明できる。          2. テイラー展開の意味を理解し、基本的な関数について計算できる。          3. 関数の積分の意味を理解して説明できる。          4. 2変数関数の微分の意味を理解し、極値問題が解ける。          5. 重積分の意味を理解し、計算ができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>高校時の数列・微分・積分について復習しておくこと。          前回の範囲において指定教科書の練習問題がある場合は解いておくこと。  <b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

やや抽象性が高いため、慣れるまで理解しにくい部分があると考えられる。その場合には、教員に質問すること。理解を助けるために練習問題があるので、指定教科書の問題は最終的にはすべて解くこと。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
授業中の態度等 10%  
演習 20%  
試験 70%

成績評価基準:  
個別試験や総合試験の結果、演習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

指定教科書  
小川卓克 要説わかりやすい微分積分

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/10 水 2限	奥野 浩	はじめに	微分積分を学ぶにあたって	記号		数学の基本的な用語を理解する。		講義
				用語				講義
4/17 水 2限	奥野 浩	数列1	実数の性質	実数 単調性 デデキントの切断	【予習】 高校時の数列について復習しておくこと。	切断を理解する。	抽象性の高い議論なので、例を参考に考えること。	講義
			数列の収束を考えるために	有界 上限 下限	【復習】 問題1を解くこと。	上限・下限を理解する。		講義
4/24 水 2限	奥野 浩	数列2	数列の収束	$\epsilon$ $\delta$ 法	【予習】 前回の内容を復習しておくこと。	数列の収束することをしめせる。	$\epsilon$ $\delta$ の使い方に注意する。	講義
			部分列の収束	部分列	【復習】 問題2～6を解くこと。	部分列の意味を説明できる。		講義
5/8 水 2限	奥野 浩	連続関数1	連続関数とは	連続関数	【予習】 高校時の連続関数について復習しておくこと。	連続関数の意味を理解する。	オーダーの意味に注意する。	講義
			収束の速度	ランダウのオーダー記号	【復習】 問題7～9を解くこと。	スモールオーダーの意味を理解する。		講義
5/22 水 2限	奥野 浩	連続関数2	中間値の定理	中間値の定理	【予習】 前回の復習をしておくこと。	中間値の定理を理解する。		講義
			中間値の定理と連続性	連続であるとは	【復習】 連続関数についてまとめておくこと。			講義
5/29 水 2限	奥野 浩	1変数関数の微分1	関数の微分とは	微分係数 微分可能 導関数	【予習】 高校時の関数の微分について復習しておくこと。	微分と接線との関係を理解する。基本的な導関数を求められる。	接線の重要性に注意する。	講義
			平均値の定理	平均値の定理	【復習】 問題10～12を解くこと。	平均値の定理と接線との関係を理解する。		講義
6/5 水 2限	奥野 浩	1変数関数の微分2	テイラー展開	テイラー展開 マクローリン展開	【予習】 前回の復習をしておくこと。	テイラー展開の意味を理解する。	テイラー展開が接線の概念の拡張であることに注意する。	講義
			微分の応用	ロピタルの定理	【復習】 問題13～15を解くこと。			講義
6/12 水 2限	奥野 浩	1変数の積分1	関数の積分とは	原始関数 不定積分	【予習】 高校時の関数の積分について復習しておくこと。	積分と微分との関係を理解する。		講義
			積分の定義	リーマン和 定積分	【復習】 問題16～20を解くこと。			講義

2変数の微分積分入門

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/19 水 2限	奥野 浩	1変数関数の積分2	平均値の定理	積分の平均値の定理	【予習】 前回の復習をしておくこと。 【復習】 問題21～22を解くこと。	統計学では確率計算で広義積分になることも多い。		講義
			広義積分	広義積分				広義積分の意味を理解する。
6/26 水 2限	奥野 浩	1変数の微分積分の演習	1変数の微積分のまとめ		【予習】 これまでの解けなかった問題を考えておくこと。	さまざまなができるようになる。		講義
			演習					
6/29 土 2限	奥野 浩	2変数関数の微分1	微分可能であるとは	微分可能性 接平面	【予習】 2変数関数のグラフとはどのようなものか考えること。 【復習】 問題21～22を解くこと。	接平面の概念を理解する。	接平面の概念が接線の概念の拡張となっていることに注意する。	講義
			偏微分	偏微分 方向微分				偏微分の概念を理解し、偏導関数が求められるようになる。
7/3 水 2限	奥野 浩	2変数関数の微分2	2変数関数の微分の応用	テイラー展開	【予習】 前回の復習をしておくこと。 【復習】 問題23を解くこと。	2変数のテイラー展開を理解する。		講義
			極値問題	変数変換 ヤコビアン 極値問題				極値問題を解くことができるようになる。
7/10 水 2限	奥野 浩	2変数関数の積分	2変数関数の積分	累次積分 リーマン和 重積分 体積の計算	【予習】 2変数関数の積分が何を意味するか考えること。 【復習】 問題24～30を解くこと。	2変数関数の積分の意味を理解する。		講義
			2変数関数の置換積分	変数変換 ヤコビアン 部分積分				
7/17 水 2限	奥野 浩	2変数の微積分の演習1	2変数の微積分のまとめ		【予習】 これまでの解けなかった問題を考えておくこと。	さまざまなができるようになる。		講義
			演習					

科目名	科目コード	単位数	責任者
相対論入門:時空とエネルギー	PHY 123	1	田中 和廣・清 裕一郎
学習内容・概要			
<p>20世紀のはじめにアインシュタインが発表した相対性理論は、空間と時間に対する人々の認識を根底からくつがえす革命的なものであった。例えば、「運動は、時の刻みを遅くし、空間を縮ませる」ことが予言されるのである！</p> <p>理論の誕生から百年が経過した現在では、相対論は物理学の根幹を成す基本法則となっており、我々のまわりに広がる“進化する宇宙”とその骨組みである“四次元時空”を理解する基礎となっている。そのみならず、自動車の現在位置を知らせてくれるカーナビや、福島第一原発事故以降特に関心を集めている原子力発電、がんの診断法であるポジトロンCT (PET) などにも相対性理論の原理が応用されており、実は、相対論は身近なところで我々に深く関わり日常的な活動を支えている。</p> <p>このように、21世紀を生きる我々にとって不可欠なものとなっている相対論について、本講義ではその基本となる考え方への入門を目的とする。</p> <p>相対論の考え方の基本を学ぶことにより、時間と空間はからみ合っておりこれらを併せた“時空”が根本的な実体であることや、エネルギーと質量が同じものであることなど、驚くべき事実が明らかになる。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>相対論はたった二つの単純な指導原理を出発点として中学程度の数学を用いれば、その本質を導き出し理解することが可能である。このようにして導かれる様々な刺激的な予言とその実験的検証、相対論にまつわる奇妙なパラドックスについて考えながら、相対論が提示する自然観について理解を深めていく。時空およびエネルギーをめぐって相対論を踏まえた現代的視点を養い、様々な角度から物事を掘り下げて分析し考えられるようになる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.相対論がカーナビや原子力にも応用されて現代社会を支え、PETなど医学とも関係していることを説明できる。</li> <li>2.常識を超えたところに自然界の真理があることを知り、異なる意見を尊重する広い視野をもち、複数の視点から掘り下げて分析できる。</li> <li>3.運動が時の刻みを遅くし空間を縮ませることが論理的に不可避であり、実験でも検証されていることを説明できる。</li> <li>4.重力による時間の遅れを説明できる。</li> <li>5.ビック・バン宇宙論に基づいて宇宙の歴史を説明できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>講義で使用したスライド等の資料は、毎回の授業終了後、Juntendo Passportで配信するので、復習に役立てるとよい。</p> <p>毎回の授業は、前回授業の内容を踏まえて一段一段階段を上るように内容を進めていくので、事前学習として、前回授業のスライドを復習して授業に臨むこと。</p> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>高校で物理を学んでいなくてもよい。 簡単な話から始めて、一段一段階段を上るように相対論の基本となる考え方を学んでいくので、講義に欠かさず出席し注意深く話を聞くこと。 授業時間内・外の質問を歓迎する。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>授業で配布する演習問題に関する疑問点については、適宜ヒントを提示しフィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p><b>成績評価方法:</b> 授業で配布する演習問題を解いて提出したレポートの内容・提出状況に応じて、期末試験(100点満点)の結果に加点する。ただし、授業参加態度が良くない場合には、減点の対象となるので注意すること。</p> <p><b>成績評価基準:</b> 到達目標1および3～5の達成度を期末試験で評価し、到達目標2は演習問題のレポートへの取り組みと授業内の発言・態度等で総合的に評価する。</p>	<p><b>【参考教科書】</b> 「星と宇宙(物理科学のコンセプト9)」 ヒューエット他著 共立出版</p> <p><b>【参考書】</b> 「物理学はいかに創られたか(上・下)」 アインシュタイン、インフェルト著 岩波書店(岩波新書) 「特殊および一般相対性理論について」 アインシュタイン著 白揚社 「アインシュタインの宿題」 福江純著 光文社(知恵の森文庫) 「相対性理論を楽しむ本」 佐藤勝彦著 PHP(PHP文庫) 「ライフサイエンス物理学」 シュテルンハイム、ケイン著 廣川書店</p>



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/12 金 2限	田中 和廣	奇跡の年:1905年	特許局勤務の無名の官吏(26)が物理学に起こした革命	時空の物理学、“Person of the 20th Century”、絶対不変、相対性	予習)アインシュタインの生涯について自己学習してくること。	時空そのものが物理学の対象となること(物理現象の一つとして変化するかもしれないこと、変化の様子が観測できるかもしれないこと)を説明できる。	問いかけに積極的に応答すること。	講義
		鏡のパラドックス	若きアインシュタイン青年が、ふと疑問に思ったことは？	観測者、基準座標系、特殊相対性理論	復習)「鏡のパラドックス」について自分なりの答を出してみる。	アインシュタインの高校の頃の素朴な疑問が相対論発見につながったことを知り、自由な発想ができるようになる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、演習・質疑応答に積極的に取り組むこと。	講義・討論
4/19 金 2限	田中 和廣	物理現象と「観測者」	宇宙に絶対的に静止した基準は存在するか？	絶対空間、絶対速度、相対速度、エーテル、マイケルソン・モーレーの実験	予習)前回授業のスライドを見直してくること。光速の正確な値がどのように割り出されているかを調べ自己学習してくること。	科学における観測者の役割の重要性を理解し、実験に基づく客観的事実と主観的な言説を区別できるようになる。	問いかけに積極的に応答すること。	講義
		同時刻の相対性	特殊相対性理論はたった2つの基本原理から	真空中の光の速さ、相対性原理、光速不変の原理	復習)授業で扱った例題を自力で解き直すこと。	過去・現在・未来の区別は観測者ごとに異なることが、論理的に不可避な帰結であることを説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、演習・質疑応答に積極的に取り組むこと。	講義・討論
4/26 金 2限	田中 和廣	運動する時計は遅れる	観測者ごとに異なる時の刻み	光時計、時間の遅れ、静止系	予習)前回授業のスライドを見直してくること。原子時計について検索し自己学習してくること。	運動が時の刻みを遅くすることが論理的に不可避な帰結であることを説明できる。	問いかけに積極的に応答すること。	講義
		時間の遅れの実験的検証	時計をジェット機に積み世界1周すると?!	原子時計、素粒子の寿命の伸び、生物時計	復習)授業で扱った例題を自力で解き直すこと。	運動が時の刻みを遅くすることが実験でも検証されていることを説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、演習・質疑応答に積極的に取り組むこと。	講義・討論
5/10 金 2限	田中 和廣	タイムトラベル	双子の一方が銀河間旅行から帰還すると?！ーウラシマ効果ー	固有時間、光年、浦島太郎、銀河系、大マゼラン雲、ハッブル宇宙望遠鏡	予習)前回授業のスライドを見直してくること。大マゼラン雲について検索して自己学習し、GPSの意味を調べてくること。	理論的に可能と考えられるタイムトラベルや銀河間旅行を、具体的なストーリーを描いて説明できる。	問いかけに積極的に応答すること。	講義
		相対論とGPS	原子時計を搭載したGPS衛星が地球のまわりを約30個まわっている	カーナビ、自分とGPS衛星との距離	復習)授業で扱った例題を自力で解き直すこと。	相対論が発見されていなければGPSの技術は実現不可能であることを説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、演習・質疑応答に積極的に取り組むこと。	講義・討論
5/17 金 2限	田中 和廣	運動する物体の長さは縮む	豪速球は潰れて見える?!	ローレンツ収縮、固有長さ	予習)前回授業のスライドと4月26日のスライドを見直してくること。	運動する物体の長さが縮むことが論理的に不可避な帰結であり、実験でも検証されていることを説明できる。	問いかけに積極的に応答すること。	講義
		車とガレージのパラドックス	観測者ごとに異なる時空	同時刻の相対性を表す式、時空のゆがみ	復習)授業で扱った例題を自力で解き直すこと。	「車とガレージのパラドックス」が解決されることを理解し、相対論が矛盾の無い理論であることを説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、演習・質疑応答に積極的に取り組むこと。	講義・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/24 金 2限	田中 和廣	なぜ光速は誰から見ても不変なのか？	相対性理論における速度の合成則	相対速度、非相対論	予習) 前回授業のスライドを見直してこよう。相対速度の求め方を復習し自己学習してこよう。	高校物理の速度の合成は、光速よりずっと遅い場合の近似式であることを説明できる。	問いかげに積極的に応答すること。	講義
		双子のパラドックス	相手の時計は、自分から見て相対的に運動している！	時間の遅れ、長さの収縮	復習) 授業で扱った例題を自力で解き直すこと。	「双子のパラドックス」がどのような意味でパラドックスなのか、論理的に説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、演習・質疑応答に積極的に取り組むこと。	講義・討論
5/31 金 2限	田中 和廣	若いのはどっちだ？！	双子のパラドックス完全解決	同時刻の相対性、基準系の乗り換え	予習) 前回授業のスライドと、5月10日のスライドを見直してこよう。	一見パラドックスと思えるものを、異なった複数の視点から分析し、矛盾を解決する糸口を見出すことができる。	問いかげに積極的に応答すること。演習問題に挑戦すること。	講義
		時間と空間は混じり合う：四次元時空	時間と空間の統一	ミンコフスキー空間、回転の変換、ローレンツ変換	復習) 授業で扱った例題を自力で解き直すこと。また、「演習問題」のプリントを配布するので、ここまでの授業の総復習として少しずつ挑戦すること。	我々の住んでいる世界を、なぜ時間と空間を統合した四次元時空と考えるべきなのかを理解し説明できる。	聞き逃しのないよう集中力を高め、演習・質疑応答に積極的に取り組むこと。	講義・討論
6/7 金 2限	清 裕一郎	ガリレオの時間とアインシュタインの時空間	時間は絶対的か？	4次元の世界、観測者と時空間	予習) 時間の流れはどのように認識されるのだろうか、自己学習で考えてこよう。	事象の関係を時空図を用いて記述できる。	講義をよく聞き、積極的に議論に参加すること。	講義
		ミンコフスキーの理論	ローレンツ変換を使いこなせ！	ローレンツ変換	復習) ローレンツ変換の練習問題を解き直すこと。	ローレンツ変換を使い、光のドップラー効果を計算できる。	演習問題を自分の手を動かして考えること。	演習・発表・討論
6/14 金 2限	清 裕一郎	運動すると物体は重くなる	物体を加速すると光速に到達できるのか？	慣性の法則、静止質量	予習) 慣性質量と重力質量について自己学習してこよう。	力と加速度の関係を理解し、慣性質量と重力質量の違いについて説明できる。	講義をよく聞き、積極的に議論に参加すること。	講義
		相対論的な運動方程式	増大する質量からの帰結	運動方程式、力	復習) 授業で扱った例題を解き直し、質量のある物体の速度に限界があることを確認すること。	相対論的な運動方程式を使い、粒子の運動を理解できる。	演習問題を自分の手を動かして考えること。	演習・発表・討論
6/21 金 2限	清 裕一郎	アインシュタインの式: $E=mc^2$	質量はエネルギーだった！	相対論的なエネルギー公式、静止質量	予習) ニュートンの力学における運動エネルギーの公式 $mv^2/2$ について調べてこよう。	アインシュタインの質量公式を理解し説明できる。	講義をよく聞き、積極的に議論に参加すること。	講義
		質量エネルギーは利用できるのか？	人類に託された課題	質量とエネルギーの転換、核反応、不安定核の崩壊	復習) 授業で扱った例題を解き直すこと。	核反応における質量欠損とエネルギーの計算ができる。	演習問題を自分の手を動かして考えること。	演習・発表・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/28 金 2限	清 裕一郎	始めに光ありき	陽電子は消滅し光となる	ディラックの空孔理論, スピン, 粒子と反粒子	予習)PET(Positron Emission Tomography)とは何か調べてくること。	電子・陽電子消滅の反応図を描くことができる。	講義をよく聞き、積極的に議論に参加すること。	講義
		反粒子を利用する	相対論と反粒子	光子, 電子, 陽電子, 対消滅, PET	復習)PETの原理についてまとめてレポートを作成すること。	PETの原理を理解し、陽電子消滅で放出されるエネルギーを計算できる。	演習問題を自分の手を動かして考えること。	演習・発表・討論
7/5 金 2限	清 裕一郎	重力と相対論	重力が時間の進みに影響を与える?	自由落下, 等価原理, シュバルツシルト時空	予習)アインシュタインの等価原理について調べてくること。	等価原理について説明できる。	講義をよく聞き、積極的に議論に参加すること。	講義
		GPSと相対論	高度によって変わる時間の進み	GPS衛星, 重力赤方偏移	復習)等価原理を用いて重力による時間の遅れを自分の力で再導出してみること。	重力が時間の進み具合にも影響を及ぼすことを理解して、具体例で説明できる。	演習問題を自分の手を動かして考えること。	演習・発表・討論
7/12 金 2限	清 裕一郎	曲がった時空	光も重力に引かれる	自由落下, 重力レンズ効果, 真空, 空間の曲率	予習)空間が曲がっているということを認識するためにはどうすれば良いだろうか、各自で考えてくること。	曲がった空間や空間の次元といった概念を理解できる。	講義をよく聞き、積極的に議論に参加すること。	講義
		アインシュタイン方程式	エネルギーが重力を生み出す	アインシュタイン方程式, ブラックホール	復習)授業で扱った例題を解き直すこと。	重力による時間の遅れを計算できる。アインシュタイン方程式の意味を概説できる。	演習問題を自分の手を動かして考えること。	演習・発表・討論
7/19 金 2限	清 裕一郎	現代宇宙論	膨張・収縮する宇宙	ハッブルの法則, 宇宙マイクロ波背景放射, 宇宙項, 重力赤方偏移, ビッグバン, インフレーション	予習)ハッブルの法則とは何か、自己学習で調べてくること。	ビッグバン宇宙論について理解して、宇宙発展の歴史について説明できる。	講義をよく聞き、積極的に議論に参加すること。	講義
		ブラックホール	宇宙にはブラックホールがいっぱい	暗黒物質, 暗黒エネルギー, ブラックホール	復習)膨張宇宙論に対して批判的な問題提起を行い、膨張宇宙論の立場からの答えを探してみよう。	惑星系や銀河系のスケールを理解し、分かりやすい言葉で説明できる。	演習問題を自分の手を動かして考えること。	演習・発表・討論

科目名	科目コード	単位数	責任者
ヒューマンバイオロジー	BIO 123	1	和田 麻理
学習内容・概要			
今後本格的に医学を学ぶにあたり、生物学をこれまで学んでこなかった学生にも取りかかりやすいように、焦点を主要な人体の器官系の成り立ちと基本的な機能にしぼり、生物科学の諸分野に幅広く触れる。			
学習目標			
[一般目標] ヒトを形づくる器官系の成り立ち、概要を理解する。			
[到達目標] 1. 人体を維持するしくみについて説明できる。 2. 人体を動かすしくみについて説明できる。 3. 人体に広がる情報網について説明できる。 4. ヒトの発生について説明できる。 5. ヒト組織の維持と更新について説明できる。			
自己学習(準備学習)			
各回多くの専門用語が出てくるため、慣れるためにも、事前に各器官系を構成している臓器に関して自己学習しておくこと。 高校時に生物を選択していない場合は、図表(サイエンスビュー生物総合資料 実教出版など)の類いを各自入手し、目を通すことを勧める。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

学習上の注意点	
各単元の内容をわからないままにせず、講義時間内あるいは次回講義までに理解できるように努めることが望ましい。	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 定期試験の他、講義毎に行うmanabaを用いたプレテストおよび記述によるポストテストなど小問への取り組み、学習態度などを考慮する。</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果などを基に総合的な理解度をみて判定する。</p>	<p>[参考書] カラー図解 人体の正常構造と機能 第3版 日本医事新報社 トートラ 人体の構造と機能 第4版 丸善 トートラ 人体解剖生理学 原書10版など</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/28 土 2限	和田 麻理	イントロダクション からだをつくるもの①	からだの基本構造①	細胞の概要	キーワードに関して自己学習しておくこと。	細胞の構造と多様性に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		イントロダクション からだをつくるもの②	からだの基本構造①	組織、器官系の概要	キーワードに関して自己学習しておくこと。	身体構造をつくる組織、器官系に関する基本的な知識が習得できる。		講義
9/30 月 2限	和田 麻理	消化器系①	消化器系-消化管 消化管の発生、構造と機能	消化管の構造と機能、 消化管の発生、胃、小腸、 大腸	キーワードに関して自己学習しておくこと。	消化器系の発生と機能に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		消化器系②	消化器系-消化管 胃、十二指腸、小腸、大腸	肝臓、胆嚢の機能	キーワードに関して自己学習しておくこと。	各消化器官に関する基本的な知識が習得できる。		講義
10/7 月 2限	和田 麻理	消化器系③	消化器系-付属器官 膵臓	膵臓の機能	キーワードに関して自己学習しておくこと。	膵臓の機能に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		消化器系④	消化器系-付属器官 肝臓、胆嚢	肝臓、胆嚢の機能	キーワードに関して自己学習しておくこと。	肝臓と胆嚢の機能に関する基本的な知識が習得できる。		講義
10/21 月 2限	和田 麻理	循環器系①	循環器系 血液	造血幹細胞、血球、血管、 血漿	キーワードに関して自己学習しておくこと。	血液の機能と特性に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		循環器系②	循環器系 心臓	心臓の初期発生、 刺激伝導系	キーワードに関して自己学習しておくこと。	心臓を中心とする循環器系に関する基本的な知識が習得できる。		講義
10/28 月 2限	和田 麻理	内分泌系①	内分泌系 内分泌系の概観	内分泌線、ホルモン、 ホメオスタシス、 負のフィードバック調節	キーワードに関して自己学習しておくこと。	内分泌に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		内分泌系②	内分泌系 甲状腺、副腎	甲状腺ホルモン、 ステロイドホルモン	キーワードに関して自己学習しておくこと。	ホルモンに関する基本的な知識が習得できる。		講義
11/11 月 2限	和田 麻理	免疫系①	免疫系-非特異的防御 食細胞	好中球、マクロファージ 補体、炎症	キーワードに関して自己学習しておくこと。	血液の組成と機能、からだの防御手段に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		免疫系②	免疫系-特異的防御 リンパ器官	リンパ球	キーワードに関して自己学習しておくこと。	獲得免疫に関する基本的な知識が習得できる。		講義
11/25 月 2限	和田 麻理	免疫系③	免疫系-特異的防御 細胞性免疫	MHC、細胞性免疫、 免疫記憶	キーワードに関して自己学習しておくこと。	細胞性免疫に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		免疫系④	免疫系-特異的防御 体液性免疫	体液性免疫、B細胞、抗 体、免疫記憶	キーワードに関して自己学習しておくこと。	体液性免疫に関する基本的な知識が習得できる。		講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/2 月 2限	和田 麻理	呼吸器系①	呼吸器系 呼吸器系の発生	呼吸器系の概観、肺の発生	キーワードに関して自己学習しておくこと。	呼吸器系に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		呼吸器系②	呼吸器系 呼吸運動	呼吸運動、肺胞とガス交換	キーワードに関して自己学習しておくこと。	呼吸運動に関する基本的な知識が習得できる。		講義
12/9 月 2限	和田 麻理	泌尿器系①	泌尿器系-腎臓の概観と尿路	腎臓、尿路	キーワードに関して自己学習しておくこと。	腎臓の機能に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		泌尿器系②	泌尿器系-体液量の調節	再吸収、尿細管、集合管	キーワードに関して自己学習しておくこと。	体液量の調節に関する基本的な知識が習得できる。		講義
12/13 金 2限	和田 麻理	運動器①	骨格系-骨の構造と機能	骨格系	キーワードに関して自己学習しておくこと。	骨格系に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		運動器②	骨格系-Ca <sup>2+</sup> の調節	骨形成、骨吸収、リモデリング	キーワードに関して自己学習しておくこと。	からだの維持、諸活動に必要なカルシウムの働きに関する基本的な知識が習得できる。		講義
12/16 月 2限	和田 麻理	運動器③	筋系-筋肉の構造と機能	骨格筋、平滑筋	キーワードに関して自己学習しておくこと。	筋肉の構造と機能に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		運動器④	筋系-筋収縮	筋繊維の収縮機構、筋収縮のエネルギー	キーワードに関して自己学習しておくこと。	筋肉の構造と機能に関する基本的な知識が習得できる。		講義
12/21 土 2限	和田 麻理	神経系①	神経系 神経系の概観	神経の発生、情報伝達の仕組み	キーワードに関して自己学習しておくこと。	神経系の働きに関する基礎的な知識が習得できる。		講義
		神経系②	神経系 中枢神経系	脳、脊髄の構造	キーワードに関して自己学習しておくこと。	脳、脊髄の基本的構造に関する基本的な知識が習得できる。		講義
1/6 月 2限	和田 麻理	神経系③	神経系 末梢神経	脳神経、脊髄神経	キーワードに関して自己学習しておくこと。	末梢神経に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		神経系④	神経系 自律神経	交感神経、副交感神経	キーワードに関して自己学習しておくこと。	自律神経に関する基本的な知識が習得できる。		講義
1/14 火 2限	和田 麻理	感覚器①	感覚器 視覚	眼球の構造、視細胞	キーワードに関して自己学習しておくこと。	視覚に関する基本的な知識が習得できる。		講義
		感覚器②	感覚器 聴覚	聴覚、平衡覚	キーワードに関して自己学習しておくこと。	聴覚に関する基本的な知識が習得できる。		講義

科目名	科目コード	単位数	責任者
分子の形	CHM 123	1	大森 大二郎
学習内容・概要			
<p>ダイヤモンドと鉛筆の芯に使われているグラファイトはどちらも炭素から出来ている単体であり、燃やすとどちらもCO<sub>2</sub>となる。ところが、両者の性質は全く異なる。ダイヤモンドは透明で硬く電導性がないが、グラファイトは光を通さず柔らかく電導性を示す。また、牛などの草食動物は植物のセルロースを消化してエネルギーの素となるグルコースを得ているが、われわれヒトはセルロースを消化することは出来ず、デンプンを主なエネルギー源としている。セルロースとデンプンは共にグルコースが重合した炭水化物で同じ分子式(C<sub>6</sub>H<sub>10</sub>O<sub>5</sub>)<sub>n</sub>である。ダイヤモンドとグラファイト、セルロースとデンプンのように、化学式が全く同じでも性質に大きな違いが出てくるのはなぜだろうか？</p> <p>本講義では3次元の分子構造と性質の関連について学ぶ。また、分子構造を決める手法についても学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>物質の性質をその分子構造に基づいて説明できるようになる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分子の異性体の種類について理解する。</li> <li>2. 異性体を区別する命名法を理解する。</li> <li>3. 化合物の分子構造を3次元でイメージできるようになる。</li> <li>4. 分子構造に基づいて物質の性質を説明できるようになる。</li> <li>5. 分子構造を決める手法について理解する。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>構造異性体、幾何異性体、立体異性体について復習しておく。また、分子軌道についても復習しておく。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
<p>本講義では分子模型やコンピューターグラフィックスを用いて分子構造の理解を深めるので、ノートパソコンを持参して貰いたい。また、受講者の人数によっては、個人またはグループによる発表形式も取り入れていくので、自ら学ぶ姿勢を身につけてほしい。また、講義の際も疑問があれば直ちに質問し理解を深めるよう努めること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 試験、レポート、発表、受講態度などを総合して評価する。</p> <p>成績評価基準: 試験の結果、レポート、発表、受講態度を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>講義中に紹介する。</p>

## 分子の形

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/28 土 2限	大森 大二郎	ダイヤモンドとグラファイト	炭素の原子軌道	原子構造、同位体、同素体、原子軌道	同素体、s軌道、p軌道について予習しておく。			講義
			結合の違いと性質の違い	sp <sup>3</sup> 混成軌道、sp <sup>2</sup> 混成軌道、sp混成軌道		混成軌道について説明できる。		
9/30 月 2限	大森 大二郎	構造異性体&分子モデル	構造による性質の違い	位置異性体、官能基異性体	水素結合、ファンデルワールス力、沸点と分子量	物質の性質の違いを立体構造から説明できる。		講義
			分子模型を作る	分子の容積				
10/7 月 2限	大森 大二郎	フマル酸とマレイン酸	幾何異性体	シス、トランス	フマル酸とマレイン酸の構造式を調べておく。	シストランス異性体を説明できる。		講義
			分子模型を作る	フマル酸、マレイン酸、水素結合、無水物				
10/21 月 2限	大森 大二郎	伸びるゴムと伸びないゴム	幾何異性体と高分子の性質	天然ゴム、イソプレン、高分子、弾性	イソプレンの構造を調べておく。	ゴムの性質を分子構造に基づいて説明できる。		講義
			分子モデルソフトを使う	合成ゴム				
10/28 月 2限	大森 大二郎	殺虫剤の立体化学	環式化合物の立体異性体	Newman投影式、配座、ゴーシュ、シス、トランス	環式化合物について復習しておく。	環式化合物の立体異性体について説明できる。		講義
			分子模型を作る	シクロヘキサン、アキシヤル、エカトリアル、BHC				
11/11 月 2限	大森 大二郎	セルロースとデンプン	グリコシド結合と高分子の性質	$\alpha$ -グリコシド結合、 $\beta$ -グリコシド結合、	グルコースと2糖類の構造を調べておく。	セルロースとアミロースの立体構造を説明できる。		講義
			分子模型を作る	アミロース、アミロペクチン、セルロース				
11/25 月 2限	大森 大二郎	乳酸の立体構造	光学異性体	炭素四面体説、乳酸、不斉炭素原子、光学異性体、旋光性	乳酸の構造を調べておく。	光学異性体について説明できる。		講義
				エナンチオマー、DL表記、カーン-インゴールド-プレローグ則、RS表記				
12/2 月 2限	大森 大二郎	パスツールと右・左	酒石酸の立体異性	フィッシャー投影図、不斉炭素中心	酒石酸の構造を調べておく。	複数の不斉炭素中心がある場合の立体異性体について説明できる。		講義
				ラセミ体、旋光性、ジアステレオマー				

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/9 月 2限	大森 大二郎	分子構造を決める(1)	赤外分光法	赤外線、振動	波の性質を理解しておく。	赤外線吸収の特徴を説明できる。		講義
				特性吸収、指紋領域				
12/13 金 2限	大森 大二郎	分子構造を決める(2)	核磁気共鳴法(NMR分光法)	核スピン、磁場分裂、化学シフト	原子の構造を復習しておく。	NMRスペクトルから分子構造を決める方法について説明できる。		講義
			質量分析法	同位体、磁場、電場	磁場中での電荷を持った粒子の運動について予習しておく。	質量分析の原理を説明できる。		
12/16 月 2限	大森 大二郎	分子構造を決める(3)	X線結晶解析	結晶、X線、波の位相	波の干渉について予習しておく。	X線結晶解析から分子構造を決める方法について説明できる。		講義
				干渉、ブラッグの式				
12/21 土 2限	大森 大二郎	光を感じる分子	レチナールと光	アゾベンゼン、シストランス異性体、	シストランス異性体について復習しておく。	目で光を感じる仕組みを説明できる。		講義
				網膜、桿体細胞、錐体細胞、オプシン、ロドプシン、カロテノイド				
1/6 月 2限	大森 大二郎	アミノ酸の右・左	アミノ酸の立体構造	不斉炭素原子、光学異性体、エナンチオマー、CORNルール、DL表記、	アミノ酸の構造について調べておく。	アミノ酸の立体異性を説明できる。		講義
		分子モデルソフト	タンパク質の立体構造	解糖系酵素		タンパク質の立体構造を表示できる。		
1/14 火 2限	大森 大二郎	まとめ	データベース			タンパク質の立体構造をデータベースで検索し、立体構造を表示できる。		講義

科目名	科目コード	単位数	責任者
Pronunciation Clinic : Speaking	ENG 131	1	須藤 路子
学習内容・概要			
<p><b>【English Speaking】(前期)</b>            英語らしい英語とは、どういうことを意味するのか。スピーチサイエンスの理論・手法を用い、科学的に英語の音声について学習し、生成する。スピーチサイエンスの立場から徹底した発音訓練を実施し、日本語と英語の音声の相違点を学習し、英語音声の生成方法を習得する。具体的には、子音・母音などの単音の調音に始まり、音の連続、ストレス、リズム、イントネーション等について学習し、生成する。日本語音声と英語音声との類似点、相違点を理解し、調音位置、調音方法、舌の位置、口の開閉、唇の形、持続時間制御、ピッチの変動(イントネーション)の観点から学習する。            英語の発音に自信のない学生、英語らしい英語とは何かわかっていない学生、ネイティブのような発音を目指している学生、出発点はどのレベルであれ、意欲と努力の決意があれば目に見える効果が期待できる授業である。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]            母語である日本語と第二言語である英語の音声上の類似点と相違点を理解し、英語音声生成を目指す。特にコミュニケーション上重要となる要素を学習し、理解されやすい音声習得を目標とする。母語習得と第二言語習得では異なる習得ストラテジーが必要となるので、第二言語習得に適応した訓練法を学習する。「伝わる英語」の習得を目標とする。</p>			
<p>[到達目標]            1.日本語と英語の単音の相違を理解し、英語の子音・母音の生成ができる。            2.英語の音連続を学習・理解し、音連続の生成ができる。            3.日本語と英語のリズムの相違を理解し、英語のリズム生成ができる。            4.日本語と英語のイントネーションの相違を理解し、英語のイントネーションと文生成ができる。            5.到達レベルは各々のスターティングレベルにより異なるが、習得が短期間でも可能な要素、調音位置や、持続時間制御(リズム)に関しては、全員が習得できる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>1. 復習は、具体的に各週の復習欄に記載されているが、テキストのCDを聞き、授業で学習した調音位置、調音方法等に留意しながら発音練習をする。            2. 復習は毎日20分以上、週100分以上実施する。            3. 音声生成訓練においては、ミラーにより調音位置、方法を確認しながら実施することが重要である。            4. 予習については指定箇所を学習し、授業中に理解できない箇所を質問できるようにしておく。  <b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p><b>【English Speaking】(前期)</b>            1. 授業中与えられた課題は、次回までに必ず各自練習してくる。特に復習は重要であり、全ての復習にはテキストのCDを聞きながら特定の課題が提示されているので、十分な訓練を実施する。この復習に費やす時間と努力が、到達できる学習効果を決定する。            2. 積極的にクラスでの訓練に参加する意欲が必須である。この授業は常に英語音声聞き、音声を生成し続ける学生参加型授業である。            3. 録音・録画時間の関係上、履修人数を30名とする。履修者は、第一回の授業(オリエンテーション)に参加していることが必須である。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題に関しては、録画・録音の評価をEvaluation cardにより、フィードバックを行い、さらに個人面接とグループ面接により直接フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:            1. 評価は、<b>Filming</b>: 20%(パッセージと文のリスト), <b>Recording</b>: 20% x4回=80%(母音・子音、音連続、リズム、イントネーション)とし、録画・録音の評価による。開始時点からの上達度が大きく評価される。詳細は一回目授業時のオリエンテーションにおいて提示する。            2. 各項目ごとに具体的な達成レベルが設定され、毎週復習の成果を授業中の音声生成と録画・録音に関する<b>Evaluation card</b>により評価する。</p> <p>成績評価基準:            1. 訓練開始前と訓練終了後の録画により、出発点からの上達度と達成度を分析し、判定する。<b>(Filming)</b>            2. 4項目に関する録音により、上達度と到達度を評価する。<b>(Evaluation cardによるrecording評価)</b></p>	<p>英語音声学入門(大修館書店)CD付            それ以外のハンドアウト、参考書は授業時に配布、提示する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/10 水 2限	須藤 路子	オリエンテーション	Contents of the class Evaluation system Text Handouts	Orientation Evaluation	予習:ビデオカメラによる録画のためにハンドアウトの文リストを音読練習してくる。	この授業で習得できる事項を理解し、授業形式、目的を理解する。	Practice of the reading texts Filming in the second class	講義 (学生参加型)
		LL設備の説明・使用練習						
4/17 水 2限	須藤 路子	ビデオカメラによる録画:スピーキング評価	Differences between English consonants and Japanese consonants	Filming of a passage and sentences Consonant Training	予習:テキストの子音の章(pp. 77-124)を学習してくる。 復習:子音の発音練習をテキストとハンドアウトにより実施する。	日本語と英語の子音の相違点を学習し、子音生成を習得する。	Starting point	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		英語の子音訓練						
4/24 水 2限	須藤 路子	英語の子音	Differences between English consonants and Japanese consonants	Consonant Manner of articulation	予習:テキストの母音の章(pp. 13-76)を学習してくる。 復習:子音の発音練習をテキストとハンドアウトにより実施する。	日本語と英語の子音の相違点を学習し、子音生成を習得する。	Aspiration Strong frication Correct place of articulation	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
5/8 水 2限	須藤 路子	英語の母音	Differences between English vowels and Japanese vowels	Recording Vowel Tongue position Jaw opening Rounding	予習:テキストの音連続の章(pp. 125-180)を学習してくる。 復習:母音の発音練習をテキストとハンドアウトにより実施する。	日本語と英語の母音の相違点を学習し、母音生成を習得する。	Recording Correct place of articulation Rounding	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
5/22 水 2限	須藤 路子	音連続	Phrase production	Consonant cluster Syllable structure Liaison Phrase and word	予習:テキストの音脱落と同化の節(pp. 147-152)を学習してくる。 復習:音の連続に集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語の音連続によって変化する音を学習し、変化音の生成を習得する。	Unnecessary vowel Sense unit	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
5/29 水 2限	須藤 路子	音の脱落と同化	Strong form vs. weak form	Recording Elision Assimilation	予習:テキストの語アクセントと句アクセントの節(pp. 163-169)を学習してくる。 復習:音の脱落と同化に集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語の脱落する音と同化する音について学習し、脱落音、同化音の生成を習得する。	Recording Unnecessary vowel Sense unit	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
6/5 水 2限	須藤 路子	語アクセントと句アクセント	Word accent vs. phrase accent	Rhythm Word accent Phrase accent	予習:テキストの強形と弱形の節(pp. 170-173)を学習してくる。 復習:語アクセントと句アクセントに集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語の単語と句のアクセントの強形、弱形を学習し、単語と句のアクセント生成を習得する。	Durational control	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/12 水 2限	須藤 路子	語アクセントと句アクセント	Strong form vs. weak form	Recording Rhythm Word accent Phrase accent	予習: テキストの文アクセントの節(pp. 166-169)を学習してくる。 復習: 語アクセントと句アクセントに集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語の単語と句のアクセントの強形、弱形を学習し、単語と句のアクセント生成を習得する。	Recording Durational control	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
6/19 水 2限	須藤 路子	文アクセント	Differences in accent between English and Japanese	Rhythm Sentence accent	予習: テキストのリズムの節(174-180)を学習してくる。 復習: 文アクセントに集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語と日本語の文のアクセントの相違点を学習し、文のアクセント生成を習得する。	Durational control	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
6/26 水 2限	須藤 路子	英語のリズム訓練	Differences in accent between English and Japanese	Recording Rhythm Sentence accent	予習: テキストのイントネーションの章(pp. 181-202)を学習してくる。 復習: 英語のリズムに集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語と日本語のリズムの相違点を学習し、英語のリズム生成を習得する。	Recording Durational control	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
6/29 土 2限	須藤 路子	文におけるイントネーション	Differences in intonation between English and Japanese	Intonation Functions	予習: テキストのアクセントの章(pp. 153-180)を学習してくる。 復習: イントネーションに集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語と日本語のイントネーションの相違点を学習し、英語のイントネーション生成を習得する。	Sense unit Communication	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
7/3 水 2限	須藤 路子	英語のリズム訓練	Stress-timed and mora-timed languages	Rhythm Stress-timed vs. mora-timed	予習: Filmingのためのリーディングテキストをこれまで学習してきた全ての知識を使い、練習してくる。 復習: 英語のリズムに集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語のアクセントと拍の特徴について学習し、英語のリズム生成を習得する。	Sense unit Communication	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
7/10 水 2限	須藤 路子	ビデオカメラによる録画 英語のリズム訓練	Stress-timed and mora-timed languages	Filming Rhythm Stress-timed vs. mora-timed	復習: 未習得の要素に集中して、テキストとハンドアウトの文を練習する。	英語のアクセントと拍の特徴について学習し、英語のリズム生成を習得する。	Filming Sense unit Communication	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		グループ訓練・個人指導						
7/17 水 2限	須藤 路子	ビデオカメラによる録画 訓練による上達度スピーキングの評価: 上達度診断	Filming of a passage and sentences Evaluation card	Improvement in speaking	復習: 未習得の発音や理解が不十分である学習項目について練習する。	英語らしい発音を習得する。	Filming Practice Improvement	講義 (学生参加型)グループワーク ペアワーク 個人指導
		習得到達度が低い項目に関する最終訓練						

科目名	科目コード	単位数	責任者
Academic English for TOEFL I (Photography)	ENG 111	1	Marcellus Nealy
学習内容・概要			
<p>All students must take every opportunity to continuously use English to improve and maintain their skills. Proficiency in English requires extensive and varied usage, which is essential for not only preparing you for tests like TOEFL and IELTS but also for strengthening your ability to communicate in real-world situations. Since language is a tool for communication, English practice is not limited to a specific field. Instead, it can be applied to all fields. Through the study of photography, the first objective of this class is to give you an opportunity to get plenty of English practice while learning how to improve your photography.</p> <p>The second aim of this class is to provide you with training that will enhance your creative thinking and problem-solving ability. Through the training and practice of photography, you will learn how to see the world around you from various perspectives and the habits you should develop to enhance your creative and analytical thinking skills. This will help you create a solid foundation for developing a way of thinking that can improve your future ability to diagnose disease, find treatments, and conduct medical research.</p> <p>Finally, by the end of the semester, you will have learned the essential skills necessary for taking amazing photographs.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>The learning goals for this class are as follows:</p> <p>1. Practice listening, speaking, reading, and writing in English, 2. Learn the basic of photography, 3. Understand and practice habits for improved creative thinking and problem-solving.</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>1. Weekly English practice (listening, reading, writing, and speaking)                  2. Understanding and developing critical observation                  3. Mastery of the fundamental aspects of digital photography (aperture, shutter speed, ISO, and composition).                  4. Understanding and developing the elements and principles of photographic design                  5. Awareness and practice of daily habits for greater creative thinking and problem-solving</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>Each lesson will be divided into two parts:</p> <p>1. lecture, discussion or student presentation,                  2. practical application</p> <p>While this class will be fun it will not be "easy". You will be expected to push yourself beyond your creative limitations. You will also be expected to come to class ready to participate in the day's activities. Various reading and photographic assignments will be given regularly. Students will be expected to complete those before coming to class. Students must also bring their own camera. The camera <b>MUST</b> be one that can be set manually (aperture, shutter speed, ISO).</p> <p>Grades will be based on attendance, classroom participation, weekly assignments, a final project, and final exam.</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



## 学習上の注意点

Students will be expected to participate in this class. Participation means getting involved in group discussion, sharing your thoughts and ideas about your photos and the photographic works of others, and working together with others on various assignments in the classroom and outside of the classroom.

Because we will spend the second half of each class in the field applying the photographic skills students have learned that day, students MUST be able to work independently.

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:

Attendance and Active Participation: 25%

Assignments: 25%

Final Project: 25%

Final Exam: 25%

成績評価基準:

個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

Students must purchase an ebook text which has all class materials and assignments (¥3,000). Students must also pay ¥5,000 yen for a professional quality print which will be displayed during the second semester as part of a student photo exhibit on campus. I will collect money for both on the second day of class.

All students must bring their own camera. Cameras must have manual settings. Class size will be limited to 35 students. Selection will be made by photographic submission and a brief written explanation, in English, about why you want to take the class. Those that show the most passion, sincerity, and desire to learn will be accepted.

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 2限	Marcellus Nealy	Introduction & Orientation	Getting to know each other and this class	Becoming familiar with your classmates, the practical and philosophical purpose of this class	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
4/22 月 2限	Marcellus Nealy	The Great Masters	Shutter Speed, Aperture & ISO	What makes the great ones great? Three core elements of	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
4/27 土 2限	Marcellus Nealy	Depth of Field	Your first try	What is depth of field and why is it important. Discussion about your first photos.	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
5/13 月 2限	Marcellus Nealy	Compositional weight	Your second try	How does our brain respond to an image.	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
5/20 月 2限	Marcellus Nealy	The Rule of Thirds	Your third try	The basics of composition.	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
5/25 土 2限	Marcellus Nealy	The Golden Spiral	Your fourth try	The basics of composition.	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
5/27 月 2限	Marcellus Nealy	The Great Masters II	Your fifth try	What makes the great ones great? Three core elements of composition.	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/3 月 2限	Marcellus Nealy	More Composition Tips	Your sixth try	Additional techniques for good composition	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
6/10 月 2限	Marcellus Nealy	More Composition Tips	Your zeventh try	Additional techniques for good composition	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
6/17 月 2限	Marcellus Nealy	In The Field	Spend a full period shooting.	Practice makes perfect	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
6/22 土 2限	Marcellus Nealy	Class Presentation & Discussion	What did you shoot?	Additional practice for discussion and the search for deeper thinking.	Readings and assignments will be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
6/24 月 2限	Marcellus Nealy	Review	Preparation	Review key concepts, clarify ideas, ask questions, & discussion		Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
7/1 月 2限	Marcellus Nealy	Final Project	Individual Assignment	Begin preparation for a final assignment	Final assignment to be announced in class.	Effective communication skills, critical thinking, group discussion.	Active Participation Critical Analysis Creative Thinking	Student-Centered
7/8 月 2限	Marcellus Nealy	Final Project	DUE DATE	DUE DATE	All assignments must be handed in by the End of this day.			Student-Centered

科目名	科目コード	単位数	責任者
Academic English for TOEFL II (Origins of Medicine)	ENG 112	1	Joseph Drakos
学習内容・概要			
<p>This course will focus on medicine as a historical and cultural study. Students will learn the development, philosophies and cultural aspects of ancient medical practices in Egypt, Greece, India, China and medieval Europe. Students will take notes on the lectures they hear and participate in large or small group discussions about lecture topics. Group discussions will follow TOEFL iBT speaking procedures. At the end of lecture section students will take a short quiz based on the lectures. The quiz will follow TOEFL iBT writing formats. In the middle of the course students will watch a DVD about health. There will be a question paper about the DVD that students must answer and turn in for credit. Finally students will participate in 2 lecture assignments. The first lecture will be a mini lecture to be presented in small groups. The second lecture will be presented in front of the class.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>1. Students will gain a rudimentary understanding about the development of ancient medicine and how it has influenced modern medicine. 2. Students will learn how to listen to lectures and take adequate notes in English. 3. Students will learn how to prepare and give their own lectures.</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>1.Students will experience tasks similar to those on the TOEFL iBT test. 2.Students will improve skills necessary to successfully encounter the listening &amp; reading sections of the test. 3.Students will improve presentation skills and composition skills.</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>•Students should find material on their own about the lecture topics in advance to familiarize themselves with the topic. On-line texts or encyclopedias are recommended. •They should prepare ideas, opinions, comments and, of course, questions to be shared in group discussion.</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:50分, 復習:50分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>•The class will be conducted only in English.</li> <li>•The former part of the class is lecture, with interactive discussion sessions. The latter consists of individual or group work and presentations.</li> <li>•Active participation is encouraged.</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:            Grades will be based on a collection of points from the lecture notes(25), quiz(20), DVD question paper(10), mini lecture/presentation(10) and class lecture/presentation(15). Attendance and participation will also be a determining factor in the final grade (10/10).</p> <p>成績評価基準:            個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•To be announced during each class.</li> </ul> <p>【参考教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•To be announced.</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•To be announced.</li> </ul>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 4限	Joseph Drakos	Introduction		Prior knowledge	Review the course content and prepare for the next lesson.	Students can understand basic concepts of the course.	Students should actively participate in the exercise.	Lecture
4/18 木 4限	Joseph Drakos	Early Medicine	Shamnistic Medicine & Egyptian Medicine	Critical examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material, comment and support ideas in group discussion.	Students should take detailed notes on the lecture and participate actively in group discussion.	Lecture
4/25 木 4限	Joseph Drakos	Introduction to Western Medicine	Greek Medicine	Critical examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material, comment and support ideas in group discussion.	Students should take detailed notes on the lecture and participate actively in group discussion.	Lecture
5/9 木 4限	Joseph Drakos	Introduction to Eastern Medicine	Indian Medicine	Critical examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material, comment and support ideas in group discussion.	Students should take detailed notes on the lecture and participate actively in group discussion.	Lecture
5/16 木 4限	Joseph Drakos	Introduction to Eastern Medicine	Chinese Medicine	Critical examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material, comment and support ideas in group discussion.	Students should take detailed notes on the lecture and participate actively in group discussion.	Lecture
5/23 木 4限	Joseph Drakos	Introduction to Middle age Medicine	Medival European & Islamic Medicine	Critical examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material, comment and support ideas in group discussion.	Students should take detailed notes on the lecture and participate actively in group discussion.	Lecture
5/30 木 4限	Joseph Drakos	Quiz #1			Study previous material and notes.	.		Quiz

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/6 木 4限	Joseph Drakos	Class Lecture preparation	Presentations	preparation for presentation	Students should choose a topic based on the lectures, other medical history or culture.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their topic clearly. Peers should give feedback.	Presentation
6/13 木 4限	Joseph Drakos	Class Lecture preparation	Presentations	preparation for presentation	Students should choose a topic based on the lectures, other medical history or culture.	Students can research a topic concerning medical history or culture and present/ lecture on it.	Students should be preparing their lecture.	Presentation
6/20 木 4限	Joseph Drakos	Class Lecture	Presentations	Presentation	Students should choose a topic based on the lectures, other medical history or culture.	Students can present their ideas and opinions concisely in English, written and orally.	Students should actively prepare their presentation, asking questions of peers and teacher.	Presentation
6/27 木 4限	Joseph Drakos	Class Lecture	Presentations	Presentation	Students should choose a topic based on the lectures, other medical history or culture.	Students can present their ideas and opinions concisely in English, written and orally.	Students should actively prepare their presentation, asking questions of peers and teacher.	Presentation
7/4 木 4限	Joseph Drakos	Food Health	Fast Food Controversy	Critical examination	Students should develop opinions about the fast food industry.	Students can understand basic concepts related to the material, comment and support ideas in group discussion.	Students will prepare lengthy answers with support.	Video
7/11 木 4限	Joseph Drakos	Premodern Medicine	Renaissance & Pre 20th Century Medicine	Critical examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material, comment and support ideas in group discussion.	Students should take detailed notes on the lecture and participate actively in group discussion.	Lecture
7/18 木 4限	Joseph Drakos	Holistic Health	Methods of Maintaining Physical Helath	Critical examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material, comment and support ideas in group discussion.	Students should take detailed notes on the lecture and participate actively in group discussion.	Interactive

科目名	科目コード	単位数	責任者
Academic English for TOEFL III ( English Communication through Music/Drama)	ENG 113	1	Grow, Deborah Anne
学習内容・概要			
In this class, students will learn singing and acting techniques and present scenes and songs in English in order to facilitate their English communication skills, develop a broader vocabulary, enhance listening skills, and study English through culture.			
学習目標			
[一般目標] Students will be able to understand basic singing and acting techniques. Students will be able to understand the anatomical mechanisms of vocal production. Students can enhance L2 communication skills and acquire new vocabulary including idiomatic English and analyze text. Students will be able to study English through culture.			
[到達目標] <ul style="list-style-type: none"> <li>•A basic understanding of singing and acting techniques.</li> <li>•Ability to work collaboratively on teams.</li> <li>•Development of communication skills.</li> <li>•Learn the working anatomical mechanisms of vocal production in English.</li> </ul>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>•Students should work with scene partners outside of class.</li> <li>•They should review the contents of each lesson and prepare for review vocabulary quizzes to be taken at the beginning of the next lesson.</li> <li>•They should actively participate in pair work, group work and classroom discussion and performances.</li> </ul> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>•The class will be conducted in English.</li> <li>•The class will alternate between lecture, working in groups and presentation.</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
成績評価方法: <ul style="list-style-type: none"> <li>•Active class participation: 30%</li> <li>•Quizzes: 20%</li> <li>•Individual and Group presentation: 50%</li> </ul> 成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。	All the materials will be provided by the instructor.

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 4限	Grow, Deborah Anne	Introduction & Orientation	Course Overview	Overview	Review the lesson content and study the hand-out sheet for vocabulary quiz	Students can understand basic concepts related to mechanics of the voice.	Students should take detailed notes on the lecture.	Lecture, Group Discussion
4/18 木 4限	Grow, Deborah Anne	The Mechanics of Singing, Basic Singing Technique	Anatomical Mechanism of Singing. Students will learn basic singing technique	Anatomy, Vocal Production	Review the lesson content, prepare for quiz on mechanics on singing. Practice song for class work.	Students can understand the basic anatomical mechanism of singing and learn basic singing principles.	Students should actively participate in the exercises.	Lecture, Active learning
4/25 木 4限	Grow, Deborah Anne	Review Quiz, Song Presentation Preparation	Students will analyze their lyrics for comprehension and pronunciation and receive instruction on vocal technique.	Reading Comprehension, Text Analysis, Pronunciation, Technique	Review the lesson content and prepare for presentation.	Students can learn how to interpret idiomatic phrases and understand basic principles of the mechanics of the voice.	Students should take detailed notes and participate actively in the exercises.	Active learning
5/9 木 4限	Grow, Deborah Anne	Song Presentation	Students will present their song to the class. Other students will participate in active listening by evaluating each presentation.	Presentation	Review the lesson content and complete the listening homework.	Students can understand basic vocal technique, improve their listening and pronunciation skills.	Students should evaluate each presentation.	Active learning
5/16 木 4限	Grow, Deborah Anne	Basic Drama Techniques	Student will learn basic acting techniques and as well as the ability to listen for inference.	Reading Comprehension, Text Analysis, Inference, Technique	Review the lesson content and study the hand-out sheet to prepare for a quiz.	Students can understand basic drama techniques and gain understanding of how to understand inference.	Students should take notes and participate in the exercises.	Lecture, Active learning, Group work
5/23 木 4限	Grow, Deborah Anne	Review Quiz, Monologue Presentation	Students will practice monologues for pronunciation, reading comprehension, and vocabulary acquisition including idiomatic expressions.	Pronunciation, Reading Comprehension, Vocabulary Acquisition, Idioms	Prepare for Presentation.	Students can understand the meanings of their text fully and work on natural pronunciation.	Students should actively participate.	Active learning
5/30 木 4限	Grow, Deborah Anne	Monologue Presentation	Presentation	Presentation	Review the lesson content and work with a partner to prepare the scene for next week's class.	Students can gain confidence in their understanding of English texts and in their pronunciation ability.	Students should actively participate and actively evaluate classmates' presentations.	Presentation, Active Listening

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/6 木 4限	Grow, Deborah Anne	Scene Presentation Preparation	Students will work collaboratively to	Collaboration, Creativity, Critical Thinking	Prepare will prepare with a partner for next week's presentation.			Active learning
6/13 木 4限	Grow, Deborah Anne	Scene Presentation	Presentation	Presentation	Review the lesson content and complete take-home assignment.	Students can understand and discuss issues related to natural abilities and personality indicators.	Students should actively discuss together	Active learning
6/20 木 4限	Grow, Deborah Anne	Brief History of Music Theater	Students will learn how music theater is a reflection of society in America.	Music Theater History, USA culture	Review the lesson content and hand-out to prepare for quiz. Listening homework to prepare for next week.	Students can understand and discuss how theater is a reflection of society.	Students should actively discuss	Lecture, Discussion
6/27 木 4限	Grow, Deborah Anne	Review Quiz, Music Theater Presentation Preparation	Students will work collaboratively to prepare for the final presentation.	Collaboratio, Creativity, Critical Thinking, Communication	Work with group to prepare for next class.	Students can work collaboratively to achieve effective communication in English.	Students should participate actively in the exercises.	Active learning
7/4 木 4限	Grow, Deborah Anne	Music Theater Presentation Preparation	Students will work collaboratively to prepare for the final presentation.	Pronunciation, Reading Comprehension	Work with group to prepare for next class.	Students can understand and effectively communicate their text.	Students should actively participate in class.	Active learning
7/11 木 4限	Grow, Deborah Anne	Final Project Preparation	Students will work collaboratively to prepare for the final presentation.	Final Presentation Preparation	Prepare presentation materials and be ready to present them as a group.	Students can work cooperatively and prepare for the group presentation.	Students should work in groups.	Presentat ion
7/18 木 4限	Grow, Deborah Anne	Final Presentation	Presentation	Final Presentation	Prepare presentation materials and be ready to present them from memory as a group.	Students can perform their final project.	Students should memorize their part.	Presentat ion

科目名	科目コード	単位数	責任者
Academic English for TOEFL IV (Cinema)	ENG 114	1	Marcellus Nealy
学習内容・概要			
<p>In this class students will watch and write about popular movies from the US, UK and other English speaking countries. This class has two main goals.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Exposure to naturally spoken English in a variety of accents, speeds, and personalities in order to increase students readiness for any English communication situation.</li> <li>2. To help students develop their critical thinking and analysis.</li> </ol> <p>No matter what level of English the student is at, the most important thing is each person's willingness to challenge themselves and try their best.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>Students will be required to keep a weekly journal.</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Deep and continuous practice with listening to natural English.</li> <li>2. Development of critical thinking and observation.</li> <li>3. Deeper understanding of intercultural concepts and communication.</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>Students will be expected to participate heavily in this class by actively listening to and writing about film.</p> <p>There will be no test or quizzes. Grades will be based on class participation, completion of assignments.</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

Students will be expected to use class time to practice listening to English. Students who are in the lower level classes are expected to listen for words they know and expand their vocabulary by being exposed to new language. Students in the higher level English classes will be expected to think deeply about various topics such as human relationships, cause and effect and so on.

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
Attendance and Active Participation 30%  
Journal 70%

成績評価基準:  
個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

There will be no text for this class.

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Introduction	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
4/22 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 1: Part I	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
4/27 土 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 1: Part II	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
5/13 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 2: Part I	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
5/20 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 2: Part II	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
5/25 土 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 3: Part I	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Assigned topic must be ready for presentation.	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
5/27 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 3: Part II	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Assigned topic must be ready for presentation.	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/3 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 4: Part I	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
6/10 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 4: Part II	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
6/17 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 5: Part I	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
6/22 土 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Film 5: Part II	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
6/24 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Preparation for final assignment	Characters, personality, culture, plot, motivation, probable outcome, emotion, psychology, morality, social context	Will be announced in class	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
7/1 月 3限	Marcellus Nealy	Discussing of Film	Final Assignment Due		Have final assignment ready for submission.	Effective communication skills, confidence and critical thinking	Active participation	Student-centered
7/8 水 3限	Marcellus Nealy	Late Assignments	Final cut off date for late assignments at a 30% reduced score.					Student-centered

科目名	科目コード	単位数	責任者
Academic English for TOEFL V (Survey of Human Culture)	ENG 115	1	Joseph Drakos
学習内容・概要			
<p>This class centers on the human science of cultural anthropology. In this class students will explore the different aspects that define a culture. In the first part of the course classes will begin with a lecture on a cultural topic (e.g. religion, kinship, art, customs, etc.) and conclude with a discussion based on questions decided by the teacher and group members. Discussions will follow TOEFL iBT speaking procedures, therefore students need to be prepared to support their comments and opinions. This part of the course will conclude with a quiz based on the lectures and discussions. The quiz will follow TOEFL iBT writing procedures. The second half of the semester will focus on lecture development much like the lecture study in the previous semester. There will be two lectures/ presentations. A mini lecture which will be presented to a small group and a class lecture which will be presented in front of the class.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>1. Students will gain an understanding of different aspects that make up a culture. 2. Students will learn how to listen to lectures and take adequate notes in English. 3. Students will learn how to prepare and give their own lectures.</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>1.Students will experience tasks similar to those found on the TOEFL iBT test. 2.Students will improve skills necessary to successfully encounter the listening &amp; reading sections of the test. 3.Students will improve presentation skills and composition skills.</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>•Students should take time to familiarize themselves about the topics of each lecture. Finding extra information about the topics is recommended. •They should prepare ideas, opinions, comments and questions to present in group discussion.</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:50分, 復習:50分</p>			



学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>•The class will be conducted only in English.</li> <li>•The former part of the class is lecture, with interactive question and answer sessions. The latter consists of individual or group work and presentations.</li> <li>•Active participation is encouraged in group discussions.</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:            Grades will be based on a collection of points from the lecture notes(25), quiz(30), mini lecture/presentation(10) and class lecture/presentation(15). Attendance and participation will also be a determining factor in the final grade (10/10).</p> <p>成績評価基準:            個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•To be announced during each class.</li> </ul> <p>【参考教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•To be announced.</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•To be announced.</li> </ul>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/19 木 4限	Joseph Drakos	Introduction to course	What is Culture?	Syllabus intro	Prepare to talk about self and goals in this class.	Students can understand the course content and personal goals for the course		Lecture
9/26 木 4限	Joseph Drakos	The Study of Human Culture	Overview of Anthropology	Culture examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their homework clearly, ask questions, and take detailed notes.	Lecture
10/3 木 4限	Joseph Drakos	Development of Human Culture	Cultural Anthropolgy	Culture examination	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their homework clearly, ask questions, and take detailed notes.	Lecture
10/10 木 4限	Joseph Drakos	Evolution of Humans	Physical Anthropolgy	Physical Development of Humans	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their homework clearly, ask questions, and take detailed notes.	Lecture
10/17 木 4限	Joseph Drakos	Language as Culture	Linguistic Anthropology	Language	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their homework clearly, ask questions, and take detailed notes.	Lecture
10/24 木 4限	Joseph Drakos	Culture Concept Quiz #1			Prepare thoughts and ideas, review lecture notes.			Quiz
10/31 木 4限	Joseph Drakos	Class Lecture preparation	Culture	preparation for presentation	Students should choose a topic based on the lectures, other medical history or culture.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their topic clearly. Peers should give feedback.	Presentation

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/7 木 4限	Joseph Drakos	Class Lecture preparation	Culture	preparation for presentation	Students should choose a topic based on the lectures, other medical history or culture.	Students can research a topic concerning medical history or culture and present/ lecture on it.	Students should be preparing their lecture.	Presentation
11/14 木 4限	Joseph Drakos	Class Lecture	Presentations	Presentation	Students should choose a topic based on the lectures, other medical history or culture.	Students can present their ideas and opinions concisely in English, written and orally.	Students should actively prepare their presentation, asking questions of peers and teacher.	Presentation
11/28 木 4限	Joseph Drakos	Class Lecture	Presentations	Presentation	Students should choose a topic based on the lectures, other medical history or culture.	Students can present their ideas and opinions concisely in English, written and orally.	Students should actively prepare their presentation, asking questions of peers and teacher.	Presentation
12/5 木 4限	Joseph Drakos	Religion as Culture	Religious Anthropolgy	Human Spiritual Belief	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their homework clearly, ask questions, and take detailed notes.	Lecture & Video
12/12 木 4限	Joseph Drakos	Medicine as Culture	Medical Anthropology	Medicine, Healing Ideals	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their homework clearly, ask questions, and take detailed notes.	Lecture & discussion
12/19 木 4限	Joseph Drakos	Martial Culture	Combat as Culture	Activity	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their homework clearly, ask questions, and take detailed notes.	Interactivity
1/9 木 4限	Joseph Drakos	Multiculturalism	Integration of cultures in history and modern times	Multiculturalism, social integration	Prepare by finding information on the web.	Students can understand basic concepts related to the material.	Students should speak about their homework clearly, ask questions, and take detailed notes.	Lecture & discussion

科目名	科目コード	単位数	責任者
Academic English for TOEFL VI English Culture through Media Studies	ENG 116	1	Grow, Deborah Anne
<b>学習内容・概要</b>			
<p>In this class, students will study various social issues through film and documentaries. Students will be expected to engage in class discussions on the themes as well as give PPT presentations, participate in a debate and create a multi-medial team project. There will be weekly written assignment and short vocabulary quizzes on the topics discussed. Students will have the opportunity to increase their vocabulary as well as broaden their cross-cultural understanding and perspective.</p>			
<b>学習目標</b>			
[一般目標]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>•Students will be able to discuss various social issues in English in group discussions as well as give PPT presentations.</li> <li>•Students will be able to write their opinions and observations in English.</li> <li>•Students will be able to improve L2 listening and communication skills in English.</li> </ul>			
[到達目標]			
<ul style="list-style-type: none"> <li>•Ability to comprehend a variety of conversational as well as academic subjects in English.</li> <li>•Ability to communicate in both written and oral form on a variety of topics.</li> <li>•Ability to work collaboratively in groups.</li> <li>•Students are expected to prepare written or research assignments before each class.</li> <li>•Students should review vocabulary from the previous lesson for a short review quiz.</li> </ul>			
<b>自己学習(準備学習)</b>			
<p>The class will be conducted in English and all written assignments are expected to be written in English. The class will consist of film/documentary scenes with group discussion, presentation and researched essays.</p> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>•The class will be conducted in English.</li> <li>•The class will alternate between lecture, reading, group discussion and group projects.</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
成績評価方法: <ul style="list-style-type: none"> <li>•Active class participation: 30%</li> <li>•Take-home assignments/short tests: 30%</li> <li>•Group presentations and Essays: 40</li> </ul> 成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。	All materials will be provided by the instructor.

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/19 木 4限	Grow, Deborah Anne	Social Welfare in Europe We will be watching and discussing the documentary "Where to Invade Next" by Michael Moore.	Working Conditions, Health Care, Education, Post War History Education, Drug Laws, Prison Systems, Gender Equality	Social Welfare, Europe	Next Class Preparation: Begin on-line research including on your chosen topic.	Target Acquisition: Increased Vocabulary, Broaden Cultural Awareness/ Perspective	Find reliable on-line sources, document your sources, include statistics	Discussion, Group Work
9/26 木 4限	Grow, Deborah Anne	A Comparison of Social Welfare of Europe and Japan Students will be asked to research and present a PPT presentation comparing one theme of the documentary to the same issue in Japan.	Research and group work for PPT Presentation comparing one aspect of social welfare with the same issue in Japan, Review: Students will have a short quiz on vocabulary about social welfare in Europe.	Social Welfare, Europe, Iceland, Africa	Next Class Preparation: Prepare and Rehearse PPT presentation.	Target Acquisition: Increased Vocabulary, Broaden Cultural Awareness/Perspective	Suggested Resources: The Japan Times	Discussion, Group Work
10/3 木 4限	Grow, Deborah Anne	PPT Group Presentations Students will present a PPT presentation comparing one theme of the documentary to the same issue in Japan.	PPT Presentations Students will present a PPT presentation comparing one theme of the documentary to the same issue in Japan. Other students will take notes.	PPT presentations	Next Class Preparation: Review vocabulary sheet	Target Acquisition: Increased Vocabulary, Broaden Cultural Awareness/Perspective	Resource; Review Sheet	Present ation
10/10 木 4限	Grow, Deborah Anne	Review Test #1 Students will have a researched based review test.	Review Test Students will have a researched-based review test requiring them to give thoughtful opinions on the	Review Test	Next Class Preparation: Students should find out about their ancestral heritage, if possible discussing it with parents or grandparents	Target Acquisition - Increased Vocabulary on the topic of DNA and Ancestral Heritage, and Cultural Awareness	Resource; Review Sheet and Internet	Test
10/17 木 4限	Grow, Deborah Anne	Racial Discrimination in the USA in the early 1900's We will be watching and discussing "The Great Debaters" based on a true story.	Racial Discrimination in the USA, Discussion, Write a researched-based essay about racial or gender discrimination in Japan.	Racial Discrimination, USA, Japan	Next Class Preparation: Write your on-line findings and group discussion highlights in your notebook.	Target Acquisition - Increased vocabulary related to the topic of racial discrimination, Broaden Cultural Awareness, Diversity Awareness	Resource: The Japan Times, Japan Today	Discussion, Group Work
10/24 木 4限	Grow, Deborah Anne	Racial Discrimination in the USA continued Class Discussion about racial discrimination in US and Japan	Film, Discussion, On-line Research, Review: Short Quiz on Vocabulary related to racial discrimination. Study the Beatles song "Blackbird" and how it relates to discrimination.	Discrimination, Gender Equality, Racial Bias	Next Class Preparation: Write down every factor you consider part of your personal identity such as hometown, parents, siblings, nationality, or other items you consider important to who you are.	Target Acquisition - Increased vocabulary, Cultural and Diversity Awareness	Resource: Discuss family roots with parents or grandparents	Discussion, Group Work
10/31 木 4限	Grow, Deborah Anne	Personal Identity Students will be watching and discussing a video about DNA testing for genealogy. An explanation of a group media project will be explained.	On-line Research, Discussion, Group Project Explanation	Personal Identify, DNA,	Next Class Preparation:	Target Acquisition - Increased Vocabulary on the topic of DNA and Ancestral Heritage, and Cultural Awareness	Resource: Momendo Website	Discussion, Group Work

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/7 木 4限	Grow, Deborah Anne	Dementia		Dementia	Next Class Preparation: Answer the question sheet about today's classwork and keep in your notebook for discussion at the next	Target Aquisition - Increased awareness of the importance of empathy in medicine	Resource: "The Doctor"	Discussion, Group Work
11/14 木 4限	Grow, Deborah Anne	Empathy, Doctor/Patient Relationship Students will watch a movie about a surgeon, which is based on a true story."The Doctor"	Group Discussion: Why is empathy different from sympathy?	Group Discussion, Film				Discussion, Group Work
11/28 木 4限	Grow, Deborah Anne	Empathy/Doctor/Patient Relationships	Write an essay about the importance of empathy in the medical professional, especially in doctors.	Doctor/Patient Relationships, Group Discussion	Next Class Preparation: Write down in your notebook what the important factors are in attaining a good bedside manner with your patients.	Target Acquisition: Empathy, Compassion	Resource: "The Doctor" based on a true story	Discussion, Group Work
12/5 木 4限	Grow, Deborah Anne	Gun Violence Students will watch the documentary about the school shooting at Columbine.	Film, group discussion, homework discussion, reading, research, Review: Short Vocabulary Quiz related to guns and gun violence	Gun culture, gun violence	Next class preparation: Choose one side of the gun issue and research the pro or con argument regarding guns	Target Acquisition: Increased ability to make a persuasive argument	Resource: NY Times, Wshington Post, Chicago Tribune	Discussion, Group Work
12/12 木 4限	Grow, Deborah Anne	Disabilities Students will watch and discuss scenes from "The Untouchables"	Film, Group Discussion, Homework discussion, Group Work for final project	Disabilities, Care for those with disabilities	Next Class preparation: Research about the treatment in Japan of those with disabilities to prepare for classroom discussion	Target Aquisition: Voabulary related to disabilities and treatment of those with disabilities	Resource: Japan News, Japan Times, NHK	Discussion, Group Work
12/19 木 4限	Grow, Deborah Anne	Disabilities	Research and discussion about the issue of disabilities in Japan. Is Japan providing an inclusive environment for children and adults with disabilities?	Disabiliities, Care for those with Disabilities	Next Class Preparation: Review hand-out to prepare for final test. The test will cover lessons from 10/17 to the last class.	Target Acquisition:		Group Work
1/9 木 4限	Grow, Deborah Anne	Review Test In groups, students will present a short film they have made to discuss a social problem.	Research and give your opinion on the various topics we discussed in class.	Review Test	Review	Students can give thoughtful opinions on the topics from class with research to substantiate their opinions.	Students should give their researched opinions on various topics.	Test

科目名	科目コード	単位数	責任者
TOEFL特別演習 I (BC)	ENG 121	1	Bussinger Clay
学習内容・概要			
<p>この授業では、TOEFL (Test of English as a Foreign language) の ITP (Institutional Testing Program) テストとTOEFL iBT (Internet-based test) の受験に必要な、アカデミック英語運用能力を育成するための演習を行う。活動としては、TOEFL iBTに特に焦点を当て、内容把握のためのReading, Listening活動、要約や議論などのSpeaking, Writing活動を行う。内容としては、TOEFL対策に加え、随時時事ニュースなどを取り入れる。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標] TOEFL ITPとTOEFL iBTの受験で必要とされ、将来現実世界でも必要となるアカデミックな英語運用能力を伸ばすことができる。</p>			
<p>[到達目標] 1. TOEFL ITP と TOEFL iBTの構成と傾向を把握することができる。 2. TOEFL ITP と TOEFL iBTに向けた英語運用能力を養い、スコアを伸ばすことができる。 3. Reading, Listening, Writing, Speaking各技能を伸ばすための、学習方略を習得できる。 4. 主に海外の医療・教育機関で学んだり研究したりする際に必要な、アカデミック領域での基礎的な英語運用能力を習得できる。 5. アカデミック領域で必要とされる、英語での基礎的な議論・表現方法を習得できる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>毎週授業の最初に小テストが行われるので準備をしておくこと。 詳細は授業時に指示する。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週小テストを行うとともに、課題が課される。</li> <li>・演習への積極的な参加が求められる。</li> <li>・3分の1以上欠席をすると、最終試験の受験資格を失うので単位修得ができない。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
成績評価方法: ・授業内活動(出席、積極的な参加、課題) 50% ・小テスト・宿題 30% ・定期テスト 20%  成績評価基準: 試験や小テストの結果や、授業内活動等を基に、総合的な到達度を見て判定する。	<b>【指定教科書】</b> Yokakawa, H. (2014). <i>Improving skills for the TOEFL iBT® test</i> . Tokyo: Asahi Press.  詳細は授業時に指示する。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習 (予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 4限	Bussinger Clay	Introduction	Course introduction	Introduction		この授業の目的、課題の内容、評価方法について理解する。	以降の授業内容については受講者の興味等により調整を行う可能性がある。	演習
4/18 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 1-1	Reading section of TOEFL iBT	Test structure and format	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	TOEFL ITPとTOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 1-2						
4/25 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 2-1	Listening section of TOEFL iBT	Test structure and format	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	TOEFLの設問構成と解法を理解できる。	Students should take detailed notes.	演習
		Lesson 2-2						
5/9 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 3-1	Speaking section of TOEFL iBT	Test structure and format	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	TOEFLの設問構成と解法を理解できる。	Students should actively ask questions.	演習
		Lesson 3-2						
5/16 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 4-1	Writing section of TOEFL iBT	Test structure and format	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	TOEFLの設問構成と解法を理解できる。	Students should take detailed notes.	演習
		Lesson 4-2						
5/23 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 5-1	Reading and writing activity 1	Extensive reading	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	リーディング・ライティング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Lesson 5-2						
5/30 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 6-1	Listening and speaking activity 1	Shadowing	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	リスニング・スピーキング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Lesson 6-2						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習 (予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/6 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 7-1	Reading and writing activity 2	Reading aloud	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	リーディング・ライティング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Lesson 7-2						
6/13 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 8-1	Listening and speaking activity 2	Extensive listening	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	リスニング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Lesson 8-2						
6/20 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 9-1	Reading and writing activity 3	Reading comprehension, summarising/paraphrasing, topic development	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	リーディング・ライティング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Lesson 9-2						
6/27 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 10-1	Listening and speaking activity 3	Listening comprehension, fluency development	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	リスニング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Lesson 10-2						
7/4 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 11-1	Reading and writing activity 4	Integrated tasks	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	リーディング・ライティング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Lesson 11-2						
7/11 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 12-1	Listening and speaking activity 4	Integrated tasks	次回小テストの準備と応用課題 (内容は授業時に指示する。)	リスニング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Lesson 12-2						
7/18 木 4限	Bussinger Clay	Final exam	Review of the lesson	Review of the strategies learned	Exam の準備 (内容は授業時に指示する。)	TOEFL受験に向けて、英語運用能力を向上させることができる。	Students should actively ask questions.	演習

科目名	科目コード	単位数	責任者
TOEFL特別演習Ⅱ (DE)	ENG 122	1	藤田 亮子
学習内容・概要			
TOEFLスコアは、主に北米の教育・医療機関へ留学したり医療に関わったり研究したりする際に必要である。本授業では、高いTOEFLスコアを取得するために必要な演習を行う。			
学習目標			
[一般目標] TOEFL ITP (PBT) とiBTの構成と傾向を把握するとともに、英語運用能力を養いスコアを伸ばすことができる。			
[到達目標] 1. TOEFL ITP (PBT) とTOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。 2. リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング力を効果的に伸ばさせる方法を知り、実践することができる。 3. 主に北米の教育・医療機関で学んだり医療に関わったり研究したりする際に必要なアカデミック領域で求められる基礎的な英語運用能力を獲得できる。			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回小テストの準備をしておくこと。</li> <li>・毎回出される課題に取り組むこと。</li> </ul> <b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時、小テストを行うとともに、課題が課される。</li> <li>・演習への積極的な参加が求められる。</li> <li>・3分の1以上欠席をすると、最終試験の受験資格がないため単位修得が認められない。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
授業内課題やレポート、期末テスト等に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 原則として、以下のものを参考に総合的に判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Class activities 70%: <ul style="list-style-type: none"> <li>内、Active participation 10%</li> <li>Quiz 30%</li> <li>Assignment 30%</li> </ul> </li> <li>・End-of-term exam: 30%</li> </ul> <p>成績評価基準: 授業内課題や期末テスト等を基に、総合的な理解度・到達度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】 Bruce Rogers 著; 渡辺雅仁、角田麻里 編『A Practical Guide to the TOEFL ITP』東京: センゲージラーニング株式会社</p> <p>【参考教科書】 ・林功 (2012). 『全問正解するTOEFL ITP TEST文法問題対策』東京: 語研 ・宮野智靖・ジョセフ ルリアス・木村ゆみ (2011). 『TOEFL ITP TESTリスニング完全攻略』東京: 語研</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/12 金 2限	藤田 亮子	Course introduction	Course introduction	Introduction	前日のテストの復習	コースの概要と目標、TOEFL受験についての理解を深めることができる。 サンプル問題を理解することができる。	以降の授業内容については受講者のレベルにより調整を行う可能性がある。	演習
		Course introduction	Course introduction	TOEFL ITP	苦手な箇所の確認			
4/19 金 2限	藤田 亮子	Lesson 1	Listening & Structure 1	Anticipating questions	応用課題	TOEFL ITP (PBT) とTOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 1	Reading & Speaking 1	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
4/26 金 2限	藤田 亮子	Lesson 2	Listening & Structure 2	Incomplete Independent Clauses	応用課題	TOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 2	Reading & Speaking 2	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
5/10 金 2限	藤田 亮子	Lesson 3	Listening & Structure 3	Dialogs with sound confusion	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 3	Reading & Speaking 3	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
5/17 金 2限	藤田 亮子	Lesson 4	Listening & Structure 4	Incomplete Adjective Clauses	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 4	Reading & Speaking 4	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
5/24 金 2限	藤田 亮子	Lesson 5	Listening & Structure 5	Dialogs with hononyms	応用課題	リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 5	Reading & Speaking 5	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
5/31 金 2限	藤田 亮子	Lesson 6	Listening & Structure 6	Incomplete Participial Phrases	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 6	Reading & Speaking 6	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/7 金 2限	藤田 亮子	Lesson 7	Listening & Structure 7	Words with multiple meanings	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 7	Reading & Speaking 7	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
6/14 金 2限	藤田 亮子	Lesson 8	Listening & Structure 8	Incomplete Adverb Clauses	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 8	Reading & Speaking 8	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
6/21 金 2限	藤田 亮子	Lesson 9	Listening & Structure 9	Dialogs with idiomatic expressions	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 9	Reading & Speaking 9	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
6/28 金 2限	藤田 亮子	Lesson 10	Listening & Structure 10	Incomplete Noun Clauses	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 10	Reading & Speaking 10	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
7/5 金 2限	藤田 亮子	Lesson 11	Listening & Structure 11	Answering inference questions	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 11	Reading & Speaking 11	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
7/12 金 2限	藤田 亮子	Lesson 12	Listening & Structure 12	Missing Prepositional Phrases	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	演習問題で間違えた箇所を確認する。	演習
		Lesson 12	Reading & Speaking 12	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	
7/19 金 2限	藤田 亮子	Final Exam	Listening, reading, speaking, and writing	Testing Strategy	期末テストの準備	これまでに習得した技能を応用できる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Final Exam	Listening, reading, speaking, and writing	Testing Strategy	期末テストの準備	課題について理解する	夏休み中も復習しておくこと。	

科目名	科目コード	単位数	責任者
TOEFL特別演習Ⅲ(BC)	ENG 123	1	小泉 利恵
学習内容・概要			
<p>この授業では、TOEFL (Test of English as a Foreign language) の ITP (Institutional Testing Program) とTOEFL iBT (Internet-based test) の受験に必要な、アカデミック英語運用能力を育成するための演習を行う。TOEFL iBTに特に焦点を当て、内容把握のためのReading, Listening活動、要約や議論などのSpeaking, Writing活動を行う。</p> <p>TOEFL特別演習Ⅰ(BC)で伸ばしたアカデミック英語運用能力をさらに伸ばすとともに、4技能の力を効果的に伸長させる方法を学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>TOEFL ITPとTOEFL iBTの受験で必要とされ、将来必要となるアカデミックな英語運用能力を伸ばすことができる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEFL ITP と TOEFL iBTの構成と傾向を把握することができる。</li> <li>2. TOEFL ITP と TOEFL iBTに向けた英語運用能力を高め、スコアを伸ばすことができる。</li> <li>3. Reading, Listening, Writing, Speaking各技能を伸ばすための学習方略を習得できる。</li> <li>4. 主に海外の医療・教育機関で学んだり研究したりする際に必要な、アカデミック領域での基礎的な英語運用能力を習得できる。</li> <li>5. アカデミック領域で必要とされる、英語での基礎的な議論・表現方法を習得できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>毎週宿題が出るので準備をしておくこと。 詳細は授業時に指示する。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週宿題が課され、小テストも適宜課される。</li> <li>・演習への積極的な参加が求められる。</li> <li>・3分の1以上欠席すると、最終試験の受験資格を失うので単位修得ができない。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
小テストやレポート等を含む課題に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内活動(出席、積極的な参加、課題) 50%</li> <li>・小テスト・宿題 25%</li> <li>・定期テスト 25%</li> </ul> <p>成績評価基準: 試験や小テストの結果や、授業内・授業外課題等を基に、総合的な到達度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】 Yokakawa, H. (2014). <i>Improving skills for the TOEFL iBT® test</i>. Tokyo: Asahi Press.</p> <p>詳細は授業時に指示する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/13 金 2限	小泉 利恵	Course introduction	Orientation	Overview	今までの自分のTOEFLテストに向けた英語学習の方法等について振り返っておく。	この授業の目的、課題の内容、評価方法について理解する。	以降の授業内容については受講者の興味等により調整を行う。	演習
		Speaking test 1	independent speaking task	Paired oral interaction	テストでできたところ、難しかったところ、またどのように今後話すかを記録しておく。	TOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。		
9/20 金 2限	小泉 利恵	Listening activity 1	Note-taking	Test structure and format	教科書の宿題を行う。	TOEFL ITP とTOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Speaking activity 1	Feedback	Independent tasks	多読教材を読み進める。	決められた時間内に考えをまとめ、話すことができる。		
9/27 金 2限	小泉 利恵	Reading activity 1	Understand the gist	Test structure and format	教科書の宿題を行う。	リーディング・ライティング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Writing activity 1	Introduction and conclusion	Independent tasks	多読教材を読み進める。	TOEFL iBTの設問構成と解法を理解できる。		
10/4 金 2限	小泉 利恵	Listening activity 2	Repeating	Extensive listening	教科書の宿題を行う。	リスニング・スピーキング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Speaking activity 2	Introduction and a few reasons/opinions	Independent tasks	多読教材を読み進める。	TOEFL iBTの設問構成と解法を理解できる。		
10/11 金 2限	小泉 利恵	Reading activity 2	Understand the main topic	Extensive reading	教科書の宿題を行う。	リーディング・ライティング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Writing activity 2	Writing based on listening	Writing under time pressure	多読教材を読み進める。	英語での基礎的な議論・表現方法を理解することができる。		
10/18 金 2限	小泉 利恵	Listening activity 3	Shadowing	Intensive listening	教科書の宿題を行う。	リスニング・スピーキング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Speaking activity 3	Speaking based on listening	Integrated tasks	多読教材を読み進める。	英語での基礎的な議論・表現方法を理解することができる。		
10/25 金 2限	小泉 利恵	Reading activity 3	Understand the gist	Intensive reading	教科書の宿題を行う。	リーディング・ライティング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Writing activity 3	Writing based on reading	Integrated tasks	多読教材を読み進める。	英語での基礎的な議論・表現方法を理解することができる。		

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/1 金 2限	小泉 利恵	Listening activity 4	Discourse markers	Active listening, note-taking	教科書の宿題を行う。	リスニング・スピーキング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Speaking activity 4	Speaking based on reading	Speaking under time pressure	多読教材を読み進める。	アカデミック領域での規則的な英語運用能力を高める方法を実践することができる。		
11/8 金 2限	小泉 利恵	Reading activity 4	Understand the main topic	Summarizing/paraphrasing	教科書の宿題を行う。	リーディング・ライティング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Writing activity 4	Writing based on listening and reading	Integrated tasks	多読教材を読み進める。	アカデミック領域での規則的な英語運用能力を高める方法を実践することができる。		
11/15 金 2限	小泉 利恵	Reading activity 5	Paragraph structure	Topic development	教科書の宿題を行う。	リーディング・ライティング力を効果的に伸ばさせる方法を実践することができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Writing activity 5	Writing based on listening and reading	Integrated tasks	多読教材を読み進める。	アカデミック領域での規則的な英語運用能力を高める方法を実践することができる。		
11/29 金 2限	小泉 利恵	Grammar activity 1	Fill-in-the-blank questions	Subject and object	TOEFL ITPに向けて構成と傾向を再確認することができる。	TOEFL受験に向けて、英語運用能力を向上させることができる。	Students should take detailed notes.	演習
		Grammar activity 2	Error-finding questions	Parts of speech	TOEFL ITPに向けて構成と傾向を再確認することができる。	TOEFL受験に向けて、英語運用能力を向上させることができる。		
12/6 金 2限	小泉 利恵	Preparation for the final presentation 1	Writing a script	Summarizing strategies learned	Final presentationに向けて分かりやすく伝える練習をする。	TOEFL iBTの受験方法や学習方法についてのアドバイスをまとめることができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Preparation for the final presentation 2	Effective delivery	Summarizing strategies learned	Final presentationに向けて分かりやすく伝える練習をする。	TOEFL iBTの受験方法や学習方法についてのアドバイスをまとめることができる。		
12/20 金 2限	小泉 利恵	Speaking test 2	Paired oral interaction	Active listening, asking adequate questions	TOEFL iBTの独立型スピーキングテストの形式を再確認する。	決められた時間内に考えをまとめ、話すことができる。	Students should actively ask questions.	演習
		Preparation for the final presentation 3	Practice	Summarizing strategies learned	Final presentationに向けて分かりやすく伝える練習をする。	TOEFL iBTの受験方法や学習方法についてのアドバイスをまとめることができる。		
1/10 金 2限	小泉 利恵	Final presentation 1	Review of the lesson	Review of the strategies learned	Final presentationに向けて分かりやすく伝える練習をする。	TOEFL iBTの受験方法や学習方法についてのアドバイスをまとめることができる。	Students should reflect on their strengths and weaknesses.	演習
		Final presentation 2	Teacher and peer feedback	Plan future studies	良いFinal presentationから伝達方法、内容を学ぶ。	今後自分の弱点を強化するための計画を立てることができる。		

科目名	科目コード	単位数	責任者
TOEFL特別演習Ⅳ(DE)	ENG 124	1	藤田亮子
学習内容・概要			
TOEFLスコアは、主に北米の教育・医療機関へ留学したり医療に関わったり研究したりする際に必要である。本授業では、高いTOEFLスコアを取得するために必要な演習を行う。			
学習目標			
[一般目標] TOEFL ITP (PBT) とiBTの構成と傾向を把握するとともに、英語運用能力を養いスコアを伸ばすことができる。			
[到達目標] 1. TOEFL ITP (PBT) とTOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。 2. リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング力を効果的に伸ばさせる方法を知り、実践することができる。 3. 主に北米の教育・医療機関で学んだり医療に関わったり研究したりする際に必要なアカデミック領域で求められる基礎的な英語運用能力を獲得できる。			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回小テストの準備をしておくこと。</li> <li>・毎回出される課題に取り組むこと。</li> </ul> <b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時、小テストを行うとともに、課題が課される。</li> <li>・演習への積極的な参加が求められる。</li> <li>・3分の1以上欠席をすると、最終試験の受験資格を失うので単位修得ができない。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 原則として、以下のものを参考に総合的に判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Class activities 70%: 内、Active participation 10% Quiz 30% Assignment 30%</li> <li>・End-of-term exam: 30%</li> </ul> <p>成績評価基準: 授業内課題や期末テスト等を基に、総合的な理解度・到達度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】授業時に指示する。 Bruce Rogers 著; 渡辺雅仁、角田麻里 編『A Practical Guide to the TOEFL ITP』東京:センゲージラーニング株式会社</p> <p>【参考教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林功 (2012). 『全問正解するTOEFL ITP TEST文法問題対策』東京:語研</li> <li>・宮野智靖・ジョセフ ルリアス・木村ゆみ (2011). 『TOEFL ITP TESTリスニング完全攻略』東京:語研</li> </ul>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/13 金 2限	藤田 亮子	Introduction	Course introduction	Introduction	教科書の復習	コースの概要と目標、TOEFL受験についての理解を深めることができる。	以降の授業内容については受講者のレベルにより調整を行う可能性がある。	演習
		Introduction	Course introduction	TOEFL ITP	苦手な箇所の確認	サンプル問題を理解することができる。		
9/20 金 2限	藤田 亮子	Lesson 1	Listening & Structure 1	Dialogs involving agreement and disagreement	応用課題	TOEFL ITP (PBT) と TOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 1	Reading & Speaking 1	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		
9/27 金 2限	藤田 亮子	Lesson 2	Listening & Structure 2	Incomplete infinitive and gerund phrases	応用課題	TOEFL iBTの構成と傾向を理解することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 2	Reading & Speaking 2	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		
10/4 金 2限	藤田 亮子	Lesson 3	Listening & Structure 3	Dialogs involving suggestions, invitations, and offers	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 3	Reading & Speaking 3	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する		
10/11 金 2限	藤田 亮子	Lesson 4	Listening & Structure 4	Items involving parallel structures	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 4	Reading & Speaking 4	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		
10/18 金 2限	藤田 亮子	Lesson 5	Listening & Structure 5	Dialogs involving contradictions, assumptions, and questions	応用課題	リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 5	Reading & Speaking 5	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する		
10/25 金 2限	藤田 亮子	Lesson 6	Listening & Structure 6	Items involving misplaced modifiers	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 6	Reading & Speaking 6	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/1 金 2限	藤田 亮子	Lesson 7	Listening & Structure 7	Answering questions about activities, plans, and questions	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 7	Reading & Speaking 7	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		
11/8 金 2限	藤田 亮子	Lesson 8	Listening & Structure 8	Incomplete or missing comparisons	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 8	Reading & Speaking 8	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		
11/15 金 2限	藤田 亮子	Lesson 9	Listening & Structure 9	Dialogs with special verbs	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 9	Reading & Speaking 9	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		
11/29 金 2限	藤田 亮子	Lesson 10	Listening & Structure 10	Missing conjunctions	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 10	Reading & Speaking 10	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する		
12/6 金 2限	藤田 亮子	Lesson 11	Listening & Structure 11	Answering overview questions about extended conversations	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 11	Reading & Speaking 11	Rapid Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		
12/20 金 2限	藤田 亮子	Lesson 12	Listening & Structure 12	Missing negative words	応用課題	リスニング・リーディング・スピーキング力を効果的に伸長させる方法を実践することができる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Lesson 12	Reading & Speaking 12	Extensive Reading	リスニング問題の復習	課題について理解する。		
1/10 金 2限	藤田 亮子	Final Exam	Listening, reading, speaking, and writing	Testing Strategy	期末テストの準備	これまでに習得した技能を応用できる。	間違った問題や重要事項はノートにまとめて、後で見直すこと。	演習
		Final Exam	Listening, reading, speaking, and writing	Testing Strategy	期末テストの準備	課題について理解する。		

科目名	科目コード	単位数	責任者
IELTS特別演習 I (A)	ENG 141	1	Marcellus Nealy
学習内容・概要			
<p>The objective of the class is to help students prepare for the IELTS test. Through various activities, students will develop the English skills necessary success on the test and beyond. The lessons are designed not only to allow students to practice for IELTS but also to help students understand how to apply those same skills to all areas of study for improved English communications.</p> <p>Throughout the semester, students will be expected to participate actively in in-class speaking, listening, writing, and reading activities.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>The overall objective of this class is to build on the skills through extensive practice and discussion.</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. A deeper understanding of the IELTS test and test taking strategies</li> <li>2. Practice with the four skills of English: reading, listening, writing and speaking</li> <li>3. Exposure to naturally spoken English through videos and pre-recorded materials</li> <li>4. Practice with using coherence and cohesion for logical flow of spoken and written information</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>Students will be expected to do assignments, which may include reading, video viewing, and other tasks. Students should also be prepare for each class by reviewing lessons taught in the previous class.</p>			



学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students will be expected to complete assignments that allow them to practice the 4 skills of English.</li> <li>• Students will be expected to participate in class discussion.</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
授業内課題やレポート、発表等に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 原則として、以下のものを参考に総合的に判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Class activities 80%: <ul style="list-style-type: none"> <li>内、Active participation 20%</li> <li>Quiz 20%</li> <li>Assignment 40%</li> </ul> </li> <li>• Attendance 20%</li> </ul> <p>成績評価基準: 授業内課題や発表等を基に、総合的な理解度・到達度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】授業時に指示する。</p> <p>【参考教科書】</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 1	IELTS Overview, Charts and graphs	What is IELTS. vs TOEFL Overview of each section Intro to charts and graphs	Familiarity with IELTS	Basic understanding of IELTS	Understanding charts and graphs	Activity based, student centered learning
			1. Project based practice - make a movie of the short story "The Cat that Walked By Himself"	Gain listening, reading, speaking, and writing practice through project driven tasks.	Conduct all discussions in English. Challenge creative thinking, practice 4 skills	Fluency through practical application and practice	fluency development	
4/22 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 2	Charts and graphs	Describing Charts and graphs, practice with charts and graphs (Making, reading and	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Be able to understand what words and phrases are most important	Knowing what to look for	Activity based, student centered learning
			2. Project based practice - make a movie based on the short story "The Cat that Walked By Himself"	Gain listening, reading, speaking, and writing practice through project driven tasks.	Conduct all discussions in English. Challenge creative thinking, practice 4 skills	Fluency through practical application and practice	fluency development	
4/27 土 4限	Marcellus Nealy	Lesson 3	Reading Strategies and practice	Overview of basic reading strategies for improved comprehension.	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Be able recognize structure and patterns of information text	Using logical structure	Activity based, student centered learning
			3. Project based practice - make a movie based on the short story "The Cat that Walked By Himself"	Gain listening, reading, speaking, and writing practice through project driven tasks.	Conduct all discussions in English. Challenge creative thinking, practice 4 skills	Fluency through practical application and practice	fluency development	
5/13 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 4	4. Project based practice - make a movie based on the short story "The Cat that Walked By Himself"	Gain listening, reading, speaking, and writing practice through project driven tasks.	Conduct all discussions in English. Challenge creative thinking, practice 4 skills	Fluency through practical application and practice	fluency development	Activity based, student centered learning
			Complete projects	Gain listening, reading, speaking, and writing practice through project driven tasks.		Fluency through practical application and practice	fluency development	
5/20 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 5	View student movies		①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments		Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
5/25 土 4限	Marcellus Nealy	Lesson 6	Reading practice with short stories	short story	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Improve listening and note taking through practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
			1. Project based practice - write a group story	Gain speaking, and writing practice through project driven tasks.	Conduct discussions in English		fluency development	
5/27 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 7	reading practice with short stories	News or Magazine article	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Fluency through practical application and practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
			2. Project based practice - write a group story	Gain speaking, and writing practice through project driven tasks.	Conduct discussions in English		fluency development	

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/3 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 8	Listening Strategies and practice	Rhythm and Key words for better comprehension	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Fluency through practical application and practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
			3. Project based practice - write a group story	Gain speaking, and writing practice through project driven tasks.	Conduct discussions in English	fluency development		
6/10 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 9	Listening practice	Practice of listening strategies	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Fluency through practical application and practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
			Present group stories					
6/17 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 10	Speaking: Expectations and strategies	Logic Structure Content Practice	Learn strategies for speaking	Fluency through practical application and practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
			Topic Discussions		Practice speaking for fluency and logical structure	Fluency through practical application and practice	fluency development	
6/22 土 4限	Marcellus Nealy	Lesson 11	Speaking practice	More practice with implementing speaking strategies.	Practice speaking for fluency and logical structure	Fluency through practical application and practice	fluency development	Activity based, student centered learning
			Topic Discussions			Fluency through practical application and practice	fluency development	
6/24 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 12	Speaking practice	More practice with implementing speaking strategies.	Practice speaking for fluency and logical structure	Clarify anything not being understood. Get additional feedback	fluency development	Activity based, student centered learning
			Topic Discussions			Fluency through practical application and practice	fluency development	
7/1 月 4限	Marcellus Nealy	Lesson 13	IELTS Practice test for final exam	Listening & Reading	①review major points studied throughout the semester ②practice	Practice by taking a full length IELTS test		Activity based, student centered learning
7/8 水 4限	Marcellus Nealy	Lesson 14	IELTS Practice test for final exam	writing	①review major points studied throughout the semester ②practice	Practice by taking a full length IELTS test		Activity based, student centered learning

科目名	科目コード	単位数	責任者
IELTS特別演習Ⅱ(A)	ENG 142	1	Bussinger Clay
学習内容・概要			
<p>The objective of the class is to help students prepare for the IELTS test. Through various activities, students will develop English skills that are necessary to be successful on the test. The lessons are designed not only to allow students to practice for IELTS but also to help students understand how to apply those same skills to all areas of study for improved academic success.</p> <p>Throughout the semester, students will be expected to participate actively in in-class speaking, listening, writing, and reading activities.</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>The overall objective of this class is to build on the skills through extensive practice and discussion.</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. A deeper understanding of the IELTS test and test taking strategies</li> <li>2. Practice with the four skills of English: reading, listening, writing and speaking</li> <li>3. Exposure to naturally spoken English through videos and pre-recorded materials</li> <li>4. Practice with using coherence and cohesion for logical flow of spoken and written information</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>Students will be expected to do assignments, which may include reading, video viewing, and other tasks. Students should also be prepare for each class by reviewing lessons taught in the previous class.</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students will be expected to complete assignments that allow them to practice the 4 skills of English.</li> <li>• Students will be expected to participate in class discussion.</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
授業内課題やレポート、発表等に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 原則として、以下のものを参考に総合的に判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Class activities 80%: <ul style="list-style-type: none"> <li>内、Active participation 20%</li> <li>Quiz 20%</li> <li>Assignment 40%</li> </ul> </li> <li>• Attendance 20%</li> </ul> <p>成績評価基準: 授業内課題や発表等を基に、総合的な理解度・到達度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】授業時に指示する。</p> <p>【参考教科書】</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/19 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 1	IELTS Overview, Charts and graphs	What is IELTS. vs TOEFL Overview of each section Intro to charts and graphs		Be able to better separate words for improved understanding.	Using rhythm to improve comprehension	Activity based, student centered learning
9/26 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 2	Charts and graphs	Describing Charts and graphs, practice with charts and graphs (Making, reading and describing)	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Be able to understand what words and phrases are most important	Knowing what to listen for	Activity based, student centered learning
10/3 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 3	Charts and graphs	Final practice	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Be able recognize structure and patterns of information within spoken text	Using the knowledge of logical structure to anticipate information	Activity based, student centered learning
10/10 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 4	Seven Reading Strategies and practice	Overview of 7 basic reading strategies for improved comprehension.	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Improve listening and note taking through practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
10/17 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 5	reading practice	short story	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Improve listening and note taking through practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
10/24 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 6	reading practice	academic text	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Improve listening and note taking through practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
10/31 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 7	reading practice	News or Magazine article	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Fluency through practical application and practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/7 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 8	Listening Strategies	Rhythm and Key words for better comprehension	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Fluency through practical application and practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
11/14 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 9	Listening practice	Practice of listening strategies	①Review previous week's lesson ②Complete reading or assignments	Fluency through practical application and practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
11/28 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 10	Speaking: Expectations and strategies	Logic Structure Content Practice	①Review previous week's lesson ②Prepare questions about the class.	Fluency through practical application and practice	Full participation and concentration	Activity based, student centered learning
12/5 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 11	Speaking practice	More practice with implementing speaking strategies.		Clarify anything not being understood. Get additional feedback	Ask questions	Activity based, student centered learning
12/12 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 12	Review	Review, answer questions, prepare for final exams				
12/19 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 13	IELTS Practice test for final exam	Listening & Reading	①review major points studied throughout the whole year ②practice	Practice by taking a full length IELTS test		Activity based, student centered learning
1/9 木 4限	Bussinger Clay	Lesson 14	IELTS Practice test for final exam	Writing	①review major points studied throughout the whole year ②practice	Practice by taking a full length IELTS test		Activity based, student centered learning

科目名	科目コード	単位数	責任者
ドイツ語 I	GER 101	1	五十嵐 豊
学習内容・概要			
<p>ドイツ語の初級文法を学びながら、ドイツ語を「読む・書く・聞く・話す」ために必要な初歩的能力を身につける。加えて、DVDやプリントなどの補助教材を適宜使用しながら、ドイツ語圏の文化、社会、地理などにも広く目を向け、関心と理解を深める。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標] 指定の教科書を用いながら、ドイツ語の初級文法事項を習得する。また、教科書の例文やプリントの会話テキストを通じて、正しいドイツ語の発音と簡単な会話表現を身につける。</p>			
<p>[到達目標] 1. ドイツ語の初歩の文法事項(ドイツ語検定5級レベルに相当)を一通り理解し、問題を解くことができる。 2. 基本的な語彙を習得し、短めのテキストを読んでその内容を理解したり、簡単な文や会話を作ることができる。 3. 日常的な表現を覚え、簡単な質問や受け答えをすることができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>教科書に収録されている練習問題やプリントなどをほぼ毎回宿題とするので、これらを用いてその回の授業内容をきちんと復習し、次回の授業に備えてほしい。音声教材を利用しながら、例文の音読練習にも取り組むこと。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
<p>初習言語の場合、最も重要なことは「継続的に学習すること」である。まずは毎回の授業にきちんと出席し、発音練習や会話練習などのトレーニングに大きな声で積極的に参加してほしい。その上で、その回の授業内容を復習するための宿題にもきちんと取り組むこと。また、授業期間内に何回か小テストを行う予定であるので、しっかり準備して臨むこと。</p> <p>すでに、ドイツ語技能検定試験(独検)5級以上を取得している学生は後期の「ドイツ語Ⅱ」より受講を勧める。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 授業中の小テスト、授業中の活動状況、課題提出など平常点をほぼ50%、期末試験の結果をほぼ50%として扱い、その合計によって成績評価を行う。</p> <p>成績評価基準: 1. 基本的な文法事項や語彙を身につけ、問題を解くことができる。(期末試験) 2. 授業中の発言、練習問題、発音練習、ペア練習などへの取り組み状況による授業参加度評価(平常点) 3. 授業内の学習内容を補うプリント練習問題への取り組み(平常点) 4. 学習を終えた文法事項や語彙などが身につけているかを確認する小テスト(平常点)</p>	<p>指定教科書 吉原高志・中川浩: モルゲン 初級ドイツ語教室、白水社、2400円(本体価格)。</p> <p>参考書 在間 進(編集): 新キャンパス独和辞典、郁文堂、3000円(本体価格)。</p> <p>*教科書、参考書については初回授業時に詳しく説明する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 4限	五十嵐 豊	ガイダンス	・授業内容説明 ・データで見るドイツ・ドイツ語～ドイツとはどんな国か、ドイツ語とはどんな言葉か	ドイツ、ドイツ語	本やインターネットなどを利用して、ドイツやドイツ語に関する情報を集めてみよう。	世界の中で、ドイツ語がどのような位置づけにあるかを理解する。	未知なるものへの興味や好奇心を大切に。	演習
		ドイツ語を発音してみよう	・ドイツ語の挨拶 ・アルファベット	Guten Tag! Auf Wiedersehen!	課題、小テスト等については授業中に指示する。	ドイツ語の挨拶を発音し、これを覚える。		
4/18 木 4限	五十嵐 豊	ウォーミングアップ	・アルファベットの発音	アルファベット	課題、小テスト等については授業中に指示する。	ドイツ語のアルファベットを発音できる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		ドイツ語を発音してみよう	・挨拶 ・自己紹介	挨拶、自己紹介		ドイツ語の音に慣れる。ドイツ語での挨拶や簡単な自己紹介ができるようにする。		
4/25 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 1-1	・つづりと発音の規則 ・数詞	つづりと発音、数詞	課題、小テスト等については授業中に指示する。	つづりと発音の規則を理解する。数詞を正しく発音し、つづりを覚える。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 1-2	・練習問題	つづりと発音、数詞、練習問題		練習問題を通じ、つづりと発音の規則が身についているかを確認できる。		
5/9 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 2-1	・動詞の現在人称変化	人称代名詞、動詞の現在人称変化	課題、小テスト等については授業中に指示する。	人称代名詞を正しく発音し、これを覚える。動詞の現在人称変化のしくみを理解する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 2-2	・最重要動詞の現在人称変化	sein, haben, werden		最重要動詞の不規則な現在人称変化を覚える。		
5/16 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 2-3	・不規則変化動詞 ～語幹が変化する動詞	schlafen, helfen, essenなど	課題、小テスト等については授業中に指示する。	基本的な不規則動詞の現在人称変化を覚える。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 2-4	・練習問題	練習問題		練習問題を通じ、動詞の現在人称変化が身についているかを確認できる。		
5/23 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 3-1	・ドイツ語の基本的語順	平叙文、疑問文、否定文	課題、小テスト等については授業中に指示する。	基本的な語順を理解する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 3-2	・練習問題	練習問題		練習問題を通じ、ドイツ語の基本的語順が身についているかを確認できる。		
5/30 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 4-1	・名詞の性 ・複数形	男性名詞、女性名詞、中性名詞、複数形	課題、小テスト等については授業中に指示する。	名詞の性、複数形について理解する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 4-2	・名詞の格(1)	定冠詞、不定冠詞		名詞の格について理解する。定冠詞、不定冠詞を正しく発音できる。		

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/6 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 4-3	・名詞の格(2)	定冠詞、不定冠詞、男声弱変化名詞	課題、小テスト等については授業中に指示する。	定冠詞・不定冠詞の格変化を正しく身につける。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 4-4	・練習問題	練習問題		練習問題を通じ、名詞の性・数・格を正しく使いこなせるかを確認する。		
6/13 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 5-1	・定冠詞類	定冠詞類	課題、小テスト等については授業中に指示する。	定冠詞類のしくみを理解する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 5-2	・不定冠詞類	不定冠詞類(所有冠詞、非定冠詞)		不定冠詞類(所有冠詞・非定冠詞)のしくみを理解する。		
6/20 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 5-3	・人称代名詞	人称代名詞の3格・4格	課題、小テスト等については授業中に指示する。	人称代名詞の3格・4格を使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 5-4	・練習問題	練習問題		練習問題を通じ、冠詞類や人称代名詞を正しく使いこなせるかを確認できる。		
6/27 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 6-1	・形容詞の付加語的用法(1)	形容詞、付加語的用法、格変化	課題、小テスト等については授業中に指示する。	形容詞の付加語的用法のしくみについて理解する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 6-2	・形容詞の付加語的用法(2)	形容詞、付加語的用法、格変化		形容詞の付加語的用法に慣れ、使いこなせるようにする。		
7/4 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 6-3	・形容詞と副詞の比較変化	比較級、最上級	課題、小テスト等については授業中に指示する。	形容詞・副詞の比較表現を理解し、使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 6-4	・練習問題	練習問題		練習問題を通じ、形容詞の付加語的用法、比較表現を正しく使いこなせるかを確認する。		
7/11 木 4限	五十嵐 豊	前期学習内容のまとめ(1)	・文法事項の整理(1)	動詞、名詞、人称代名詞	課題、小テスト等については授業中に指示する。	学期中に学んだ文法項目を復習し、自分の習熟度を確認する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		前期学習内容のまとめ(2)	・文法事項の整理(2)	冠詞、形容詞		学期中に学んだ文法項目を復習し、自分の習熟度を確認する。		
7/18 木 4限	五十嵐 豊	予備日	予備日					

科目名	科目コード	単位数	責任者
ドイツ語Ⅱ	GER 102	1	五十嵐 豊
学習内容・概要			
初級文法の完成を目指すとともに、ドイツ語を「読む・書く・聞く・話す」上で必要な力をバランス良く身につけていく。また、DVDやプリントなどの補助教材を適宜使用しながら、ドイツ語圏の文化、社会、地理などへも広く目を向け、関心と理解を深めていく。			
学習目標			
[一般目標] 指定の教科書を用いながら、ドイツ語文法の基礎段階を完成させる。また、ドイツ語の基本的な会話表現や聞き取りの力を身につける。			
[到達目標] 1.ドイツ語の基本的文法事項(ドイツ語検定4級程度)を一通り理解し、問題を解くことができる。 2.語彙の幅を広げるとともに、短めのテキストを読んでその内容を理解したり、簡単な文や会話を作ることができる。 3.日常のさまざまな場面で用いられる基本的な表現を覚え、簡単な質問や受け答えをすることができる。 4. ドイツ語技能検定試験4級以上を取得する。			
自己学習(準備学習)			
教科書に収録されている練習問題やプリントなどをほぼ毎回宿題とするので、これらを用いてその回の授業内容をきちんと復習し、次回の授業に備えてほしい。音声教材を利用しながら、例文や会話テキストの音読練習にも取り組むこと。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

学習上の注意点	
<p>このクラスは原則として「ドイツ語Ⅰ」を修得した学生またはすでにドイツ語技能検定試験5級を取得している学生が履修可能である。初習言語の場合、最も重要なことは「継続的に学習すること」である。まずは毎回の授業にきちんと出席し、発音練習や会話練習などのトレーニングに大きな声で積極的に参加してほしい。その上で、その回の授業内容を復習するための宿題にもきちんと取り組むこと。また、授業期間内に何回か小テストを行う予定であるので、しっかり準備して臨むこと。</p> <p>*この授業の受講者は、12月に行われる「2019年度冬期ドイツ語技能検定試験」(独検)を受験することが必要です。受験料は自己負担となります。(試験の可否はドイツ語Ⅱの成績には影響しません。)</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 授業中の小テスト、授業中の活動状況、課題提出など平常点をほぼ50%、期末試験の結果をほぼ50%として扱い、その合計によって成績評価を行う。</p> <p>成績評価基準: 1. 基本的な文法事項や語彙を身につけ、問題を解くことができる。(期末試験) 2. 授業中の発言、練習問題、発音練習、ペア練習などへの取り組み状況による授業参加度評価(平常点) 3. 授業内の学習内容を補うプリント練習問題への取り組み(平常点) 4. 学習を終えた文法事項や語彙などが身につけているかを確認する小テスト(平常点)</p>	<p>指定教科書 吉原高志・中川浩: モルゲン 初級ドイツ語教室、白水社、2400円(本体価格)。</p> <p>参考書 在間 進(編集): 新キャンパス独和辞典、郁文堂、3000円(本体価格)。</p> <p>*教科書、参考書については初回授業時に詳しく説明する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/19 木 4限	五十嵐 豊	ガイダンス	・授業内容説明	ドイツ語学習、独検(ドイツ語検定試験)	課題、小テスト等については授業中に指示する。	授業の進め方、スケジュール、履修上の注意などを確認する。	自分の目標を定めよう。	演習
		前期のおさらい	・手持ちの語彙や表現を用いて会話してみよう	語彙、表現	課題、小テスト等については授業中に指示する。	前期に学んだ文法事項などを振り返り、弱点を確認する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
9/26 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 7-1	・前置詞	前置詞の格支配	課題、小テスト等については授業中に指示する。	前置詞の格支配を理解し、正しく使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 7-2	・前置詞	前置詞と定冠詞の融合形	課題、小テスト等については授業中に指示する。	前置詞と定冠詞の融合形を理解し、正しく使いこなすことができる。		演習
10/3 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 7-3	・動詞や形容詞と結びつく前置詞	前置詞を含むイディオム	課題、小テスト等については授業中に指示する。	前置詞を含むイディオムを使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 7-4	・練習問題	練習問題	課題、小テスト等については授業中に指示する。	練習問題を通じ、前置詞が身につけているかを確認できる。		演習
10/10 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 8-1	・話法の助動詞	話法の助動詞	課題、小テスト等については授業中に指示する。	話法の助動詞の現在人称変化を理解し、正しく使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 8-2	・未来時制	未来の助動詞werden	課題、小テスト等については授業中に指示する。	未来の助動詞の現在人称変化を理解し、正しく使いこなすことができる。		演習
10/17 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 8-3	・注意すべきesの用法	非人称のes	課題、小テスト等については授業中に指示する。	非人称のesの用法を理解し、正しく使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 8-4	・練習問題	練習問題	課題、小テスト等については授業中に指示する。	練習問題を通じ、さまざまな助動詞、非人称のesの用法が身につけているかを確認できる。		演習
10/24 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 9-1	・分離動詞 ・非分離動詞	枠構造、分離動詞、非分離動詞	課題、小テスト等については授業中に指示する。	分離・非分離動詞について理解し、正しく使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 9-2	・命令形	命令・依頼の表現	課題、小テスト等については授業中に指示する。	命令形の作り方を理解し、正しく使いこなすことができる。		演習
10/31 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 9-3	・zu不定詞句	zu不定詞、zu不定詞句	課題、小テスト等については授業中に指示する。	zu不定詞句の用法を理解し、正しく使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 9-4	・練習問題	練習問題	課題、小テスト等については授業中に指示する。	練習問題を通じ、分離・非分離動詞、命令形、zu不定詞句が身につけているかを確認できる。		演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/7 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 10-1	・動詞の3基本形	不定詞、過去基本形、過去分詞	課題、小テスト等については授業中に指示する。	動詞の3基本形を作る・調べることができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 10-2	・過去形	過去基本形、過去人称変化	課題、小テスト等については授業中に指示する。	過去形のしくみを理解し、使いこなすことができる。		演習
11/14 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 10-3	・現在完了形	過去分詞、現在完了形	課題、小テスト等については授業中に指示する。	現在完了形のしくみを理解し、使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 10-4	・練習問題	練習問題	課題、小テスト等については授業中に指示する。	練習問題を通じ、過去の表現が身についているかを確認できる。		演習
11/28 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 11-1	・受動(1)	動作受動、状態受動	課題、小テスト等については授業中に指示する。	受動文のしくみを理解できる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 11-2	・受動(2)	能動文と受動文、自動詞の受動文	課題、小テスト等については授業中に指示する。	受動文のしくみを理解し、使いこなすことができる。		演習
12/5 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 11-3	・再帰表現	再帰代名詞、再帰動詞	課題、小テスト等については授業中に指示する。	関係代名詞の用法を理解する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 11-4	・練習問題	練習問題	課題、小テスト等については授業中に指示する。	関係代名詞を用いて簡単な文を作ることができる。		演習
12/12 木 4限	五十嵐 豊	LEKTION 12-1	・接続詞	並列の接続詞、従属の接続詞、副文	課題、小テスト等については授業中に指示する。	従属の接続詞を用いた副文のしくみを理解し、使いこなすことができる。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		LEKTION 12-2	・関係代名詞	定関係代名詞、不定関係代名詞	課題、小テスト等については授業中に指示する。	関係文のしくみを理解し、使いこなすことができる。		演習
12/19 木 4限	五十嵐 豊	後期学習内容のまとめ	・文法事項の整理(1)	前置詞、話法の助動詞、複合動詞	試験に向けての準備方法は授業中に指示する。	学期中に学んだ文法事項などを振り返り、自分の習熟度を確認する。	頭で理解するだけではなく、話したり書いたりしながら積極的にドイツ語を使ってみよう。	演習
		後期学習内容のまとめ	・文法事項の整理(2)	過去形、現在完了形、受動、再帰、接続詞、関係代名詞	試験に向けての準備方法は授業中に指示する。	学期中に学んだ文法事項などを振り返り、自分の習熟度を確認する。		演習
1/9 木 4限	五十嵐 豊	予備日						演習

科目名	科目コード	単位数	責任者
フランス語 I	FRC 101	1	竹内 京子
学習内容・概要			
フランス語による日常会話のための基礎的な文法、語彙、表現を学び、実際の会話においてどのように使われているかをスキットを通して学ぶ。また、フランス語が使われている国の文化、習慣、ものの考え方などについて理解を深め、グローバルな視点を養う。実用フランス語検定試験5級の試験対策も行う。			
学習目標			
[一般目標] フランス語のことばのしくみ、文法、語彙、表現を学び、簡単な会話ができるようになること。			
[到達目標] 1.フランス語であいさつ、自己紹介ができるようになる。 2.フランス語で買い物、簡単な応答ができるようになる。 3.フランス語で簡単な事務書類を書くことができるようになる。 4.フランス語の簡単な文法を理解できるようになる。 5.フランス語を使う国の文化や歴史に興味を持つようになる。			
自己学習(準備学習)			
毎回の授業後に宿題や課題があり、次回の授業で小テストを行うので復習は必ずすること。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			



学習上の注意点	
<p>初めて学習する言語であるので一回欠席すると分からなくなる。できれば全出席が望ましい。 すでに実用フランス語技能検定試験5級以上を取得している人は後期の「フランス語Ⅱ」より受講を勧める。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 出席が全授業の3分の2以上あることが条件。平常点(小テスト・課題など)+口答テスト+筆記テストの総合評価、合計が60%以上を合格とする。</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>【指定教科書】『パスカル・オ・ジャボン』(白水社)、辞書や参考書は授業中に紹介する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 2限 4限	竹内 京子	ガイドンス・あいさつの表現・Leçon 0-1			シラバスをよく確認しておく	授業中にするあいさつの表現を覚える。		演習
		ガイドンス・あいさつの表現・Leçon 0-2						
4/22 月 2限 4限	竹内 京子	Leçon1-1	国籍を言う	主語人称代名詞・国籍を表す名詞・êtreと-er動詞	復習:アルファベで自分の名前が言えるようにしておく。	主語人称代名詞・国籍を表す名詞・êtreと-er動詞、アルファベの読み方、綴り字の読み方の概略を知る。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon1-2						
4/27 土 2限 4限	竹内 京子	Leçon 2-1	名前・職業を言う	職業を表す名詞・形容詞の性・数一致・名前の言い方	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。数字(1-20)を読めるようにする。	職業を表す名詞・形容詞の性・数一致・名前の言い方を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 2-2						
5/13 月 2限 4限	竹内 京子	Leçon 3-1	持ち物を尋ねる	名詞と不定冠詞・指示代名詞・形容詞の位置・avoir	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	名詞と不定冠詞・指示代名詞・形容詞の位置・avoirの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 3-2						
5/20 月 2限 4限	竹内 京子	Leçon 4-1	趣味を語る	定冠詞・疑問文・疑問形容詞	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	定冠詞・疑問形容詞、疑問文の作り方を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 4-2						
5/25 土 2限 4限	竹内 京子	Leçon 1-4のまとめ1			Leçon 1-4までの疑問点を探しておく。	Leçon 1-4の復習をする。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 1-4のまとめ2						
5/27 月 2限 4限	竹内 京子	Leçon 5-1	誰か尋ねる	否定文・疑問代名詞qui・il y a-	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	否定文・疑問代名詞qui・il y a-の表現を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 5-2						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/3 月 2限 4限	竹内 京子	Leçon 6-1	したいことを尋ねる	前置詞と定冠詞の縮約・指示形容詞・否定疑問文の応答・vouloir, pouvoir	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	前置詞と定冠詞の縮約・指示形容詞・否定疑問文の応答・vouloir, pouvoirの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 6-2						
6/10 月 2限 4限	竹内 京子	Leçon 7-1	住んでるところを言う	人称代名詞の強勢形・所有形容詞・connaître	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	人称代名詞の強勢形・所有形容詞・connaîtreの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 7-2						
6/17 月 2限 4限	竹内 京子	Leçon 8-1	何をしているか尋ねる	疑問代名詞que・場所を表す前置詞・faire	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	疑問代名詞que・場所を表す前置詞・faireの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 8-2						
6/22 土 2限 4限	竹内 京子	Leçon 5-8のまとめ1			Leçon 5-8までの疑問点を探しておく。	Leçon 5-8の復習をする。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 5-8のまとめ2						
6/24 月 2限 4限	竹内 京子	期末口答テスト			口答の試験内容を覚える。	口答試験内容を覚える。		試験
7/1 月 2限 4限	竹内 京子	期末筆記テスト			前期の総復習をしておく。	前期の授業内容を理解する。		試験
7/8 月 2限 4限	竹内 京子	予備日			前期の総復習をしておく。	前期の授業内容を理解する。		演習

科目名	科目コード	単位数	責任者
フランス語Ⅱ	FRC 102	1	竹内 京子
学習内容・概要			
フランス語による日常会話のための基礎的な文法、語彙、表現を学び、実際の会話においてどのように使われているかをスキットを通して学ぶ。また、フランス語が使われている国の文化、習慣、ものの考え方などについて理解を深め、グローバルな視点を養う。実用フランス語検定試験4級・5級の試験対策も行う。			
学習目標			
[一般目標] フランス語のことばのしくみ、文法、語彙、表現を学び、簡単な会話ができるようになること。前期修得できた学生のみフランス語Ⅱの受講が可能となる。			
[到達目標] 1.フランス語であいさつ、自己紹介ができるようになる。 2.フランス語で買い物、簡単な応答ができるようになる。 3.フランス語で簡単な事務書類を書くことができるようになる。 4.フランス語の初級文法を理解できるようになる。 5.フランス語を使う国の文化や歴史に興味を持つようになる。			
自己学習(準備学習)			
毎回の授業後に宿題や課題があり、次回の授業で小テストを行うので復習は必ずすること。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

## 学習上の注意点

このクラスは原則として「フランス語Ⅰ」を修得した学生またはすでに実用フランス語検定試験5級を取得している学生が履修可能である。初めて学習する言語であるので一回欠席すると分からなくなる。できれば全出席が望ましい。

\*この授業の受講者は、11月に行われる「2019年度冬期実用フランス語検定試験」(仏検)を受験することが必要です。受験料は自己負担となります。(試験の合否はフランス語Ⅱの成績には影響しません。)

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
出席が全授業の3分の2以上あることが条件。平常点(小テスト・課題など)+口答テスト+筆記テストの総合評価、合計が60%以上を合格とする。

成績評価基準:  
個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

【指定教科書】『パスカル・オ・ジャボン』(白水社)、辞書や参考書は授業中に紹介する。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/28 土 2限	竹内 京子	前学期の復習 Leçon 5-8			前学期の復習をしておく。	前期の内容の確認。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		前学期の復習 Leçon 5-8			前学期の復習をしておく。	前期の内容の確認。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
9/30 月 2限	竹内 京子	Leçon 9-1	家族を語る	否定文における冠詞の変形・女性形容詞の特殊な形	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	否定文における冠詞の変形・女性形容詞の特殊な形を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 9-2	家族を語る	否定文における冠詞の変形・女性形容詞の特殊な形	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	否定文における冠詞の変形・女性形容詞の特殊な形を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
10/7 月 2限	竹内 京子	Leçon 10-1	年齢を言う	数字1-30・疑問副詞	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	数字1-30・疑問副詞を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 10-2	年齢を言う	数字1-30・疑問副詞	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	数字1-30・疑問副詞を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
10/21 月 2限	竹内 京子	Leçon 11-1	時刻を言う	時刻の言い方・時の前置詞・finir , partir	復習:数字(20-1000)を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	時刻の言い方・時の前置詞・finir , partirの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 11-2	時刻を言う	時刻の言い方・時の前置詞・finir , partir	復習:数字(20-1000)を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	時刻の言い方・時の前置詞・finir , partirの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
10/28 月 2限	竹内 京子	Leçon 9-11のまとめ1			Leçon 9-11の疑問点を探しておく。		授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 9-11のまとめ2			Leçon 9-11の疑問点を探しておく。		授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
11/11 月 2限	竹内 京子	Leçon 12-1	紹介する	補語人称代名詞・指示代名詞ça, attendre	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	補語人称代名詞・指示代名詞ça, attendreの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 12-2	紹介する	補語人称代名詞・指示代名詞ça, attendre	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	補語人称代名詞・指示代名詞ça, attendreの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
11/25 月 2限	竹内 京子	Leçon 13-1	日常生活の表現	代名動詞・近接未来と近接過去、aller, venir	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	代名動詞・近接未来と近接過去、aller, venirの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 13-2	日常生活の表現	代名動詞・近接未来と近接過去、aller, venir	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	代名動詞・近接未来と近接過去、aller, venirの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/2 月 2限	竹内 京子	Leçon 14-1	量を表す	部分冠詞、中性代名詞en, boire	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	部分冠詞、中性代名詞en, boireの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 14-2	量を表す	部分冠詞、中性代名詞en, boire	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	部分冠詞、中性代名詞en, boireの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
12/9 月 2限	竹内 京子	Leçon 15-1	天候を言う	命令形・中性代名詞y, 天候の表現、voir	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	命令形・中性代名詞y, 天候の表現、voirの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 15-2	天候を言う	命令形・中性代名詞y, 天候の表現、voir	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	命令形・中性代名詞y, 天候の表現、voirの活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
12/13 金 2限	竹内 京子	Leçon 16-1	比較する	比較級、指示代名詞celui, celle	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	比較級、指示代名詞celui, celleの使い方を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 16-2	比較する	比較級、指示代名詞celui, celle	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	比較級、指示代名詞celui, celleの使い方を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
12/16 月 2限	竹内 京子	Leçon 17	過去のことを語る	複合過去形	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	複合過去形の活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
		Leçon 18	未来のことを語る	単純未来形	復習:動詞の活用を覚えておく。会話部分を読めるようにする。	単純未来形の活用を覚える。	授業中に返却したプリントを訂正して再提出をすること。	演習
12/21 土 2限	竹内 京子	期末口答テスト			口答の試験内容を覚える。			試験
		期末口答テスト			口答の試験内容を覚える。			試験
1/6 月 2限	竹内 京子	期末筆記テスト			後期の総復習をしておく。			試験
		期末筆記テスト			後期の総復習をしておく。			試験
1/14 火 2限	竹内 京子	期末筆記テスト			後期の総復習をしておく。			試験
		期末筆記テスト			後期の総復習をしておく。			試験

科目名	科目コード	単位数	責任者
中国語 I	CHI 101	1	劉 珍
学習内容・概要			
中国語はどのような言語なのかを理解し、中国語発音を表すための「ピンイン」という表記法を学びます、簡単な文型を生かした日常会話を学習します。テキストに沿って授業を進めます。			
学習目標			
[一般目標] 中国語ピンインの発音の方法に慣れていきながら、中国語の漢字をピンインで読めるようにしていき、簡単な日常会話ができるようにします。			
[到達目標] 1.自己紹介ができ、簡単な日常会話ができる。 2.声調を含む発音を正しく発声することができる。 3.基本文型、基本文法を理解し、読んだり書いたりすることができる 4.基本単語約250～300語、拼音の読み方と綴り方を身につけ、読み書きができる。			
自己学習(準備学習)			
テキストCDを聞き、予習する。 前回勉強した内容を理解し、表現の違いや語順の違いをしっかりと覚える。 プリント教材については、語彙、表現、文法などきちんと復習する。 練習問題を解き、大きな声で発音練習する。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分			



## 学習上の注意点

中国語は文法が優しく、単語も日本語と同じか似ているものが多いので、日本人には習得しやすい言語と思われるでしょう。しかし、中国語は日本語とは全く違う言語であり、同じ漢字でも発音も全然違うし、簡体字の採用で同じ意味の文字の形が日本語とは異なるものも沢山あります。注意して繰り返し大きな声で発音して、覚えて下さい。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
 期末試験(口頭試験、筆記試験)(70%)、小テスト、宿題(10%)、出席状況や学習態度(20%)

成績評価基準:  
 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

「見る・聞く・話す 中国語ネットワーク」  
 荒屋 勸/尹 景春/岡部 謙治 朝日出版社  
 ★プリントは毎回配布する

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 2限	劉 珍	オリエンテーション	中国という人口13億人の多民族の国は	中国と中国語に親しむ	特に準備は不要	中国と中国語を知る。	テキストを必ず買うこと	講義
		オリエンテーション	中国語とは普通話とは	中国と中国語に親しむ		中国と中国語を知る。		
4/22 月 2限	劉 珍	発音1「拼音」	声調	四声	[予習]テキストのCD1.2.3を聴いてみる。 [復習]CDを聴きながら四声をしっかりと聞き分ける。	「四声」の弁明ができる	中国式ローマ字の綴り	講義
		你好。 谢谢! 再见。	こんにちは。 ありがとうございます。 さようなら。	あいさつ		簡単な挨拶ができる。	軽声	
4/27 土 2限	劉 珍	発音2「拼音」	母音	単母音、複母音	[予習] テキストのCD3.4を聴いておく。 [復習]CDを聴きながら母音、子音を繰り返し発音する。挨拶言葉を覚える。	拼音を読める。	中国式ローマ字の綴り方	講義
		对不起。 没关系。	すみません。 どういたしまして。	「拼音」の綴り方		謝りができる。	鼻音の発声	
5/13 月 2限	劉 珍	発音3「拼音」	子音	「拼音」の綴り方	[予習] テキストのCD5.6を聴いておく。 [復習]CDを聴きながら母音、子音を繰り返し発音する。決まり文句を覚える。	拼音を読める。	有気音	講義
		很好! 不行!	とても良いです。 だめです。	決まり文句		決まり文句を理解する。	無気音	
5/20 月 2限	劉 珍	発音4「拼音」	「拼音」の綴り方	子音、母音、声調、隔音	[予習]テキストのCD7.8.9を聴いておく。 [復習]CDを聴きながら繰り返し発音する。「理解した」を覚える。	拼音を読める。	中国語ローマ字の綴り方	講義
		明白了吗? 不明白!	分かりましたか。 分かりません。	教室用語		教室用語を聞き取れる。	中国語ローマ字の綴り方	
5/25 土 2限	劉 珍	第一課 我是日本人(1)	貴方の名前は何と言いますか。	自分の名前を言い、相手の名前を聞く	[予習]CD10.11.12聴きながら新しい語句と文法ポイントに目を通しておく [復習]動詞と目的語の語順を覚える。練習問題を解く。大きい声で自分の名前を言う。	自分の名前を中国語で言える。	名字は日本語と中国語の違い	講義
		第一課 我是日本人(2)	私は日本人です。	自己紹介 名前、出身の国		簡単な自己紹介が中国語で言える。	「是」の意味	
5/27 月 2限	劉 珍	第二課 你吃什么?(1)	あれは日本料理です。	否定の表現	[予習]15.16.17聴きながら新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]動詞の語順を覚える。練習問題を解く。	料理の名前を言える。	「不」の位置	講義
		第二課 你吃什么?(2)	あなたは何を食べますか?	動詞述語文		食べたい物を言える	動詞と目的語の語順	

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/3 月 2限	劉 珍	第三課 面条好吃吗?(1)	うどんはおいしいですか?	形容詞述語文	[予習]CD20.21.22を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]形容詞述語文と形容詞の否定文を覚える。練習問題を解く。	おいしい料理を誉められる。	形容詞が述語になる時、他の言語との違い	講義
		第三課 面条好吃吗?(2)	緑茶がとても好きです。	程度の副詞		程度副詞を応用が出来る	副詞と形容詞の位置	
6/10 月 2限	劉 珍	第四課 这是我的词典。(1)	これは私の辞書です。	所有を表す「的」	[予習]CD25.26.27を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]所有を表す「的」と反復疑問文の言い方を覚える。練習問題を解く。好きなものを中国語で覚える 例、携帯電話とか	自分の持っているものを言える。	「的」がある文とない文	講義
		第四課 这是我的词典。(2)	毎日本を読みます。	反復疑問文		疑問詞のない疑問の表現が理解する	二音節単語の省略法	
6/17 月 2限	劉 珍	第五課 你家有几口人?(1)	あなたは何人家族ですか?	数量詞	[予習]CD30.31.32を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]数量詞と動詞「有」の使い方を覚える。練習問題を解く。	自分の家族を紹介出来る。	「名量詞」の位置	講義
		第五課 你家有几口人?(2)	今おいくつですか。	名詞述語文		年齢を尋ね、答えできる。	対象によって、聞き方が違う	
6/22 土 2限	劉 珍	第六課 今天星期几?(1)	今日は何曜日ですか?	月、日、曜日、時刻	[予習]CD35.36.37を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]月、日、曜日、時刻の言い方を覚える。練習問題を解く。	カレンダーを読むことができる。	過去の時間についての違い	講義
		第六課 今天星期几?(2)	今夜9時に良い番組があります。	動詞述語文の語順		空港や駅でアナウンスされる時刻を聞きとれる。	日本語との表現の違い	
6/24 月 2限	劉 珍	第七課 我看了那本书了。(1)	あの本を読んだよ。	動作の完了	[予習]CD40.41.42を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]動作の完了と数量のの言い方を覚える。練習問題を解く。	日常よく使う動詞を覚える。	「動作の完了」は過去形ではない	講義
		第七課 我看了那本书了。(2)	中国語を1年間学びました。	時量の言い方		どのぐらいやったことを表現できる。	時量の位置	
7/1 月 2限	劉 珍	第八課 我去过一次中国。(1)	中国に一回行ったことがあります。	経験を表す「过」	[予習]CD45.46.47を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]「V+过」練習問題を解く。「是…的」の使い方を覚える。練習問題を解く。	自分の経験したことが言える。	「動量詞」の位置	講義
		第八課 我去过一次中国。(2)	飛行機で行きました。	「是…的」の表現		どうやって行くかを説明ができる	語順に注意	
7/8 月 2限	劉 珍	前期复习	前期復習	発音の復習 文型の再確認	[予習]前期学んだ語彙や表現に目を通しておく。 [復習]前期学んだ内容をしっかり覚える。	学んだ表現を身につける		講義
		前期复习	前期復習	発音の復習 文型の再確認		学んだ表現を身につける		

科目名	科目コード	単位数	責任者
中国語Ⅱ	CHI 102	1	劉 珍
学習内容・概要			
初級段階で習得したピンイン、基礎を定着させつつ、新しい語彙、文法および表現の仕方を学んでいきます。基本的な日常に使う会話を学習します。テキストに沿って授業を進めます。プリントも使います。			
学習目標			
[一般目標] 初級で身に付けた中国語を生かします。中国語の正確な発音を身に着けましょう。 中国語を通して、その背景にある中国人の生活習慣や考え方など中国文化を学び、中国をもっと知りましょう。 国際的視野をもって活動できる基礎的能力を身につけましょう。			
[到達目標] 1. 場面に応じて、日本の事を紹介したり、道案内をしたりすることを簡単な中国語で表現できる。 2. 身近で個人的にも関心のある話題や経験、出来事や好みについて話したり、簡単な意見を中国語で述べるができる。 3. 中国について、歴史、社会、文化的知識、価値観を学び、自国の文化、社会と対照して考察することができる。 4. 近い将来の日中医学交流に生かせるように、実践に役立つことができる。			
自己学習(準備学習)			
CDを聴き、予習する。 学習した内容をよく理解し、表現の違いや語順の違いをしっかりと覚える。 プリント教材については、語彙、表現、文法などをきちんと復習する。 練習問題を解き、大きな声で発音練習する。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分			

学習上の注意点	
<p>このクラスは原則として「中国語Ⅰ」を修得した学生またはすでに中国語検定試験「準4級」を取得している学生が履修可能です。中国語は文法が優しく、単語も日本語と同じか似ているものが多いですが、初級で学んだように中国語は日本語とは全く違います。語順も大事ですが、一つ一つ単語の意味もしっかり覚え、語彙力を高めないと上達できません。言葉を暗記して下さい。前期を修得した者しか後期は受講できません。</p> <p>*この授業の受講者は、11月に行われる「2019年度中国語検定試験 準4級」(中検)を受験することが必要です。受験料は自己負担となります。(中検の可否は中国語Ⅱの成績には影響しません。)</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 期末試験(70%)、小テスト、宿題(10%)、出席状況や学習態度など(20%)</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>「見る・聞く・話す 中国語ネットワーク」 荒屋 勸/尹 景春/岡部 謙治 朝日出版社 ★プリントは毎回配布する</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/28 土 2限	劉 珍	前期的总复习	前期の総合復習	子音、母音、音の綴り方	[予習]初級で学習したことを総復習する。第一課から第八課までの本文を一度に目を通してください。CD1~46一度聞き直して、ピンイン、単語の発音を確認しましょう。 [復習]動詞「在」、「有」と方位詞の使い方を覚える。練習問題を解く。	前期の見直し、発音を確認できる。	語順を覚え、暗記する。	講義
		前期的总复习	前期の総合復習	文型のおさらい		前期の見直し、発音を確認できる。	語順を覚え、暗記する。	
9/30 月 2限	劉 珍	第九課 医生在什么地方？(1)	お医者さんはどこに居るのですか？	動詞「有」と「在」	[予習]CD50.51.52を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]動詞「在」、「有」と方位詞の使い方を覚える。練習問題を解く。	有無を聞くことができる。	語順を覚え、暗記する。	講義
		第九課 医生在什么地方？(2)	風邪をひきました。	方位詞		病気になったことを伝えられる。	語順を覚え、暗記する。	
10/7 月 2限	劉 珍	第十課 你的病好了吗？(1)	どこの病院で検査しましたか？	前置詞	[予習]CD55.56.57を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]介詞(前置詞)の語順、「是～的」の言い方を覚える。練習問題を解く。習った言葉を大きい声で発音して下さい。	行きつけの病院を言える。	前置詞の位置に注意	講義
		第十課 你的病好了吗？(2)	病気は治りましたか。	前置詞		容態を尋ねることができる。	「了」の変化の意味	
10/21 月 限	劉 珍	第十一課 你家离学校远不远？(1)	お家は学校から遠いですか？	前置詞	[予習]CD60.61.62を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]介詞(前置詞)の語順、結果補語の使い方を覚える。練習問題を解く。	簡単な道案内ができる。	前置詞の位置に注意	講義
		第十一課 你家离学校远不远？(2)	どのぐらい時間がかかりますか。	「是」...「的」		所要時間が言える。	時間と期間の語順に注意	
10/28 月 2限	劉 珍	第十二課 我会开车。(1)	私は運転ができます。	助動詞「会」と「能」	[予習]CD65.66.67を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]能願動詞「会」と「能」、動詞の重ね方言い方を覚える。練習問題を解く。習った言葉を大きい声で発音して下さい。	自分の出来ることが言える。	漢字の意味の違いに注意	講義
		第十二課 我会开车。(2)	王先生は学生に中国語を教えます。	二重目的語		動作の対象が説明できる。	能力の二つの表現	
11/11 月 2限	劉 珍	第十三課 你想去买东西吗？(1)	あなたは買い物に行きたいですか？	助動詞「想」と「打算」	[予習]CD70.71.72を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]能願動詞「想」と「打算」練習問題を解く。	「したいこと」が言える。	助動詞の位置に注意	講義
		第十三課 你想去买东西吗？(2)	何か用事がありますか。	不定詞		用事があるかを確認できる。	疑問と不定の区別	
11/25 月 2限	劉 珍	第十四課 你在干什么呢？(1)	何をしていますか？	進行形	[予習]CD75.76.77を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]進行形の言い方金銭の教え方を覚える。練習問題を解く。	買い物ができる。	「在～呢」という慣用表現をセットで覚える。	講義
		第十四課 你在干什么呢？(2)	高すぎです。	金銭の教え方		価格の説明ができる。	人民元の単位に注意	

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/2 月 2限	劉 珍	第十五課 你唱歌唱得很好。(1)	あなたは歌が上手ですね。	程度補語	[予習]CD80.81.82を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]進行形の言い方金銭の数え方を覚える。練習問題を解く。	誉めることができる。	日本語にない表現をそのまま覚える。	講義
		第十五課 你唱歌唱得很好。(2)	何ができますか。	構造助詞「得」		「出来る」の程度の表現ができる。	構造助詞の役割	
12/9 月 2限	劉 珍	第十六課 北京比东京冷多了。(1)	北京は東京より寒いです。	比較表現	[予習]CD85.86.87を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]比較表現選択疑問文を覚える。練習問題を解く。	比較の言い方が出来る。	語順に注意	講義
		第十六課 北京比东京冷多了。(2)	東京は暑いですかそれとも大阪が暑いですか。	選択疑問文		二者択一が言える。	省略可能なところ	
12/13 金 2限	劉 珍	第十七課 你们学到第几课了?(1)	あなたたちは何課まで学び終えましたか?	結果補語	[予習]CD90.91.92を聴きながら、新しい語句と文法ポイントに目を通しておく。 [復習]結果補語と程度補語を覚える。練習問題を解く。	物事の進み具合を尋ねることができる。	どういう単語が結果補語になるか?	講義
		第十七課 你们学到第几课了?(2)	手伝って下さい。	形容詞+「极了」		頼む表現を身に着ける。	重ねの使い方	
12/16 月 2限	劉 珍	场景对话: 谈爱好	私の趣味はサッカーです。	助動詞と動詞	[予習]食べれない物、嫌いな物の中国語の言い方をあらかじめ調べておく [復習]授業中の会話を声を出して練習する。	自分の趣味が言える。	趣味と「想+動詞」の区別	講義
		场景对话: 询问理由	どうして食べないのですか。	「怎么」「为什么」の区別		食べれないものとその理由を説明できる。	状態の変化を示す「了」	
12/21 土 2限	劉 珍	我的一天	私の一日	日記の書き方	[予習]一日の行動を整理しておく。 [復習]日常生活の表現を覚え	日常生活の表現ができる。	正しい声調で読む	講義
		作文发表	プレゼン	作文の発表	[予習]声を出して、繰り返し読む練習する。 [復習]発表した作文を暗記する。	日常会話が話せる。	正しい声調、区切りのところ	
1/6 月 2限	劉 珍	后期复习1	後期復習 1	ヒアリングの練習 文法の復習	[予習]後期試験に備え、学んだ語彙や表現を覚えておく。 [復習]学んだ中国語をしっかり覚える。	ネイティブスピーカー話すの速さに慣れる。		講義
		后期复习1	後期復習 1	ヒアリングの練習 文法の復習		ネイティブスピーカー話すの速さに慣れる。		
1/14 火 2限	劉 珍	后期复习2	後期復習 2	文型の復習 文法の再確認	[予習]後期試験に備え、学んだ語彙や表現を覚えておく。 [復習]学んだ中国語をしっかり身につける。	学んだ表現をしっかり身につける		講義
		后期复习2	後期復習 2	文型の復習 文法の再確認		学んだ表現をしっかり身につける		

科目名	科目コード	単位数	責任者
日本語リテラシー	JPN101	1	大野 早苗
学習内容・概要			
<p>日本語の特徴として、話し言葉と書き言葉が大きく異なること、また、話し言葉にしても書き言葉にしても相手や場面に応じて適切なスタイルを選ばなければならないことが挙げられる。本講義では、話し言葉と書き言葉のルールを学び、様々な場面でそれを適切に用いるための演習を行う。また、日本語のルールに関する文献を読み、学んだことをレポートにまとめる作業を通して、大学での学修のために特に必要とされる読む力、書く力を涵養する。講義は、基本的に、日本語練習問題の解答と解説、学修項目に関する文献の読解、文献の内容の確認、文献のまとめとしてのブックレポートの作成というサイクルで行われる。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>日本語運用上の様々なルールを知ること、そのルールに基づいて適切に日本語が使えるようになることを目標とする。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.話し言葉と書き言葉の違いを説明することができる。</li> <li>2.適切な文体で文章を書くことができる。</li> <li>3.新書レベルの文章の速読ができる。</li> <li>4.読んだり聞いたりした内容を自分の言葉でまとめることができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業で示された発展的な問題集の中から各自の習熟度合いに応じた問題を選び、解答を確認する。</li> <li>2.講義で読解に用いた文献についてのブックレポートを仕上げる。</li> </ol> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時間あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



## 学習上の注意点

言語の運用能力を上げるには、知識を得るだけでなく、それをを用いる練習の繰り返しが重要である。学んだことを実際に使ってみる姿勢を大切にしてほしい。  
 なお、本講義は、留学生や帰国生など、大学における学修のための言語としての日本語能力に関して補強が必要な学生を対象としたものである。第1回目の講義時に履修の可否を判断するので、履修希望者は必ず出席すること。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

ブックレポート等の提出物に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
 ブックレポート:45点  
 平常点(受講態度他):10点  
 期末テスト:45点

## 成績評価基準:

1. 文献の内容を正しく読み取っている。(ブックレポート)
2. 学修項目を積極的に実際の言語運用に取り入れている。(受講態度他)
3. 場面やジャンルに応じた日本語表現を選ぶことができるかを見て判定する。(期末テスト)

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

教科書は指定しない。ブックレポートで用いる文献は、授業時に配布する。

## 参考書

1. 二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会
2. 石黒圭・筒井千絵(2009)『留学生のための ここが大切 文章表現のルール』スリーエーネットワーク

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/16 火 1限	大野 早苗	ガイダンス	大学で学ぶための日本語リテラシーとは	語彙力・文法・書く力・話す力	日本語能力試験や日本留学試験の問題と日本語検定の問題の違いは何かを考える。	自分の日本語運用能力を知り、今後、何を重点的に学ばなければならないかを理解する。 ブックレポートの書き方を理解する。	日本語力をチェックするためのテストを実施するので、準備しておくこと。	講義
		日本語力チェック(テストと解説)						
4/23 火 1限	大野 早苗	話し言葉と書き言葉1(練習問題)	書き言葉成立の過程を知る	書き言葉、話し言葉、言文一致、国語教育	練習問題をもう一度解き、知識の定着を図る。	現代の書き言葉の成立事情を知る。 自分の考えをジャンルに応じた適切な書き言葉で表現することができる。	授業時に発展的な問題集等を紹介するので、必要に応じて活用すること。	講義
		話し言葉と書き言葉2(解答と解説)						
5/7 火 1限	大野 早苗	話し言葉と書き言葉3(文献の読解)	書き言葉成立の過程を知る	書き言葉、話し言葉、言文一致、国語教育	柳父章『日本語をどう書くか』(法政大学出版局)のブックレポートを仕上げる。	現代の書き言葉の成立事情を知る。 自分の考えをジャンルに応じた適切な書き言葉で表現することができる。	書き上げたブックレポートを文法、文章展開の面からチェックをするので、必要な修正を行うこと。	講義
		話し言葉と書き言葉4(ブックレポート)						
5/14 火 1限	大野 早苗	待遇表現1(練習問題)	敬語の適切な使い方を知る	尊敬語、謙譲語、丁寧語、相対敬語	練習問題をもう一度解き、知識の定着を図る。	敬語の文法をマスターする。 場面、相手との関係を適切に把握し、表現を使い分けることができる。	授業時に発展的な問題集等を紹介するので、必要に応じて活用すること。	講義
		待遇表現2(解答と解説)						
5/18 土 1限	大野 早苗	待遇表現3(文献の読解)	敬語の適切な使い方を知る	尊敬語、謙譲語、丁寧語、相対敬語	作田奈苗『仕事をもっとうまくいく！敬語のキホン』(日本経済新聞出版社)のブックレポートを仕上げる。	敬語の文法をマスターする。 場面、相手との関係を適切に把握し、表現を使い分けることができる。	書き上げたブックレポートを文法、文章展開の面からチェックをするので、必要な修正を行うこと。	講義
		待遇表現4(ブックレポート)						
5/21 火 1限	大野 早苗	文法1(練習問題)	日本語上級者が間違いやすい文法項目を整理する	助動詞、陳述、視点	練習問題をもう一度解き、知識の定着を図る。	正確な文法的知識を身に付ける。 文法に注意を払って文を書くことができる。	授業時に発展的な問題集等を紹介するので、必要に応じて活用すること。	講義
		文法2(解答と解説)						
5/28 火 1限	大野 早苗	文法3(文献の読解)	日本語上級者が間違いやすい文法項目を整理する	助動詞、陳述、視点	水谷信子『日本語教育の内容と方法』(アルク)のブックレポートを仕上げる。	正確な文法的知識を身に付ける。 文法に注意を払って文を書くことができる。	書き上げたブックレポートを文法、文章展開の面からチェックをするので、必要な修正を行うこと。	講義
		文法4(ブックレポート)						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/4 火 1限	大野 早苗	漢字の使用1 (練習問題)	漢字のルーツと日本での定着の過程を知る	六書、国字、呉音、漢音、唐音、常用漢字	練習問題をもう一度解き、知識の定着を図る。	現代における漢字の使用状況を知る。 論文やレポートを書く際に適切な表記ができる。	授業時に発展的な問題集等を紹介するので、必要に応じて活用すること。	講義
		漢字の使用2 (解答と解説)						
6/11 火 1限	大野 早苗	漢字の使用3 (文献の読解)	漢字のルーツと日本での定着の過程を知る	六書、国字、呉音、漢音、唐音、常用漢字	日本語教育学会編『新版 日本語教育辞典』(大修館書店)5章のブックレポートを仕上げる。	現代における漢字の使用状況を知る。 論文やレポートを書く際に適切な表記ができる。	書き上げたブックレポートを文法、文章展開の面からチェックをするので、必要な修正を行うこと。	講義
		漢字の使用4 (ブックレポート)						
6/15 土 1限	大野 早苗	語彙1 (練習問題)	日本語の語彙構造を知る	和語、漢語、外来語	練習問題をもう一度解き、知識の定着を図る。	和語、漢語、外来語の使用状況を知る。 外来語がなぜ用いられるのかを理解する。	授業時に発展的な問題集等を紹介するので、必要に応じて活用すること。	講義
		語彙2 (解答と解説)						
6/25 火 1限	大野 早苗	語彙3 (文献の読解)	日本語の語彙構造を知る	和語、漢語、外来語	小松英雄「日本語過保護論」(『ユリイカ』1981年2月号所収)のブックレポートを仕上げる。	和語、漢語、外来語の使用状況を知る。 外来語がなぜ用いられるのかを理解する。	書き上げたブックレポートを文法、文章展開の面からチェックをするので、必要な修正を行うこと。	講義
		語彙4 (ブックレポート)						
7/2 火 1限	大野 早苗	翻訳の日本語1 (練習問題)	外国語を日本語に翻訳する際の問題点を知る	翻訳、位相語、役割語	練習問題をもう一度解き、知識の定着を図る。	様々な立場の人が様々な場面で語る言葉がどのように翻訳されるかを知る。	授業時に発展的な問題集等を紹介するので、必要に応じて活用すること。	講義
		翻訳の日本語2 (解答と解説)						
7/9 火 1限	大野 早苗	翻訳の日本語3 (文献の読解)	外国語を日本語に翻訳する際の問題点を知る	翻訳、位相語、役割語	中村桃子『「性」と日本語—ことばがつくる女と男』(日本放送出版協会)のブックレポートを仕上げる。	様々な立場の人が様々な場面で語る言葉がどのように翻訳されるかを知る。	書き上げたブックレポートを文法、文章展開の面からチェックをするので、必要な修正を行うこと。	講義
		翻訳の日本語4 (ブックレポート)						
7/16 火 1限	大野 早苗	総まとめ1	日本語の書き言葉の特徴を振りかえる	書き言葉、ジャンル、文体	今までに書いたブックレポートを全て読み返し、日本語の書き方の基本をまとめる。	ジャンルによって異なる書き言葉の文体を理解し、適切な文体を選んで書くことができる。	今までに書いた全てのブックレポートを持参すること。	講義
		総まとめ2						

科目名	科目コード	単位数	責任者
日本語アカデミックライティング	JPN102	1	大野 早苗
学習内容・概要			
<p>大学で学びを進める上で、書くことは非常に大きな意味を持つ。レポートなどが自分の評価につながるだけでなく、書くことを通して学んだことがらを自分の中で再構成し、知識として定着させることができるからである。本講義では、1つのテーマのもと、情報の収集と整理、文献の読解を経て自分の考えをまとめ、それをレポートに書くことによって、アカデミックライティングの方法を学ぶ。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>レポートや論文などの書き方を身に付ける。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献から正しく情報を読み取ることができる。</li> <li>2. 情報の収集と整理の方法を身に付ける。</li> <li>3. 収集した情報を統合し、自分なりの考えを持つことができる。</li> <li>4. レポートなどに適したスタイルで文章を書くことができる。</li> <li>5. レポートをもとに口頭での発表ができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設定されたテーマのもと、図書館やインターネットを利用して、情報を収集する。</li> <li>2. 得られた情報をブックレポートやメモの形で記録する。</li> <li>3. 授業内で行った発表や意見交換をもとに、レポートを書く作業を進める。</li> </ol> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時間あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>授業で学んだこと、話し合ったことを持ち帰って書く作業が大きなウェイトを占める。労力のかかる作業であるが、その重要性を理解し、自分なりのレポートを仕上げてください。</p> <p>なお、本講義は、留学生や帰国生など、大学における学修のための言語としての日本語能力に関して補強が必要な学生を対象としたものである。第1回目の講義時に履修の可否を判断するので、履修希望者は必ず出席すること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
提出物やレポート等に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:</p> <p>レポート:60点 口頭発表:20点 平常点(受講態度他):20点</p> <p>成績評価基準:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.文献から正しく情報を読み取れている。(レポート)</li> <li>2.情報の収集と整理の方法が適切である。(レポート)</li> <li>3.収集した情報を統合し、自分なりの考えを示している。(レポート)</li> <li>4.レポートなどに適したスタイルで文章が書けている。(レポート)</li> <li>5.レポートをもとに口頭での発表が適切に行われている。(口頭発表)</li> <li>6.授業内での意見交換への取り組み状況によって受講態度を評価する。(平常点)</li> </ol>	<p>教科書</p> <p>大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂(2014)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版—プロセス重視のレポート作成—』ひつじ書房</p> <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.アカデミック・ジャパニーズ研究会編著(2001)『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ④論文作成編』アルク</li> <li>2.二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会</li> </ol>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/19 木 4限	大野 早苗	ガイダンス	アカデミックライティングの 必要性を理解する	アカデミックライティング	教科書の1章と2章を読む。	大学での学修における書くこ との重要性を知る。	前もって教科書を入手 しておくこと。	講義
		日本語力チェック (テストと解説)						
9/26 木 4限	大野 早苗	レポートテーマの設定1	何について書くかを決める	論証型レポート・テーマ・問 題提起・解決案・根拠	テーマ設定のために、新聞 などに目を通し、今、問題と なっていること、解決すべき 課題は何か考えておく。	レポート作成のためのテーマ を設定する。	テーマを選ぶ際には、 複数の新聞や雑誌に 目を通すこと。	講義
		レポートテーマの設定2						
10/3 木 4限	大野 早苗	情報収集の方法1	図書館、インターネットを活 用した情報収集の方法を 知る	文献検索・情報検索	教科書の3章と4章を読む。 テーマに沿って情報収集を する。	文献の検索ができるになる。 必要な文献の入手方法を 知る。	実際に学内の学術メ ディアセンターや地域 の図書館に足を運んで みること。	講義
		情報収集の方法2						
10/10 木 4限	大野 早苗	情報の整理1	収集した情報を記録する	情報カード・文献メモ・ブッ クレポート	教科書の3章と4章を読む。 収集した情報、読んだ文献 の記録を整理する。	収集した情報や読んだ文献 を活用しやすい形で記録し、 整理することができる。	情報の整理には、Excel などを活用すること。	講義
		情報の整理2						
10/17 木 4限	大野 早苗	レポートのアウトライン1	レポートの全体構成を考え る	問いと答え・三部構成(序 論、本論、結論)・主張・根 拠	教科書の5章と6章を読む。 自分のレポートのアウトライ ンを考える。	レポートの基本構成を理解す る。 自分が立てた問いに対する 答えを出すためには、どのよ うな情報が必要かがわかる。	複数の問いを立ててみ た上で、アウトラインを 考えること。	講義
		レポートのアウトライン2						
10/24 木 4限	大野 早苗	パラグラフライティング1	パラグラフの構成方法を 知る	パラグラフ・段落・中心文・ 支持文	教科書の7章を読む。 自分のレポートのパラグラフ 構成を考える。	各パラグラフの書き方を知る。 適切にパラグラフを配列でき るようになる。	中心文、支持文につい ては、アカデミック・ジャ パニーズ研究会編著 『大学・大学院 留学生 の日本語 ④論文作成 編』(アルク)を参照する こと。	講義
		パラグラフライティング2						
10/31 木 4限	大野 早苗	データの活用1	数値データの説明の方法 を知る	図表の提示・数値の説明	教科書の8章を読む。 レポートで用いるデータを図 や表の形にまとめる。	データ提示の方法を知る。 適切な表現でデータを説明 することができるようになる。	文章の作成にあたって は、二通他『留学生と日 本人学生のためのレ ポート・論文表現ハンド ブック』(東京大学出版 会)を活用すること。	講義
		データの活用2						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/7 木 4限	大野 早苗	引用の方法1	他者の言説を正しく引用する方法を知る	引用の方法・文献リスト	教科書の9章を読む。 引用したい文献を準備しておく。	適切な方法で他者の言説を引用することができるようになる。	文章の作成にあたっては、二通他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)を活用すること。	講義
		引用の方法2						
11/14 木 4限	大野 早苗	引用の方法3	他者の言説を正しく引用する方法を知る	引用の方法・文献リスト	教科書の9章を読む。 引用したい文献を準備しておく。	適切な方法で他者の言説を引用することができるようになる。	文章の作成にあたっては、二通他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)を活用すること。	講義
		引用の方法4						
11/28 木 4限	大野 早苗	文章の推敲1	文章を点検し、修正する習慣をつける	推敲・表現	教科書の10章を読む。 レポートを一通り書き上げておく。	文章を点検する際のチェックポイントがわかる。	文章の作成にあたっては、二通他『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)を活用すること。	講義
		文章の推敲2						
12/5 木 4限	大野 早苗	発表レジュメの作成1	レポートをもとに口頭で発表する準備をする	レジュメ・発表用スライド・発表原稿	教科書の11章を読む。 発表のための要点をまとめておく。	口頭で発表する際に必要な資料を作成することができるようになる。	発表用のレジュメやスライドの作成には、WordやPower Pointなどを活用すること。	講義
		発表レジュメの作成2						
12/12 木 4限	大野 早苗	口頭発表1	レポートをもとに口頭で発表する	口頭発表の表現・質問の表現	教科書の12章を読む。 授業内で発表できるようにレジュメやスライドを準備する。	口頭発表のためのレジュメやスライドの準備ができるようになる。 口頭発表に適した日本語表現が使えるようになる。	レポートをもとに発表する際は、書き言葉と話し言葉の違いに十分留意すること。	講義
		口頭発表2						
12/19 木 4限	大野 早苗	口頭発表3	レポートをもとに口頭で発表する	口頭発表の表現・質問の表現	教科書の12章を読む。 授業内で発表できるようにレジュメやスライドを準備する。	口頭発表のためのレジュメやスライドの準備ができるようになる。 口頭発表に適した日本語表現が使えるようになる。	レポートをもとに発表する際は、書き言葉と話し言葉の違いに十分留意すること。	講義
		口頭発表4						
1/9 木 4限	大野 早苗	レポートの修正1	口頭発表をもとにレポートに修正を加える	レポート作成の振り返り・自己評価	教科書の13章を読む。 前回の口頭発表の際、質問などから得られた示唆をもとに、修正すべきポイントを整理しておく。	他の学生からの質問、指摘を自分のレポートに反映できるようにする。	修正を加えたレポートを提示された期限までに提出すること。	講義
		レポートの修正2						

科目名	科目コード	単位数	責任者
コミュニケーション論	SHS 101	1	浅野 恵子
学習内容・概要			
<p>「コミュニケーション」という言葉が日本語として定着して久しい。日常で普段何気なく使っているものの、様々なシーンで多義的に用いられているのが現状といえよう。この講義では、「コミュニケーション」を様々なテーマごとに検討していく。単に講義を受講することにとどまらず、実際に具体的な事例を体験しながら理解を進めていってもらおう。この講義を受講することによって、学生の皆さんは、コミュニケーション関連の各学問分野の基礎的概念を習得し、それらの分野が取り扱う具体的な事例を活用しながら、医療とコミュニケーションに関連付けた個別の課題を模索し、応用できるようになることを目標とする。</p> <p>「人間を見つめる」という将来の職業との関連のコミュニケーションも常に念頭に置いて受講してもらいたい。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>具体的に実際使用する際にコミュニケーション方法ではなく、その参考となる概念を認識・習得できるようにしていく。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの定義を理解し、体系的に説明できる。</li> <li>2. コミュニケーションの各分野の方法論を理解し、タームを説明できる。</li> <li>3. コミュニケーションに対する具体的な実験を理解し、説明できる。</li> <li>4. 授業中に学習した内容を踏まえて、自分なりの仮説を立て、報告書を書ける。</li> <li>5. コミュニケーションに対する考えをまとめ、他人に説明できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>次回のテーマに関連した参考文献、資料を配布するので、それに沿った内容を個別に読んでおくこと。または自分で興味がある内容の書物・記事を探して知識を補っておくこと。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
この講義では、テーマごとに問題提起と講義を行った後、グループディスカッションを行い、各自の疑問、意見を述べてもらう。さらにこの講義用のノートを用意してもらい、自分のコメントを書くことを課する。	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 以下の点を考慮して評価を行う。出席回数、毎回の課題とコメント、授業中の積極的参加状況、最終課題レポート</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションに関連した問題について、その背景を具体的に述べることができる(ノート提出)</li> <li>2. コミュニケーション分野の基本的な意味を理解している(中間レポート試験相当)</li> <li>3. コミュニケーションに関連した分野での調査を行い、独自の視点も盛り込んだレポート作成する(定期試験相当)</li> <li>4. 授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する(平常点)</li> </ol>	講義中に随時指示、配布する。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/19 木 4限	浅野 恵子	はじめに コミュニケーションとは(1)	講義の概念説明	自分にとってのコミュニケー ションとは	予習、復習方法の説明	コミュニケーションの概念と今 後の授業方法を理解する。		講義
		はじめに コミュニケーションとは(2)	講義の概念説明	自己提示、グループ討論 意思はどう伝わるか	予習、復習方法の説明	コミュニケーションの概念と今 後の授業方法を理解する。		講義とアク ティブラー ニング
9/26 木 4限	浅野 恵子	言語とコミュニケーション (1)	同じ単語、違う意味	言語間の相違概念 わかりやすい医療用語	配布資料を予め読み、知識 を得ておく。講義の内容で興 味のあることをさらに調ベノ ートに書いておく。	本講の要となる内容を理解 し、それに対して自分のコメン トを加えながら説明できるこ と。		講義とディス カッション
		言語とコミュニケーション (2)	ギャップの原因 言語間の問題?	言語間の相違概念 わかりやすい医療用語				講義とアク ティブラー ニング
10/3 木 4限	浅野 恵子	異文化間のコミュニケー ション(1)	なぜ起こる?コンフリクトの 原因	あいさつ サブカルチャー 先入観	配布資料を予め読み、知識 を得ておく。講義の内容で興 味のあることをさらに調ベノ ートに書いておく。	本講の要となる内容を理解 し、それに対して自分のコメン トを加えながら説明できるこ と。		講義とディス カッション
		異文化間のコミュニケー ション(2)	なぜ起こる?コンフリクトの 解決法	年齢、性差、社会関係、地 域制、個人差				講義とアク ティブラー ニング
10/10 木 4限	浅野 恵子	話し言葉、音声コミュニ ケーション(1)	自分の声、相手の声を聞いて みよう。	Praat (音響ソフト)、声の録 音	配布資料を予め読み、知識 を得ておく。講義の内容で興 味のあることをさらに調ベノ ートに書いておく。	本講の要となる内容を理解 し、それに対して自分のコメン トを加えながら説明できるこ と。		講義とディス カッション
		話し言葉、音声コミュニ ケーション(2)	声の役割,種類,	Praat (音響ソフト)、声の録 音				講義とアク ティブラー ニング
10/17 木 4限	浅野 恵子	話し言葉、音声コミュニ ケーション(3)	音声はどこから	周辺言語、声帯振動画像、	配布資料を予め読み、知識 を得ておく。講義の内容で興 味のあることをさらに調ベノ ートに書いておく。	本講の要となる内容を理解 し、それに対して自分のコメン トを加えながら説明できるこ と。		講義とディス カッション
		話し言葉、音声コミュニ ケーション(4)	沈黙と声	言葉のない言葉、ことばに ならない言葉、内的発話				講義とアク ティブラー ニング
10/24 木 4限	浅野 恵子	非言語コミュニケーション (1)	無意識に意識している、さ れている	ジェスチャー、ボディーコ ミュニケーション、身体動作 学	配布資料を予め読み、知識 を得ておく。講義の内容で興 味のあることをさらに調ベノ ートに書いておく。	本講の要となる内容を理解 し、それに対して自分のコメン トを加えながら説明できるこ と。		講義とディス カッション
		非言語コミュニケーション (2)	どのように非言語コミュニ ケーションが反映されてい るか	ジェスチャークイズ				講義とアク ティブラー ニング
10/31 木 4限	浅野 恵子	時間と空間(1)	個人空間を探そう 内在自己時間	人間のなわばり、速度	配布資料を予め読み、知識 を得ておく。講義の内容で興 味のあることをさらに調ベノ ートに書いておく。	本講の要となる内容を理解 し、それに対して自分のコメン トを加えながら説明できるこ と。		講義とディス カッション
		時間と空間(2)	心理的事象、物理的事象	パーソナルテンポ、パーソ ナルスペースの測定				講義とアク ティブラー ニング

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/7 木 4限	浅野 恵子	マスメディアとコミュニケーション(1)	効果的なコミュニケーションツール	広告、テクノロジー、伝達媒体	配布資料を予め読み、知識を得ておく。講義の内容で興味のあることをさらに調べノートに書いておく。	本講の要となる内容を理解し、それに対して自分のコメントを加えながら説明できること。		講義とディスカッション
		マスメディアとコミュニケーション(2)	コミュニケーションツールの弊害	広告、テクノロジー、伝達媒体				講義とアクティブラーニング
11/14 木 4限	浅野 恵子	感覚とコミュニケーション(1)	共通感覚の相違	共感覚、感覚器官と認識、文化と感覚	配布資料を予め読み、知識を得ておく。講義の内容で興味のあることをさらに調べノートに書いておく。	本講の要となる内容を理解し、それに対して自分のコメントを加えながら説明できること。		講義とディスカッション
		感覚とコミュニケーション(2)	錯覚と現実	個別言語と内在速度				講義とアクティブラーニング
11/28 木 4限	浅野 恵子	日常のコミュニケーション(1)	何気ない会話とは	雑談の複雑さ	配布資料を予め読み、知識を得ておく。講義の内容で興味のあることをさらに調べノートに書いておく。	本講の要となる内容を理解し、それに対して自分のコメントを加えながら説明できること。		講義とディスカッション
		日常のコミュニケーション(2)	コミュニケーションが苦手であるとは	雑談分析				講義とアクティブラーニング
12/5 木 4限	浅野 恵子	集団行動におけるコミュニケーション(1)	集団と個人の違い	社会行動	配布資料を予め読み、知識を得ておく。講義の内容で興味のあることをさらに調べノートに書いておく。	本講の要となる内容を理解し、それに対して自分のコメントを加えながら説明できること。		講義とディスカッション
		集団行動におけるコミュニケーション(2)	集団と個人の違い	社会行動				講義とアクティブラーニング
12/12 木 4限	浅野 恵子	集団心理から見たコミュニケーション(1)	日本文化と集団	集団心理	配布資料を予め読み、知識を得ておく。講義の内容で興味のあることをさらに調べノートに書いておく。	本講の要となる内容を理解し、それに対して自分のコメントを加えながら説明できること。		講義とディスカッション
		集団心理から見たコミュニケーション(2)	日本文化と集団	集団心理についての問題を解く、解説				講義とアクティブラーニング
12/19 木 4限	浅野 恵子	嘘のコミュニケーション(1)	嘘と身体表現(表情)、ヒトはなぜ嘘をつくのかわ	表情と筋肉の関係、	配布資料を予め読み、知識を得ておく。講義の内容で興味のあることをさらに調べノートに書いておく。	本講の要となる内容を理解し、それに対して自分のコメントを加えながら説明できること。		講義とディスカッション
		嘘のコミュニケーション(2)	嘘と身体表現(表情)、嘘を暴く	表情筋から感情と読みとる				講義とアクティブラーニング
1/9 木 4限	浅野 恵子	コミュニケーションとは、再びまとめ(1)	コミュニケーションするとはどういうことか	「言葉で治療する」	配布資料を予め読み、知識を得ておく。講義の内容で興味のあることをさらに調べノートに書いておく。	本講の要となる内容を理解し、それに対して自分のコメントを加えながら説明できること。		講義とディスカッション
		コミュニケーションとは、再びまとめ(2)	全体の総括	「言葉で治療する」エッセイを読んで感想				講義とアクティブラーニング

科目名	科目コード	単位数	責任者
生きる意志(倫理学)	SHS 105	1	長沼 淳
学習内容・概要			
<p>われわれが社会生活を他者とともに営むということは、どのようなことなのか。われわれが行なう判断の正当性、根拠、背景を考察、検討することによって、「私」のみを判断主体として祭り上げる「自己決定-自己責任」論の危うさ、脆さを検討する。さらに「他人に迷惑をかけなければ何をやってもよい」とか「自分のことは自分で決める」という言説の持つ曖昧さ、危険性を、現実が発生している具体的な問題を例として自己決定の内実を検証していきたい。それと同時に、当たり前のことに対して「なぜ？」と問うことの意味、「社会的存在」としての「私」と「絶対的な存在」としての「私」の違いと、いわゆる「倫理的な問題」の関係を検討していく。</p> <p>こうした検討をふまえて、「患者主体の医療」や「患者の自己決定権」という言説が持つ意味とその可能性および限界を「生殖医療」や「終末期医療」といった具体的事例に基づき検討していく。これらの検討から、倫理学が果たしうる役割を明らかにすることを目的とする。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>倫理学の基本概念の習得と医学・医療における倫理の位置づけの理解を目的とする。その上で、具体的な医療上の課題を取り上げつつ、そこで倫理が求められる理由、果たしうる役割などについて基本的な理解の獲得を目指す。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理的に生きるとはということかについての基本的な見通しを立てることができる。</li> <li>2. 個人の尊重と倫理の関係について理解することができる。</li> <li>3. 規範を守ることの本質について理解することができる。</li> <li>4. 善悪と個人の価値観の関係について理解することができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>現在医療において倫理は不可欠の要素となっているが、それは研究を遅らせたりすることを役割としているわけではない。社会内存在としての医学・医療の妥当性を確保し、その可能性を十分に追求するための環境を整える装置として理解されていると考えるべきである。個別の医療トピックを考える際にも、それがどのように社会的な了解を得て実現しているのか、その配慮に対する洞察が求められていると考えてほしい。倫理問題への手がかりは講義内に存在しているのではなく、日常生活上、報道やドキュメンタリーにおいて、などなど多様なところに存在しているものである。そういうきっかけを見逃さないような注意深さも期待したい。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>他者の意思を尊重することと他者に関して無頓着でいることとは異なるものである。人が他人と共に生きるとはどういうことなのか、相異なる価値観同士の衝突、齟齬はどうやって乗り越えられるべきなのか。「絶対的な判断基準などない」ということと「何をやってもよい」ということの違いから、「正しく生きる」、「よく生きる」という言葉が意味するところを考えたい。</p> <p>同時に、人と関わることなしにはありえない医療における、他者との関わり方を検討し、「生命倫理」、「医療倫理」が目指すところを、解明していく。そのため、普段より適切な自己決定とは何か、他人の自己決定に自分は如何に関わりうるかということ意識してほしい。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p> <p>また、授業テーマを設定する際にも学生との対話に基づき、課題やレポートに対するフィードバックを総合的に行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 出席に加え、毎時間提出してもらった小レポートと授業内に課すレポート、学期末の試験を総合的に判断し、最終的な評価を下す。授業は講義形式を基本とするが、展開に応じて一緒に考えていく作業も適宜行う。 また到達目標にどの程度達しているかという観点からも評価を行う。 定期試験(80%)、課題レポート1回(10%)、平常点(10%)を総合して評価する。</p> <p>成績評価基準: 1.医学医療、生命科学、環境学などの問題について、その概略を理解している。(定期試験) 2.その上で自らの見解を説得的に述べるができる。(定期試験) 3.生き方の自己決定がはらむ他者との関係性構築の困難さを理解している(レポート) 4.授業中の発言や毎授業で行う小レポートの取り組み状況によって受講態度を評価する。(平常点)</p>	<p>教科書は用いない。参考書などは授業内において適宜指示する。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/11 木 4限	長沼 淳	オリエンテーション						
		倫理学とは	倫理学の歴史	アリストテレス、ベンサム、サルトル		原理原則の理解		講義
4/18 木 4限	長沼 淳	医療倫理の起源	ヒポクラテスの誓い 医は仁術	ヒポクラテス、貝原益軒	パターナリズムの有用性について考える	専門家と一般人の役割について理解する	患者の立場と医師の立場	講義
		医療倫理の変容	ニュルンベルク綱領 ヘルシンキ宣言	人体実験と医療技術の進歩	インフォームド・コンセントはなぜ必要なのかを考える	医学の発達と患者の権利の相関性を理解する	パターナリズムの限界	講義
4/25 木 4限	長沼 淳	医療倫理と生命倫理	タスキギー研究とベルモントレポート	社会的弱者と医療	患者の主体性とは何かを考える	医学研究倫理の一つの到達点を理解する	研究の倫理と臨床の倫理の違いを考える	講義
		医療倫理と生命倫理	情報・理解・任意性	自律した個人	患者の主体性とは何かを考える	理性的な人間と医療の関係を理解する	自律の意味を考える	講義
5/9 木 4限	長沼 淳	自己決定権の歴史	自分のことを自分が決める	デカルト、カント、ミル	「自分のこと」とは何か	自己決定権をとりあえず理解する	視点の取り方に注意深く	講義
		自己決定権の理解(1)	判断能力のある大人とは誰のことか	判断能力の有無	自分には判断能力が十分に備わっているのか考える	自己決定の主体を理解する	自分はしっかりした大人か	講義
5/16 木 4限	長沼 淳	自己決定権の理解(2)	私のものとは何か	所有の共同性	私の身体は私のものか考える	自己決定の対象を理解する	私のものだから私の好きにしたい？	講義
		自己決定権の理解(3)	他者危害の原則	独立した個人	他人に迷惑をかける生き方考える	私は多くの人に囲まれて生きていることを理解する	誰にも迷惑をかけていない？	講義
5/23 木 4限	長沼 淳	自己決定と他者決定(1)	私らしく生きるために	愚行権	私の幸せは私が決める？	自己決定権の意義を理解する	自己決定と他人のアドバイス	講義
		自己決定と他者決定(2)	他人がその人らしく生きるために	他者の愚行権	他人の幸せはその人が決める？	自己決定の限界を理解する	アドバイスとおせっかい	講義
5/30 木 4限	長沼 淳	義務と権利(1)	リバタリアニズム	自由と公共性	人間は生まれながらに皆平等だろうか	人間の価値が平等だといわれる理由を理解する	視野を広くしよう	講義
		義務と権利(2)	コミュニタリアニズム	公共性と人間の尊厳	今の私はどのようにしてできあがっているのか	同上	同上	講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/6 木 4限	長沼 淳	映像資料を使って考える	生きる義務と死ぬ権利	選ばれた生命	親は子どもを愛し、子どもはそれに応える？	悩みは尽きないことの理解	善意が重荷になる	ビデオ視聴
		続き	続き	続き	続き	続き	続き	続き
6/13 木 4限	長沼 淳	医療の倫理(1)	補助生殖医療	正常と異常	異常は正さなければならないのか	普通とは実在するのかについて自分なりの見解が述べられる	自分は普通だろうか	講義
		医療の倫理(2)	デザイナーベビーと救世主兄弟	姉は幸せだったのか	ビデオの捉えなおし	普通に生きることが問題となることの理解	普通の人とは誰のことか	講義
6/20 木 4限	長沼 淳	医療の倫理(3)	先端医療	健康と病気	健康は義務なのか	健康とは何なのかについて考え続けることができる	病気は悪だろうか	講義
		医療の倫理(4)	前半を振り返る	総括	総括	これまでの総括	総括	情報共有
6/27 木 4限	長沼 淳	環境倫理について(1)	環境問題とは	環境倫理の起源	環境問題はリサイクルで解決するのか	エコロジーの理解	環境倫理の医療・生命倫理との類似性にも目を向けること	講義
		環境倫理について(2)	環境はなぜ問題になるのか	環境倫理の展開	地球にやさしい生活を考える	エコな生活の理解	土地倫理	講義
7/4 木 4限	長沼 淳	環境倫理の課題(1)	環境倫理が困難な理由	世代間倫理と南北問題	現在と未来のどちらを優先すべきなのか	地球に優しくないのは誰かの理解	貧困問題	講義
		環境倫理の課題(2)	豊かさの追求	持続可能な社会	地球環境を保護することで何を守ろうとしているのか	環境保護の目的の理解	人口爆発	講義
7/11 木 4限	長沼 淳	環境倫理の課題(3)	環境保護が目指すもの	持続的成長と環境	何のための環境保護か	課題の分節化と再構築	リサイクル	講義
		同上	同上	同上	同上	医療の倫理と構造が類似していること	豊かさ	講義
7/18 木 4限	長沼 淳	まとめ	生命、医療、環境の倫理は終わらない	私と他者	総括としてのレポート作成の準備を行う	考え続ける意識を持ち続けること		

科目名	科目コード	単位数	責任者
医療社会学	HSH 107	1	佐伯 みか
学習内容・概要			
「医師を取り巻く社会問題(※)」と「自己」を知る ※: 尊厳死、延命治療から症状緩和移行期の諸問題、医師—患者関係、医師—看護師関係、医療事故、医療訴訟など			
学習目標			
[一般目標] これまで到達できなかった「自分の原点」を探り、言語化する			
[到達目標] 1. 医療ミス・事故・訴訟の発生過程・防止策を理解した上で、医師として取り組むべき事項を、“自分の言葉”で語る事ができる(言語化)。 2. 「尊厳死」をめぐる国内外の世論の変遷を理解した上で、「人間」、「医師」として、自身が生命にどう向き合うかを、“自分の言葉”で語る事ができる(言語化)。 3. 「医師・患者関係」を理解した上で、「患者満足」や「専門職としての使命」の観点から「医療行為の最終目的」について、“自分の言葉”で語る事ができる(言語化)。 4. 「チーム医療」が成立しない背景と影響を学んだ上で、「医療現場におけるリーダーシップ」の在り方について、“自分の言葉”で語る事ができる(言語化)。 5. 「医療の質」とは何か、「医療の質」を維持・向上させるために医療界及び医師として何をすべきかを、“自分の言葉”で語る事ができる(言語化)。 6. 上記5点を踏まえた上で”医療現場で、「一人の人間」として、「医師」として、何をしたいか(自分の原点)”について、“自分の言葉”で語る事ができる(言語化)。 7. 自ら紡ぎ出した”自分の言葉”を、今後醸成していくことの重要性について理解できる(言語化)。			
自己学習(準備学習)			
<p>■ プレゼン担当者は、準備をしてください :5-6時間程度</p> <p>■ プレゼンしない場合も、毎回、テーマを設けるので、テーマについて十分考えた上で出席してください :30分~1時間程度(講義期間中、常に考え続けることをお勧めします)</p>			



学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 医療を取り巻く社会問題と自分自身のあり方について強い関心のある方、更に思考を深めたい方、そのための努力をする意思のある方のみ、履修ください。</li> <li>■ 授業中は、頭と心をフル回転します。できない方は、ご退出ください。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
成績評価方法: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 出席・参画状況、ミニレポートの内容(65%)</li> <li>■ プレゼン・最終レポート内容(35%)</li> </ul> 成績評価基準:以下2つの観点から評価する <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各テーマに対する総合的な理解度(ミニレポート及びプレゼン・最終レポート)</li> <li>■ ”自分の言葉”で言語化できているか(ミニレポート及びプレゼン・最終レポート)</li> </ul>	

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 2限	佐伯 みか	オリエンテーション1 -常識的な医療社会学	◎なぜ、医療社会学を学ぶべき(学んでほしい)か?	学際性、複眼性	サブ・タイトルの問いについて、考察する。	本講義のキーワード「学際性」、「複眼性」を理解し、次回以降の講義にて、医療の社会問題を構造的に理解するための基盤をつくる。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		オリエンテーション2 -問題志向の医療社会学						
4/22 月 2限	佐伯 みか	今の自分を識る/自分の原点を言語化する1 -解放する	◎なぜ、自分は、「医師」になるのか ◎一人の人間として、何をしたいのか	自分の原点、言語化、嘘、引き出し	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	今の自分を識る/自分の原点を言語化する。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		今の自分を識る/自分の原点を言語化する2 -深める						
4/27 土 2限	佐伯 みか	前回授業の続き						講義 討議
5/13 月 2限	佐伯 みか	医療ミス・事故・訴訟の原因	◎なぜ、医療ミス・事故・訴訟は起こるのか?  ◎我々は、何をすべきか?	過失、予見可能性、回避可能性、隠れた欠陥  国(厚労省)、学会、医療機関、エラーブルーフ、RCA、FMEA	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	医療ミス・事故・訴訟の発生過程・防止策を理解した上で、医師として取り組むべき事項を、“自分の言葉”で語ることができる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		医療ミス・事故・訴訟の対策						
5/20 月 2限	佐伯 みか	医療技術の進歩がもたらした倫理・社会問題1 -尊厳死にどう向き合うべきか?	◎尊厳死にどう向き合うべきか? ◎生命は誰のものか? ◎医療の役割は? 医師の役割は?	尊厳死、制度、国際比較	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	「尊厳死」をめぐる国内外の世論の変遷を理解した上で、「人間」、「医師」として、自身が生命にどう向き合うかを、“自分の言葉”で語ることができる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		医療技術の進歩がもたらした倫理・社会問題2 -国際比較						
5/25 土 2限	佐伯 みか	医療技術の進歩がもたらした倫理・社会問題3 -自己の感覚・認識を開放する	◎ロジックと感情	1人称の死、2人称の死、3人称の死	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	「尊厳死」をめぐる国内外の世論の変遷を理解した上で、「人間」、「医師」として、自身が生命にどう向き合うかを、“自分の言葉”で語ることができる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		医療技術の進歩がもたらした倫理・社会問題4 -自己の感覚・認識を深める						
5/27 月 2限	佐伯 みか	患者満足1 -医師のジレンマ	◎医師は「患者満足」をどこまで追求すべきか?	患者満足・納得、医師の認識・納得、プロフェッショナル	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	「患者満足」の本質が理解できる。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		患者満足2 -医師の使命/医療とは?						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/3 月 2限	佐伯 みか	医師－患者関係1 －医師の観点	◎医療行為は、何のために存在するのか？優先順位はどうあるべきなのか？	医師－患者関係 隠された認識ギャップ	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	「医師・患者関係」を理解した上で、「患者満足」や「専門職としての使命」の観点から「医療行為の最終目的」について、「自分の言葉」で語る事ができる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		医師－患者関係2 －患者の観点						
6/10 月 2限	佐伯 みか	医師－看護師関係1 －チーム医療を掘り下げる	◎医師は看護師からどうみられているか？医師と看護師の関係の理想は？	役割期待、役割認知、役割葛藤、協働	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	「チーム医療」不成立が成立しない背景と影響を学んだ上で、「医療現場におけるリーダーシップ」の在り方について、「自分の言葉」で語る事ができる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		医師－看護師関係2 －リーダーシップの本当の意味						
6/17 月 2限	佐伯 みか	医療の質向上・保証1 －産業界から学ぶべきこと	◎なぜ、トヨタの車は壊れないのか？ ◎なぜ、トヨタへの信頼は厚いのか？	QC、TQM、見える化など	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	「医療の質」とは何か、「医療の質」を維持・向上させるために医療界及び医師として何をすべきかを、「自分の言葉」で語る事ができる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		医療の質向上・保証2 －手法・ツール・観点						
6/22 土 2限	佐伯 みか	医療の質向上・保証3 －「質」とは？	◎そもそも、「質」とは何か？なぜ「質」が重要なのか？	QC、TQM、見える化など	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	「医療の質」とは何か、「医療の質」を維持・向上させるために医療界及び医師として何をすべきかを、「自分の言葉」で語る事ができる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		医療の質向上・保証4 －「質」が重要な理由とは？						
6/24 月 2限	佐伯 みか	医療の質向上・保証5 －医療の質の構成要素・評価指標	◎医療の質は、どのように保証・向上できるのか？そのために医師がすべきことは何か？	医療の質の構成要素、評価指標	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	「医療の質」とは何か、「医療の質」を維持・向上させるために医療界及び医師として何をすべきかを、「自分の言葉」で語る事ができる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		医療の質向上・保証6 －質の向上・保証のためにできることは？						
7/1 月 2限	佐伯 みか	自分の原点と医療・医師1 －自分だけの言葉で語る	◎自分は、何をやる人間か？～この授業を受けて～	自分の原点、変化、引き出し	サブ・タイトルの問いについて、言語化・発表する(前の授業で、課題について詳細に説明する)。	学習したことを踏まえた上で「医療現場で、「一人の人間」として、「医師」として、何をしたいか(自分の原点)」について、「自分の言葉」で語る事ができる(言語化)。 自ら紡ぎ出した「自分の言葉」を、今後醸成していくことの重要性について理解できる(言語化)。	授業中は、頭と心をフル回転する。	講義 討議
		自分の原点と医療・医師2 －自分だけの言葉を感じる						
7/8 水 2限	佐伯 みか	まとめ						

科目名	科目コード	単位数	責任者
医療の経済学	HSH 108	1	猪俣 武範
学習内容・概要			
<p>少子高齢化、医療の高度・高額化に伴い医療費は増加の一途をたどっており、年間40兆円を超える日本の国民医療費は、深刻な財政リスクとなってきた。一方で、医師の働き方改革にあるように、限られた医療資源の効率的な活用が求められている。さらに、医師は他職種から形成されるチーム医療のリーダーとして診療をマネジメントする必要がある。そこで、本講座では、リーダーシップやマネジメント能力、ネットワーキングスキル、キャリア形成、教養や貢献などを講義、演習から学習する。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師として必要なマネジメント、リーダーシップ能力を醸成する。</li> <li>2. ネットワーキング、交渉力を理解し、自己と他者の主張を理解する。</li> <li>3. プレゼンテーションの経験を積む。</li> <li>4. 医学生として医療に関わる様々な教養を身につける</li> </ol>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. マネジメント、リーダーシップの基本的な考え方を身につけることができる</li> <li>2. 自分の主張を論理的に議論できる</li> <li>3. プレゼンテーションができる</li> <li>4. 医療に関わる様々な教養を身につけることができる</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>事前に授業範囲の予習が望ましい。ケーススタディー*などは事前に配布し、設問を検討する必要がある。コースを通じた課題作成があり。  必要時間 (予習90分、復習90分)  初回のガイダンスで詳細は説明する</p>			

学習上の注意点	
<p>本講義では、リーダーシップや貢献など目に見えないソフトスキルの充実を目指すため、演習実習が多く存在する。そのため、授業出席と授業における発言や貢献などを重視する。また思考法やリーダーシップなど無形資産を広く扱うため、必ずしも授業において明確な正解がない場合もある。授業ではプレゼンテーションなどおこなうため、PCの持参必須。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>レポートや演習に関しては、講義中に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:授業点(70%)、定期試験(30%)を総合して評価する。</p> <p>成績評価基準:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の出席状況进行评估する</li> <li>2. 授業中の発言やグループワークにおける貢献进行评估する</li> <li>3. 定期試験における本講義の理解度进行评估する</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハーバード×MBA×医師 目標を次々に達成する人の最強の勉強法(猪俣 武範)</li> <li>・MBAオペレーション戦略(遠藤 功)</li> <li>・医療戦略の本質(山本雄士)</li> <li>・医療マーケティング(真野 俊樹)</li> <li>・最新判例にみるインターネット上の名誉毀損の理論と実務(松尾剛行)</li> <li>・医療戦略の本質(山本雄士)</li> <li>・会計の基本(岩谷誠治)</li> </ul>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 4限	猪俣武範	ガイダンス		MBA	目標を次々に達成する人の最強の勉強法(猪俣武範)	本講義の進め方と講義を通じて獲得すべき知識について理解する。	講義の進め方を具体的に示す。	講義・討論
		経営学とリーダーシップ	医師において経営学とリーダーシップはなぜ必要か?	マネジメント、リーダーシップ	なし	医師におけるマネジメントとリーダーシップの必要性を理解する		実習・討論
4/22 月 4限	猪俣武範	ゲーム理論	競争と共走とは	ゲーム理論、社会貢献	なし	ゲーム理論を通じて共走と貢献について理解する		講義・討論
		ゲーム理論演習	ゲーム理論の演習をおこなう	ゲーム理論、社会貢献	なし			実習・討論
4/27 土 4限	猪俣武範	経営戦略	ミッション、ビジョン、ストラテジーとは	経営戦略、ミッション、ビジョン、ストラテジー	予習: 医師を目指した理由をパワーポイント4枚で作成する	ミッション、ビジョン、ストラテジーの違いについて理解する。	パソコン持参	実習・討論
		プレゼンテーション演習	ネットワークスキル	ミッション、ビジョン、バリュー、ネットワークスキル		自分のミッション、ビジョン、バリューを説明できる		
5/13 月 4限	株式会社 ピー・シー・ピー 代表取締役 公認会計士 朝倉徹太郎	会計学入門	医療における会計学	会計、ファイナンス、	予習: 会計の基本(岩谷誠治)1章会計とは	会計学の基礎を理解する。		講義・討論
5/20 月 4限	グロービス経営大学 院 金子浩明	オペレーション概論	オペレーションズマネジメントとは	オペレーションズマネジメント、経営効率	MBAオペレーション戦略(遠藤功)	オペレーションの基礎を理解する		講義・討論
		オペレーション演習						実習・討論
5/25 土 4限	猪俣武範	セルフブランディング①	マーケティングとセルフブランディングとは	マーケティング、ブランディング	予習: 履歴書を作成してくる	セルフブランディング	パソコン持参	講義・討論
								実習・討論
5/27 月 4限	革新的医療技術 開発研究センター 准教授 平野景子	医療経済学と医療政策	市場の選択と医療政策とは何か	医療経済学、医療政策、市場原理	なし	医療経済と医療政策を理解する		講義・討論

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/3 月 4限	猪俣武範	医療マーケティング概論	医療におけるマーケティングの重要性	マーケティング、ブランディング	予習: 自己紹介のパワーポイントを作成してくる	マーケティングとブランディングの基礎を理解する	パソコン持参	講義・討論
		セルフブランディング②	セルフブランディング演習					実習・討論
6/10 月 4限	猪俣武範	交渉術	交渉術	交渉術、プレゼンテーション	なし	交渉術の基本を理解する		講義・討論
		交渉術演習						実習・討論
6/17 月 4限	京都大学iPS細胞 研究所 三嶋雄太	iPS細胞とレギュラトリーサイエンス	研究のエコシステム	iPS細胞、レギュラトリー、エコシステム、研究	なし	最新の研究とレギュラトリーサイエンスについて理解する		講義・討論
6/22 土 4限	猪俣武範	グローバルヘルスケア	ヘルスケアビジネスの最先端	ヘルスケア、ビジネス、イノベーション	なし	ヘルスケアの最先端について理解する		講義・討論
		ビジネスプラン						実習・討論
6/24 月 4限	東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻個別化保険医療講座 中村正裕	AIと医療	ヘルスケアとイノベーション	人工知能、AI、ビックデータ、アプリ、IoT、個別医療、先制医療	なし	AI、ビックデータ、IoTなどの用語を理解する	パソコン持参	講義・討論
		ビジネスプラン発表						実習・討論
7/1 月 4限	桃尾・松尾・難波 法律事務所 弁護士 松尾剛行	ビジネス法	次世代のリーダーに必要な法律知識	ビジネス法、リーダーシップ、法律、ガバナンス	なし	ビジネスに関わる法律を理解する		講義・討論
7/8 月 4限	猪俣武範	ワークライフバランスと医師の働き方改革	医師の働き方を再考する	ワークライフバランス、働き方改革	なし	医師の働き方改革について理解する		講義・討論
		クロージング				まとめ		講義

科目名	科目コード	単位数	責任者
医療行為と法	HSH 109	1	池田 良彦
学習内容・概要			
<p>近年の医療の発展は、目覚ましいものがあるが、それに伴い国民の生命観や倫理観についても変化が生じている。人間の誕生をめぐる問題では、出生前診断、人工授精、体外受精、代理母など、終末期の医療では、脳死臓器移植、安楽死、尊厳死など、最近の医療技術の進歩が従来の倫理観とどのように向かい合うべきかが重要な問題である。これは医療に従事する者(医師、看護師などのコ・メディカルなど)も医療を受ける患者側も十分に議論を重ねるべき問題である。このように最近の医療技術の進歩がもたらした問題をと、社会規範(倫理・法)との関係を、法律的な側面から考えるのが本講義の目的とするところである。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標] 法的なものの考え方を習得する。</p>			
<p>[到達目標] 1.現代社会における法の意味について理解できる。 2.法が求める責任について、刑事・民事・行政の責任の根拠の違いを理解できる。 3.医療行為と法的責任の関係を理解できる。 4.契約医療におけるinformed consentの役割について理解できる。 5.終末期の医療、とりわけ安楽死・尊厳死の問題を法律的な側面から理解できる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>法律に親しむことが必要で、法とは何かについての基本書を読むことを勧める。 【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
人間の行為規範を定めたものが法律であり、それが社会規範となり、人間社会のルールとなることを理解してもらいたい。	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: レポート点と期末試験とを総合評価する。</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>教科書は指定しないが、参考書を挙げる。「なぜ日本では臓器移植がむずかしいのか」(東海大学出版会)、「導入対話による医事法講義」(信山社)</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/17 火 1限	池田 良彦	法解釈の基礎①	法的ものの考え方とは、どのようなものか。	リーガルマインド、行為規範、社会規範	法とは何かについて考えてみる。	法解釈の基礎である法、道徳倫理を背景とした行為規範、社会規範の形成過程について習得する。	特になし	講義
9/24 火 1限	池田 良彦	法解釈の基礎②	倫理、法、社会規範について。	法、道徳、宗教、慣習倫理	同上	同上	同上	講義
10/1 火 1限	池田 良彦	法解釈の基礎③	法的基準の相対性について。	自然法、実定法、判例法	同上	同上	同上	講義
10/8 火 1限	池田 良彦	法的責任①	刑事責任について。	構成要件該当性、違法性、有責性	法の支配の意味を考えてみる。	法的責任の根拠を理解する。刑事責任、民事責任、行政責任の根拠を理解する。	同上	講義
10/15 火 1限	池田 良彦	法的責任②	民事責任について。	不法行為責任、債務不履行責任	同上	同上	同上	講義
10/29 火 1限	池田 良彦	法的責任③	行政責任について。	国家賠償責任、行政処分	同上	同上	同上	講義
11/5 火 1限	池田 良彦	個人の尊厳と法①	基本的責任の発展過程。	基本的人権、個人の尊重、幸福追求権	患者の権利について考えてみる。	医療行為と人権の関係を理解する。	同上	講義
11/12 火 1限	池田 良彦	個人の尊厳と法②	基本的人権は公共の福祉を理由に制限できるか。	人格権、プライバシー権、公共の福祉	同上	同上	同上	講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/26 火 1限	池田 良彦	出生に関する法律問題①	出生前診断と人権問題	子どもの権利、人権	子供の人格権について考えてみる。	生命誕生をめぐる法律問題を理解する。	同上	講義
11/30 土 1限	池田 良彦	出生に関する法律問題②	代理母	子どもの権利、戸籍法	同上	同上	同上	講義
12/3 火 1限	池田 良彦	終末期医療の法律問題①	人間の尊厳と医療の限界	脳死臓器移植法	安楽死、尊厳死について考えてみる。	三兆候説と脳死概念について理解する。	同上	講義
12/10 火 1限	池田 良彦	終末期医療の法律問題②	患者の法的権利について。	インフォームドコンセント、患者の権利	同上	安楽死、尊厳死について法的問題を理解する。	同上	講義
12/17 火 1限	池田 良彦	まとめ	医療行為と法のまとめ		医療行為と法の争点を考えてみる。	医療行為をめぐる法律問題についてその論点を理解する。	同上	講義
1/7 火 1限	池田 良彦	予備日						

科目名	科目コード	単位数	責任者
文化の中の健康	HSH 110	1	湯浅 資之
学習内容・概要			
<p>文明とは普遍的、合理的なもので、世界どこでも共通の価値を有すると考えられる。医学部で学ぶ医学や医療の講義の多くが、文明の中の健康に焦点を当てたものである。他方、文化とは特殊的、不合理的なものであり、地域や集団によりその価値は大きく異なるものである。人間は文明の中で生活もしているが、文化の中でも生活する存在である。それぞれ異なる文化の中に生きる患者に接するとき、異文化理解は重要であり、文化の中で健康を考える視座を身につけることが必要となる。本授業では、様々な文化の視点から健康や疾病を考えることを通して、文化の中で健康を捉えることができるようになることを目的とする。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>医学・医療はひとびとの疾患や病いを癒すことが目的であり、「自然科学」と位置づけられている。しかし、現実には世界各地の文化によって何が病気なのか、何が健康なのか、ひとびとの健康観、病気観が異なっている。本講義では健康と病気、医療について文化の中で考えられるようになることを目的とする。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化の特徴について自分の言葉で説明できる。</li> <li>2. 文化の中での健康の有り様を考える重要性を理解する。</li> <li>3. 臨床医として様々な文化背景を有した患者と接するとき心がけるべき姿勢について自分の言葉で説明できる。</li> <li>4. 文化の中で健康を考える事例を一つ挙げるができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文明と文化の違いを調べておく。</li> <li>2. 文化の中の健康の事例を調べ、説明できるようにしておく。</li> <li>3. 文化人類学的視点から見た健康観、疾病概念にどのようなものがあるか、事前に調べておく。</li> </ol> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、復習:45分</p>			

学習上の注意点	
従来からの考え方にとらわれず、新鮮な気持ちをもって自分の頭で考えることを望みたい。	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 出席率と最終講義に提示される課題に対するレポートの提出で評価する。</p> <p>成績評価基準: 個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>「医療人類学:世界の健康問題を解き明かす」アン・マケロイ、パトリシア・K.タウンゼント、大修館書店、1995</p> <p>「医療人類学入門(朝日選書)」波平恵美子、朝日新聞社、1994</p> <p>「国際保健・看護」丸井英二・森口育子・李節子、弘文堂、2012</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/18 水 2限	公衆衛生学講座 佐藤 准子	文化の中の健康とは①		文明とは文化とは、発展途上国	文化の視点から健康について考え、自分なりの意見を整理しておく。	世界の多様な文化における健康について説明できる。		講義
		文化の中の健康とは②						
9/25 水 2限	病理学第二講座 樋野 興夫	がん哲学①	人は、がんとともにどのように生きていくのか	がん、病い、文化、精神	文化の視点からがんについて考え、自分なりの意見を整理しておく。	がんと文化の関連について説明できる。		講義
		がん哲学②						
10/2 水 2限	公衆衛生学講座 岡本 裕樹	ソーシャル・キャピタルと健康—北海道日高地方並びに福島県奥会津地方を事例に—①		信頼、規範、ネットワーク、地域高齢社会、社会格差、健康の不平等	文化の視点から社会のつながりと健康について考え、自分なりの意見を整理しておく。	社会的つながりと健康の関連を説明できる。		講義
		ソーシャル・キャピタルと健康—北海道日高地方並びに福島県奥会津地方を事例に—②						
10/9 水 2限	医学教育研究室 小柳 祐華	世界の伝統医療①		伝統医療の歴史、現代社会における伝統医療	文化の視点から伝統医療について考え、自分なりの意見を整理しておく。	伝統医療と文化の関連について説明できる。		講義
		世界の伝統医療②						
10/16 水 2限	国際教養学部 白山 芳久	伝統的治療と近代公衆衛生学による治療と予防①		伝統的治療、住民参加型活動	自然宗教のもとでは人々は病いをどのように捉え対応してきたか、自分なりの意見を整理しておく。	異なる文化背景を持つ人々の健康への介入について説明できる。		講義
		伝統的治療と近代公衆衛生学による治療と予防②						
10/23 水 2限	公衆衛生学講座 井上 智貴	在宅医療の現場から①		訪問診療、高齢者、障害者、リハビリテーション、在宅での看取り	文化の視点から在宅医療について考え、自分なりの意見を整理しておく。	在宅医療と文化の関連について説明できる。		講義
		在宅医療の現場から②						
10/30 水 2限	国際教養学部 (本草薬膳学院) 辰巳 洋(なみ)	人生は即ち食—食薬同源・食医同源①	中医薬膳学について	中位学・薬膳学、古くから伝承される食生活概念	文化の視点から食について考え、自分なりの意見を整理しておく。	食と文化の関連について説明できる。		講義
		人生は即ち食—食薬同源・食医同源②						
11/6 水 2限	池沢神経科病院 精神科 儀藤 政夫	日本文化の中の精神医療①	日本と欧米の精神医療の歴史を比較して	精神医療の歴史、精神疾患と科学、レジリエンス、これからの精神保健福祉	文化の視点からメンタルヘルスについて考え、自分なりの意見を整理しておく。	精神保健と文化の関連について説明できる。		講義
		日本文化の中の精神医療②						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/13 水 2限	公衆衛生学講座 野田 愛	社会格差と健康格差①		社会格差、健康格差、生活	文化の視点から健康格差について考え、自分なりの意見を整理しておく。	格差と文化の関連について説明できる。		講義
		社会格差と健康格差②						
11/27 水 2限	公衆衛生学講座 遠藤 源樹	就労と健康①		働き方改革、就労、両立支援	文化の視点から就労について考え、自分なりの意見を整理しておく。	就労と文化について説明できる		講義
		就労と健康②						
12/4 水 2限	公衆衛生学講座 神作 麗	世界の多様な文化における健康①		日本における外国人の医療、文化と病気、伝統医療と民間療法	文化に特有な健康観や疾病概念にがあるか事前に調べておく。	多様な文化と健康の関連について説明できる。		講義
		世界の多様な文化における健康②						
12/11 水 2限	公衆衛生学講座 和田 裕雄	文明と睡眠①		交代勤務、睡眠時無呼吸症候群、睡眠と生活習慣病	文明の視点から睡眠について考え、自分なりの意見を整理しておく。	睡眠と文化・文明の関連について説明できる。		講義
		文明と睡眠②						
12/18 水 2限	公衆衛生学講座 友岡 清秀	現代における鍼灸治療①		鍼灸、伝統医療	文化の視点から現代社会における鍼灸治療の意義について考え、医師としてどのような関わりができるか、自分なりの意見を整理しておく。	現代社会における鍼灸治療の意義について説明できる。		講義
		現代における鍼灸治療②						
1/8 水 2限	公衆衛生学講座 佐藤 准子	文化の中の健康:まとめ①	課題提示	文化、健康	これまでの講義で理解したことを整理しておく。	文化の中で健康を見る視点の重要性を説明できる。		講義
		文化の中の健康:まとめ②						

科目名	科目コード	単位数	責任者
新しい世界を拓いた人々	ELE 101	1	田中和廣
学習内容・概要			
<p>医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部の3学部の学生を対象として、共通開講する一般教養の選択科目です。本学の全ての学部の一般教養担当教員を中心とした7名の教員が、それぞれの専門とする分野からインパクトのある話題、興味深い話題を選び、わかりやすく紹介します。特に、各分野に貢献した人物を糸口にして、分野の発展におけるターニング・ポイントにスポットを当てるほか、現在注目を浴びているホットな話題も取り上げます。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標] 人文科学から自然科学に至るまで、幅広い様々な内容に関心を持ち、互いに意見を交換し、視野を広げ、考えを深めることを目標とします。</p>			
<p>[到達目標] 1.人文科学から自然科学に至るまで、幅広い様々な内容に関心を持つことができる。 2.所属学部にとらわれることなく他学部の学生とも積極的に交流して意見を交換できる。 3.物事を様々な視点から考えることができる。 4.チームでの討論を通して、問題点を掘り下げその解決策を提案することができる。 5.自分の意見をわかりやすく具体的に述べ、簡潔な文でまとめることができる。</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>3学部の学生が混合するようにグループを作り、グループ・ディスカッションをする時間を授業の中に設ける予定です。コミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性を高め、ディスカッションに積極的に取り組めるよう準備をしておくこと。 ①良い、悪い、驚いた等と感じたことがどの点であるかを、具体的に述べ簡潔な文でまとめられるようにしておくこと。 ②自分の意見をわかりやすくまとめて述べられるようにしておくこと。 ③通り一遍の意見にならないよう、自分の意見を掘り下げ深めようとする習慣をつけること。 ④理路整然とした筋の通った文章を書く訓練をしておくこと。 これらについて常日頃から意識して心掛け、身に付けるよう努めることが大切である。 また、この授業で登場する“新しい世界を拓いた人々”のエピソードや、授業のグループ・ディスカッションを通して自分の仲間たちの考え方からも学び、21世紀を生きていくために自分にとって不可欠な教養にどんなものがあるか考え、それらを大学生活および生涯にわたってどう学習していくか計画をたて実行に移していく。</p>			
<p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】1時限あたり 予習:1時間、復習:1時間</p>			



学習上の注意点	
<p>対象:医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部の1年生(ただし、スポーツ健康科学部は2年生以上も履修できます。)</p> <p>受講希望者多数の場合は、抽選をすることもあります。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>グループ・ディスカッションの内容を発表して全体で議論したり、各回の授業での提出物から解答例・感想の例をピックアップして紹介し、フィードバックする機会があります。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: 授業の各回を担当の教員が10点満点で採点し、合計点を100点満点に換算して最終結果とします。</p> <p>成績評価基準: 評価は、各回の授業での提出物(グループ・ディスカッションの内容のまとめ、自分の意見をまとめた感想文、その他提出課題)により到達目標1～5の到達度と、授業態度、グループ・ディスカッションへの参加態度を総合的に判定します(平常点)。</p>	<p>授業の際に適宜紹介します。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/15 月 4限	田中 和廣 廣津 信義 藤倉 ひとみ 馬場 猛	4 学部共通講座ガイド ランス	授業の進め方とスケジュー ル	グループ・ディスカッショ ン	予習) グループ・ディスカッショ ンの進め方について検索し自己学 習してくること。(学習時間1時間)	グループ・ディスカッション を含む授業の流れを理解す る。	名札のある学生は、 持参すること。	講義、SGD
		4 学部共通講座ガイド ランス	受講者の心構え グループ分け	グループ・リーダー 成績評価の方法	復習) 受講者の心構えと成績評価 の方法を確認し、ディスカッショ ン・リーダー等の次回の役割分担 をまとめておくこと。(学習時間1 時間)	ディスカッション・リーダー 等の次回の役割分担を決定。	名札のある学生は、 持参すること。	
4/22 月 4限	廣津 信義	オペレーションズ・リ サーチの方法	合理的な意思決定とは	経営科学、意思決定	予習) 合理的な意思決定に関して 連想することを挙げてみる。 (学習時間1時間)	合理的な意思決定に関する数 理的な分析が理解できる。	議論に積極的に参加 すること。	講義、SGD
		オペレーションズ・リ サーチの方法	ゲーム理論による駆け引 きの考察	ゲーム理論、零和ゲー ム、非零和ゲーム	復習) フォンノイマンが現代社会 に与えた影響について考察してみ る。(学習時間1時間)	駆け引きを数理的な視点から 捉えることができるようになる 。	議論に積極的に参加 すること。	
4/27 土 4限	大野 早苗	日本語文法の見方	日本語を分析するとは	規則と規範 言葉の「ゆれ」と「乱れ」 言葉の変化	予習) 言葉の乱れとしてしばしば 取り上げられる現象を取り上げ、 それがなぜ「乱れ」とされるのか 考える。(学習時間1時間)	所与の「文法」を規範として 言葉を学習することと、言葉 の中に規則を見出すことの違 いが説明できるようになる。	既に身につけている 知識の枠にとらわれ ずに考えてみるよう 努力すること。	講義、SGD
		日本語文法の見方	日本語文法の基礎	文の構造 富士谷成章 本居宣長 本居春庭	復習) 予習時に自分が取り上げた 「乱れ」の現象を、今日、学んだ ことを生かして説明してみよう。 (学習時間1時間)	普段、文法を意識することなく 使うことが多い日本語の基 本的な構造について説明でき るようになる。	既に身につけている 知識の枠にとらわれ ずに考えてみるよう 努力すること。	
5/13 月 4限	馬場 猛	自己とは何か？ ～免疫というシステム～ (1)	・免疫の歴史	天然痘、二度なし現象	予習) 免疫という言葉から連 想される事象を考えておくこ と。(学習時間1時間)	ジェンナーに始まる免疫学の 歴史をひも解くことにより、 免疫の意味を再認識すること ができるようになる。	議論に積極的に参加 すること。	講義、SGD
		自己とは何か？ ～免疫というシステム～ (1)	・免疫と抗体	ワクチン、抗毒素(抗 体)、自己と非自己	復習) 免疫学の歴史について 復習し、先人たちがいかに知 恵を絞ったか、考えを巡らせ よう。(学習時間1時間)	知識がどのようにして形成さ れてきたかを知ることの意義 を理解できるようになる。	議論に積極的に参加 すること。	
5/20 月 4限	馬場 猛	自己とは何か？ ～免疫というシステム～ (2)	・免疫のしくみ	自然免疫、獲得免疫、T 細胞、B細胞	予習) 免疫をつかさどる細胞 について調べておくこと。(学 習時間1時間)	生命現象としての免疫学に ついて理解できるようにな る。	議論に積極的に参加 すること。	講義、SGD
		自己とは何か？ ～免疫というシステム～ (2)	・免疫の反乱	アレルギー、エイズ、癌	復習) 免疫の特徴である特異 性と多様性について復習し、 免疫の意味とは何か、考えを 巡らせよう。(学習時間1時間)	実学としての免疫学の重要 性を理解できるようにな る。	議論に積極的に参加 すること。	
5/25 土 4限	大野 早苗	やさしい日本語の誕生 と発展	やさしい日本語の誕生	野元菊雄 簡約日本語 災害時の情報伝達	予習) 1995年の阪神淡路大震災の 際、神戸を中心とした地域で外国 人への情報伝達にどのような問題 が起こったか、調べる。 (学習時間1時間)	近年、様々な分野で聞くこと が多くなった「やさしい日本 語」の起源はどこにあるのか が説明できるようになる。	既に身につけている 知識の枠にとらわれ ずに考えてみるよう 努力すること。	講義、SGD
		やさしい日本語の誕生 と発展	やさしい日本語の発展	多文化共生社会 日本人が学ぶ「やさしい 日本語」	復習) 自分が将来、就こうとする 職業や、生活することになる地域 で、どの程度「やさしい日本語」 が活用されているか調べてみる。 (学習時間1時間)	「やさしい日本語」の広がり を理解し、自分が生きていく 分野での取り入れ方を考えら れるようになる。	既に身につけている 知識の枠にとらわれ ずに考えてみるよう 努力すること。	

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
5/27 月 4限	川村 浩之	宇宙のなりたち(1)	宇宙の大きさ	星、銀河、宇宙の果て ヘンリエッタ・リーベッ ト	予習) 天体までの距離を測る 単位である「光年」の意味を 調べておく。 (学習時間1時間)	宇宙の大きさと構造につい て説明できる。	積極的に議論に参加 すること。	講義、SGD
		宇宙のなりたち(1)	宇宙の年齢	膨張宇宙 エドウィン・ハッブル	復習) 遠くの天体までの距離 をどのように測るかについて 復習する。 (学習時間1時間)	人類の歴史、地球の歴史、 宇宙の歴史の長さについて 説明できる。	積極的に議論に参加 すること。	
6/3 月 4限	川村 浩之	宇宙のなりたち(2)	宇宙論の変遷	天動説と地動説 ビッグバン宇宙論 アインシュタイン	予習) ビッグバンとはなにか 調べる。 (学習時間1時間)	天動説と地動説、様々な宇 宙論と世界観についてイ メージできるようになる。	積極的に議論に参加 すること。	講義、SGD
		宇宙のなりたち(2)	現代宇宙論への招待	宇宙背景輻射 ペンジアス、ウィルソン 暗黒物質 暗黒エネルギー	復習) 現代宇宙論がどのよう な観測によって確立されたか を復習する。 (学習時間1時間)	ビッグバン宇宙論が教える 宇宙像や現代宇宙論のナゾ が説明できる。	積極的に議論に参加 すること。	
6/10 月 4限	工藤 綾子	社会に影響を与えた無 名の人々 (1)	災害時に生死をわける判断 (1)	東日本大震災、自然災害	予習) 東日本大震災の被害状況を 調べる。 (学習時間1時間)	1. 日本における自然災害の 現状と課題について説明でき る。 2. 災害時に適切な判断をす るための方法を表現できる。	積極的に議論に参加 すること。	講義、SGD
		社会に影響を与えた無 名の人々 (1)	災害時に生死をわける判断 (2)	東日本大震災、自然災害	復習) 災害時に対応するための準備に ついて整理する。 (学習時間1時間)	1. 日本における自然災害の 現状と課題について説明でき る。 2. 災害時に適切な判断をす るための方法を表現できる。	積極的に議論に参加 すること。	
6/17 月 4限	工藤 綾子	社会に影響を与えた無 名の人々 (2)	リスクコミュニケーション (1)	組織、責任の取り方、マ スコミ対応	予習) コミュニケーション方法につい て調べる。 (学習時間1時間)	1. リスクコミュニケーション の概要について説明でき る。 2. 責任の取り方について自 分の考えを述べることができ る。	積極的に議論に参加 すること。	講義、SGD
		社会に影響を与えた無 名の人々 (2)	リスクコミュニケーション (2)	組織、責任の取り方、マ スコミ対応	復習) 授業を振り返りそれぞれのまと めをする。 (学習時間1時間)	1. リスクコミュニケーション の概要について説明でき る。 2. 責任の取り方について自 分の考えを述べることができ る。	積極的に議論に参加 すること。	
6/22 土 4限	田中 和廣	ヒッグス粒子とはなん だろうか	ヒッグス・プロファイリ ング	2013年ノーベル賞 どのくらい小さく、どのく らい軽いのか	予習) ヒッグス粒子発見に関 する報道、特集記事等を読 み、自己学習してくること。 (学習時間1時間)	現代科学の最先端に触れるこ とにより、様々な分野の発展 に日常的に関心をもち視野を 広げられるようになる。	ヒッグス粒子発見に 関する記事等の切り 抜き・プリントアウト 等を持参すること。	講義、SGD
		ヒッグス粒子は神の粒 子か	どこで、どんなやり方で つくられたのか	史上最大の実験LHC 質量を生み出すもの	復習) 宇宙の歴史でヒッグス 粒子が果たした役割を復習す ること。(学習時間1時間)	物理学を専門としない人が物理 を学ぶことの意義について、 考え説明できるようになる。	切り抜き・プリント アウト等に氏名を明 記し提出すること。	

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/24 月 4限	Marcellus Nealy	Amazing people who live a double life	The joy of being someone else	science, art, duality, self-expression, creative thinking	予習) Bring a notebook and pen or pencil. Also bring an open mind and willingness to listen, participate, and learn. (学習時間1時間)	To look at the lives of inspiring doctors who have also lived a creative life. To discuss your ideas about the nature of duality.	The class will be conducted mostly in English. To benefit you must focus and do your best to participate.	講義、SGD
		Amazing people who live a double life	The joy of being someone else	science, art, duality, self-expression, creative thinking	復習) Be ready to speak and take part in class assignments. (学習時間1時間)	To look at the lives of inspiring doctors who have also lived a creative life. To discuss your ideas about the nature of duality.	Topics covered are deeper than language. We will talk about psychology, creativity, and self-identity. Be ready to think.	講義、SGD
7/1 月 4限	Marcellus Nealy	Expanding your creative self	Activities to build creative awareness	self-expression, creative thinking, expanding potential	予習) Reading Assignment will be given the previous week and must be completed before this class. (学習時間1時間)	To develop awareness of your creative potential and how to make it stronger	The class will be conducted mostly in English. To benefit you must focus and do your best to participate.	講義、SGD
		Expanding your creative self	Activities to build creative awareness	self-expression, creative thinking, expanding potential	復習) Recall the class and list the points that impressed you the most. Challenge yourself and push beyond your limitations in language and thinking. (学習時間1時間)	To develop awareness of your creative potential and how to make it stronger	Active participation is an essential part of learning. You will be expected to interact with your classmates and share you opinions.	講義、SGD
7/8 水 4限	田中 和廣 廣津 信義 藤倉 ひとみ 馬場 猛	グループ・ディスカッションと全体討論	新しい世界はどう切り拓かれたか?	4 学部共通講座のふりかえり	予習) これまでの授業で感動した内容、印象に残ったグループ・ディスカッションをまとめておく。(学習時間1時間)	4 学部共通講座のふりかえりと討論を通して、様々な分野の発展に日常的に関心をもつことができるようになる。	グループ・ディスカッション、発表に積極的に取り組むこと。	講義、SGD
		グループ・ディスカッションと全体討論	これから新しい世界を切り拓くには?	必要となる“真の教養”とは? 大学生活でどう学んでいくか?	復習) グループ・ディスカッション、全体討論の中で、自分の仲間たちの発言、考え方から学んだことをまとめる。(学習時間1時間)	視野を広げ、教養を学び続けていくことの意義について考え説明できるようになる。	全体討論、質疑応答に積極的に取り組むこと。	

科目名	科目コード	単位数	責任者
知の統合	ELE 102	1	奥野 浩
学習内容・概要			
<p>高等学校までは、自然科学では数学、物理、化学、生物、地学に、また人文社会科学では国語、英語、日本史、世界史、地理、芸術などに分けて学んできた。また、大学においても往々にして各学問分野内での講義に留まっていることが多い。</p> <p>しかしながら、各分野の知識をただ単に集積するだけでは現代の社会の要求には応えられない。今後社会で諸君が活躍していくには、専門分野の周辺の知識等を学び、複眼的・俯瞰的に物事を見、そこから課題を抽出・解決出来る能力が必要となる。</p> <p>本講義では、様々な角度から日常の生活でことさら意識することもない簡単な事象について光をあて、多面的に理解することを目的とする。そのために、まず身近な疑問についての討論を行い、仮説を立て、それを検証することにより内容の理解を深める。</p> <p>「右と左」を統一テーマとして、5つのサブテーマについて自然科学、社会科学、人文科学の各分野から総合的に理解する。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「右と左」という概念について、多面的に知識を得る。</li> <li>・「右と左」という概念に対して、自ら複眼的・俯瞰的に考え、課題を抽出し、解決する。</li> <li>・「右と左」という概念に関する種々のテーマについて、協調的にグループ討論する。</li> <li>・「右と左」という概念に関する種々のテーマについて、調査・理解した事柄、議論した内容を聴衆にわかりやすく表現する。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.「右と左」という概念について、多面的な知識を得る。</li> <li>2.「右と左」という概念について、柔軟な思考ができる。</li> <li>3.自分の考えをまとめ、他者に説明ができる。</li> <li>4.他の学生と討論して、共通理解を得られる。</li> <li>5.テーマについて、プレゼンテーションができる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義毎に示されているキーワードについて理解できるように、あらかじめ自己学習してくる。</li> <li>・各サブテーマ毎に出される課題について学習、考察してくる。</li> <li>・「新入生キャンプ」での「スモールグループ ディスカッション」を思い出し、討論のマナーや方法を復習しておく。</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容、グループ討論の内容、課題についてログノートにまとめること。(ログノートは各サブテーマ終了後に提出。採点対象である。)</li> <li>・各サブテーマの内容の関連性や相違点を各自で有機的にまとめ、「右と左」というテーマについて多角的で学際的な理解をすること。</li> </ul> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び、考え、討論・講義を通じて理解を深めることを目的とする。講義への出席は勿論のこと、討論などへの積極的な参加が重要である。</li> <li>・グループ討論やプレゼンテーションなどが重要な要素となるので、受講生は30名までとする。希望者が多い場合には抽選を行うこともある。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
ログノートを利用して、適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
成績評価方法： <b>【原則、以下のものを参考に総合的に判断する】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動記録であるログノート(各サブテーマ終了時に提出)</li> <li>・それぞれのサブテーマ毎に出された課題の達成度</li> <li>・学習態度、特に積極性と協調性</li> </ul> (本講義はグループ討論などが重要な要素となるので、再試験を行わない) 成績評価基準： ログノートや討論・プレゼンテーションより判定する。	参考資料は、各講義の際に紹介する。

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/28 土 1限	奥野 浩	私は右利き左利き?	利き手とは	「利き」の意味とは	「利き手」について、自分の考え方をまとめておくこと。	言葉の概念を明確できる。 グループ討論があるので十分に準備をしておくこと。	グループ討論があるので十分に準備をしておくこと。	講義による導入とグループ討論
			利き手をどう定義するか	定義				
9/30 月 1限	奥野 浩	私は右利き左利き?	スポーツにおける右左の有利不利	スポーツ、データ収集、仮説検定	「利き手」等がスポーツにおいてどのような影響があるかを示すデータを集めておくこと。	スポーツにおいて右と左の違いを考えられる。 グループ討論があるので十分に準備をしておくこと。	グループ討論があるので十分に準備をしておくこと。	講義による導入とグループ討論
			野球における右左の有利不利	MBL				
10/7 月 1限	和田 麻理 松本 顕	生物における左右	動物行動の左右偏向性	道具、利き手	行動の左右偏好性について自己学習しておくこと。 講義中に出された課題について調査してくること。	身近に見られる現象について注意深い観察ができる。 議論に積極的に参加すること。	議論に積極的に参加すること。	講義による導入とグループ討論
			動物行動の左右偏向性	類人猿、左右偏好性				
10/21 月 1限	和田 麻理 松本 顕	生物における左右	生物多様性と左右性	一次左右性	動物の様々な左右偏好性について自己学習しておくこと。 講義中に出された課題について考察してくること。	行動の相違を生む主要因が遺伝子と環境の双方にあることをグループ討議できる。 議論に積極的に参加すること。	議論に積極的に参加すること。	講義による導入とグループ討論
			生物多様性と左右性	二次左右性				
10/28 月 1限	和田 麻理 松本 顕	生物における左右	遺伝子発現と左右性	体軸、内臓逆位	体軸に関して自己学習しておくこと。 生物分野のテーマを通して考察しログノートにまとめる。	対称から非対称な生体構造が生じる過程をグループ討議できる。 議論に積極的に参加すること。	議論に積極的に参加すること。	講義による導入とグループ討論
			遺伝子発現と左右性	ホメオティック遺伝子				
11/11 月 1限	馬場 猛	鏡の中の世界	分子の対称性	鏡像異性体 キラリティー	鏡像異性体をどう区別し、命名するか、調べておくこと。 講義中に出された課題について考察すること。	鏡像異性体のような立体異性体の構造や生理作用を学ぶことの必要性を述べることができる。 議論に積極的に参加すること。	議論に積極的に参加すること。	講義による導入とグループ討論
			分子の対称性	DL表示法				
11/25 月 1限	馬場 猛	鏡の中の世界	生体分子の対称性	アミノ酸 $\alpha$ -ヘリックス	アミノ酸とタンパク質について予備知識を得ておくこと。 講義中に出された課題について考察すること。	分子模型を使うことによってタンパク質の二次構造を説明できる。 議論に積極的に参加すること。分子模型を使って立体構造の理解に努めること。	議論に積極的に参加すること。	講義による導入とグループ討論
			生体分子の対称性	分子模型を組み立てる				
12/2 月 1限	馬場 猛	鏡の中の世界	生命と生体分子の対称性	糖、DNA 生命の誕生	ホモキラリティーについて調べておくこと。与えられた課題や講義中に考察したことをログノートにまとめること。	いかにして左右対称な分子の世界からホモキララルな生命世界ができたのか、討議できる。 議論に積極的に参加すること。分子模型を使って立体構造の理解に努めること。	議論に積極的に参加すること。	講義による導入とグループ討論
			生命と生体分子の対称性	キラリティーの選択				

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
12/9 月 1限	矢田 雅哉	素粒子は左利きか？	世界は何からできているのか？	パリティ変換、原子の“視覚化”、原子のサイズと質量	「世界は何からできているのか？」とその決定的証拠として何を挙げることができるか、自己学習してくること。	世界の成り立ちとその構成要素について、客観的事実に基づいた根拠を挙げて説明できる。	実験・議論に積極的に参加し、授業進行の経過をこまめにログノートに記録していくこと。	講義による導入とグループ討論
		素粒子は左利きか？	物質の階層構造とそのスケール	原子核、電子、陽子、中性子	ログノートを整理・補足し、授業で出題の間はログノートに答えておくこと。	物質世界に階層性があることを、各階層での構成要素とそれらの典型的なサイズを示して説明できる。		
12/13 金 1限	矢田 雅哉	素粒子は左利きか？	素粒子の世界の右と左	地球ゴマ実験、スピン、右巻き、左巻き	二つの質量の間に働く万有引力を表す法則と、二つの電気量の間働く電気力を表す法則を自己学習してくること。	自然界の4つの基本的な力として、重力、電磁気力、強い力、弱い力があることと、それらの違いを説明できる。	実験・議論に積極的に参加し、授業進行の経過をこまめにログノートに記録していくこと。	講義による導入とグループ討論
		素粒子は左利きか？	素粒子に働く4つの力	重力、電磁気力、強い力、弱い力、太陽の燃料	ログノートを整理・補足し、授業で出題の間はログノートに答えておくこと。	重力、電磁気力、強い力、弱い力の違いが物質世界の階層性を生み出していることを推論できる。		
12/16 月 1限	矢田 雅哉	素粒子は左利きか？	弱い力の本性をあばく	ジャイロスコープ実験、回転の慣性と角運動量保存則、β崩壊	生物界のホモキラリティーについて、12月2日の授業で学んだ内容を見直し自己学習してくること。	素粒子の基本法則に左右非対称があることを、客観的事実に基づいた根拠を挙げて説明できる。	実験・議論に積極的に参加し、授業進行の経過をこまめにログノートに記録していくこと。	講義による導入とグループ討論
		素粒子は左利きか？	パリティ非保存がもたらすものとは？	反物質、オズマ問題、生物界のホモキラリティー	ログノートを整理・補足し、授業で出題の間はログノートに答えておくこと。	素粒子の法則の左右非対称がホモキラルな生物界の元とする説を学び、自然界のグランドデザインの見点を持てる。		
12/21 土 1限	浅野 恵子	文化の中の左右	書き言葉と方向性	日本語、英語 その他の言語	書き言葉の左右性について自己学習しておく。講義中に与えられた課題について調査してくること。	書き言葉における左右性の相違を認識する。また、グループ間で原因を討議できる。	実験・議論に積極的に参加し、授業進行の経過をこまめにログノートに記録していくこと。	講義による導入とグループ討論
			書き言葉と方向性	歴史と成り立ち 書字媒体				
1/6 月 1限	浅野 恵子	文化の中の左右	文化における概念の相違	左右の優位性と文化語源	文化間の違いにおける左右性について自己学習し、出された課題について考察、ログノートにまとめる。	文化の違いにおける左右性の発生要因をグループ間で討議できる。	グループ討論に積極的に参加し、授業の最後に出される課題をログノートに書くこと。	講義による導入とグループ討論
			文化における概念の相違	左右の空間概念と事象概念				
1/14 火 1限	奥野 浩	まとめ	知の統合	様々な分野	この授業の内容を復習しておくこと。	この講義の内容を要約し、説明できる。	グループ討論に積極的に参加し、授業の最後に出される課題をログノートに書くこと。	講義による導入とグループ討論
			まとめ					



科目名	科目コード	単位数	責任者
医学研究入門Ⅱ	RMC 110	1	櫻井 隆
学習内容・概要			
<p>最新の生命科学研究と医学・医療との関わりや研究の面白さを知る。国際的に活躍するために必要な英語力や研究に必要なスキルの基礎を身につける。</p> <p>☆ 国内外の一流の研究者(臨床応用を目指す基礎研究者、基礎研究を重視する臨床医等)のセミナーにより、研究の重要性と面白さについて知る。また、一流の研究者の経歴や考え方を参考に、自分の将来について考える。</p> <p>☆ 英語論文の構成や研究に必要なプレゼンテーション、研究倫理等について学ぶ。「医学研究入門I」よりも実践的な内容となる。</p> <p>☆ 演習を通じて、英語論文の読解力の向上をはかる。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・臨床研究の実際を知る。</li> <li>・研究に必要なスキルの基礎を身につける。</li> <li>・臨床・基礎医学研究の基本として学習内容を応用できる。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.必要な文献を検索することができる。</li> <li>2.英語論文の構成について基本的事項を述べることができる。</li> <li>3.わかりやすい研究発表を行うために重要なポイントを述べることができる。</li> <li>4.研究をおこなう上での基本的なルールを概説できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語論文読解演習では、指定された論文をあらかじめ読み日本語に訳せるようにしておくこと。</li> <li>・その他の講義では、事前に連絡される講義やセミナーのキーワードについてあらかじめ調べておくこと。</li> <li>・講義終了後、筆記試験の代わりにレポートの提出を求める。「医学研究入門I」(前期)でおこなわれるレポート作成指南の内容をよく復習し、レポートを作成すること。</li> </ul> <p><b>【自己学習(準備学習)に必要な時間】</b> 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研究医養成プログラム活動の一環として専任チューター及び教員が授業を担当する。あらかじめ課題等が出されるので担当教員の指示に従うこと。</li> <li>・予習に基づき質問をするなど、積極的に参加すること。</li> <li>・講義日程については、学外講師の都合等により変更する場合がある。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席を重視する。</li> <li>・セミナーの場合:提出された感想を評価する。セミナーの際に質問した場合は加点することがある。</li> <li>・研究スキルに関する講義の場合:理解度確認のための簡単な小テスト実施し評価する。</li> <li>・論文読解演習:担当者の評価による。</li> <li>・筆記試験の代わりに提出を求める「医学研究」に関するレポートを評価する。</li> </ul> <p>成績評価基準: 上記の評価等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>[参考書]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流れがわかる研究トレーニング(メディカルレビュー社)</li> <li>・バイオ実験の進めかた(羊土社)</li> <li>・グリーンネルの科学研究の進め方・あり方(共立出版社)</li> <li>・新遺伝子工学ハンドブック(羊土社)</li> <li>・細胞の分子生物学(ニュートンプレス)</li> </ul>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/19 木 5限	基礎研究医養成プログラム 伝田 香里	研究入門-1 研究とは何か	研究の意義と進め方	リサーチ・クエスチョン	医学研究入門I(前期)の内容を復習しておくこと。	研究とはどういうものを理解する。		講義
9/26 木 5限	千葉大学大学院医学 研究院 腎臓内科 教授 浅沼 克彦	研究セミナー-1 慢性腎臓病の進展メカニ ズムの解明	臨床医としての基礎研究を 続けている理由	蛋白尿 慢性腎臓病 創薬	セミナーのキーワードについ て事前に調べておくこと。	基礎・臨床研究の実際を知 る。	事前の学習にもとづ いて疑問点を積極 的に質問すること。	講義
10/3 木 5限	学外研究者	研究セミナー-2	研究セミナー		セミナーのキーワードについ て事前に調べておくこと。	基礎・臨床研究の実際を知 る。	事前の学習にもとづ いて疑問点を積極 的に質問すること。	講義
10/10 木 5限	基礎研究医養成プロ グラム 教員	研究入門-2 研究とは何か	研究セミナー		セミナーのキーワードについ て事前に調べておくこと。	基礎・臨床研究の実際を知 る。	事前の学習にもとづ いて疑問点を積極 的に質問すること。	講義
10/17 木 5限	人体病理病態学講座 先任准教授 小倉 加奈子	研究入門-3 研究とは何か	研究セミナー		セミナーのキーワードについ て事前に調べておくこと。	基礎・臨床研究の実際を知 る。	事前の学習にもとづ いて疑問点を積極 的に質問すること。	講義
10/24 木 5限	基礎研究医養成プロ グラム 教員	研究入門-4 論文の読み方	論文を批判的に読む	基礎医学研究論文	指定された論文を読み、日本 語に訳せるようにしておくこ と。	研究をしていく上で必要な英 語論文読解力を向上させる。	複数のグループに 分けておこなう。	演習
10/31 木 5限	生化学第一講座 助教 李 賢喆	研究入門-5 英語論文読解演習	英語論文を読む-1	基礎医学研究論文	指定された論文を読み、日本 語に訳せるようにしておくこ と。	研究をしていく上で必要な英 語論文読解力を向上させる。	複数のグループに 分けておこなう。	演習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/7 木 5限	学外研究者	研究セミナー-3	研究セミナー		セミナーのキーワードについて事前に調べておくこと。	基礎・臨床研究の実際を知る。	事前の学習にもとづいて疑問点を積極的に質問すること。	講義
11/14 木 5限	心臓血管外科学講座 准教授 松下 訓	研究入門-6 研究成果の発表・プレゼンテーション	プレゼンテーションの実際	口演・ポスター パワーポイント 質疑応答	医学研究入門I(前期)および入門IIの講師が使用するスライドをよく見ておくこと。	研究発表の基本的なルール・技法を習得する。		講義
11/28 木 5限	基礎研究医養成プログラム 伝田 香里	研究入門-7 英語論文読解演習	英語論文を読む-2	基礎医学研究論文	指定された論文を読み、日本語に訳せるようにしておくこと。	研究をしていく上で必要な英語論文読解力を向上させる。	複数のグループに分けておこなう。	演習
12/5 木 5限	法医学 准教授 中西 宏明	研究入門-8 英語論文読解演習	英語論文を読む-3	基礎医学研究論文	指定された論文を読み、日本語に訳せるようにしておくこと。	研究をしていく上で必要な英語論文読解力を向上させる。	複数のグループに分けておこなう。	演習
12/12 木 5限	徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学 教授 佐田 政隆 担当:横溝 岳彦	研究セミナー-4 ヒトの血管はどうして詰まってしまうのか?	臨床教室における動脈硬化研究の楽しさ	動脈硬化 心筋梗塞 血管生物学 生活習慣病 カテーテルインターベンション	セミナーのキーワードについて事前に調べておくこと。	基礎・臨床研究の実際を知る。	事前の学習にもとづいて疑問点を積極的に質問すること。	講義
12/19 木 5限	東京大学医学系研究科システムズ 薬理学分野 講師 洲崎 悦生 担当:横溝 岳彦	研究セミナー-5 細胞ネットワークの網羅的解析	個体をシステムとして理解するアイデアと方法	システム生物学 組織透明化 3次元イメージング 高速マウス遺伝学 3次元組織学	セミナーのキーワードについて事前に調べておくこと。	基礎・臨床研究の実際を知る。	事前の学習にもとづいて疑問点を積極的に質問すること。	講義
1/9 木 5限	基礎研究医養成プログラム 伝田 香里	研究入門-9 まとめ	研究ガイドラインについて	科学者の行動規範 研究における倫理	研究における倫理について自分なりに考えておくこと。	研究上のルール・倫理について理解する。		講義

科目名	科目コード	単位数	責任者
科学研究のための基礎	RMC 120	1	松本 顕 ・ 馬場 猛 志村 絵理 ・ 石原 量
学習内容・概要			
<p>科学研究に深く携わるためには、最新の研究成果を理解できる知識を備えているとともに、自らが有意義で新しい成果を生み出す研究を遂行するための基本スキルを身につけなければならない。本講義では、科学研究を実践する上で必要不可欠となる基礎力を養成する。すなわち、事実やデータに基づく論理的な思考法や分析法、その発表と質疑応答の方法、科学者としての倫理とラボノート記載の方法、などを実践を通して身につける。このために、事前課題を利用した反転授業形式をとり、講義時間中のグループワークやスモールグループディスカッションを重視する。さらに、実際に実験器具を操作することを通して、生化学実験における基本的な実験原理を理解し、正確なデータを導き出すための実験スキルを養成する。</p> <p>※基礎研究医養成プログラムへの参加を希望する学生を対象とした内容である。該当学生は受講することが望ましい。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究に必要な態度、考え方、スキルを実践を通して身につける。</li> <li>・学習内容を医学研究に応用できる。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学研究に必要な倫理に基づいて行動できる。</li> <li>2. 科学的に問題を捉えて分析し、論理的な議論ができる。</li> <li>3. ラボノートを的確に記載できる。</li> <li>4. 生化学実験の基本原理を説明し、正確な機器操作ができる。</li> <li>5. 学習内容を医学研究に応用できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、課題が出される。積極的に取り組んで来ること。</li> <li>・基本的な実験スキルは授業時間内に取得することが望ましいが、習得に不安がある者は、次回までに担当教員の研究室を訪れて練習を重ねること。</li> </ul> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研究医養成プログラムへの参加を希望する学生は受講することが望ましい。</li> <li>・座学は、事前課題を行っていることを前提とした反転授業形式で行われる。必ず事前課題に取り組んで来ること。</li> <li>・積極的にグループワークや議論に参加すること。積極性は研究を遂行する上でも非常に重要である。</li> <li>・積極的に機器操作を体験し、基本的な実験スキルを時間内に習得すること。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: レポート、事前課題、実験原理の理解や実験スキルの習得状況、参加態度などを総合的に評価する。</p> <p>成績評価基準: 1. 科学研究に必要な倫理、知識、議論法を理解している(レポート、事前課題) 2. 論理的に考え、議論することができる(レポート、事前課題、実験や講義への参加態度) 3. 研究に必要な実験スキルを実践できる(実験スキルの習得状況、実験や講義への参加態度) 4. 学習内容を医学研究に応用できる(レポート、事前課題、実験原理の理解や実験スキルの習得状況、参加態度)</p>	<p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ワークブックで学ぶ生物実験の基礎 オーム社</li> <li>2. ラボノートの書き方 羊土社</li> <li>3. バイオ実験イラストレイテッド 秀潤社       <ul style="list-style-type: none"> <li>①分子生物学実験の基礎 ②遺伝子解析の基礎 ③<sup>+</sup>本当にふえるPCR</li> </ul> </li> <li>4. 思考・論理・分析「正しく考え、正しく分かること」の理論と実践 産業能率大学出版部</li> <li>5. クリティカルシンキング 北大路書房 ①入門編 ②実践編 ③研究論文篇</li> <li>6. バイオ研究のための実験デザイン メディカル・サイエンス・インターナショナル</li> <li>7. これから研究を始める高校生と指導教員のために 共立出版</li> </ol>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
4/16 火 5限	松本 顕	イントロダクション	科学的態度 科学研究に必要とされる 能力とスキル	客観性と倫理 聞く力、読解力、執筆力、 プレゼンテーション力	科学的な態度とはどのような ものかを各自リストアップして くること	科学的な態度、研究に必要 な能力とスキルについて例示 できる。	積極的に議論やグル ープワークに参加 すること	講義による 導入と グルー プワ ーク
		イントロダクション	科学的態度 科学研究に必要とされる 能力とスキル	課題発見力、情報収集力				
4/23 火 5限	石原 量	クリティカル・シンキング1	議論の把握	議論の明確化	J-passを通じてあらかじめア ナウンスされている事前課題 に取り組んで来ること	主張の論理構造を把握でき る。	積極的に議論やグル ープワークに参加 すること	講義による 導入と グルー プワ ーク
		クリティカル・シンキング1	議論の把握	隠れた前提 根拠の確かさ				
5/7 火 5限	石原 量	クリティカル・シンキング2	問題解決への議論 データベースの利用	問題の明確化 解決策の列挙	J-passを通じてあらかじめア ナウンスされている事前課題 に取り組んで来ること	的確な反論を通じて、議論を 深められる。	積極的に議論やグル ープワークに参加 すること	講義による 導入と グルー プワ ーク
		クリティカル・シンキング2	問題解決への議論 データベースの利用	根拠を元に検討 解決策の決定 PubMed				
5/14 火 5限	馬場 猛	生化学実験基本手技1	実験器具の取扱い方 汎用機器の使用方法 試薬の調製法	情報整理力、データ分析力	キーワードに書かれている機 器・器具について調べておく こと。	実験で用いられる基本的な 試薬および汎用機器を安全 に取扱うことができる。	積極的に体験し、時 間内に基本手技を 身につけること	講義による 導入と グルー プワ ーク
		生化学実験基本手技1	実験器具の取扱い方 汎用機器の使用方法 試薬の調製法	実験技法				
5/18 土 5限	馬場 猛	生化学実験基本手技2	基礎的なタンパク質解析法	タンパク質の電気泳動 (SDS-PAGE)	タンパク質について調べてお くこと。	SDS-PAGEの原理、ウェスタ ンブロットティングにおける抗原 抗体反応について説明でき る。また必要となる実験機器 を取扱うことができる。	積極的に体験し、時 間内に基本手技を 身につけること	講義による 導入と 実習
		生化学実験基本手技2	基礎的なタンパク質解析法	ウェスタンブロットティング				
5/21 火 5限	志村 絵理	生化学実験基本手技3	基礎的な遺伝子工学的手法1	プラスミド	核酸について調べておくこと	基本的な遺伝子工学技術に ついて説明できる。また必要 となる実験機器を取扱うことが できる。	積極的に体験し、時 間内に基本手技を 身につけること	講義による 導入と 実習
		生化学実験基本手技3	基礎的な遺伝子工学的手法1	制限酵素				
5/28 火 5限	志村 絵理	生化学実験基本手技4	基礎的な遺伝子工学的手法2	PCR	PCRとアガロース電気泳動法 について調べておくこと	基本的な遺伝子工学技術に ついて説明できる。また必要 となる実験機器を取扱うことが できる。	積極的に体験し、時 間内に基本手技を 身につけること	講義による 導入と 実習
		生化学実験基本手技4	基礎的な遺伝子工学的手法2	核酸の電気泳動				

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
6/4 火 5限	松本 顕	データベース・シンキング1	情報の抽出	データ	J-passを通じてあらかじめア ナウンスされている事前課題 に取り組んで来ること	データに基づいて論理的に 思考できる。	積極的に議論やグ ループワークに参加 すること	講義による 導入と グループ ワーク
		データベース・シンキング1	情報の抽出	統計				
6/11 火 5限	松本 顕	データベース・シンキング2	要因の分析	グラフ化	J-passを通じてあらかじめア ナウンスされている事前課題 に取り組んで来ること	どんな時にどの分析方法を使 うかの確に判断できる。	積極的に議論やグ ループワークに参加 すること	講義による 導入と グループ ワーク
		データベース・シンキング2	要因の分析	分布				
6/15 土 5限	松本 顕	データベース・シンキング3	具体的な根拠	実験計画	J-passを通じてあらかじめア ナウンスされている事前課題 に取り組んで来ること	分析方針に基づいて実験計 画を立てられる。	積極的に議論やグ ループワークに参加 すること	講義による 導入と グループ ワーク
		データベース・シンキング3	具体的な根拠	実験計画				
6/25 火 5限	馬場 猛	生化学実験の実際	研究＝基本手技の積み重ね	研究計画	生化学実験基本手技1～4で 学んだことを復習しておくこと	研究課題に対して、適切な研 究計画を立てることができる。	基本的な実験手技 がどのように応用さ れて一連の研究を 構成するかを分析し ながら受講すること	講義と 議論
		生化学実験の実際	研究＝基本手技の積み重ね	研究計画				
7/2 火 5限	石原 量	ロジカル・ライティング1	ラボノートの書き方 科学論文(1)スタイル	ラボノートの書き方 論文の基本構造	J-passを通じてあらかじめア ナウンスされている事前課題 に取り組んで来ること	論理的な文書を明瞭簡潔に 書ける。	積極的に議論やグ ループワークに参加 すること	講義による 導入と グループ ワーク
		ロジカル・ライティング1	ラボノートの書き方 科学論文(1)スタイル	1段落1トピック 1文1ポイント 正確性、一義的記述、簡潔 性				
7/9 火 5限	石原 量	ロジカル・ライティング2	科学論文(2)査読体験	的確な指摘	指示に従って(模擬)科学論 文を書いてくること	友人の科学論文に対して的確な 指摘、改定が出来る。	積極的に議論やグ ループワークに参加 すること	講義による 導入と グループ ワーク
		ロジカル・ライティング2	科学論文(2)査読体験	意見を明瞭に伝える文章力				
7/16 火 5限	石原 量	まとめとプレゼンテーション	プレゼンテーション	パワーポイント	指示に従ってプレゼンテー ションの構想を練ってくること	科学的な態度でプレゼン テーションし、質疑応答が出 来る	積極的に議論やグ ループワークに参加 すること	講義による 導入と グループ ワーク
		まとめとプレゼンテーション	学会における質疑	質疑応答				



科目名	科目コード	単位数	責任者
科学研究ゼミナール	RMC 130	1	松本 顕・奥野 浩 馬場 猛・石原 量
学習内容・概要			
<p>科学研究に深く携わるためには、最新の研究成果を理解できる知識を備えているとともに、自らが有意義で新しい成果を生み出す研究を遂行するための基本スキルを身につけなければならない。本講義は、前期「科学研究のための基礎」の実践編である。基礎的な分子生物学およびバイオ分析実験を題材として、研究室で日々行われている実際の科学研究を模した問題解決型学習によって、科学研究の進め方や考え方、実験の基本スキルを実践的に習得することを目的とする。日程表には標準的な実験過程を記載しているが、あらかじめ正解が準備されている通常の実習ではなく、科学研究がトライ&amp;エラーで行われていることを実体験し、予測しなかった結果が得られたり、実験に失敗した場合にどのように対処するかを自ら考えて方針を立てられるようになることも目的の一つであるため、実験の進行は、得られた結果やグループディスカッションに依存して適宜変更される。</p> <p>※前期「科学研究のための基礎」を受講していること。          ※基礎研究医養成プログラムへの参加を希望する学生を対象とした内容である。該当学生は受講することが望ましい。          ※実験機材などの都合により受講人数は最大28名までとする。希望者が多かった場合は前期「科学研究のための基礎」の成績、基礎研究医養成プログラム主催イベントへの参加回数や積極性、面接またはレポートなどによって選抜を行う。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究に必要な態度、考え方、スキルを実践を通して身につける。</li> <li>・学習内容を医学研究に応用できる。</li> </ul>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学研究に必要な基礎的な実験スキルを駆使できる。</li> <li>2. ラボノートを的確に記載できる。</li> <li>3. 実験結果を正確に分析、評価できる。</li> <li>4. 失敗に対して的確に議論し、事後方針や改善策を策定できる。</li> <li>5. 学習内容を医学研究に応用できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験原理については適宜説明するが、たとえばDNAやタンパク質の性質などベースとなる基本知識までは説明しないので、各自で調べてくること。</li> <li>・実験原理を記載した論文(英文原著)があらかじめ提示される場合がある。各自で読んで、実験原理や実験手順をラボノートにまとめてくること。</li> <li>・毎回、得られた実験結果を分析・評価し、次回までに実験の方針を考えてくること。</li> <li>・基本的な実験スキルは授業時間内に習得することが望ましいが、習得に不安がある者は、次回までに担当教員の研究室を訪れて練習を重ねること。</li> </ul> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研究医養成プログラムへの参加を希望する学生は受講することが望ましい。</li> <li>・前期「科学研究の基礎」を受講していること。</li> <li>・研究室で行われている実際の研究活動を模した形式で行われるため、必ずしも時間割上の決まった時間帯だけで実施される訳ではない。時間の延長、昼休みや空き時間を利用しての実験継続なども必要に応じて求められる。</li> <li>・日程表に示されているのは目安である。受講人数や実験の進展具合によって適宜変更される。</li> <li>・積極的にグループワークや議論に参加すること。積極性は研究を遂行する上でも非常に重要である。</li> <li>・積極的に体験し、基本的な実験スキルを時間内に習得すること。</li> </ul>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: ラボノート、レポート、事前課題、実験原理の理解や実験スキルの習得状況、参加態度などを総合的に評価する。</p> <p>成績評価基準: 1. 科学研究に必要な倫理、知識、議論法を理解している(ラボノート、レポート、事前課題) 2. 論理的に考え、議論することができる(レポート、事前課題、実験や講義への参加態度) 3. 研究に必要な実験スキルを実践できる(ラボノート、実験スキルの習得状況、実験や講義への参加態度) 4. 学習内容を医学研究に応用できる(レポート、事前課題、実験原理の理解や実験スキルの習得状況、参加態度)</p>	<p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ラボノートの書き方 羊土社</li> <li>2. ワークブックで学ぶ生物実験の基礎 オーム社</li> <li>3. バイオ実験イラストレイテッド 秀潤社</li> <li>①分子生物学実験の基礎 ②遺伝子解析の基礎 ③<sup>+</sup>本当にふえるPCR</li> <li>4. 染色・バイオイメージング実験ハンドブック 羊土社</li> <li>5. バイオ研究のための実験デザイン メディカル・サイエンス・インターナショナル</li> </ol> <p>【参考論文】 適宜指示されるので、実験方法、手順や実験原理をラボノートにまとめてくること。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
9/17 火 5限	松本 颯 奥野 浩 馬場 猛 石原 量	イントロダクション	科学実験の実際	実験 仮説、検証、反証	前期授業「科学研究のための基礎」で習得した基本スキルを復習してくること。	この授業で実践する各種の実験に関して概要が説明できる。	ノートを取りながら講義の説明を聞くこと。	講義
9/24 火 5限	A班 馬場 猛	A班 ウェスタンブロットによるタンパクの検出	A班 タンパク質の電気泳動 タンパク質の抗体検出	A班 SDS-PAGE、ブロットイング、 1次抗体、2次抗体、化学発光	割り当てられた研究課題に関して下調べすること。  前期授業「科学研究のための基礎」で習得した基本スキルを復習してくること。	課題達成に必要な知識を習得し、応用できる。  課題達成に必要な機材、試薬を調べられる。	ラボノートを正確に記載すること。  安全に留意して実験操作を行うこと。	実習
10/1 火 5限	B班 石原 量	B班 マイクロ流体チップによるバイオマーカーの検出	B班 UVグラフト重合法による材料表面の化学修飾	B班 マイクロ流体チップ、UVグラフト重合、バイオマーカー、バイオ分析		科学研究の実施を計画できる。  科学研究を安全に遂行できる。		実習
10/8 火 5限						トラブルシューティングができる。  ラボノートを正確に記載できる。		実習
10/15 火 5限	B班 松本 颯	B班 細胞および組織切片の蛍光染色	B班 生細胞死細胞の染め分け 蛍光免疫組織染色	B班 核染色、セルカウンター 1次抗体、2次抗体、蛍光物質	割り当てられた研究課題に関して下調べすること。  前期授業「科学研究のための基礎」で習得した基本スキルを復習してくること。	課題達成に必要な知識を習得し、応用できる。  課題達成に必要な機材、試薬を調べられる。	ラボノートを正確に記載すること。  安全に留意して実験操作を行うこと。	実習
10/29 火 5限	A班 奥野 浩	A班 感染症の数理モデル解析 および公衆衛生学の和文論文の輪読	A班 統計処理、検定、分布、 実験計画法、モデリング	A班 仮説と検証、有意性 微分方程式		科学研究の実施を計画できる。  科学研究を安全に遂行できる。		実習
11/5 火 5限						トラブルシューティングができる。  ラボノートを正確に記載できる。		実習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
11/12 火 5限	B班 馬場 猛	B班 ウェスタンブロットによるタンパクの検出	B班 タンパク質の電気泳動 タンパク質の抗体検出	B班 SDS-PAGE、ブロッティング、 1次抗体、2次抗体、化学発光	割り当てられた研究課題に関して下調べすること。  前期授業「科学研究のための基礎」で習得した基本スキルを復習してくること。	課題達成に必要な知識を習得し、応用できる。  課題達成に必要な機材、試薬を調べられる。  科学研究の実施を計画できる。  科学研究を安全に遂行できる。  トラブルシューティングができる。  ラボノートを正確に記載できる。	ラボノートを正確に記載すること。  安全に留意して実験操作を行うこと。	実習
11/26 火 5限	A班 石原 量	A班 マイクロ流体チップによるバイオマーカーの検出	A班 UVグラフト重合法による材料表面の化学修飾	A班 マイクロ流体チップ、UVグラフト重合、バイオマーカー、バイオ分析				実習
11/30 土 5限								実習
12/3 火 5限	A班 松本 颯	A班 細胞および組織切片の蛍光染色	A班 生細胞死細胞の染め分け 蛍光免疫組織染色	A班 核染色、セルカウンター 1次抗体、2次抗体、蛍光物質	割り当てられた研究課題に関して下調べすること。  前期授業「科学研究のための基礎」で習得した基本スキルを復習してくること。	課題達成に必要な知識を習得し、応用できる。  課題達成に必要な機材、試薬を調べられる。  科学研究の実施を計画できる。  科学研究を安全に遂行できる。  トラブルシューティングができる。  ラボノートを正確に記載できる。	ラボノートを正確に記載すること。  安全に留意して実験操作を行うこと。	実習
12/10 火 5限	B班 奥野 浩	B班 感染症の数理モデル解析 および公衆衛生学の和文論文の輪読	B班 統計処理、検定、分布、 実験計画法、モデリング	B班 仮説と検証、有意性 微分方程式				実習
12/17 火 5限								実習
1/7 火 5限	松本 颯 奥野 浩 馬場 猛 石原 量	まとめ	プレゼンテーション	プレゼンテーション	これまでの結果をまとめ、プレゼンテーションの準備をしておくこと。	科学的な態度でプレゼンテーション、質疑応答ができる。	積極的に議論に参加すること。	グループ 討議

科目名	科目コード	単位数	責任者
マリン実習	ELE 103	1	菅波 盛雄・中丸 信吾
学習内容・概要			
<p>本実習では日常とは異なる自然環境の中でのスポーツとりわけ海洋でのスクーバダイビングを取り上げ、安全にスクーバダイビングするために必要な知識とスキルを修得した証であるCカード(オープンウォーター)の取得を目指し展開する。</p> <p>本実習では自然環境の中でのスポーツ体験を通して、その面白さ、楽しさに触れ、生涯スポーツを実践していくための資質の向上をねらいとしている。また、自然環境におけるマナーを理解し実践していくとともに、集団活動を通じた協調性や社会性を理解し実践する態度を養うこともねらいとしている。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>日常とは異なる自然環境の中でスポーツを体験することにより、その面白さ、楽しさに触れ、生涯スポーツを実践していくための資質の向上を図ることができる。また、自然環境におけるマナーを理解し実践していくとともに、集団活動を通じた協調性や社会性を理解し実践する態度を修得できる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.安全を確保するためのスクーバダイビングの基本的な知識およびスキルを身に付けることができる。</li> <li>2.生涯にわたりスポーツに親しむ態度を習得できる。</li> <li>3.集団内での社会性や協調性など将来の医療現場での社会生活に応用できる。</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<p>スクーバダイビングでは水中において安全にダイビングするために必要な知識とスキルを修得する必要がある。テキストを熟読し、講義や実技で習得すべき内容について予習・復習をおこない理解を深めておくこと。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分</p>			

## 学習上の注意点

本実習は集中授業であり、かつ日常と異なる野外での活動となるため、実習期間中の体調管理には十分注意すること。  
経験の有無は問わないが、病気やケガの場合は医師の診断を必要とする。

※履修登録とは別に事前ガイダンスを行うので必ず出席すること。  
なお、実習の参加には実習参加申込み・参加費振込みを必要とする(事前ガイダンスにて説明)。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
授業態度・取り組み姿勢40%、課題の習得度40%、知識の獲得度20%  
単位認定には、事前ガイダンスおよび実習期間全日程への出席を必要とする。

成績評価基準:  
個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

スクーバダイビングマニュアル I、オープンウォーター

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
8/10 土	菅波 盛雄 中丸 信吾	スクーバダイビングの基礎 (プールワーク)	スキンドайビング、スクーバ ダイビング、緊急対応	スノーケルクリア、マスククリ ア、レギュレータークリア、 潜降、浮上・浮力コントロール、 スイミングアセント、フ リーアセント、バディブ リージング、器材脱着	実技であるので十分に体調を 整えておくこと。	プールでのスクーバダイビン グの基本技能および緊急対 応を習得できる。	学内でのプールで 実施する	学内実習
8/11 日	菅波 盛雄 中丸 信吾	スクーバダイビングとは(講 義)	水中の世界、深度下の障 害、減圧症、水中環境	圧力、ガス交換エアージェ ンボリズム、スキューズ、ダイブ テーブル、ハンドシグナル	キーワードについてテキスト の内容を熟読しておくこと。	スクーバダイビングにおける 特性や身体への負荷につい ての基礎知識を習得できる。	講義終了後、学外 実習地(静岡)へ移 動する。	講義
8/12 月	菅波 盛雄 中丸 信吾	海洋でのスクーバダイビン グ(海洋実習)	海中の安定、緊急対応	潜降、浮上、マスククリア、 レギュレータークリア、スイ ミングアセント、バディブ リージング、器材脱着	宿泊を伴う実習であるので充 分に体調を整えておくこと。	海洋におけるスクーバダイビ ングの基本技能および緊急 対応を習得できる。	学外での宿泊を伴う 実習であるため、生 活マナーについても 留意する。	学外実習
8/13 火	菅波 盛雄 中丸 信吾	海洋でのスクーバダイビン グ(海洋実習)	計画潜水	ブリーフィング、深度、コー ス、ダイブテーブル	宿泊を伴う実習で十分に体 調を整えておくこと。	海洋におけるスクーバダイビ ングの基本技能および緊急 対応を習得できる。	学外での宿泊を伴う 実習であるため、生 活マナーについても 留意する。	学外実習

科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門	—	5	生化学第二講座 長岡 功 神経生物学・形態学講座 小池 正人
学習内容・概要			
<p>M1前期・後期の学習に続いて、「基礎医学入門」の必修3科目【医学医療序論】・【骨学】・【組織細胞生物学】を本郷・お茶の水キャンパスで学習する。</p> <p>【医学医療序論】 次年度M2～M3に続く基礎医学統合講義の入門・序論としての講義とグループワーク実習が行われる。これらにより、順天堂と医療の歴史、医学が生命活動と病気をどのように理解しそれらに対応してきたか、その一端を学び、医学生・医療者(医師・医学研究者)の倫理と接遇・マナーのこころや情報リテラシーの重要性を認識したうえで、プロフェッショナリズムの意識を育み、将来の医師・医学研究者としてのキャリア形成を具体的に開始する。</p> <p>【骨学】 人体の基礎となる骨格について、実習を中心に個々の骨の形状、骨同士の間接、全身の骨格構成、体表形態との関係を学ぶ。</p> <p>【組織細胞生物学】 基礎医学の基本となる解剖学、生理学、生化学の観点から細胞を理解するための講義が行われ、講義に併せて組織学(顕微解剖学)の総論とその実際を観察するための「組織学実習」が行われる。</p> <p>これら3科目により、前期・後期の自然科学系の必修科目や実習科目の学習成果に医学の専門知識が肉付けされる。3科目各授業の到達目標は『医学教育モデル・コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—』に準拠している。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>国際社会が医療者のプロフェッショナリズムとするマナーや倫理、Competency(基礎医学の知識を含む臨床能力とSkill)と人間性などの考え方に即して、医学部1年次に習得しておくべき基礎医学の基本的な知識を確かな学習成果(Learning Outcome)にして、医療者の生涯学習を開始できる</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>必修3科目それぞれに到達目標が掲げられている； それらのすべてに到達する</p>			
自己学習(準備学習)			
<p>各科目の各授業について、次頁以降に自己学習(準備学習； 予習・復習)が掲載されているので、それらを実践すること。</p> <p>予習課題について授業での口頭発表を求められる； プレテストが行われる、復習課題について次の授業でプレテストが行われることがある。</p> <p>講義内容についてポストテストが行われることがある。</p> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分、 復習:45分</p>			



学習上の注意点	
<p>①基礎医学入門の3科目は短期間に3科目の授業(講義と実習)がモザイク状に配置され、各授業の担当者が異なっている。1回の授業で習得すべき知識、実習のSkill、                      医療者として生涯必須のSkillは、種類や分量がこれまでの授業より相当多いと考えられる。そのため、各授業がどの科目の何を到達目標とするのかを事前に確認して、次頁以降の各授業欄の準備学習(予習)を必ず行って授業に臨むことが授業内容を理解するための基礎となる。また、授業後の復習を行うことも必須である。</p> <p>②予習・復習と授業の理解を助けるために「資料集」が、本郷でのM1オリエンテーションで配布される。指定教科書等の該当頁の記載等も活用する。                      上記①②とe-learning「Manaba」を活用する効率の良いActive Learning(自己学習)の習慣を獲得して「M1基礎医学入門で」よい再スタートを切ることが必須である。</p> <p>③基礎医学入門 3科目の学習内容をM2学生として再学習する機会はない。「基礎医学入門」3科目の学修成果はM2以降の授業を円滑に行うためにも必要である。</p> <p>④基礎医学入門3科目の定期試験が行われる。下欄「成績評価方法」を熟読し、さくらキャンパスと同一ではない本郷・お茶の水キャンパスの評価法を理解すること。</p> <p>⑤医学生として日々の体調の自己管理を適切に実践して授業を休まないようにすることが大切である。生活も一変することから油断や過信なく過ごすこと。</p> <p>⑥感染症等により欠席する場合は、順天堂医院(本郷のいわゆる本院)で受診し、本郷・お茶の水キャンパスの書式の欠席届(本郷・お茶の水キャンパス事務室所有)に診断書を添付して、本郷・お茶の水キャンパス事務室教務課に提出する(担任に提出するのではない)。実習を欠席する場合は本郷・お茶の水キャンパス事務室に直接連絡(03-5802-1019)すること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:                      基礎医学入門3科目それぞれの定期試験の評価に下記の評価が加味される</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業と実習の出席状況                         <ul style="list-style-type: none"> <li>実習は原則として全出席のこと</li> <li>全員出席とされる医学医療序論の2つの授業に留意すること</li> </ul> </li> <li>・プレテスト、ポストテスト、レポート</li> <li>・実習評価(組織学実習試験を含む)・学習態度等</li> </ul> <p>注意①各科目の定期試験は、同日に時刻を定めてそれぞれに実施される                      ②骨学と組織細胞生物学の評価には、それぞれの実習評価が加味される                      ③3科目それぞれの定期試験不合格者に対して、それぞれの定期試験再試験が行われ、それぞれの科目の合否が判定される</p> <p>成績評価基準:                      個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>各科目の指示の通り</p>

科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門 医学医療序論	INBM 010	5 (基礎医学入門 全体)	生化学第二講座 長岡 功 医史学研究室 澤井 直
学習内容・概要			
<p>医学部1年次終盤に基礎医学入門 必修4科目(医学医療序論・健康の行動科学・骨学・組織細胞生物学)を本郷キャンパスで学習する。 「医学医療序論」の8回の講義とグループワーク(4時限連続の実習)を論理的、分析的、多角的に思考しながら受講し自己学習することにより、以下を学ぶ。</p> <p>序論—1は順天堂と医療の歴史を学び、順天堂の一員であることの誇りと責任感を涵養する  序論—2・3・4・5は医学が生命活動と病気をどのように理解し、それらに対応してきたかについて学ぶ  序論—6・7とグループワークは医学生・医療者(医師・医学研究者)の倫理と接遇・マナーのこころとプロフェッショナリズムの意識を強固にする  序論—7は医学生～医療者の問題解決に必須の情報リテラシーを学び、将来にわたり問題を解決するSkillとArtsを習得する  序論—8は将来の医師・医学研究者としてのキャリア形成の道筋(キャリアパス)を学ぶ</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>将来医師・医学研究者というプロフェッショナルに成長する医学部学生として、医学と医療における倫理感や遵法の精神をもって、患者さんの人権に配慮した患者中心の医療・医学、特に基礎医学の一端を理解してScienceとArtsが両立した自己の啓発を開始できる</p>			
<p>[到達目標] 次頁以降に各授業の到達目標が示され、全授業を通しての到達目標は下記のとおり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.順天堂大学と医学が今日まで築いてきた歴史と自分を重ねながら、医師・医学研究者としての自らの将来像を具体的に展望できる</li> <li>2.これまで日常なにげなく口にしてきた「病気」や「健康」の理解とは異なる次元の、基礎医学という科学の思索を開始できる</li> <li>3.医学生・医療者のプロフェッショナリズム・倫理・情報リテラシーに即して読み、書き、話し、情報を発信できる</li> <li>4.医学生が陥りやすいアン(反)プロフェッショナリズムとされる考え方や行動・行為がないように努力・自制できる</li> </ol>			
自己学習(準備学習)			
<ol style="list-style-type: none"> <li>①医学医療序論は今後の学習の導入として行われることを理解して授業に臨む</li> <li>②医学医療序論の学習をサポートするための「資料集」が配布される  該当授業(講義形式・グループワーク形式の実習)の頁を事前に読み、授業のポイントを把握して出席すること  次頁以降の各授業欄の、準備学習【予習】を行う</li> <li>③Active Learningに資する目的でe-learning Manabaが使用される。各自が必ず活用すること</li> <li>④医学医療序論の全講義に関係する教科書等は指定されない  次頁以降の各授業の欄や資料集に記載された事項や授業で言及された教科書や自己学習の課題等を学習すること  それらの内容も試験出題の範囲に含まれることがある</li> </ol> <p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>			

学習上の注意点	
<p>①基礎医学入門の授業(講義・実習)は4科目がモザイク状に配置されて進行するので、それぞれの授業がどれに属するかを把握し、カリキュラムの体系を理解して、Activeに学習する。</p> <p>②医学医療序論1～8は講義形式。授業講義番号順に行なわれないことがあるが、資料集は講義番号順に編集される。わからないことを授業中に講義担当者に質問して解決する習慣を身につける。質問はActive Learnerとして高く評価される。</p> <p>③講義開始時にプレテストが、講義直後にポストテストが行なわれることがある;講義時間とテスト等を含めて各時限は90分間。</p> <p>④学習態度等に問題があるとして出席を認められないことがある。倫理やマナーがこの科目の学習内容に含まれることに留意。</p> <p>⑤グループワークは資料集該当頁の「グループ-席」をみて、会場の指定席で準備を開始5分前までに済ませること。グループワークでは第1回投票が出席確認として用いられる。</p> <p>⑥感染症等によるやむを得ぬとされる欠席は診断書添付の欠席届提出について考慮されるが、グループワーク追実習は行われない。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
課題(小テストやレポート等)に関しては、講義中または講義後に適宜フィードバックを行う。	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:</p> <p>1)～3)が医学医療序論定期試験評価として統合される</p> <p>1)医学医療序論定期試験の評価            受験要件＝①講義出席回数が規定を満たし、全員必修の2講義に出席                      ②グループワーク(実習)出席            出題形式:多肢選択問題・記述問題の予定</p> <p>2)プレテスト、ポストテスト・レポート等が課された場合(Manabaを含む)はそれらの評価</p> <p>3)グループワーク評価:実習態度(開始前集合・投票・ワーク貢献・記録・発言発表)</p> <p>医学医療序論定期試験に不合格の場合は医学医療序論再試験を受験する。</p> <p>成績評価基準:            個別試験や総合試験の結果、実習等を基に総合的な理解度を見て判定する。</p>	<p>基礎医学入門 医学医療序論全体としては、指定教科書等を定めない。</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/3 月 5限	医史学研究室 澤井 直 医学教育研究室 微生物学講座 関根美和 生理学第二講座 医学教育研究室 渡邊 マキノ	グループワーク 医学生～医療者のプロ フェッショナルリズム	自らの近未来をM1から意 識して行動する	医療者のプロフェッショナ リズム、倫理と道徳的推論、 順天堂と社会のルール、 うっかりミス・不正行為・違法 行為、迷惑行為	<b>【予習】</b> 医学医療序論資料集 のこの授業の頁を事前によく 読み理解して、授業開始の5 分前までに授業会場の指定 席に着席している  <b>【復習】</b> 医療者のプロフェッ ショナリズムとされる国際社会 の概念	①学生生活全般について、 アン(反)プロフェッショナリ ズムとされる考え方や行動・行 為がないように努力・自制で ける ②今後の日常の活動特に自 己学習が医療者のプロフェッ ショナリズムに直結しているこ とを意識して省察していく	資料集記載の注意 事項に従うこと  実習は全員出席が 原則で、定期試験受 験要件である	グループ ワーク 形式  (全員 出席の 実習)
2/3 月 6限								
2/3 月 7限								
2/3 月 8限								
2/4 火 7限	副学部長 長岡 功 情報センター高橋健 太 学術メディアセンター 城山泰彦	医学医療序論-7: 情報管理と情報リテラシー ①	医学生・医療従事者として の情報収集、情報管理とそ の倫理	情報リテラシー、情報管理、 インターネット、ホームペー ジ、文献検索、PubMed	<b>【予習】</b> 資料集を事前の一読 しておくこと	①インターネットシステムの概 要、問題点、危険性、使用上 のマナーを説明できる ②パスワードの管理ができる ③必要な情報を探し出すこと ができる	授業の最後に授業 の内容について、小 テストを行う	全員必修 講義形式
2/4 火 8限		医学医療序論-7: 情報管理と情報リテラシー ②						
2/7 金 3限	解剖学・生体構造科 学講座 市村 浩一郎	医学医療序論-2: 人体の見方①	医学では人体をどのように 捉えるか	解剖学、生理学、医史学、 動物機能、植物機能	<b>【予習】</b> 資料集を一読しておく こと <b>【復習】</b> 解剖学、生理学の教 科書の総論を学習する	①人体の器官系について説 明できる ②動物機能と植物機能、体 壁と内臓の違いについて説 明できる	医学の主要な対象 である人体について 全体像を把握するよ うに努めること	講義形式
2/7 金 4限		医学医療序論-2: 人体の見方②						
2/10 月 1限	生理学第二講座 小松 雅明	医学医療序論-3: 生命の維持とその調節①	最先端研究は基礎医学に 何をもたらしたか	生化学、生理学	<b>【予習】</b> 資料集を一読しておく こと	①細胞の恒常性維持機構を 挙げることができる ②最近の生命科学の革新の 例を説明できる	特に受験の際に生 物を選択しなかった 者は講義に集中す ること	講義形式
2/10 月 2限		生命の維持とその調節②						
2/10 月 3限	医学教育学研究室 呼吸器内科学講座 鈴木 勉	医学医療序論-4: 病気とは①	症候から病因・病態へのア プローチ	病気による症候、病因・病 態	<b>【予習】</b> 主要臓器(甲状腺、気 管、食道、肺、心臓・大血管、 肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、尿 路、膀胱、子宮)の位置(左 右、上下、前後)を確認(例: 胆嚢炎の時にどのあたりが痛 いのか)	①医師免許申請時の注意事 項を知る ②医師国家試験の概要を知 る③臨床医学理解のための 基礎医学の重要性を知る ④形態と機能(解剖と生理) の重要性を知る ⑤バイタルサインを病態解析 に用いる	①準備学習を确实 に予習のこと②授業 中に質問をするの で、自分で考えなが ら受講する	講義形式
2/10 月 4限		医学医療序論-4: 病気とは②						

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/13 木 3限	医学研究科 感染制御科学研究セ ンター 馬場 理	医学医療序論-5: 感染症①	病原体との戦い	細菌、ウイルス、顕微鏡、 消毒/滅菌、抗生物質	【予習】「人類の歴史に残さ れた「感染症」の事例を、でき るだけ多く挙げる【復習】① 感染症をおこす「病原体の種 類を列挙」する。②細菌、ウイ ルスは初めて発見したのはだ れ？	①感染症を引き起こす病原 体の種類と性質を挙げること ができる②感染症を予防・治 療する方法を概説できる	現在、社会問題と なっている感染症に ついて、その都度、 メディアを通じて情 報を得ておく習慣を 身につける。	講義形式
2/13 木 4限		医学医療序論-5: 感染症②						
2/14 金 3限	病院管理学研究室 川崎志保理	医学医療序論-6: 医学生に必要な接遇・マ ナー①	危機管理の対応における 接遇・マナーの必要性	接遇・マナー、医療倫理、 医師国家試験、患者サービ ス	【予習】社会通念としての接 遇・マナーを新聞や書物等で 予習しておくこと。授業に臨 み、さらに医療者として必要 な接遇・マナーを【復習】する こと	①接遇。マナーに関する医 師国家試験の傾向を知る ②医師として必要な接遇・マ ナーの概要を知る ③患者サービスとは何かを知る	医療に特化した接 遇・マナーは医師国 験に頻出されてお り、医療行為以外に 医師足る人としての 行動が求められてい る。	全員必修 講義形式
2/14 金 4限		医学医療序論-6: 医学生に必要な接遇・マ ナー②						
2/21 金 3限	医史学研究室 澤井 直	医学医療序論-1: 順天堂大学の歴史①	江戸時代の医学塾から大 学院大学まで	仁、建学の精神、創立者佐 藤泰然、現在までの堂主 名、順天堂の学是	入学時に配布された『2013年 順天堂175年の軌跡』と、図 書館蔵書の『順天堂史』等に 目を通す	順天堂大学の特色、短所、長 所を理解する	入学時にM1本郷オリ エンテーションで 得た知識を、この授 業で深めること	講義形式
2/21 金 4限		医学医療序論-1: 順天堂大学の歴史②						
2/26 水 1限	学部長 服部信孝	医学医療序論-8: 卒前卒後教育と医師とし てのキャリアパス①	国際性を身につけた Physician Scientistとしてそ れぞれの道で生涯学ぶ	研修医制度、専門医、大学 院、学位	【予習】順天堂や厚労省のH P等で初期(前期)研修医制 度と本学が提案するキャリア パスについて、予習する	順天堂と医学の今日までの 歴史と自分を重ねながら、医 師・医学研究者としての自ら の将来を具体的に展望できる	準備学習内容も出 題範囲に含まれる	講義形式
2/26 水 2限		医学医療序論-8: 卒前卒後教育と医師とし てのキャリアパス②						
		基礎医学入門定期試験 医学医療序論定期試験 15:00～16:00				医学医療序論の学習アウトカ ムを発揮して、評価の基準を 満たす(合格する)	出題形式は多肢選 択問題と記述問題 の予定	試験
		医学医療序論定期試験の 再試験 15:00～16:00				定期試験では十分でなか った医学医療序論の学習アウト カムを発揮して、評価の基準 を満たす(合格する)	受験対象は医学医 療序論定期試験の 不合格者	再試験

科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門 骨学	INBM040	5 (基礎医学入門 全体)	解剖学・生体構造科学講座
学習内容・概要			
<p>骨学実習では、個々の骨の形状、骨同士の連結、全身の骨格構成、体表形態との関係を理解する。 人体の構造をただ観察するだけでは、人体の構造を理解することにはならない。人体の構造についての知識を、生きたものとして身につけるには、教えられたことを受けとるだけでなく、積極的に学習することが望まれる。</p>			
学習目標			
[一般目標] 全身の骨とその部分の名称、形状を正しく述べることができる。			
[到達目標] 1. 骨格の構造を機能と関連づけて理解し、人体解剖実習による人体の構造の理解に役立てることができる。 2. 骨格の各部位の構造を理解し、医療画像の診断に役立てられる。			

自己学習(準備学習)	
<p>各実習ごとに予習しておくべき内容を「解剖実習カラーテキスト」のページに記載してあるので、実習前に各自で予習を行うこと。骨格の構造と機能の詳細は、指定教科書である「標準解剖学」を用いて勉強する。参考教科書にある「カラー図解 人体の正常構造と機能 縮刷版 第2版」、「プロメテウス解剖学コアアトラス」、「グラント解剖学アトラス 第6版」は人体解剖図を収めており、骨学実習の助けになる。</p>	
<p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>	
学習上の注意点	
<p>人体の構造についての知識を、生きたものとして身につけるには、教えられたことを受けとるだけでなく、積極的に学習することが望まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義では、実習での解剖・観察をよりよくできるように、また解剖・観察した事柄をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。</li> <li>2. 実習は「解剖実習カラーテキスト」に従って行う。実習の前に「解剖実習カラーテキスト」をよく読んで実習内容を予習し、また指定教科書「標準解剖学」と「カラー図解 人体の正常構造と機能 縮刷版第3版」で理解を深めた上で実習に臨むこと。また実習室には「解剖実習カラーテキスト」と指定教科書、および解剖図譜などの資料を持参して学習すること。指定実習書による予習と指定教科書による学習は、骨学実習だけでなく、4月以降の人体解剖実習でも必須のものであり、継続して行うことが重要である。</li> </ol>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>課題(スケッチ、口頭試問等)に関しては、実習中に適宜フィードバックを行う。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法: [原則、以下のものを参考に総合的に判定します。] ・定期試験、出席、プレテスト、ポストテスト、レポート ・学習態度、実習中の課題への評価</p> <p>成績評価基準: 1. 骨格の構造と機能との関係を具体的に述べるができる(定期試験) 2. 骨格の各部位の構造を解剖学用語を用いて説明できる(定期試験) 3. 実習中の課題に対する取組状況によって受講態度を評価する(平常点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定実習書 「解剖実習カラーテキスト」坂井建雄(医学書院)</li> <li>・指定教科書 「標準解剖学」坂井建雄(医学書院) 「カラー図解 人体の正常構造と機能 縮刷版第3版」坂井建雄・河原克雅総編集(日本医事新報社)</li> <li>・参考教科書 「プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版」坂井建雄監訳(医学書院) 「グラント解剖学アトラス 第7版」坂井建雄監訳(医学書院) 「図解解剖学事典 第3版」山田英智監訳(医学書院) 「臨床のための解剖学」佐藤達夫・坂井建雄監訳(MEDSi) 「グレイ解剖学 原著第3版」塩田浩平他訳(エルゼビアジャパン)</li> </ul>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/6 木 1限	解剖学・生体構造科学講座 工藤 宏幸	骨学1: 骨学概論①	人体の形と骨格(骨学実習序論)	骨格、体幹、頭蓋、脊柱、上肢、下肢、頭部、胸部、腹部、体腔	・資料集を一読しておくこと。 ・指定教科書の骨格関連ページをよく学習すること。	・骨格を基準として人体を区分することができる。 ・画像診断に応用する基本的知識を習得できる。	骨学実習オリエンテーションを兼ねるので、全員出席すること。	講義
2/6 木 2限		骨学1: 骨学概論②						講義
2/6 木 5限	解剖学・生体構造科学講座 全教員	骨学実習1 体幹	全身骨格概観、脊柱、胸郭	体幹、体肢 椎骨、肋骨、胸骨、環軸関節、椎間関節、肋椎関節	指定実習書の332～337ページを事前に熟読しておくこと。	・全身を構成する骨格を概観できる。 ・体幹の画像診断に応用する基本的知識が習得できる。	A棟3階化学生物系実習室に集合。	実習
2/6 木 6限								
2/6 木 7限								
2/6 木 8限								
2/7 金 5限	解剖学・生体構造科学講座 全教員	骨学実習2 上肢	上肢帯、自由上肢	肩甲骨、鎖骨、上腕骨、尺骨、橈骨、手の骨、肩関節、肘関節、手根の関節	指定実習書の339～340ページを事前に熟読しておくこと。	・上肢を構成する骨の形態的特徴を列挙できる。 ・上肢運動器疾患に応用する基本的知識が習得できる。		実習
2/7 金 6限								
2/7 金 7限								
2/7 金 8限								
2/17 月 5限	解剖学・生体構造科学講座 全教員	骨学実習3 下肢	骨盤、下肢帯、自由下肢	仙骨、尾骨、寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨、足の骨、股関節、膝関節、足根の関節	指定実習書の341～344ページを事前に熟読しておくこと。	・下肢を構成する骨の形態的特徴を列挙できる。 ・下肢運動器疾患に応用する基本的知識が習得できる。		実習
2/17 月 6限								
2/17 月 7限								
2/17 月 8限								



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/20 木 5限	解剖学・生体構造科学講座 全教員	骨学実習4 頭蓋	頭蓋の区分、頭蓋骨	頭蓋底、頭蓋冠、頭蓋腔、眼窩、鼻腔、顎関節、縫合、泉門	指定実習書の345～349ページを事前に熟読しておくこと。	・頭蓋の形態的特徴を列挙できる。 ・頭部疾患に応用する基本的知識が習得できる。		実習
2/20 木 6限								
2/20 木 7限								
2/20 木 8限								
2/28 金 1限		基礎医学入門定期試験 骨学定期試験						
3/4 水 1限		骨学定期試験の再試験						

科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門 組織細胞生物学	INBM 030	5 (基礎医学入門 全体)	神経生物学・形態学講座 小池 正人
学習内容・概要			
<p>《統合カリキュラムにおける組織細胞生物学の位置づけ》</p> <p>解剖学は大きくマクロレベルの肉眼解剖学(骨学を含む)、ミクロレベルの組織学(顕微解剖学)に大別される。さらに細胞生物学、(中枢)神経系のマクロ・ミクロレベルを統合した脳(神経)解剖学、発生学も解剖学に含まれる。本学では2つの解剖学担当講座がこれらを分担して担当している。M1基礎医学入門では骨学と組織細胞生物学(細胞生物学+組織学総論)、M2ZoneAでは組織学各論と脳解剖学、Unit1では肉眼解剖学、ZoneBでは発生学を学習する。組織染色法や観察技術については組織学実習に加えて、医学研究Iにおいて学習する。</p> <p>人体のミクロレベルの解剖学である組織学は織物に例えると総論の「縦糸」と各論の「横糸」からなり、人体のミクロレベルの構造を理解するためにはどちらも必須である。組織細胞生物学では人体を構成する上皮、支持、筋、神経の4大組織の成り立ちを細胞レベルで学習し、循環器系、主要な管腔臓器である腸管や、皮膚、運動器の構成を4大組織の観点から理解するための23コマの講義を実施する。併せて、組織学(顕微解剖学)の総論とその実際を観察するための実習を行う。人体を構成する器官は、その主たる機能を実行する細胞群(実質細胞)とそれを支える環境(支持組織)からなる。同一の機能を持つ細胞の集団を組織という。器官は、様々な組織の集団で構成される。組織細胞生物学の真の目的は、人体の医学生物学的な構成原理を学ぶことである。この理解のために、実習で光学顕微鏡に習熟することが求められる。M2ZoneAの組織学各論各論では消化器系、内分泌系など各器官レベルの組織構築について「四大組織の組み合わせ」の視点で学習する。従って、基礎医学入門で得られる組織学総論の知識はM2ZoneAの円滑なスタートを切るために極めて重要であり、十分に学習する必要がある。</p> <p>組織学では「個体-器官-臓器-組織-細胞-細胞内小器官-分子」の階層のうち臓器～細胞内小器官レベルの構造について学習する。その点で、組織学は個体～臓器レベルの構造を学習する肉眼解剖学(Unit1)、細胞～分子レベルの学習が主体の生化学・分子生物学(ZoneB)、臓器別の機能について学習するZoneCのいずれとも有機的な連携を可能とする重要な位置を占めていることをよく理解されたい。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>①人体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能について理解することができる。</p> <p>②多細胞生物の細胞間相互作用について分子レベルで理解することができる。</p> <p>③人体の組織が四大組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)の組み合わせからなることを説明できる。</p> <p>④講義前後の自己学習を通して、学習内容から重要な点を見出し、アウトプットするための簡潔に文章や図表をまとめる習慣をつける。</p> <p>⑤諸講義で登場した臓器の構造と役割についての概略を説明できる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>①生物を構成する分子の基本的構造および機能を説明できる。</p> <p>②細胞内小器官の基本的構造と機能を説明できる。</p> <p>③細胞膜の基本的構造と機能を説明できる。</p> <p>④細胞間相互作用の分子メカニズムについて説明できる。</p> <p>⑤四大組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)の特徴、体内分布について説明できる。</p> <p>⑥循環器系の組織学的構築について説明できる。</p> <p>⑦運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(腸管)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。</p>			

## 自己学習(準備学習)

《記述プール問題の利用によるactive learning》

M1組織細胞生物学、M2ZoneA、ZoneBでは講義あたり3問前後記述プール問題が予め配布され(資料集に添付)。各試験で出題される。

必ずノートを準備し、1問あたりA4半分ぐらいに要点を簡潔にまとめること。A4の下半分には問題に関連した重要な図表を貼付けるか、自分で写す。いくら美しく詳しい解答集を作成しても、アウトプットできなければ、得点につながらない。詳しいノートは資料集としてすでに配布している。

一般に、ライセンスのための勉強は、効率化が極めて重要である。医学生の場合、学習項目を減らすことでの効率化は難しい(何故か考えてみよう)ため、学習の「過程」を効率化するしかない。解剖学では、重要な事柄は「決まっている」ため、それを問題として予め提示して、重要項目をバランスよく優先的に学習し、「アウトプットできる知識」にすることがプール問題の最大の目的である。プール問題を講義前の予習復習内容と関連させ、講義から重要なポイントを見つけることで効率のよい自己学習が可能となる。アウトプット(=試験で短時間に正解を出す)できるよう、各項目につき簡潔にまとめる必要がある。その際、文章だけでなく、教科書や資料集をもとに自分の手で簡単な図表を描くことで効率的に理解する習慣を身につけてほしい。自分で解答を作るactive learningの過程が知識を定着させる上で極めて重要で、まとめ方は人それぞれであり、同級生や先輩の解答をコピーして覚える(passive)だけでは十分なアウトプットは期待できない。また誤った/見当違いの答えを丸覚えすると零点になる恐れがある(昨年度多数あり)。まとめたノートをそのままCBT対策に活用できるよう、十分に準備してほしい。

《manabaの活用》

e-learning支援のためのmanabaにて、各講義に関連した国家試験の過去問や、有用な動画のリンクを講義当日までにコースニュースとして配信するので利用して欲しい。プール問題の意図や講義に関する質問はmanabaの掲示板を通して行うこと。講義担当者ないし科目責任者もmanabaを通してできるだけ速やかに回答する。

【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分

## 学習上の注意点

組織細胞生物学は、基礎医学の最初のステップであり、これ以降の講義を理解するための基礎になる。したがって、ここからよいスタートを切ることが、今後のステップに進むための重要である。そのため、理解しにくい項目がある場合にはそのままにせず、講義担当者に積極的に質問すること、連続性のある講義を休まないようにすることが大切である。講義にあわせて下記教科書を用いた予習・復習を行う習慣を出来るだけ早く身につけることが重要である。また、資料集は教科書ではなく、講義の補助に過ぎないことに留意されたい。講義ではこれら教科書および資料集の中の特重要なポイントが強調される。従って講義に出席して効率良く学習するスタイルを早く身に付けることが肝要である。組織細胞生物学は様々な臓器の細胞を例に挙げて講義が進められる。言い換えると、様々な臓器について学習する初めての機会となる。一連の講義で学習した臓器の構造と役割についての概略を理解しておくことは、今後の講義実習を円滑に進める上で重要となる。

組織細胞生物学は1ヶ月という短期間に多くの講義実習が設定されているため、効率良い学習が重要である。組織学実習は講義で学習した内容について顕微鏡で観察するactive learningであり、実習中に講義の知識と実習内容を連携させるように努めてほしい。組織細胞生物学の総合成績での実習試験のウエイトは大きい。実習およびTBLは全員出席のこと。実習問題と講義に関する選択問題は過去問があり、過去3年分が配信される。例年試験では重要な箇所が出題されるので、過去問を解くことは重要事柄を効率良く習得する上で極めて重要である。しかし、過去問と同一の問題が出題されることは稀であるため、過去問だけの学習では不十分である。プール問題については上記を参照されたい。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

各講義の質問はmanabaの掲示板に書き込むこと。できるだけ速やかに対応します。試験の講評、注意点はmanabaの試験の欄のコースニュースを通して配信する。試験の解答に対する疑義がある場合は解答配布後1日以内に教務課に届け出ること。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:

[原則、以下とおり判定します。]

・定期試験は講義あたり2問の選択問題と、実習標本に関する記述問題、数問のプール問題に基づく記述問題からなる。それぞれの試験を100点満点として採点し、原則、選択問題:実習問題:プール問題=4:3:3の割合で算出した得点を最終成績とする。再試験の範囲、点数算出方法は本試験と同様である。

・実習は全出席が原則であり、正当な理由がない欠席は総合点からの大幅な減点ないし受験資格喪失の対象となるので注意すること。

・また、講義は2/3以上出席しないと受験資格そのものを失うので注意すること。

成績評価基準:

・原則、定期試験の結果に基づき、60点未満を再試験とする。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

①②は指定教科書につき、必ず必ず購入し、講義実習に持参すること。

特に②はM1組織細胞生物学、M2ZoneA組織学各論全般に渡り使用し、教科書の内容も試験範囲とします。本書はアトラスも兼ねているので、実習中も必要となります。

指定教科書

①「Essential 細胞生物学」(原書第4版)(Albertら著 中村桂子・松原謙一監訳 南江堂)

②「Ross組織学」(Ross&Pawlina著 内山安男・相磯貞和監訳 南江堂)

参考書

③「組織細胞生物学 原書第三版」(Abraham L. Kierszenbaum著 内山安男監訳 南江堂)

④「標準組織学 総論 第5版」(藤田恒夫、藤田尚男著 医学書院)

⑤「カラー図解 人体の細胞生物学」(坂井建雄、石崎泰樹編 日本医事新報社)

科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門 組織学実習	INBM 030	5 (基礎医学入門 全体)	神経生物学・形態学講座 小池 正人
学習内容・概要			
<p>人体のミクロレベルの解剖学である組織学は織物に例えると総論の「縦糸」と各論の「横糸」からなり、人体のミクロレベルの構造を理解するためにはどちらも必須である。組織細胞生物学では人体を構成する上皮、支持、筋、神経の4組織の成り立ちを細胞レベルで学習するための21コマの講義を実施する。併せて、組織学(顕微解剖学)の総論とその実際を観察するための実習を行う。人体を構成する器官は、その主たる機能を実行する細胞群(実質細胞)とそれを支える環境(支持組織)からなる。同一の機能を持つ細胞の集団を組織という。器官は、様々な組織の集団で構成される。また、器官には組織を支えるための骨格となる構造がある。組織細胞生物学の真の目的は、人体の医学生物学的な構成原理を学ぶことである。この理解のために、実習で光学顕微鏡に習熟することが求められる。M2ZoneAの組織学各論各論では消化器系、内分泌系など各器官レベルの組織構築について「四大組織の組み合わせ」の視点で学習する。従って、基礎医学入門で得られる組織学総論の知識はM2ZoneAの円滑なスタートを切るために極めて重要であり、十分に学習する必要がある。</p> <p>組織学では「個体-器官-臓器-組織-細胞-細胞内小器官-分子」の階層のうち臓器～細胞内小器官レベルの構造について学習する。その点で、組織学は個体～臓器レベルの構造を学習する肉眼解剖学(Unit1)、細胞～分子レベルの学習が主体の生化学・分子生物学(ZoneB)、臓器別の機能について学習するZoneCのいずれとも有機的な連携を可能とする重要な位置を占めていることをよく理解してほしい。</p> <p>組織細胞生物学は1ヶ月という短期間に多くの講義実習が設定されているため、効率良い学習が重要である。組織学実習は講義で学習した内容について顕微鏡で観察するactive learningであり、実習中に講義の知識と実習内容を連携させるように努めてほしい。組織細胞生物学の総合成績での実習試験のウエイトは大きい。</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>①上皮組織、結合組織、血球、骨・軟骨、筋組織、神経組織を組織標本の上で同定できる。  ②人体各器官の組織標本を顕微鏡で観察してその組織構築を同定できる。  ③電子顕微鏡写真でいろいろな細胞の形態上の特徴を記載し、機能との関連を考察できる。  ④運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(長官)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。  ⑤各実習で観察した臓器の構造と役割についての概略を説明できる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>①顕微鏡の使用方法を修得する。②バーチャルスライドの使用方法を習得する。  ③細胞の構造を光学顕微鏡、電子顕微鏡レベルの細胞の構造を説明できる。  ④上皮組織を細胞レベルで説明できる。⑤結合組織の構造と機能を説明できる。  ⑥各種血球の組織学的分類ができる。⑦軟骨・骨組織の構造と機能を説明できる。  ⑧筋組織の構造と機能を説明できる。⑨循環器系の構造と機能を説明できる。  ⑩神経組織の構造と機能を説明できる。  ⑪運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(腸管)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。</p>			

自己学習(準備学習)	
<p>&lt;予習&gt; 神経生物学・形態学講座オリジナルの実習書を配布する。講義内容と照らし合わせながら、予習すること。          &lt;復習&gt; 実習終了時にチェックリストを配布する。日本語の解剖学用語に対応する英語を記入し、自分で確認できたか確認すること。確認できなかった項目は、上記教科書や各種アトラスでその構造を復習しておくこと。          本実習では内分泌系、生殖器、感覚器を除く様々な臓器の切片を観察する。各実習で観察した臓器については、その構造と役割についての概略について学習するように。</p>	
<p>【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分</p>	
学習上の注意点	
<p>&lt; 実習及び実習室の利用について &gt;          ①忘れ物をしないこと:実習書、教科書、資料集、白衣(一部の实習で必要)を持参し、適宜資料を参照しながら実習を進めること。②遅刻、欠席(忌引および学校伝染病などやむを得ない場合以外) 早退は一切認めない。③事前に予習を行うこと。④実習時間終了後も6時までは部屋の使用を認める。最後の者は必ず神経生物学・形態学講座まで終了の連絡(内線3505)をすること。⑤飲食禁止。⑥実習室では携帯電話の使用(電話/端末としてもカメラとしても)を禁ずる。⑦先輩の過去のノートを実習室に持ち込むのは厳禁。携帯に撮影した像の利用についても同様。          &lt; 標本及び備品の利用について &gt;          ①標本は予備がほとんどない貴重なものばかりである。扱いに注意すること。万が一破損した場合はすぐに教員に届け出ること。②光学顕微鏡を乱暴に取り扱わないこと。不具合があればすぐに教員に問い合わせること。③共通の実習書を使用した後は必ずもとの場所に返却すること。          &lt; 復習の重要性 &gt;          講義の内容を組織学実習での観察を通して定着させるように努めること。</p>	
課題(試験やレポート等)に関するフィードバック	
<p>各講義の質問はmanabaの掲示板に書き込むこと。できるだけ速やかに対応します。試験の講評、注意点はmanabaの試験の欄のコースニュースを通して配信する。試験の解答に対する疑義がある場合は解答配布後1日以内に教務課に届け出ること。</p>	
成績評価方法・基準	指定教科書・参考教科書・参考書等
<p>成績評価方法:          [原則、以下とおりに判定します。]          ・定期試験は講義あたり2問の選択問題と、実習標本に関する記述問題、数問のプール問題に基づく記述問題からなる。それぞれの試験を100点満点として採点し、原則、選択問題:実習問題:プール問題=4:3:3の割合で算出した得点を最終成績とする。再試験の範囲、点数算出方法は本試験と同様である。          ・実習は全出席が原則であり、正当な理由がない欠席は総合点からの大幅な減点ないし受験資格喪失の対象となるので注意すること。          ・また、講義は2/3以上出席しないと受験資格そのものを失うので注意すること。</p> <p>成績評価基準:          ・原則、定期試験の結果に基づき、60点未満を再試験とする。</p>	<p>特に②はM1組織細胞生物学、M2ZoneA組織学各論全般に渡り使用し、教科書の内容も試験範囲としますので、全員購入して下さい。本書はアトラスも兼ねているので、実習中も必要となります。          指定教科書          ①「Essential 細胞生物学」(原書第4版)(Albertら著 中村桂子・松原謙一監訳 南江堂)          ②「Ross組織学」(Ross&amp;Pawlina著 内山安男・相磯貞和監訳 南江堂)          参考書          ③「組織細胞生物学 原書第三版」(Abraham L. Kierszenbaum著 内山安男監訳 南江堂)          ④「標準組織学 総論 第5版」(藤田恒夫、藤田尚男著 医学書院)          ⑤「カラー図解 人体の細胞生物学」(坂井建雄、石崎泰樹編 日本医事新報社)</p>

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/4 火 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-1:細胞の構造- 1①	細胞の成り立ち	細胞膜、細胞内膜、細胞内 小器官、細胞質	①②ともに指定教科書とす る。①「Ross組織学」 2 核以外の細胞構造(23-73 頁)、3 細胞核(74-84頁) ②「Essential 細胞生物学」 第1章 細胞とは(1-26頁)、第 11章 膜の構造(359-381頁)、 第12章 膜を横切る輸送(383- 391頁)、第15章 細胞内区画 と細胞内輸送(487-522頁)	①細胞のさまざまな研究法に ついて説明できる。 ②細胞内小器官の構造と機 能、およびその代表的な構成 分子について概説できる。 ③小胞体、ゴルジ体、リソソ ームについて、その生理的な役 割について説明できる。 ④ミトコンドリア、ペルオキシ ソームの構造と微細構造とそ の機能について説明できる。	2/5の細胞内区画と 細胞内輸送-1,2と関 連して学習すること。	講義
2/4 火 2限		組織細胞-1:細胞の構造- 1②						講義
2/4 火 3限		組織細胞-2:細胞の構造- 2①	細胞の成り立ち	細胞内小器官、細胞質、 核、核小体、核膜				講義
2/4 火 4限		組織細胞-2:細胞の構造- 2②						講義
2/4 火 5限	生化学第一講座 奥野 利明	組織細胞-3:核と染色体①	核の構造	核、核小体、核膜、染色体	Essential 細胞生物学(原書第 4版) p.15-16, p171-195, 495-497を読んで、空欄(マー ク部)を埋めてくること。また問 題を解いてくること。	核の役割や構造、染色体とゲ ノムDNAの関係、DNAの基本 構造を理解し、説明できるよう になること。	授業の最後に、講義 内容に関する小テス トを行う。	講義
2/4 火 6限		組織細胞-3:核と染色体②						講義
2/5 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-6:上皮組織①	上皮組織の基本構築と分 類、腺組織	単層上皮、重層上皮、扁平上 皮、立方上皮、円柱上皮、多列 上皮、移行上皮、微絨毛、線 毛、不動毛、接着複合体、基底 膜、外分泌、内分泌、全分泌、 部分分泌、開口分泌、透分泌 、アポクリン分泌	「Ross組織学」(Ross & Pawlina著 内山安男・相磯貞 和監訳 南江堂) 4組織:概念と分類(97-104 頁)、5 上皮組織(105-149頁)	①代表的な上皮組織について形 態学的特徴と具体例を説明でき る。 ②上皮細胞の極性と接着複合 体・基底膜の関係について概説 できる。 ③上皮組織と腺の関係について 概説できる。	細胞接着・細胞の極 性と関連して学習す ること。	講義
2/5 水 2限		組織細胞-6:上皮組織②						講義
2/5 水 3限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-7: 細胞接着・細胞の極性①	細胞の相互認識および結 合の機構	線毛、微絨毛、不動毛、接 着複合体、密着結合、接着 帯、接着斑、ギャップ結合、 基底膜、ヘミデスモソーム、 局所接着、カドヘリン、イン テグリン	「Essential 細胞生物学」 第20章 細胞のつくる社会 (694-702頁) 「Ross組織学」 5 上皮組織(105-149頁)	①極性のある細胞の構造的特徴 について説明できる。 ②細胞間接着因子の種類と特徴 を説明できる。 ③接着複合体の種類と構造を説 明できる。	上皮組織と関連して 学習すること	講義
2/5 水 4限		組織細胞-7: 細胞接着・細胞の極性②						講義
2/5 水 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:細胞	光学顕微鏡を用いて細胞の 構造を観察することで光学 顕微鏡の使い方を学ぶ	細胞膜、細胞質、核、細胞 内小器官(ミトコンドリアとゴ ルジ装置)、染色体、染色 法	関連講義の教科書と資料集 を復習したうえで、実習書を 予習しておく。	① 組織学標本と光学顕微鏡 を適切に取り扱うことが出来 る。 ② バーチャルスライドシステム を利用できる。 ③ 組織学標本の観察とスケッ チの目的と意味が理解でき る。 ④ 1個の細胞について光学顕 微鏡で得られる像について説 明できる。	①実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。 ②目的を理解して観 察・スケッチをする。	実習
2/5 水 6限								実習
2/5 水 7限								実習
2/5 水 8限								実習

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/6 木 3限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-8:細胞外マトリックス①	細胞の周りの世界	細胞外マトリックス、コラーゲン線維(膠原線維)、細網線維、弾性線維、線維芽細胞、基底膜、プロテオグリカン、インテグリン、ラミニン、線維芽細胞、マクロファージ、肥満細胞、脂肪細胞、形質細胞、疎性結合組織、密性結合組織、脂肪組織、胎児性結合組織	①②ともに指定教科書とする。 ①「Ross組織学」 5上皮組織(133-143頁)、6結合組織(156-193頁)、9脂肪組織(254-269頁) ②「Essential細胞生物学」 第20章 細胞のつくる社会(688-696頁)	①結合組織の種類と構成する細胞を列挙し、それらの形態学的特徴と機能を説明できる。 ②それぞれの結合組織が存在する臓器を列挙できる。 ③細胞間質(線維成分と基質)の種類を列挙し、その特徴を説明できる。 ④基底膜・細胞と結合組織の結合様式について説明できる。		講義
2/6 木 4限		組織細胞-8:細胞外マトリックス②						講義
2/7 金 1限		組織細胞-9:結合組織①	結合組織とその構成要素					講義
2/7 金 2限		組織細胞-9:結合組織②						講義
2/10 月 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:上皮組織	上皮細胞の形態と配列に基づき上皮を分類する。	単層扁平・立方・円柱上皮、重層扁平上皮、多列上皮、腺、微絨毛、基底膜	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① 上皮組織を構成する細胞の形態とその配列の種類を知り、多様な機能との関係を説明できる。 ②上皮細胞の頂上面の形態学的特徴と基底膜について説明できる。 ③終末部と導管からなる外分泌腺と上皮細胞との関係を説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②上皮組織とその下に存在する結合組織や血管、神経との関係を知る。	実習
2/10 月 6限								
2/10 月 7限								
2/10 月 8限								
2/12 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-12:軟骨および骨組織①	軟骨・骨の構築	軟骨細胞、骨芽細胞と骨細胞、コラーゲン、ヒドロキシアパタイト、破骨細胞、骨層板、緻密質、ハヴァース系	「Ross組織学」 7軟骨組織(194-213頁)、8骨組織(214-253頁)	①軟骨組織の種類を列挙し、それらの組織学的特徴と機能を説明できる。 ②骨組織の組織学的構造および骨芽細胞と破骨細胞の機能を説明できる。 ③骨形成過程を組織学的観点から説明できる。 ④関節の構造を組織学的に説明できる。	骨学実習で長管骨と海綿骨の断面の構造を良く観察しておくこと。	講義
2/12 水 2限		組織細胞-12:軟骨および骨組織②						講義
2/12 水 3限		組織細胞-13:骨の発生とリモデリング①	骨化のメカニズム	骨芽細胞、破骨細胞、膜性骨化、軟骨内骨化、骨端軟骨、リモデリング、関節	「Ross組織学」 8骨組織(214-253頁)	①軟骨組織の種類を列挙し、それらの組織学的特徴と機能を説明できる。 ②骨組織の組織学的構造および骨芽細胞と破骨細胞の機能を説明できる。 ③骨形成過程を組織学的観点から説明できる。 ④関節の構造を組織学的に説明できる。	骨学実習で長管骨と海綿骨の断面の構造を良く観察しておくこと。	講義
2/12 水 4限		組織細胞-13:骨の発生とリモデリング②						講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/12 水 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:結合組織	結合組織の種類とその構成要素	疎性・密性結合組織、コラーゲン線維、弾性線維、線維芽細胞、脂肪細胞、肥満細胞、マクロファージ	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①結合組織を構成する細胞成分と細胞外マトリックスについて説明できる。 ②結合組織で見られる3種類の線維成分の特徴を説明できる ③疎性結合組織、緻密結合組織の違い、体内での分布について説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②全身に存在する結合組織の役割を包括的に理解する。	実習
2/12 水 6限								
2/12 水 7限								
2/12 水 8限								
2/13 木 1限	神経生物学・ 形態学講座 横田 睦美	組織細胞-10:血球の種類と役割①	血液の構成成分と白血球の分類	血清、血漿、赤血球、ヘモグロビン、白血球、顆粒白血球、好中球、アズール顆粒、好塩基球、好酸球、リンパ球、B細胞(Bリンパ球)、T細胞(Tリンパ球)、単球、血小板	「Ross組織学」 10血液(270-313頁)	①血液でみられる各々の成分を列挙し、成人における正常値について説明できる。 ②血液の各種細胞性分の種類、形態学的特徴、機能を説明できる。		講義
2/13 木 2限		組織細胞-10:血球の種類と役割②						講義
2/13 木 5限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-4: 細胞内区画と細胞内輸送-1 ①	細胞内区画とタンパク質の選別	核膜、ミトコンドリア、ペルオキシソーム、小胞体、リソソーム、シグナル配列、シャペロン	①②ともに指定教科書とする。①「Ross組織学」 2核以外の細胞構造(23-73頁)、3細胞核(74-84頁) ②「Essential 細胞生物学」 第1章 細胞とは(1-26頁)、第15章 細胞内区画と細胞内輸送(487-522頁)	①細胞内での物質の輸送機構の原理について説明できる ②小胞体、ゴルジ体、リソソームについて、その生理的な役割について説明できる。 ③小胞による分泌経路、エンドサイトーシスについて説明できる。 ④オートファジーの過程とその役割について説明できる。	2/1の細胞-1, 2と関連して学習すること	講義
2/13 木 6限		組織細胞-4: 細胞内区画と細胞内輸送-1 ②						講義
2/13 木 7限		組織細胞-5: 細胞内区画と細胞内輸送-2①	細胞内における小胞の輸送	小胞体、ゴルジ体、分泌小胞、リソソーム、エンドサイトーシス、エキソサイトーシス、ファゴサイトーシス、SNARE				講義
2/13 木 8限		組織細胞-5: 細胞内区画と細胞内輸送-2②						講義
2/14 金 1限	神経生物学・ 形態学講座 横田 睦美	組織細胞-11:骨髄と造血①	血球は骨髄で造られる	骨髄、造血幹細胞、骨髄系幹細胞、リンパ系幹細胞、造血促進因子	「Ross組織学」 10血液(270-313頁)	①造血器の変遷について説明できる。 ②骨髄の構造と機能について説明できる。 ③各種血球の分化について説明できる。	「細胞の分化」について血球の分化を例に学習する。	講義
2/14 金 2限		組織細胞-11:骨髄と造血②						講義
2/14 金 5限	神経生物学・ 形態学教員	組織学実習:軟骨および骨組織	軟骨と骨の構造を観察する。	ガラス軟骨・弾性軟骨・線維軟骨、ハブアース系、骨層板、骨芽細胞と骨細胞、破骨細胞、軟骨内骨化	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①軟骨・骨組織を構成する細胞と細胞外基質について説明できる。 ②軟骨・骨組織の成長と代謝について説明できる。 ③骨単位(オステオン)について組織学的に説明できる。 ④膜内骨化と軟骨内骨化のメカニズムについて説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②骨組織が生きていて変化し続ける組織であることを理解する。	実習
2/14 金 6限								
2/14 金 7限								
2/14 金 8限								



日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/17 月 1限	生化学第一講座 奥野 利明	組織細胞-14:細胞骨格①	細胞形状の維持と変化に与るタンパク質	マイクロフィラメント、マイクロチューブル、中間径フィラメント、アクチン、チューブリン、重合、+端、-端	Essential 細胞生物学(原書第4版) p21-26、p566-577を読んで空欄(マーク部)を埋めてくること。また問題を解いてくること。	細胞骨格を構成する中間径フィラメント、微小管、アクチンフィラメントの構造や機能が説明できる。	授業の最後に、講義内容に関する小テストを行う。	講義
2/17 月 2限		組織細胞-14:細胞骨格②						講義
2/17 月 3限	生化学第一講座 奥野 利明	組織細胞-15:細胞運動①	細胞の運動に関する構造と分子	モータータンパク、ATPase、滑り説、小胞輸送、アメーバ運動、細胞分裂	Essential 細胞生物学(原書第4版) p577-592を読んで空欄(マーク部)を埋めてくること。また問題を解いてくること。	モータータンパク質が小胞輸送に関わることを理解する。細胞運動における細胞骨格の役割が説明できる。	授業の最後に、講義内容に関する小テストを行う。	講義
2/17 月 4限		組織細胞-15:細胞運動②						講義
2/18 火 1限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-16:筋組織①	筋の種類と構造	骨格筋、筋原線維と横紋、アクチンフィラメント・ミオシンフィラメント、筋鞘と筋小胞体、神経筋接合部、心筋、介在板、平滑筋	「Ross組織学」 11筋組織(314-355頁)	①平滑筋・心筋・骨格筋の組織学的特徴と機能、分布を説明し、その差異を指摘できる。 ②運動神経終末(運動終板)の構造と機能を説明できる。		講義
2/18 火 2限		組織細胞-16:筋組織②						講義
2/18 火 3限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-21:粘膜・腺組織①	中空性器官と実質性器官の基本構造の観点から粘膜と腺組織を理解する	器官系、実質性器官、中空性器官、血管の一般構造、消化管の一般構造、粘膜、上皮、漿膜、腺、粘液腺、漿液腺	「Ross組織学」 5 上皮組織(105-108頁、143-146頁)、13 心血管系(411-422頁)、16 消化器系II(568-571頁)	①上皮が重層扁平上皮から変化する粘膜の部位を列挙できる。 ②消化管を例として中空性器官の基本構造について説明できる。 ③腺組織を例として中空性器官の基本構造について説明できる。	この講義は消化器系、呼吸器系、泌尿生殖器系を理解するうえで重要。組織細胞-6の内容を復習して講義に望むこと。	講義
2/18 火 4限		組織細胞-21:粘膜・腺組織②						講義
2/18 火 5限	神経生物学・ 形態学講座 教員	組織学実習:筋組織	骨格筋・心筋・平滑筋を区別する。	骨格筋細胞、心筋細胞、平滑筋細胞、筋原線維と横紋、運動終板、筋紡錘	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① 3種類の筋組織の光学顕微鏡レベルでの形態的特徴を説明できる。 ② 筋細胞の配列や結合組織・血管・神経との関係を説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②3種類の筋組織の形態と機能を比較して理解する。	実習
2/18 火 6限								実習
2/18 火 7限								実習
2/18 火 8限								実習
2/19 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 日置 寛之	組織細胞-18:神経組織-1①	中枢神経系の構成要素	ニューロン、神経細胞体、樹状突起、軸索、神経線維、髄鞘、シナプス、神経膠細胞(グリア細胞)	「Ross組織学」 12神経組織(356-393頁)	①中枢神経系と末梢神経系の区分を説明できる。 ②中枢神経系のニューロンとグリアの構造と機能について説明できる。 ③シナプスの基本構造を説明できる。		講義
2/19 水 2限		組織細胞-18:神経組織-1②						講義
2/19 水 3限		組織細胞-19:神経組織-2①	末梢神経系の構成要素、神経組織の変性・再生	末梢神経、シュワン鞘、神経節、神経筋接合部、ワラー変性、神経分化	「Ross組織学」 12神経組織(356-393頁)	①末梢神経線維、神経節の組織学的構造について説明できる。 ②神経組織の変性・再生について例を挙げて説明できる。		講義
2/19 水 4限		組織細胞-19:神経組織-2②						講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/19 水 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:神経組織	中枢神経系・末梢神経系を 構成する細胞と線維を見 る。	ニューロンの樹状突起・細 胞体・軸索、髄鞘、有髄神 経線維・無髄神経線維、末 梢神経、神経節	関連講義の教科書と資料集 を復習したうえで、実習書を 予習しておく。	① 神経細胞(ニューロン)の 形態と極性について説明でき る。 ② 中枢神経系と末梢神経系 のニューロンとグリア細胞につ いて説明できる。 ③ 末梢神経線維、神経節に ついて組織学的に説明でき る。 ④ 無髄神経線維と有髄神経 線維の組織学的構造の違い について説明できる。	① 実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。 ② 神経細胞の各部 位の形態と機能を理 解する。 ③ 実習終了後各自 の標本を整理する。	実習
2/19 水 6限								
2/19 水 7限								
2/19 水 8限								
2/20 木 3限	生理学第一講座 小西 清貴	組織細胞-20:興奮の発 生、伝導、伝達①	神経細胞の電気的な活動 と、すばやく正確に情報を 伝え処理する仕組み	静止電位、活動電位、イオ ンチャンネル、無髄神経、有 髄神経、シナプス、伝達物 質、受容体	資料集を事前に一読し、不明 点を調べておくこと。	静止膜電位、活動電位がどの ような機序で発生するか、発 生した活動電位がどのように 軸索を伝導し、シナプスで伝 達されるかを説明できる。		講義
2/20 木 4限		組織細胞-20:興奮の発 生、伝導、伝達②						講義
2/21 金 1限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-17:心血管系の 組織学①	部位による血管の組織構築 の違い・心臓の組織学的構 造	筋型・弾性型動脈、静脈、 毛細血管、血管内皮細胞、 心臓、刺激伝導系、リンパ 管	「Ross組織学」 13心血管系(404-441頁)	①筋型・弾性型動脈の組織学的 特徴と機能、体内分布を説明でき る。 ②微小循環系の超微形態構造と 機能、体内分布を説明できる。 ③心臓の組織学的構造を説明でき る。	組織細胞-16と連携 して学習する	講義
2/21 金 2限		組織細胞-17:心血管系の 組織学②						講義
2/21 金 5限	神経生物学・ 形態学講座 全教員	組織学実習:血管と血液	血管と心臓の組織学的構造 および血球の分類	筋型・弾性型動脈、静脈、 毛細血管、心内膜、心筋、 刺激伝導系、赤血球、白血 球、血小板、リンパ球、骨髄	関連講義の教科書と資料集 を復習したうえで、実習書を 予習しておく。	②弾性型動脈、筋型動脈、静脈、 毛細血管を組織学的特徴を血管 の三層構造に基づき組織学的に説 明できる。 ③心臓壁の三層構造(心内膜、 心筋層、心外膜)と特殊心筋につ いて組織学的に説明できる。 ③血球の種類、形態学的特徴、 機能について説明できる。 ④骨髄の組織学的構造について 説明できる。	① 実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。 ② 筋組織の実習内 容と連携して学習す る。	実習
2/21 金 6限								
2/21 金 7限								
2/21 金 8限								
2/25 火 3限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-22:外皮・運動 器①	外皮・運動器(筋の付着、関 節)の基本構造	皮膚、真皮、皮下組織、汗腺、 体壁、関節、関節軟骨、間接 包、滑膜、腱、筋腱接合部、腱 膜、腱鞘、筋膜、筋紡錘、骨 膜、末梢神経、	「Ross組織学」 5上皮組織(133-143頁)、6結合組 織(156-193頁)、7軟骨組織(194- 213頁)、8骨組織(214-253頁)、11 筋組織(314-355頁)、12神経組織 (356-393頁)	① 体壁の構造を組織学的に説明でき る。 ② 広い異味での筋膜について組織 学的に説明できる。 ③ 筋の骨への付着様式を組織学的 に説明できる。 ④ 関節の基本構造を組織学的に説 明できる。	この講義は肉眼解剖学 の前半部分を理解する うえで重要。 各関連講義の内容を復 習して講義に望むこと。	講義
2/25 火 4限		組織細胞-22:外皮・運動 器②						講義

日時	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/25 火 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:4大組織ま とめ	四大組織から見た運動器、 外皮、腸管	関節、関節軟骨、間接包、 滑膜、腱、筋腱接合部、腱 膜、腱鞘、筋膜、筋紡錘、骨 膜、末梢神経、皮膚、真皮、 皮下組織、汗腺、粘膜、粘 膜固有組織、粘膜筋板、粘 膜下組織、腺、平滑筋、粘 膜下神経叢、筋間神経叢、 漿膜	関連講義の教科書と資料集 を復習したうえで、実習書を 予習しておく。	① 膝関節を構成する成分に ついて四大組織の組み合わせ に基づき説明できる。 ② 手掌の横断像で観察できる 構造物(外皮を含む)につい て四大組織の組み合わせに 基づき説明できる。 ③ 小腸を例として中空性臓器 の基本構造について四大組 織の組み合わせに基づき説 明できる。	① 実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。	実習
2/25 火 6限								
2/25 火 7限								
2/25 火 8限								
2/26 水 3限	旭川医科大学 甲賀 大輔	組織細胞-23:①《特別講 義》立体組織学	走査電子顕微鏡でみたから だの世界	パラフィン切片、染色、電子 顕微鏡、立体組織	「Ross組織学」 1 方法(1-22頁)	① パラフィン試料作製法・染 色法を説明できる。 ② 透過電子顕微鏡と走査電 子顕微鏡の違いを説明でき る。 ③ 電子顕微鏡の試料作製法 を説明できる。	本講義は特別講義に つき出席を重視する。	講義
2/26 水 4限								組織細胞-23:②《特別講 義》立体組織学
2/26 水 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:電子顕微鏡 の世界	超微形態レベルの細胞・組 織の構造の観察	細胞膜、細胞質、核、細胞 内小器官、細胞骨格、細胞 間接着、筋線維、シナプス、 腱鞘、	関連講義の教科書と資料集 を復習したうえで、実習書を 予習しておく。	① 電子顕微鏡写真を見て、 細胞内小器官、細胞表面の 構造、隣接する細胞間の関係 について説明できる。 ② 光学顕微鏡と電子顕微鏡 のそれぞれの特性を説明でき る。	① 実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。	実習
2/26 水 6限								
2/26 水 7限								
2/26 水 8限								
2/27 木 1限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:予備日	以下の者は出席すること。 ① 正当な理由があり欠席た 者で追実習が完了していな いもの。 ② これまでの実習状況を鑑 み追実習が必要であると判 断された者 ③ 自主的に復習を望むも の。	関連講義の教科書と資料集 を復習したうえで、実習書を 予習しておく。	① これまでの諸実習で十分 に学習できなかった項目につ いて復習を行う。	① 実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。	実習	
2/27 木 2限								
2/27 木 3限								
2/27 木 4限								
2/28 金		基礎医学入門定期試験 組織細胞生物学定期試験						
3/4 水		組織細胞生物学定期試験 の再試験						

2019年度 医の原則・医学と医療の倫理等に関する内容が含まれるM1～M6授業一覧

学年	担 当	授 業 タ イ ト ル	
M1 医療プロフェッショナルリズム入門・早期体験実習 (病院見学/看護実習/施設実習)	生理学第二/医学教育 医史学	渡邊 マキノ 澤井 直	オリエンテーション(医師として、人間として)
	医学教育	奈良 信雄	医療者のプロフェッショナルリズム: 国際社会の医療者プロフェッショナルリズム
	法医学研究室 生理学第二/医学教育 医史学研究室	齋藤 一之 渡邊 マキノ 澤井 直	医師・医療者になるとは 倫理とプロフェッショナルリズム、接遇マナー
	生理学第二/医学教育 医史学研究室 医学教育/微生物学	渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	病院見学オリエンテーション(1) 医療チームの一員としての基本的な態度とは
	医療看護学部基礎看護学	寺岡 三左子	看護の役割と機能
	医学教育/膠原病内科学 生理学第二/医学教育 医史学研究室 医学教育/微生物学	建部 一夫 渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	病院見学オリエンテーション(2) 病院の中で仕事をするということー医師の責務ー
	生理学第二/医学教育 医史学研究室 医学教育/微生物学	渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	病院見学オリエンテーション(3) 患者さんとのコミュニケーション
	医学教育/膠原病内科学 生理学第二/医学教育 医史学研究室 医学教育/微生物学	建部 一夫 渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	病院見学(本郷 順天堂医院)
	生理学第二/医学教育 医史学研究室 医学教育/微生物学	渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	病院見学の反省
	小児科学	田中 恭子	子どもの特性と臨床倫理
	生理学第二/医学教育	岡田 隆夫 渡邊 マキノ	血圧測定と臨床実技実習
	医学教育/膠原病内科学 生理学第二/医学教育 医史学研究室 医学教育/微生物学	建部 一夫 渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	看護実習オリエンテーション
	医療看護学部 生理学第二/医学教育 医史学研究室 医学教育/微生物学	小元 まき子 他 渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	医療看護学部での講義・実習
	生理学第二/医学教育 医学教育/膠原病内科学 医史学研究室 医学教育/微生物学	渡邊 マキノ 建部 一夫 澤井 直 關根 美和	看護実習
	生理学第二/医学教育 医史学研究室 医学教育/微生物学	渡邊 マキノ 澤井 直 關根 美和	看護実習のまとめと反省
	医史学 一般教育 一般教育	澤井 直 奥野 浩 和田 麻里 他	施設実習の概要説明・希望調査
	リハビリテーション医学	伊澤 奈々	高齢者のリハビリテーション医学
	医療看護学部高齢者看護学 総泉病院名誉院長	島田 広美 高野 喜久雄	ボディメカニクス 高齢者医療の現場から
	医療看護学部高齢者看護学	杉山 智子	高齢者の介護について
	医学教育/呼吸器内科	鈴木 勉	高齢の患者さんへの対応
	医史学 薬理学 生化学第二 医学教育/呼吸器内科 医学部基礎医学系講座・ 研究室	澤井 直 村山 尚 染谷 明正 鈴木 勉 基礎医学系担当教員	施設実習オリエンテーション～ 施設実習～ 施設実習の反省
	一般教育 一般教育 一般教育	奥野 浩 和田 麻里 一般教育担当教員	
	ライフケアシステム医師	辻 彼南雄	高齢者の在宅医療
	解剖学・生体構造科学	市村 浩一郎	人体の形態をどのように学ぶか
	日本思春期学会幹事 生理学第二/医学教育 医史学研究室	宮崎 豊久 渡邊 マキノ 澤井 直	ネット社会のコミュニケーション概論

学年		担 当		授 業 タ イ ト ル
M 1	医療入門	公衆衛生学講座	遠藤 源樹	公衆衛生学の基礎
		下部消化管外科/医学教育	冨木 裕一	バイタルサイン
		総合診療科研究室	内藤 俊夫	医学生から始める感染症への対策
		浦安病院 救急診療科	石原 唯史	災害医療
		医学教育/呼吸器内科	鈴木 勉	医療面接
		熱帯医学・寄生虫病学	美田 敏宏	熱帯医学入門
		医学部整形外科学講座	櫻庭 景植	救急医療に対する初期治療;スポーツ外傷を中心に
		医学教育	鶴岡 浩樹	家庭医療総論
		神経学	山城 一雄	若年者と高齢者の頭痛とめまい
		浦安病院 救急診療科	平野 洋平	応急処置
		皮膚科学	込山 悦子	女性医師というプロフェッション
		小児外科学	山高 篤行	外科道に魅せられて
M 1	行動科学	スポーツ健康科学部	柴田 展人	こころと体の障害
		保健看護学部	長沼 淳	身体の哲学
		スポーツ健康科学部	柴田 展人	自殺について
		国際教養学部	島内 憲夫	健康の行動科学
		スポーツ健康科学部	柴田 展人	痛みに対する健常者の反応
		保健看護学部	長沼 淳	こころと身体の哲学
		呼吸器内科	瀬山 邦明	医療従事者が知っておくべきタバコの知識
		国際医療福祉大学大学院	磯野 真穂	医療人類学入門
		大学院医学研究科公衆衛生学	和田 裕雄	老化と高齢者の特徴
		スポーツ健康科学部	村山 憲男	臨床心理学入門
		保健看護学部	長沼 淳	身体にまつわる自己決定の問題
		医学部	小西 清貴	神経生理学からみたこころ
M 1	PBL	スポーツ健康科学部	柴田 展人	若い医師が罹患しやすい精神疾患①
				若い医師が罹患しやすい精神疾患②
				性格と人格の違い 認知行動療法の基本
M 1	保健看護学部	長沼 淳	医療の思想と倫理	
M 1	生きる意志 (倫理学)	保健看護学部	長沼 淳	倫理学とは
				医療倫理と生命倫理
				自己決定権の歴史
				自己決定権の理解
				自己決定と他者決定
				義務と権利
				医療の倫理(1)
				医療の倫理(2)
				医療の倫理(3)
				医療の倫理(4)
				環境倫理について
環境倫理の課題				
M 1	医療社会学	一般教育	佐伯 みか	オリエンテーション
				自分の原点を言語化する。
				医療ミス・事故の原因
				医療ミス・事故防止対策
				倫理・社会問題
				患者満足度
				医師-患者関係
				医師-看護師関係
				医療の質向上・保証
				自分の原点と医療・医師
				医療経済学と医療政策
M 1	医療の経済学	医学部眼科学講座 医学部附属順天堂医院医療情報センター病院機能管理室	猪俣武範	医療マーケティング概論
				AIと医療
				ワークライフバランスと医師の働き方改革

学年		担 当	授 業 タ イ ト ル	
M 1	医療行為と法	一般教育	池田 良彦	法解釈の基礎①
				法解釈の基礎②
				法解釈の基礎③
				法的責任①
				法的責任②
				法的責任③
				個人の尊厳と法①
				個人の尊厳と法②
				出生に関する法律問題①
				出生に関する法律問題②
				終末期医療の法律問題①
終末期医療の法律問題②				
M 1	文化の中の健康	公衆衛生学	佐藤 准子	文化の中の健康とは
		病理・腫瘍学	樋野 興夫	がん哲学
		公衆衛生学	岡本 裕樹	ソーシャル・キャピタルと健康
		医学教育	小柳 祐華	世界の伝統医療
		国際教養学部	白山 芳久	伝統的治療と近代公衆衛生学による治療と予防
		公衆衛生学	井上 智貴	在宅医療の現場から
		公衆衛生学	岡本 裕樹	ソーシャルキャピタルと健康
		池沢神経科病院	儀藤 政夫	日本文化の中の精神医療
		公衆衛生学	野田 愛	社会格差と健康格差
		公衆衛生学	遠藤 源樹	就労と健康
		心臓血管外科学	神作 麗	世界の多様な文化における健康(1)
公衆衛生学	和田 裕雄	文明と睡眠		
M 1	医学研究入門Ⅱ	基礎研究医養成プログラム	伝田 香里	研究入門:まとめ 研究ガイドラインについて
M 1	基礎医学入門 医学医療序論	医史学	澤井 直	医学医療序論-1:順天堂大学の歴史
		病院管理学	川崎 志保理	医学医療序論-6:医学生に必要な接遇・マナー
		副学部長 情報センター 学術メディアセンター	長岡 功 城山 泰彦	医学医療序論-7:情報管理と情報リテラシー
		医学部長	服部 信孝	医学医療序論-8:卒前卒後教育と医師としてのキャリアパス
		医史学 医学教育/微生物学 生理学第二/医学教育	澤井 直 關根 美和 渡邊 マキノ	グループワーク: 医学生～医療者のプロフェッショナリズム
M 2	Zone C	生理学第一	小西 清貴	生理・薬理実習オリエンテーション
		アトピー疾患研究センター	多田 昇弘	動物実験と遺伝子組換え実験
M 2	Zone D	微生物学	栗原 京子	微生物-4:消毒と滅菌
		微生物学	講座内全員	微生物学実習1:病原微生物取り扱いの基本手技
		微生物学	講座内全員	微生物学実習2-8:常在菌、病原菌の検出と同定
M 2	Unit 1	解剖学・生体構造科学	坂井 建雄	解剖1:解剖実習序論
		解剖学・生体構造科学	坂井 建雄	解剖16:解剖学と医学の歴史
M 2	医療体験実習	医学教育 医学教育/呼吸器内科学 下部消化管外科学/医学教育 医学教育/膠原病内科学 生理学第二/医学教育 医学教育/微生物学	岡田 隆夫 鈴木 勉 富木 裕一 建部 一夫 渡邊 マキノ 關根 美和	オリエンテーション①②③ 附属病院実習後カリキュラム
M 2	医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム	病院管理学	川崎 志保理	医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム
M 2	OSCE運営補助	医学教育 医学教育/呼吸器内科学 下部消化管外科学/医学教育 医学教育/膠原病内科学 生理学第二/医学教育 医学教育/微生物学	岡田 隆夫 鈴木 勉 富木 裕一 建部 一夫 渡邊 マキノ 關根 美和	OSCE運営補助オリエンテーション-1 OSCE運営補助オリエンテーション-2 OSCE運営補助 Post Clinical Clerkship OSCE運営補助
M 3	Zone D	微生物学	講座内全員	微生物学実習1:病原微生物取り扱いの基本手技
		微生物学	講座内全員	微生物学実習2-8:常在菌、病原菌の検出と同定

学年		担 当	授 業 タ イ ト ル	
M 3	Zone E	人体病理病態学	松本 俊治	遺伝子異常と疾患-1
		人体病理病態学	松本 俊治	遺伝子異常と疾患-2
		病理・腫瘍学	小林 敏之	遺伝子異常と疾患-3
		小児科学	恒松 由記子	遺伝子異常と疾患-4
		消化器内科学	斎藤 紘昭	腫瘍-4:「消化器悪性腫瘍に対する化学療法の進歩」
		法医学	齋藤 一之	中毒-1:「法中毒学(1)」
		衛生学	篠原 厚子	中毒-4:「化学物質と社会-2」
		放射線医学	笹井 啓資	中毒-6:「放射線とその影響」
		法医学	齋藤 一之	中毒-7:「法中毒学(2)」
		衛生学	北村 文彦	中毒-8:「化学物質と社会-3」
		衛生学	横山 和仁	中毒-9:化学物質と社会-4
		臨床薬理学	佐瀬 一洋	臨床薬理学-1:医薬品開発と規制科学、臨床試験の倫理性
		人体病理病態学	松本俊治 福村由紀 他 全教員	病理学総論実習4:外科病理総論
M 3	医療体験実習	医学教育 医学教育/呼吸器内科学 下部消化管外科学/医学教育 医学教育/膠原病内科学 生理学第二/医学教育 医学教育/微生物学	岡田 隆夫 鈴木 勉 富木 裕一 建部 一夫 渡邊 マキノ 關根 美和	オリエンテーション①②③ 附属病院実習後カリキュラム
M 3	Group ZERO	学生部		倫理:「倫理医療安全」「臨床人間教育」
		病院管理学	川崎 志保理	医療安全01:事故と倫理からの医療安全
		感染制御科学	堀 賢	感-9:感染制御学-1
		感染制御科学	堀 賢	感-10:感染制御学-2
		感染制御科学	堀 賢	感-11:集団感染シミュレーション
		血液学	田中 勝	腫瘍-8:がんの治療と倫理
		外科チャエマン		外科治療論
		放射線治療学	笹井 啓資	放射線特論1:放射線腫瘍学総論1
M 3	Group 1	医学教育/膠原病内科学	建部 一夫	医療面接-1:医療面接の進め方 医療面接-2:医療面接の進め方
M 3	Group 2	麻酔科学・ペインクリニック	林田 眞和	麻酔総論
M 3	Group 3	産婦人科学	鈴木 敏史	産褥、新生児、母子保健
		小児科学	大塚 宣一	外来小児科学
M 4	Group 5	精神医学	黄田 常嘉	司法精神医学、社会精神医学
M 4	Group 8	放射線治療学	直居 豊	放射線障害・防護
		総合診療科	平井 由児	感染症 4:感染症の疫学と流行
		病院管理学	小林 弘幸	医師としてのマナー・接遇・医療事故
M 4	臨床実習前 トレーニング	病院管理学	岩井 完	リスクマネジメント
		血液内科学	浜埜 康晴	インフォームドコンセント
		小児科学	新島 新一	遺伝カウンセリング
		医学教育/呼吸器内科学	鈴木 勉	患者安全目標(JCI)
M 4	M4臨床コア実習	臨床実習を担当する教員等が院内各所で医の原則・医学と医療の倫理等に係る指導を適宜おこなう		
M 5	M5臨床コア実習 M5臨床実習			

## － 各学年の進級判定基準 －

### 1. 進級ならびに卒業判定の基本

進級ならびに卒業判定は、各学年における総合試験・個別試験・再試験の結果、体験実習・実験実習・臨床実習・共用試験（OSCE, CBT）など（以下「試験等」という）の評価、医学生としての態度・モチベーション、健康状況等を総合的に評価して、進級（卒業）判定会議・教授会等において審議し、学長が決定する。

### 2. 各学年における試験等

#### 1年次

- 1) 一般教育： 前期・後期の各授業において指定された試験
- 2) 基礎医学入門： 定期試験： 医学医療序論定期試験、骨学定期試験、組織細胞生物学定期試験  
定期試験再試験： 医学医療序論定期試験再試験、骨学定期試験再試験、組織細胞生物学定期試験再試験

#### 2年次

- 1) 総合試験： ZoneB 総合試験（生化学）、ZoneB 総合試験（発生）、ZoneC 総合試験、ZoneD 総合試験、Unit1 総合試験  
実験実習： 組織学実習、脳解剖学実習、生化学・分子生物学実習、生理・薬理学実習、微生物学実習、免疫学実習、寄生虫病学実習、人体解剖実習
- 2) 総合試験再試験： ZoneA 総合試験再試験、ZoneB 総合試験再試験（生化学）、ZoneB 総合試験再試験（発生）、ZoneC 総合試験再試験、ZoneD 総合試験再試験、Unit1 総合試験再試験
- 3) 個別試験： Zone・Unit でおこなわれる総合試験・総合試験再試験以外の試験
- 4) 体験実習等評価： 医学研究 I、基本手技、医療体験実習、医療安全から見た医療者のプロフェッショナルリズム、救急医学実習、OSCE 運営補助
- 5) English



## 3年次

- 1) 総合試験： ZoneE 総合試験、ZoneF 総合試験、GroupZERO 総合試験、  
Group1 総合試験、Group2 総合試験、Group3 総合試験、行動科学Ⅱ・社会医学総合試験  
実験実習： 疫学・統計学実習、病理学総論実習
- 2) 総合試験再試験： ZoneE 総合試験再試験、ZoneF 総合試験再試験、GroupZERO 総合試験再試験、  
Group1 総合試験再試験、Group2 総合試験再試験、Group3 総合試験再試験、行動科学Ⅱ・社会医学総合試験再試験
- 3) 体験実習等評価： 基本手技、診察技法、基礎ゼミナール、医療面接、医療体験実習
- 4) English

## 4年次

- 1) 総合試験： Group4 総合試験、Group5 総合試験、Group6 総合試験、Group7 総合試験、Group8 総合試験、臨床実習前トレーニング試験、  
M4 臨床コア実習試験
- 2) 総合試験再試験： Group4 総合試験再試験、Group5 総合試験再試験、Group6 総合試験再試験、Group7 総合試験再試験、Group8 総合試験再試験、  
臨床実習前トレーニング試験再試験、M4 臨床コア実習試験再試験
- 3) 臨床実習等評価： 臨床実習前トレーニング、M4 臨床コア実習
- 4) 共用試験： C B T、O S C E
- 5) English

## 5年次

- 1) 総合試験： M5 臨床実習前期（コア科）試験、B S L 総合試験
- 2) 総合試験再試験： M5 臨床実習前期（コア科）試験再試験、B S L 総合試験再試験
- 3) 臨床実習評価： M5 臨床コア実習、M5 臨床実習

## ※評価方法

- 1) 2019年度2年次～5年次のカリキュラムに関する合否判定・評点については、出席状況、プレテスト・ポストテスト、レポート・スケッチ等の成績、実習の成績、勉学態度等も加味し総合的に判定を行う。

判定	評価	評点	G P	備考
合格	A	100点～90点	4	-
	B	89点～80点	3	
	C	79点～70点	2	
	D	69点～60点	1	
不合格	F	59点～0点	0	
失格	失格 (G)	/	-	授業数の3分の1を超える欠席の場合 試験を放棄した場合 (未受験および受験資格なし)

※失格 (G) (「/」) はG P A算出の対象外となる。

## 【G P A算出計算式】

$$\text{G P A} = \frac{\begin{array}{c} \text{Aの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 4 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Bの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 3 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Cの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 2 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Dの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 1 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Fの} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 0 \end{array}}{\text{履修単位(科目)数}}$$

## 6年次

- 1) 総合試験： 臨床実習後期試験
- 2) 卒業試験： 総合試験、卒業試験 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8 試験、Post Clinical Clerkship OSCE
- 3) 補助試験・再試験： 臨床実習後期再試験、卒業補助試験 A. B. C. D、Post Clinical Clerkship OSCE 再試験
- 4) 臨床実習評価： M6 臨床実習、学生インターンシップ実習 (選択コース)

なお、教務委員会で指定された他の試験等を追加し、卒業・進級判定の参考とすることができる。

### 3. 受験資格

- 1) 受験資格は、規定する授業時間の3分の2以上を出席した者に与える。なお、他の受験資格については、教務委員会の申し合わせに従い、別途考慮する。
- 2) 体験実習及び実験実習については、当該授業のすべてに出席することを原則とする。
- 3) 特別な理由なく個別試験・総合試験・総合試験再試験・総合補助試験・定期試験・定期試験再試験、共用試験・実習評価の試験等を欠席した場合には、再度、試験は実施せず、「0点」とする。取り扱いは、進級判定会議において審議する。

### 4. 試験判定

#### 1年次

- 1) 一般教育カリキュラムは、前期・後期の各科目責任者が評価し、一般教育協議会にて審議する。
- 2) 基礎医学入門定期試験は科目責任者が評価し、教務委員会にて審議する。  
定期試験に不合格となった者には再試験を課す。判定は教務委員会で審議する。

#### 2～5年次

- 1) 総合試験は、Zone・Unit・Group・臨床コア実習・臨床実習担当オーガナイザーが評価し、教務委員会にて審議する。  
総合試験に不合格となった者には総合試験再試験を課す。総合試験再試験の判定は教務委員会で審議する。
- 2) 個別試験は、授業責任者が評価し、教務委員会に報告する。個別試験の再試験は実施しない。
- 3) 共用試験C B Tは、全国医学部長・病院長会議で提案された基準で判定する。  
共用試験O S C Eは、全国平均成績と学内成績等を基に基準を定め、オーガナイザーが評価し、教務委員会にて審議する。

#### 6年次

- 1) 総合試験は、担当教務委員が評価し、教務委員会にて審議する。
- 2) 卒業試験は、「医学部卒業試験に関する基準」に準拠する。